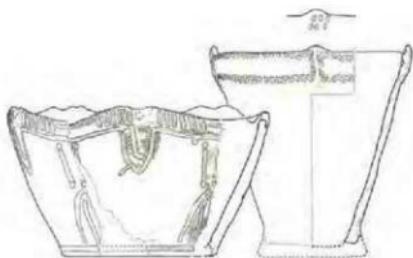


熊本大学構内遺跡発掘調査報告14

(2013・2014年度：黒髪南地区1310調査地点)



2019

熊本大学埋蔵文化財調査センター

熊本大学構内遺跡発掘調査報告14

(2013・2014年度：黒髪南地区1310調査地点)

2019

熊本大学埋蔵文化財調査センター



1. 黒髪南地区1310調査地点出土縄文土器



2. 黒髪南地区1310調査地点出土石器・土製品



3. 黒髪南地区1310調査地点で検出された御手洗 A式土器



4. 黒髪南地区1310調査地点で検出された配石墓と人骨

序 文

本報告書は、2013年度・2014年度の調査成果の一部である。

2013年度から2014年度にかけて調査した1310調査地点は、立田山と白川に挟まれた熊本大学黒髪南地区の東側にあり、理学部関係の建物に囲まれている。今回の調査では、この地点から縄文時代後期前葉から後期末までの遺物、また縄文時代後期前葉の土坑墓・配石墓と人骨が検出された。これは、灰色硬質砂層以下には遺跡は存在しないという通説的理解を覆す重大な事実である。それゆえ、2014年5月のプレスリリース・記者会見以降、新聞・テレビ等でも大きく報道され、現地見学会や「速報展示」説明会では多くの参加者を得た。

本報告書は、その全容を報告するものであり、山野ケンヤ次郎助教が作成・編集を担当した。是非とも読者諸賢に御味読いただきたい。

1310調査地点の調査・分析にあたっては、多くの方々に御教示いただいた。主要な方のみをあげれば、松下孝幸氏（土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム）と松下真実氏（NPO法人・人類学研究機構）には人骨調査と指導をいただき、本報告書にもご執筆頂いた。水ノ江和同氏（文化庁文化財部記念物課。現同志社大学文学部教授）には縄文土器と遺跡の評価について指導して頂き、宮縁育夫氏（熊本大学大学院先端科学研究院准教授）には土壤分析をお願いした。調査・分析の意義を理解され、快く御協力くださったすべての方々に、ここに記して謝意を表したい。

2019年3月

国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査センター

センター長 伊藤正彦

例　　言

1. 本報告書は、熊本大学再開発計画によって熊本大学敷地内において実施された各種建築工事に伴い、熊本大学埋蔵文化財調査センター（平成23年10月1日に「熊本大学埋蔵文化財調査室」より改組）が2013年度から2014年度に実施した発掘調査の一部に関するものである。
 2. 本書に収録した報告は、2013年度から2014年度に埋蔵文化財調査センターが実施した1件の発掘調査に関する成果である。
 3. 上記調査地点について、下記のとおり報告する。
- II章：黒髪南地区 1310調査地点
4. 以上の調査を実施した2013年度から2014年度の埋蔵文化財調査センターの組織と調査体制は以下のとおりである。

センター長：木下尚子（文学部教授）
調査員：松田光太郎（センター准教授）・大坪志子（センター助教）・山野ケン陽次郎（センター助教）・浦辺栄治（技術補佐員）・柴田亮（技術補佐員）
事務補佐員：大崎喜美子
 5. 遺物番号として通し番号を1から付けており、写真図版中の番号はこれに一致する。
 6. 本文は、人骨に関する所見、文章について松下真実、松下孝幸両氏が執筆した。それ以外は全て山野が執筆した。
 7. 本書に使用した遺構実測図は、山野と株式会社有明測量開発社発掘調査員が作成した。
 8. 本書に使用した遺物実測図・拓本は、福本奈津紀、井上裕美、小山正子、後藤恵、首藤優子、末吉美紀、園田智子、吉留広が作成した。
 9. 本書に使用した図版の製図はAdobe社の「Illustrator」と「Photoshop」を使用して、山野、鬼塚美枝、江口路、首藤、増井弘子がおこなった。
 10. 遺構実測及び製図には手書きによる記録とともに、株式会社CUBICの遺跡実測支援システム「遺構くん」及び製図システム「トレース3Dくん」を使用した。
 11. 本書に使用した現場写真是1310調査地点を山野と株式会社有明測量開発社発掘調査員が撮影した。遺物写真是山野、江口、小山、末吉が撮影した。また、第7項の土壤の構成物観察写真是遠入楓太氏が撮影した。
 12. 本書で使用した遺物観察表は、山野、首藤が作成した。
 13. 本書に掲載した出土遺物および記録類は、すべて熊本大学埋蔵文化財調査センターで保管している。出土人骨は2019年3月時点では土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムで保管している。
 14. 本書で使用した調査地点配置図および遺構図の座標は世界測地系による。
 15. 出土した遺物への注記は遺跡略号+調査地点番号+出土遺構・層（位置）の順でおこなった。
 16. 土層・遺物の色調観察は「小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社」に基づく。
 17. 本書の図版は山野がおこなった。

本文目次

I 構内遺跡と調査の概要	
1. 熊本大学敷地と構内遺跡の概要	1
2. 調査に至る経緯	4
3. これまでの調査と本書収録の遺跡	5
II 黒髪南地区の調査	
1. (黒髪南) ライフライン再生(給水設備等)工事に伴う発掘調査(1310調査地点)	
(1) 調査の目的と経過	25
① 調査の目的とこれまでの調査成果	25
② 調査の経過	25
③ 調査の組織	31
(2) 調査区の基本層序	31
(3) 土器の分類	35
(4) 各調査区の出土遺構と出土遺物	39
① I 区	39
② II 区	46
③ III 区	49
④ IV 区	64
⑤ V 区	78
(5) 動物遺体	90
(6) 放射性炭素年代測定	90
(7) 本調査地点の土壤に関する分析と考察	90
① 上河原縁地帯における白川洪水による堆積砂の調査	92
② 1310調査地点の土壤分析	95
(8) 総括	99
① 調査の成果	99
② 遺跡の範囲と形成過程	104
③ 本遺跡の位置づけ	109
④ 遺跡の保存と活用	109
熊本市黒髪町遺跡群1310調査地点出土の繩文人骨	127

挿図目次

図 1 黒髪町遺跡群・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図 (1/25,000)	2	図 4 1310調査地点基本土層模式図 (1/50)	33
図 2 黒髪南地区における調査地点位置図 (1/2,000)	26	図 5 土器分類図 1 (1/4)	36
図 3 1310調査地点の調査区の位置と名称 (1/1,000)	29	図 6 土器分類図 2 (1/4)	37
		図 7 137・38区5層遺物出土状況図 (1/125)	39

図8	I 37区北壁土層断面 (1/80)	40
図9	I 38区東壁土層断面 (1/80)	40
図10	I 37・38区 5a 層出土土器実測図 (1/4)	42
図11	I 37・38区 5 b 層出土遺物実測図 (1/2・1/4・1/5)	43
図12	I 37・38区出土土器・石器実測図 (1/2・1/4)	44
図13	I 区出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4)	45
図14	II 8-1 区北壁土層断面図 (1/40)	46
図15	II 区32東壁土層断面図 (1/40)	46
図16	II 区出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4)	47
図17	III 1 区 5a 層遺物出土状況図 (1/100)	48
図18	III 1 区 近世・古代溝東西ベルト北壁土層断面図 (1/400)	50
図19	III 1 区北壁東側土層断面図 (1/40)	50
図20	III 1 区 5 b 層遺物出土状況図 (1/100)	51
図21	III 1 区 5 a 層出土土器実測図 (1/4)	52
図22	III 1 区 5 b 層出土土器実測図 1 (1/4)	53
図23	III 1 区 5 b 層出土土器実測図 2 (1/4)	54
図24	III 1 区 5 b 層出土土器実測図 3 (1/4)	55
図25	III 1 区 5 b 層出土土製品・石器実測図 (1/2・1/3)	56
図26	III 1 区出土遺物実測図 (1/2・1/4)	57
図27	III 2 区 7・9 層遺物出土状況図 (1/100)	58
図28	III 2 区東壁土層断面図 (1/80)	59
図29	III 2 区 7・9 層出土遺物実測図 (1/2・1/4)	61
図30	III 3・4 区 5 b 層遺物出土状況図 (1/100)	62
図31	III 3 区東壁土層断面図 (1/40)	63
図32	III 4 区東壁土層断面図 (1/40)	63
図33	III 区出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4)	64
図34	IV 14 区 5 b 層遺物出土状況図 (1/80)	65
図35	IV 14 区東西ベルト北壁土層断面図 (1/50)	66
図36	IV 14 区 7 層遺物出土状況図 (1/50)	67
図37	IV 14 区 10 層遺物出土状況図 (1/80)	68
図38	IV 14 区 5・7・10 層出土遺物垂直分布図 (1/50)	68
図39	IV 14 区 5 b 層出土遺物実測図 (1/2・1/4)	69
図40	IV 14 区 7 層出土土器実測図 1 (1/4)	70
図41	IV 14 区 7 層出土土器実測図 2 (1/4)	71
図42	IV 14 区 7 層出土石器実測図 1 (1/3・1/4)	73
図43	IV 14 区 7 層出土石器実測図 2 (1/3)	74
図44	IV 14 区 7 層出土土製品実測図 (1/2)	75
図45	IV 14 区 10 層出土土器実測図 (1/4)	76
図46	IV 区出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4)	77
図47	V 11 区 7 層遺物出土状況図 (1/200)	78
図48	V 11 区 抻張区北西壁土層断面図 (1/50)	79
図49	V 11 区 繩文人骨・墓検出状況図 (1/25)	81
図50	V 11 区 ST02 配石墓実測図 (1/25)	82

図51 ST01・ST02人骨実測図 (1/20)	103
.....	82
図52 V11区7層出土土器実測図 (1/4)	105
.....	84
図53 V11区7層出土土器・土製品実測図 (1/2・1/4)	106
.....	85
図54 V13区7層遺物出土状況図および出土遺物実測図 (1/3・1/4・1/100)	107
.....	87
図55 V13区西側北壁土層断面図 (1/40)	108
.....	87
図56 V31区北側北東壁土層断面図 (1/40)	110
.....	88
図57 V区出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4)	127
.....	89
図58 1310調査地点出土動物骨	128
.....	90
図59 放射性炭素年代測定結果	129
.....	91
図60 熊本平野地形分類図 (1/200,000)	130
.....	92
図61 現代における白川洪水による堆積砂の調査	130
.....	93
図62 1310調査地点における白川洪水に係る堆積層とその関連写真	132
.....	94
図63 1310調査地点各区の土層断面写真	133
.....	96
図64 1310調査地点および現代の白川洪水砂層の構成物観察写真	141
.....	97
図65 1310調査地点の主な遺物と遺構 1	142
.....	102
図66 1310調査地点の主な遺物と遺構 2	143
	144
	145

図版目次

図版1 1310調査地点	149	(東より)	
写真1 I37区東側古代遺構完掘状況 (西より)	149	写真5 I37区5b層遺物出土状況 (西より)	
写真2 I37区東側5a層遺物出土状況 (東より)	150	写真6 I37区落ち込み内出遺物出土状況 (南より)	
写真3 I37区東側5a層遺物出土状況近影 (西より)	150	写真7 I37区調査終了状況 (西より)	
写真4 I37区5b層遺物出土状況	150	写真8 I37区西側深堀後状況 (西より)	
		図版2 1310調査地点	150

- 写真9 I 37区北壁土層断面（南より）
- 写真10 I 38区古代遺構完掘状況（南より）
- 写真11 I 38区5 b層遺物出土状況（南より）
- 写真12 I 38区5 b層遺物出土状況近影（北より）
- 写真13 I 38区完掘状況（南より）
- 写真14 I 38区東壁土層断面（西より）
- 写真15 II 32区西側東壁土層断面（西より）
- 写真16 III 1区近世・古代溝土層断面北壁（北西から）
- 図版3 1310調査地点 151
- 写真17 III 1区古代遺構完掘状況（南より）
- 写真18 III 1区5 b層縄文土器出土状況近影（西より）
- 写真19 III 1区5 a層遺物出土状況（西より）
- 写真20 III 1区5 b層遺物出土状況（南より）
- 写真21 III 1区完掘状況（西より）
- 写真22 III 1区北側完掘状況（北より）
- 写真23 III 1区東側北壁土層断面（南より）
- 写真24 III 2区北側古代遺構完掘状況（南より）
- 図版4 1310調査地点 152
- 写真25 III 2区南側古代遺構完掘状況（北より）
- 写真26 III 2区中央部7層遺物出土状況（南より）
- 写真27 III 2区南側7層遺物出土状況近影（南より）
- 写真28 III 2区9層動物骨検出状況近影（北より）
- 写真29 III 2区南側完掘状況（北より）
- 写真30 III 2区南側東壁土層断面（北西より）
- 写真31 III 2区南側東壁土層断面（西より）
- 写真32 III 3区5 b層遺物出土状況（南より）
- 図版5 1310調査地点 153
- 写真33 III 3区東壁土層断面（西より）
- 写真34 III 4区5 b層遺物出土状況俯瞰（南より）
- 写真35 III 4区5 b層遺物出土状況（南より）
- 写真36 III 4区東壁土層断面（西より）
- 写真37 IV 14区北側5 b層遺物出土状況（北より）
- 写真38 IV 14区東西ベルト北壁5 b層検出時土層断面（北より）
- 写真39 IV 14区南側5 b層遺物出土状況（北より）
- 写真40 IV 14区北側7層上部遺物出土状況（東より）
- 図版6 1310調査地点 154
- 写真41 IV 14区北側7層遺物出土状況（東より）
- 写真42 IV 14区7層縄文土器出土状況近影（西より）
- 写真43 IV 14区東西ベルト北壁7層検出時土層断面（北より）
- 写真44 IV 14区南側傾斜部7層遺物出土状況（東より）
- 写真45 IV 14区南西隅傾斜部7層遺物出土状況近影（南より）
- 写真46 IV 14区南側傾斜部7層完掘状況（北東より）
- 写真47 IV 14区先行トレンチ東西ベルト北壁東端10層検出時土層断面（北より）
- 写真48 IV 14区東西ベルト北壁10層検出時土層断面（北西より）
- 図版7 1310調査地点 155
- 写真49 IV 14区10層遺物出土状況（北東より）
- 写真50 IV 14区南側10層縄文土器出土状況近影（北より）
- 写真51 IV 14区完掘状況（東より）
- 写真52 IV 30-2区古代遺構完掘状況（南東より）
- 写真53 IV 30-2区5 a層遺物出土状況（西

- より)
- 写真54 IV30-2区完掘状況（南東より）
- 写真55 IV30-2区南西壁土層断面（南東より）
- 写真56 V1区完掘状況（西より）
- 図版8 1310調査地点 156
- 写真57 V1区5b層出土繩文土器近影（北より）
- 写真58 V11区古代遺構完掘状況（西より）
- 写真59 V11区東側先行トレンチ7層遺物出土状況（西より）
- 写真60 V11区東側先行トレンチ7層繩文土器出土状況近影（北より）
- 写真61 V11区7層ST01周辺遺物出土状況（北東より）
- 写真62 V11区ST02配石検出状況（南西より）
- 写真63 V11区南西側拡張区古代遺構完掘状況（南東より）
- 写真64 V11区拡張区VI層上面検出状況（北西より）
- 図版9 1310調査地点 157
- 写真65 V11区ST01土坑掘方確認用ベルト南東壁土層断面（東より）
- 写真66 V11区ST01人骨検出状況（東より）
- 写真67 V11区ST01人骨下顎検出状況近影（南より）
- 写真68 V11区ST02直上北西壁土層断面（南東より）
- 写真69 V11区ST01人骨およびST02配石墓（南西より）
- 図版10 1310調査地点 158
- 写真70 V11区北東側拡張区6層上面検出状況（北西より）
- 写真71 V11区ST02・ST03土坑プラン検出状況（南東より）
- 写真72 V11区ST02土層確認用ベルト除去前検出状況（東より）
- 写真73 V11区ST02人骨頭蓋骨検出状況近影（南より）
- 写真74 V11区ST02検出状況（東より）
- 図版11 1310調査地点 159
- 写真75 V11区ST02掘方確認用ベルト南東壁土層断面（南東より）
- 写真76 V11区ST02掘方確認用ベルト南東壁北側土層断面（南東より）
- 写真77 V11区ST02人骨取り上げ後状況（東より）
- 写真78 V11区拡張部調査終了時状況（南東より）
- 写真79 V11区拡張区ST03土坑プラン検出状況（南東より）
- 写真80 V11区拡張区ブルーシート養生状況（南東より）
- 写真81 V11区南西側7層上面硬化面検出状況（北西より）
- 写真82 V11区南西側7層遺物出土状況（南西より）
- 図版12 1310調査地点 160
- 写真83 V11区南東壁土層断面（北西より）
- 写真84 V11区南西端傾斜部検出状況近影（北東より）
- 写真85 V11区南西端傾斜部掘削状況（北東より）
- 写真86 V11区南西端傾斜部直上南東壁土層断面（西より）
- 写真87 V13区古代遺構完掘状況（東より）
- 写真88 V13区7層遺物出土状況（東より）
- 写真89 V13区7層繩文土器出土状況近影（北より）
- 写真90 V13区北壁土層断面（南より）
- 図版13 1310調査地点 161
- 写真91 V31区北側完掘状況と北東壁土層断面（南西より）
- 写真92 V11区ST02三次元計測作業風景（西より）
- 写真93 V11区ST02人骨取り上げ作業風景（北より）
- 写真94 水ノ江和同先生繩文土器指導風景
- 写真95 現地説明会で繩文人骨を見つめる参

加者（東より）	
写真96 発掘調査メンバー集合写真1（東より）	図版20 1310調査地点出土遺物7 168
写真97 発掘調査メンバー集合写真2（東より）	図版21 1310調査地点出土遺物8 169
写真98 発掘調査メンバー集合写真3（東より）	図版22 1310調査地点出土遺物9 170
図版14 1310調査地点出土遺物1 162	図版23 1310調査地点出土遺物10 171
図版15 1310調査地点出土遺物2 163	図版24 1310調査地点出土遺物11 172
図版16 1310調査地点出土遺物3 164	図版25 1310調査地点出土遺物12 173
図版17 1310調査地点出土遺物4 165	図版26 1310調査地点出土遺物13 174
図版18 1310調査地点出土遺物5 166	図版27 1310調査地点出土遺物14 175
図版19 1310調査地点出土遺物6 167	図版28 1310調査地点出土遺物15 176
	図版29 1310調査地点出土遺物16 177
	図版30 1310調査地点出土遺物17 178
	図版31 1310調査地点出土遺物18 179
	図版32 1310調査地点出土遺物19 180

表 目 次

表1 熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧表.....	1
表2 既往調査地点と本書収録調査地点一覧表.....	7
表3 1310調査地点の各層出土土器.....	100
表4 1310調査地点出土遺物一覧表.....	113
表5 資料数.....	129
表6 出土人骨一覧.....	129
表7 年齢区分.....	129
表8 上腕骨計測値（女性、右）.....	137
表9 大腿骨計測値（男性、右）.....	137
表10 大腿骨計測値（女性、右）.....	138
表11 下顎骨（男性）.....	139
表12 鎮骨.....	139
表13 上腕骨.....	139
表14 大腿骨（男性）.....	139
表15 形態小変異.....	140

I 構内遺跡と調査の概要

1. 熊本大学敷地と構内遺跡の概要

熊本大学が保有する敷地は、熊本市内の黒髪（北・東・南）地区・宇留毛地区・本荘（北・中・南）地区・大江地区・渡鹿地区・京町地区・城東地区および新南部地区の8地区、市外の益城地区・合津地区的2地区の計10地区に分散しており、それぞれ埋蔵文化財の包蔵地となっている（表1）。本章ではこのうち、本書で報告する黒髪南地区の1310調査地点を含む「黒髪町遺跡群」を主とし、本荘地区に相当する「本荘遺跡」についても詳細を述べる。

熊本大学の法学部・文学部・教育学部・工学部・理学部などが設置されている黒髪地区は、黒髪町遺跡群（熊本市埋蔵文化財地図No8-88）に含まれている。本遺跡は、熊本市街地の北東にそびえる立田山（標高151.6m）の南西部の緩斜面に位置しており、西を坪井川の作る中位段丘、南を白川右岸の低位段丘によって囲まれる（図1）。遺跡の範囲は東西約900m、南北約1000mであり、縄文時代から歴史時代に至る遺構・遺物を包蔵している。

遺跡の発見は昭和10年（1935：以後和暦の後の括弧内に西暦を付す）、大学に隣接する熊本県立中学済々賛（現済々賛高等学校）の校庭から弥生時代の壺棺2基などが見つかり、下林繁夫・小林久雄により調査されたことに始まる（田添夏喜1986）。戦後、昭和40年（1965）には隣接する九州女学院（現ルーテル学院中学・高等学校）敷地内で、弥生時代中期の壺棺や古墳時代の須恵器壺などが発見され、遺跡の重要性が再認識された（笠置1971）。埋蔵文化財調査センター（または埋蔵文化財調査室）による発掘調査でも、黒髪南地区の西に位置する9704調査地点において弥生時代中期後半の須玖式と黒髪式を用いた壺棺墓群が見つかった（小畑・大坪編2008）。その後、0206調査地点でも汲田式の壺棺墓1基が発見され（大坪編2014）、1121調査地点でも黒髪式の壺棺墓が1基検出された（大坪編2013）。これにより熊本大学構内も含めて弥生時代中期の墓域が広範囲にわたり存在することが判明した。このように本遺跡は弥生時代中期の中九州に主として分布する「黒髪式土器」の標識遺跡として著名である。加えて、昭和58年（1983）に実施された済々賛高等学校内における調査によって、

表1 熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧表

No.	地区名（学部名等）	所在地	道路名称	遺跡の種類	遺跡の時代	備考
1	黒髪北地区（法・文・教等）	熊本市中央区黒髪2丁目40-1			縄文・弥生・平安・中世・近世	
2	黒髪東地区（教育学部附属特別支援学校）	熊本市中央区黒髪5丁目17-1	黒髪町遺跡群	集落址・墓地	奈良・平安・近世・近代	
3	黒髪南地区（工・理）	熊本市中央区黒髪2丁目39-1				
4	宇留毛地区（学生寄宿舎・職員宿舎等）	熊本市中央区黒髪7丁目	宇留毛神社周辺道路群	散布地	弥生・奈良・平安	
5	本荘北地区（医学部附属病院・医学部等）	熊本市中央区本荘1丁目1-1	本荘道路	散布地・集落	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世・近代	
6	本荘中地区（発生医学研究所、エイズ学研究等）	熊本市中央区本荘2丁目2-1	(熊大病院敷地道路)	地址・墓地		
7	本荘南地区（保健学科等）	熊本市中央区九品寺4丁目24-1			周辺道路	
8	大江地区（薬学部等）	熊本市中央区大江町5-1	官衙址		周辺道路	
9	渡鹿地区（課外活動施設）	熊本市中央区渡鹿4丁目1-1	大江遺跡群	集落址	奈良・平安	
10	渡鹿地区（職員宿舎）	熊本市中央区渡鹿1丁目16				
11	京町地区（教育学部附属小・中学校）	熊本市中央区京町本丁5-12	京町台遺跡群	集落址	弥生・近世	
12	城東地区（教育学部附属幼稚園）	熊本市中央区城東町5-9	熊本城址	城館址・熊本城	近世	
13	新南部地区（教育学部新南部農場）	熊本市東区新南部6丁目58	新南部遺跡	散布地	縄文・弥生	
14	益城地区（地域共同ラボラトリー）	上益城郡益城町田原2081-7	上面ノ平遺跡	散布地	縄文・中世	
15	合津地区（沿岸域環境科学教育研究センター）	上天草市松島町合津6061	前鳥貝塚	集落址	縄文・弥生	1995年度調査により貝塚でないと判明

*道路の種類、時代は近年の調査成果を反映させた。

1. 熊本大学敷地と構内遺跡の概要



図1 黒髪町遺跡群・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図 (1/25,000)

古代の堅穴住居や「寺門」銘の墨書き土器が出土するなどし（田添ibid）、古代飽田郡における拠点的性格を持つ遺跡である可能性が示されるようになった（新熊本市史編墓室編1996）。また、同地域は古代の官道や駅伝制の研究上、「延喜式」に記された西海道上の駅である「養蚕駅」、あるいは旧飽田郡家の推定地としても注目を集めてきた（木下1979・木下1995）。鶴嶋俊彦は肥後国北部の古代官道について分析する中で、本センターによる黒髪南地区9603調査地点における発掘成果を受け、南北方向に走る2本の溝が駅路の側溝であるとの見解を示し、周囲の掘建柱建物との関係性も含め、熊本大学構内に蚕養駅の駅家が存在した可能性に言及した。近年の大学構内の調査では、黒髪北地区や南地区から古代の堅穴住居や掘建柱建物が広い範囲に確認されており、飽田郡家や駅家に関連する集落と考えられる。さらに、済々賀高校から本学黒髪地区周辺が飽田郡司建部公の居所であり、飽田郡家として比定されるなどの積極的な意見が展開されている（鶴嶋1997）。このように、本遺跡群は古代律令制下の駅伝制を考える上で極めて重要である。

また本遺跡では、熊本市教育委員会や当センターにおける調査の蓄積により縄文時代の文化層が広い範囲で確認されている。黒髪北地区9802調査地点（小畑編2009）や黒髪南0302調査地点（小畑・大坪編2011）では縄文時代早期の押型文土器や条痕文土器が当時地山と考えられていた土層中から出土した。その後の黒髪地区の各調査地点では、古代の包含層中や地山と想定していた土層から縄文時代後・晩期の土器が少ないながらも発見されている。このほか、2006年に熊本市教育委員会により実施された黒髪町遺跡群第4次調査では、阿高式土器や南福寺式土器が一定量得られており、遺構の検出こそなかったものの、小規模な集落の端部に位置するものと報告されている（美濃口編2008）。このように縄文時代の資料が増加する中、2013・2014年度には本書で報告する発掘調査が実施された。黒髪南地区の東側、理学部棟周辺のライフライン再生工事に伴う発掘調査が実施され、白川右岸の平野部から出土式・御手洗A式土器など縄文時代後期前葉を主体とする文化層と、配石墓に埋葬された縄文人骨などが発見された（山野編2016、本書）。御手洗A式土器は西北九州から中九州にかけて分布する縄文時代後期前葉の土器だが、出土数が少なく全容が不明瞭であった。調査では器形全体を復元できる資料が出土しており、層位的な調査が実施されたことから、本調査成果が縄文時代後期前葉の土器の変遷と集落や文化様態の解明の一助となると思われる。また、縄文人骨が貝塚や洞穴遺跡などの人骨が残存しやすい立地・条件下ではなく、平野部で発見されたことも重要である。人骨は矮小な調査区から3体（うち1体は未調査）検出されており、調査区周辺が墓域であった可能性が高い（山野2015）。

近年では本地区における近代の調査事例でも重要な成果を得ることができている。熊本大学の黒髪北地区は明治23年（1890）に設立した第五高等中学校・高等学校の敷地を引き継いでおり、その南側に面する黒髪南地区は明治39年（1906）に設立した熊本高等工業学校の敷地を含む。そのため、大学構内には明治から大正にかけての煉瓦建造物が複数現存している。このうち黒髪北地区に所在する五高記念館、化学実験場、正門と、黒髪南地区に所在する工学部研究資料館はいずれも煉瓦造りで国の重要文化財に指定されている。また、黒髪南地区の本部棟（旧熊本高等工業学校本館）は大正期に建てられた初期の鉄筋コンクリート建築であり、登録有形文化財に登録されている。2015年度にはこの建物周囲の発掘調査を実施しており、周辺から煉瓦の基礎が広い範囲で発見された（山野編2016）。これらは明治41年（1908）に竣工した熊本高等工業学校日本館の建物基礎であることが判明し、周囲からはこの建物が大正12年（1923）に全焼した際の溶けたガラスや木片、生活道具などが出土した。この他、黒髪北地区1528調査地点では第五高等学校の寮である「習業寮」の浴室・炊事場の煉瓦基礎が確認され、レンガに「熊本監獄製造印」が押されていることが確認できた（松田・大坪編2017）。これら煉瓦の積み方や刻印、法量などは近代熊本の建築や煉瓦生産の実態について様々な知見を与える

2. 調査に至る経緯

てくれる。熊本監獄に関する遺構として黒髪南地区1309調査地点では、明治から大正期にかけての囚人墓地が多数発見されており、近代にかけて大学敷地における利用状況の多様さが明らかになっていく（山野・柴田編2017）。

医学部附属病院・医学部が所在する本荘北地区および研究・開発施設が所在する本荘中地区、そして医学部保健学科が所在する本荘南地区は、本庄遺跡（熊本大学病院敷地遺跡：熊本市埋蔵文化財地図No 8-95）を包括する。本遺跡は黒髪町遺跡群と同じく熊本平野を形成する扇状地形を東西に流れる白川の低位河岸段丘上に立地する遺跡であり、標高は12~13mである。附属病院の所在する白川左岸よりの地点は標高が高く、本荘中地区のある南東部へ向かって地形が緩やかに傾斜する。敷地内には白川より分岐した小河川（三の井手）が暗渠となって流れている。1963年頃、本学医学部附属病院の敷地内から須恵器、土師器、布目瓦類が採集されており、遺跡としての認定を受けた。また、敷地東側に隣接する仙崇寺小松原墓地（現在の小松原公園）内においても須恵器片が採集されており、遺跡包蔵地が敷地外に広がることが想定された。しかし、その後に学術的発掘調査は実施されず、遺跡の詳細については本学埋蔵文化財調査室による調査が開始されるまで不明であった（以上、松田・大坪編2017を引用・一部改変）。

1995年には、本荘南地区においてR I 総合センター遺伝子実験施設の建築に伴う発掘調査が熊本大学埋蔵文化財調査室により実施され、古代の竪穴建物や須恵器・土師器といった遺物が確認された。これにより遺跡の範囲が南北500m、東西500mを超えるものと推定された（小畠編1995）。1996年からは大学の現地再開発事業に伴う発掘調査が開始され、これまでに本荘北地区を中心として様々な考古学的知見を得ることができた。本荘北地区の各調査地点では縄文時代の土器や石器、弥生時代の溝などが検出されているが、遺跡の主体ではなく散発的なものに留まる。ただし、0411調査地点での調査では縄文時代後期後葉から晩期にかけての縄文土器片がまとまって出土しており、縄文時代の文化層が今後確認される可能性がある（松田・大坪編2017）。本荘北地区の北西側では9901調査地点、0006調査地点、0104調査地点、0119調査地点などで中・大規模工事に伴って発掘調査が実施され、古墳時代前期や古代を中心とした竪穴建物や掘立柱建物、溝などの遺構や遺物が密に分布することが確認されている（大坪編2000・2010）。本荘北地区では古代の溝や水溜状遺構など水路と思わしき遺構も多く確認され、近世の畑や水田床土も広い範囲で検出されることから、白川から水が引かれるなどし、古くから水田として利用してきたことが想定できる（大坪編2010）。また、本荘北地区の東側にあたる9601調査地点、1104調査地点では明治期以降の近代墓地が400基以上発見されており、これに伴う六道鏡や泥面子などの優良な資料が得られている（大坪編2013）。

以上、熊本大学黒髪地区および本荘地区について遺跡の概要と近年の調査成果について触れた。黒髪地区を含む黒髪町遺跡群は縄文時代から近代の遺物・遺構を包含する複合遺跡であり、その内容は多岐にわたっている。本報告においては、黒髪南地区1地点について、縄文時代に関する記録のみを掲載している。古代以降の調査成果については次年度以降の報告書に掲載予定である。

2. 調査に至る経緯

熊本大学の熊本市内の校地は先に示したように8地区に分散しており、どの校地も狹隘化してきているため、かねてから校地の移転などが議論されてきた。昭和60年（1985）に当時の熊本県知事から校地移転を検討する旨の申し出があり、その件について学内で議論され、本荘地区的医学部・附属病院を除き他の地区は現地再開発が決定された。本荘地区も平成5年（1993）に現地再開発することが

決定され、全学が現地再開発に取り組むこととなった。その後それぞれの地区での再開発構想が検討され、基本的な計画ができ上がった地区から文教施設費を概算要求し、それらが認められたところから再開発事業が始まった。一方、黒髪地区などにおいては、従来から建設工事などによって古代や先史時代の遺物が発見されていたにもかかわらず、埋蔵文化財包蔵地としては周知されていなかった。

平成5年（1993）10月から、黒髪南地区において総合情報統括センターの建設工事が始まったところ、熊本市文化振興課から工事前に埋蔵文化財の発掘調査が必要である旨の連絡があり、同課へ出向き確認したところ、平成5年4月1日から熊本市文化財保護審議会において黒髪地区などが埋蔵文化財の包蔵地として追加指定されていることが判明した。そこで大学が計画している建設工事の予定地に係わる試掘調査の届を同課に提出して、調査を依頼した。試掘調査の結果では、ほとんどの建設工事に先立ち発掘調査が必要であるということになった。

今後の発掘調査について同課に相談したところ、以下のような回答があった。

①国の機関（大学等）は考古学研究室などがあって専門のスタッフを擁していることでもあり、熊本大学においてもそのような機関を設け、そこが実施機関として発掘調査を担当願いたい。

②熊本市が平成6年度発掘調査の依頼を受けたとしても、それを実施する場合、既に他の発掘調査予定が半年分はあるので、急いで9月または10月頃から調査を始めることとなる。

以上のことから、熊本大学の再開発事業には事前の試掘および発掘調査をおこなうことが必須条件であり、そのために大学独自の調査組織を早急に設けることが必要となった。まずは発掘調査組織の中心となってもらうべく、文学部考古学研究室に協力を依頼し、このことについて承諾を得た後、急ぎ委員会などの組織作りをおこない、責任体制を確立するための作業が始められた。本学の状況および他大学に既に設置されている同種組織の内容を勘案しながら検討した結果、熊本大学埋蔵文化財調査委員会（以下「調査委員会」と略する）を設けることになった。また、この調査委員会の下に熊本大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」と略する）を置き、発掘調査の実務を担当することとした。

平成6年（1994）4月7日をもって熊本大学埋蔵文化財委員会規則が定められ、調査委員会が設置され、委員会内に調査室が置かれ、平成6年5月16日、委員会委員の委嘱、調査室長および調査員・事務補佐員が就任し、正式に調査室業務が開始した。調査室発足後は、文学部考古学研究室の甲元眞之教授をはじめとしたスタッフの多大なる協力のもと平成6年度建設予定地の調査を中心に発掘調査が実施された。

平成23年（2011）10月1日には、熊本大学埋蔵文化財調査室から、熊本大学埋蔵文化財調査センターとして発足した。これを契機とし、埋蔵文化財の発掘調査を主体的業務としながらも、『速報展示』や『地下の文化財散歩』の開催など、これまでの調査成果を用いた活用事業にも尽力している。経緯の詳細については『熊本大学埋蔵文化財調査センターワーク』等を参照されたい（以上、山野・柴田編2018を引用・一部改変）。

3. これまでの調査と本書収録の遺跡

平成7年（1994）以後、平成29年（2017）3月末日まで、再開発計画に則り行われた事業の事前調査として、表2のような調査が実施されてきた。本書はこの中から平成25・26（2013・2014）年度に実施した黒髪南地区における（黒髪南）ライフライン再生（給水設備等）工事に伴う発掘調査（1310調査地点）のうち縄文時代に関する遺構・遺物について報告する。試掘・立会と小規模な調査などについては年報において既報告があるので、本書からは除外した。

引用・参考文献

- 大坪志子編 2000『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』6 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- 大坪志子編 2010『熊本大学構内遺跡発掘調査報告』VI 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第6集 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- 大坪志子編 2013『熊本大学構内遺跡発掘調査報告』IX 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第9集 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- 大坪志子編 2014『熊本大学構内遺跡発掘調査報告』X 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第10集 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- 小畠弘己編 1995『熊本大学埋蔵文化財調査室年報』2 熊本大学埋蔵文化財調査室
- 小畠弘己編 2009『熊本大学構内遺跡発掘調査報告』V 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第5集 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- 小畠弘己・大坪志子編 2008『熊本大学構内遺跡発掘調査報告』IV 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第4集 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- 小畠弘己・大坪志子編 2011『熊本大学構内遺跡発掘調査報告』VII 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第8集 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- 笠置英行 1971「九州女学院遺跡」『熊本市北部地区文化財調査報告書』熊本市教育委員会
- 木下良 1979「第六節 肥後国」「古代日本の交通路」IV pp.99~130 大明堂
- 木下良 1995「肥後国府の変遷について」「古代文化」9-27 pp.1~19 古代学協会
- 新熊本市史編纂室編 1996『新熊本市史料編第1巻考古資料』新熊本市史編纂室
- 田添夏喜 1986『黒髪町遺跡多士会館敷地発掘調査報告 黒髪町遺跡』財団法人多士会館
- 鶴嶋俊彦 1997「肥後国北部の古代官道」「古代交通研究」第7号 pp.39~66 古代交通研究会
- 松田光太郎・大坪志子編 2017『熊本大学構内遺跡発掘調査報告』XII 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第12集 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- 美濃口雅朗編 2008『熊本市埋蔵文化財発掘調査報告書集』平成19年度 熊本市教育委員会
- 山野ケン陽次郎 2015「熊本大学構内遺跡の発掘調査 -縄文時代後期を対象に-」「第11回日韓新石器時代研究会発表資料集』pp.106~119 九州縄文研究会・韓国新石器学会
- 山野ケン陽次郎編 2016『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』21 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- 山野ケン陽次郎・柴田亮編 2017『熊本大学構内遺跡発掘調査報告』 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第14集 熊本大学埋蔵文化財調査センター

表2 既往調査地点と本書収録調査地点一覧表

1994年度						
94-4-15~17	9401	(黒北) 運動場整備(照明塔建設)工事	発掘調査	128m ²	古代	古代土器部、埴生器
94-4-21	9402	(黒北・南) 基幹整備(教育学部エレベーター実施工)工事	発掘調査	475m ²	古代	ガラス、磁器片
94-4-25	9403	(黒北・南) 地区基幹整備(工業部エレベーター実施工)工事	発掘調査	48m ²	本報告書	包含層確認、土器片
94-5-13~14	9404	(黒北) 福利施設建物予定地の樹木移植	立会調査	30m ²	古代	本報告書
94-5-17~6-25	9405	(京町) 育成中学校施設建設工事	発掘調査	400m ²	先史・近世	陶文土器、埴生土器、埴生器、土器部、近世陶器類、瓦石、瓦片、瓦、ガラス瓶
94-5-20~23・23~24	9406	(黒北) 武士原運動場整備(柔球場建設)工事	発掘調査	100m ²	古代	本報告書
94-5-23~7-28	9407	(黒北) 福利施設施設工事	発掘調査	1,290m ²	古代	本報告書
94-8-1~8-10	9408	(鹿渡) グラウンド柔球場整備工事	発掘調査	40m ²	古代	土器部
		立会調査				本報告書
94-8-11	9409	(黒北) 武士原器具新設工事・外堀整備工事	立会調査	234m ²	本報告書	包含層に達せず遺構なし、土器部
94-8-12	9410	(京町) 将軍中学校電気引き込み配線工事	立会調査	13m ²	本報告書	遺構、遺物なし
94-8-22	9411	(黒北) 基幹整備(南園青龍スマート取扱)工事	立会調査	25m ²	本報告書	包含層に達せず、遺構、遺物なし
94-9-12~10-31	9412	(黒北) 工学部実験棟新設工事	発掘調査	7436m ²	古代	古代堅穴住居址、古代土器部、埴生器、瓦・土質印、瓦器、陶文土器
94-11-14~12-22	9413	(鹿渡) グラウンド整備工事	発掘調査	200m ²	陶文・古代	古代堅穴住居址、道路跡、古代土器部、埴生器、瓦器、布引瓦、瓦石、鐵器、鐵文土器、石器
95-1-17~21	9414	(黒北) 福利施設施設工事	立会調査	169m ²	本報告書	遺構、遺物なし
95-1-19~11-1 1-26~2-1	9415	(黒北) 工学部共同工事	立会調査	50m ²	本報告書	遺構、遺物なし
95-2-27	9416	(城東) 野尻幼稚園排水管敷設工事等工事	立会調査	1297m ²	本報告書	遺構、遺物なし
95-3-15~23	9417	(黒北) 福利施設施設工事	立会調査			本報告書
1995年度						
95-4-25~5-2	9501	(黒北) 工学部研究実験棟新工期に伴う新設建設工事	発掘調査	90m ²	古代~近世	古代堅穴住居址、柱穴、溝、陶文
95-5-9~10	9502	(黒北) 工学部附属工具機器センター新設工事	試掘調査	20m ²	古代	後期土器部、古代土器部、埴生器
95-5-15~16	9503	(黒北) 工学部RTR研究実験棟建設及び基礎削除	試掘調査	20m ²	古代	包含層確認、古代土器部、埴生器
95-5-29~30 6-21	9504 ~06	(黒北) 工学部研究実験棟新設基礎設備(その2)に伴う高圧ケーブル埋設	立会調査	38m ²	本報告書	遺構、遺物なし
95-8-21	9505	(黒北) 工学部通信設備埋設工事	立会調査	14m ²	本報告書	遺構、遺物なし
95-8-22	9508	(黒北) 事業部局前井配管改修	立会調査	10m ²	本報告書	遺構、遺物なし
95-9-8~10-12	9509	(吉澤) 地理部防風施設耐候性実験棟改築工事	発掘調査	28m ²	陶文	電石、燒土早期土器、石器
95-11-22	9510	(黒北) 工学部研究実験棟新設工期に伴うガス配管	立会調査	古代	古代包含層確認、古代土器部	
95-11-6~8	9511	(本庄北) 医学部RTR融合センター進伝子実験施設建設及び外構改修工事	発掘調査	200m ²	古代	古代包含層確認、堅穴住居址、古代土器部、埴生器
95-11-13~16	9512	(黒北) 工学部研究実験棟新設工期に伴う排水管設置	発掘調査	60m ²	古代	古代堅穴住居址、柱穴、瓦層、鐵文土器片、古代土器部、埴生器
95-11-17	9513	(黒北) 工学部研究実験棟新設工期に伴う外構改修	立会調査		本報告書	遺構、遺物なし
95-11-17	9514	(黒北) 工学部研究実験棟新設工期に伴う外構改修	立会調査	古代	古代土器部、埴生器	
95-11-21~22	9503	(黒北) 工学部RTR研究実験棟建設に伴う基礎掘削	立会調査	古代	古代土器部、埴生器	
95-11-22	9515	(黒北) 工学部研究実験棟新設工期に伴う外構改修	立会調査	古代	包含層確認、古代土器部	
95-11-24	9511	(本庄北) 医学部RTR融合センター進伝子実験施設建設工事	立会調査		本報告書	一部包含層確認、遺構、遺物なし
95-11-28~29	9516	(黒北) 工学部研究実験棟新設工期に伴う外構改修	発掘調査	72m ²	陶文~古代	古代包含層確認、柱穴、陶文土器片、古代土器部
95-12-1	9511	(本庄北) 医学部RTR融合センター進伝子実験施設建設に伴う外構改修	立会調査		本報告書	包含層確認、遺構、遺物なし
95-12-4	9517	(本庄北) 医学部RTR融合センター進伝子実験施設に伴う排水管移設	立会調査		本報告書	遺構、遺物なし
95-12-5	9518	(黒北) 工学部RTR研究実験棟建設に伴う外構改修	立会調査	10m ²	本報告書	遺構、遺物なし
95-12-12~14	9519	(黒北) 工学部研究実験棟新設工期に伴うガス配管	立会調査	古代	古代柱穴、溝、古代土器部、埴生器	
95-12-18	9520	(黒北) 教育部前道路改修	立会調査	10m ²	本報告書	遺構、遺物なし
95-12-25~ 96-2-22	9511	(本庄北) 医学部RTR融合センター進伝子実験施設建設	発掘調査	9769m ²	陶文~古代	古代堅穴住居址、面支柱建設、溝、鐵文土器・石器、古代土器部、埴生器、武器
96-3-1	9521	(黒北) 工学部校舎新設	試掘調査	弥生	本報告書	弥生土器・ビット、弥生中期土器
96-3-8	9522	(黒北) 文化学部・第五高等学校記念館前面施設工事	立会調査	古代	本報告書	包含層確認、古代土器部
96-3-21	9523	(城東) 教育部附属幼稚園新木造り施設改修工事	立会調査		本報告書	遺構、遺物なし
96-3-25~26	9524	(京町) 教育学部附属小学校給排水管改修工事	立会調査	276m ²	本報告書	遺構、遺物なし
1996年度						
96-4-19	9601	(本庄北) 医学部校舎建設	試掘調査	30m ²	古代	古代包含層、溝、古代土器部、埴生器
96-5-10	9602	(黒北) 文化学部紀念館改修	立会調査	1m ²	本報告書	遺構、遺物なし

3. これまでの調査と本書収録の遺跡

96-5-10~6-24	9603	(黒川) 工学部校舎建設	発掘調査	1,000m ² ・古代	純文・弥生 ・漢・亂世建築物・土器・柱穴 ・鐵文後期・土器・鐵器・瓦	本報告書
96-5-13	9604	(黒川) 教育部 ATM ネットワーク付設工事	立会調査	40m ² 近代	遺構・遺物なし	年報3
96-5-15	9605	(京町) 教育部附属小学校 ATM ネットワーク付設工事	立会調査	14m ²	近代施設	年報3
96-5-15	9606	(大江) 筆学部 ATM ネットワーク付設工事	立会調査		遺構・遺物なし	年報3
96-6-17	9607	(黒川) 法文部外灯設置工事	立会調査	4m ² 古代	一部包含壁跡・古代頃遺器	年報3
96-6-19	9608	(黒川) 文部省旧実験施設工事	立会調査	21m ²	遺構・遺物なし	年報3
96-8-5	9609	(黒川) 入試用監視施設工事(試掘)	発掘調査	4m ²	遺構・遺物なし	年報3
96-8-6~9	9601	(本荘) 医学校校舎建設に伴う木根移築・野水橋建設工事	発掘調査	457m ² 古墳・古代	古墳時代後期穴住居址・古代堅穴住居址・古墳時代土器群・古代土器群・埴輪	本報告書
96-8-22~27	9602	(本荘北) 医学校校舎建設に伴う切り替え道路建設(4区)	発掘調査	374m ² 古代	堅穴住居址・柱穴・古代土器群・埴輪	本報告書
96-8-29~30	9603	(本荘北) 医学校校舎建設に伴う切り替え道路建設(5区)	発掘調査	282m ² 古代	堅穴・古代土器群・埴輪	本報告書
96-9-6	9605	(黒川) 教養部夏目漱石像建立	試掘調査	9m ²	遺構・遺物なし	年報3
96-10-1~9	9601	(本荘北) 医学校校舎建設に伴う排水管切り替え工事(6区)	発掘調査	1013m ² 古代	古代道路・堅穴住居址・古代土器群・埴輪・箱型器	本報告書
96-10-11~ 97-1-17	9601	(本荘北) 医学校校舎本体工事(本調査区)	発掘調査	1,066m ² 純文・古墳・古代	純文包含層・古墳上壇・古代道路・堅穴住居址・開立式建物・土器・近代施設・純文灰陶片・古墳・古代土器群・埴輪・瓦器	本報告書
96-10-21~29	9601	(本荘北) 医学校校舎建設に伴う排水管切り替え工事(7・8・9区)	発掘調査	625m ² 古代	古代堅穴住居址・堅・古代土器群・埴輪	本報告書
96-11-12~13	9601	(本荘北) 医学校校舎建設に伴う排水管切り替え工事(10区)	発掘調査	218m ² 古代	古代堅穴住居址・古代土器群・埴輪	本報告書
96-11-12	9611	(黒川) 工学部外灯設置工事	立会調査	0.4m ²	遺構・遺物なし	年報3
96-12-18	9612	(黒川) 工学部電視機設置工事	立会調査	748m ²	遺構・遺物なし	年報3
97-3-3~31	9613	(黒川) 工学部研究実験棟Ⅱ新設機械設備工事	立会調査	175m ²	遺構・遺物なし	年報3
97-3-7	9614	(黒川) 工学部衝撃エネルギー実験室大廈取扱工事	立会調査	100m ²	遺構・遺物なし	年報3
1997年度						
97-4-8	9701	(本荘南) 医学部情報リテラシー教育施設電気設備その他の工事	立会調査	21m ²	一部氣食場所を確認・遺構なし・古代土器片	年報4
97-5-7	9702	(黒川) 理学部ヘリカム種増築・ヘリカム背面注釈工事	立会調査	1266m ²	遺構・遺物なし	年報4
97-5-28	9703	(本荘北) 医学校外部床面研究棟血液透析装置室取扱工事	試掘調査	4m ²	遺構・遺物なし	年報4
97-7-28~11-4	9704	(黒川) 医学校新官房工事	発掘調査	1,783m ² 弥生・古代	弥生時代植樹墓・古代堅穴住居址・堅・提出立柱構造・柱穴・近世墓・弥生中期墓・土器群・埴輪・古代土器群・近世陶器	年報4
97-10-29	9705	(京町) 教育部附属中学校女性立憲道立	立会調査	26m ²	遺構・遺物なし	年報4
97-10-29	9706	(黒川) 法文部細川見附壁建立	立会調査	12m ²	遺構・遺物なし	年報4
97-11-11~ 98-3-31	9707	(本荘北) 医学校基礎研究棟外壁配線工事	立会調査	370m ² 古代・近代	近代墓地・古代土器・柱穴・甕・人骨・石器等・古代土器	年報4
98-1-30~2-12	9708	(黒川) 法・文・教育部外灯設置工事	立会調査	619m ² 古代	遺構	年報4
98-2-3~2-13	9709	(黒川) 菊池黒堀号宿舎取り壇工事	立会調査	116m ² 古代	一部瓦量を確認・遺構なし・第2粘土層	年報4
1998年度						
98-4-14	9804	(黒川) 工学部校舎建設に伴う排水管撤去工事	立会調査	10m ²	掘削により遺構なし	年報5
98-6-26~7-2	9801	(本荘南) 医学部エイズ学術研究センター・動物資源開発センター貯蔵室支配管替工事	立会調査	24m ² 古代	遺構・遺物認められず	年報5
98-7-6	9801	(本荘南) 岩間木伐採工事	立会調査		遺構・遺物なし	年報5
98-7-13	9809	(黒川) 工学部3号館電気設備工事	立会調査	3m ² 古代	遺物包含層を確認	年報5
98-7-28~9-10	9801	(本荘南) 医学部エイズ学術研究センター・動物資源開発センター貯蔵室工事	発掘調査	972m ² 純文・古代	堅穴住居址・柱立柱構造・溝・土・本報告V ・近世	本報告V
98-9-21~22	9803	(黒川) 文部省郵政工事に伴う樹木移植工事	立会調査	9m ²	遺物・遺構なし	年報5
98-9-25~11-6	9802	(黒川) 文部省堅穴住居その他の工事	発掘調査	575m ² 純文・弥生・石器等・土・本報告V ・近世	純文土器・弥生土器・石器等・土・本報告V ・近世	本報告V
98-9-28	9805	(本荘北) 大学病院胡桃新官房工事	試掘調査	10m ² 古代	古墳・古代土器	年報5
98-9-29	9806	(本荘北) 大学病院中央診療新官房工事	試掘調査	5m ²	河成井複数を検出・遺構・遺物なし	年報5
98-9-30	9807	(本荘北) 大学病院新官房注射室等々支給室等取扱工事	試掘調査	2m ² 古代	遺物包含層・柱穴検出・古代土器片	年報5
98-10-6	9808	(黒川) 工学部1号館電気設備工事	立会調査	30m ²	遺構間に連せず・遺構なし	年報5
98-10-28~ 11-20	9807	(本荘北) 大学病院薬剤部注射室等々支給室等取扱工事	発掘調査	175m ² 古代	純文土器・石器等・古代堅穴住居址・土・溝・古代	本報告V
98-11-2	9803	医学部エイズ学術研究センター・動物資源開発センター間連接廊下整備工事	発掘調査	139m ²	前半のみ存在せず	本報告V
98-12-14~18	9810	(黒川) 理学部自然生物学等综合実験棟新官房配管替工事	立会調査	35m ² 古代	遺物包含層・柱穴検出・古代土器片	年報5
98-12-16	9802	(黒川) 文化部新官房骨蔵室設置工事	立会調査	35m ² 古代	遺構面確認・遺構・遺物なし	年報5
98-12-17~ 99-1-10	9803	(本荘北) 大学病院胡桃新官房に伴う支給室等取扱工事	立会調査	233m ² 古代	堅穴住居址・古代土器片	年報5
99-1-12	9811	(黒川) 工学部実験室建設工事	試掘調査	14m ² 純文後期	土器	年報5

99-1-21~3-25	9810	(黒川) 理学部自然科学等研究会実験棟新工事	発掘調査	1,088m ²	純文・古代 ・近代	純文土器・石器等、古代住居住 址・柱穴・溝・古代溝	本報告V
99-2-2	9802	(黒川) 墓地整備事業に伴う文化部室改修工事	立会調査	260m ²	遺構・遺物なし	年報5	
99-2-10	9802	(黒川) 墓地整備事業に伴う建築工事	立会調査	40m ²	遺構面には達せず、遺物なし	年報5	
99-2-18	9802	(黒川) 墓地整備事業に伴う樹根工事	立会調査	12.3m ²	地表下2mで生土時代遺物(瓦含層 ・遺構)を確認。遺構・遺物なし	年報5	
99-2-9~3-9	9802	(黒川) 墓地整備事業に伴う電気配線工事	立会調査	4m ²	地表下0.8mで生土を検出。遺 構・遺物なし	年報5	
99-3-11~12	9812	(大江) 墓地田舎町プロック周改修工事	立会調査	70m ²	既存層・遺構面確認。遺構・遺物 なし	年報5	
99-3-10~31	9801	(本荘市) 医学院エイズ研究センター・熱物資源開発研究	立会調査	57.5m ²	古代 一部包含層・遺構面確認(ビッ ト)・遺物なし	年報6	
1999年度							
99-4-5~8-31	9901	(本荘市) 病棟(鉛) 新工事	発掘調査	2,405m ²	純文・古代 ・近代	純文時代石器・手・古墳時代住居 址・柱穴・土間部・古代住居址・柱 孔	本報告X
99-6-14~7-14	9902	(本荘市) 医学院エイズ研究センター・熱物資源開発研究 センター新基盤工事立会	立会調査	40m ²	古・代 古代柱穴・溝・遺物を少量検出	年報6	
99-6-17	9903	(黒川) 工学部研究施設棟・2次新工事に伴う植樹立会	立会調査	10m ²	遺構・遺物なし	年報6	
99-7-19~26	9904	(本荘市) 医学院エイズ研究センター・熱物資源開発研究 センター新基盤工事立会	立会調査	3m ²	古・代 遺構・遺物なし	年報6	
99-7-29~7-30	9905	(黒川) 自然科学研究科・理学部組合研究実験棟新工事電気設 営工事	立会調査	50m ²	遺物・遺構なし	年報6	
99-7-2~8-7	9906	(黒川) 自然科学研究科・理学部組合研究実験棟新工事電気設 営工事	立会調査	200m ²	古代 古代陶器・柱穴2個・古代土器片 ・少量を検出	年報6	
99-9-22~10-5	9907	(黒川) 工場実験棟フレハーブ新工事	発掘調査	136.5m ²	純文前期・ビット頭・純文土器片出土 期間	本報告質	
99-11-24~25	9908	(黒川) 肥沃養育学校新施設用改築工事	試掘調査	42m ²	近世以降 トレレンチ2本設定して調査したが、 遺構なし・近世指紋片	年報6	
00-2-14~3-24	9909	(黒川) 工場部塗装工場・環境整備新セントラルサテライト・ ベンチャード・ビジネス・タワートリニティ新施設電気供給工事	試掘調査	1,853m ²	近世・古 代 近世・柱穴・基礎・瓦礫・廻転器・管管・ 瓦・瓦残	本報告質	
00-1-25	9910	(本荘市) 正門照射管理室改修試掘	試掘調査	2m ²	亂乱差しく。遺構・遺物とともに様 成できず	年報6	
00-3-6~14	9911	(黒川) 水生動物育成新建築工事	発掘調査	709m ²	純文土器・古代土器類・瓦忠器 ・遺構・遺物ともに様成できず	本報告X	
00-3-14	9912	(黒川) 杏林寺新工事立会	立会調査	3m ²	遺物・遺構ともに様成できず	年報6	
00-3-2	9913	医学部文化遺産新施設改修工事立会	立会調査	7.81m ²	遺構・遺物なし	年報6	
00-3-16~17	9914	(本荘市) さく井施設工事立会	立会調査	25m ²	遺構・遺物なし	年報6	
2000年度							
00-4-7	0001	(黒川) 水生動物育成新施設改修工事	立会調査	61m ²	遺構・遺物なし	年報7	
00-4-11	0002	(黒川) 水生動物育成新施設改修工事	立会調査	41m ²	遺構・遺物なし	年報7	
00-4-17	0003	(本荘市) 風呂町高齢者施設改修工事	試掘調査	5.8m ²	遺構・遺物なし	年報7	
00-10-23	0004	(黒川) 工場部塗装・環境整備研究センター・サテライト・ ベンチャード・ビジネス・タワートリニティ新施設電気供給工事	立会調査	16m ²	遺構・遺物なし	年報7	
00-10-30	0005	(黒川) 工場部塗装工事	立会調査	63m ²	遺構・遺物なし	年報7	
00-11-6~22	0006	(本荘市) 附城病院新基準・環境整備第3井戸水塔改修工事	発掘調査	119.4m ²	純文・古 代 居址・土器形・瓦忠器	本報告VI	
00-11-22	0006	(本荘市) 附城病院新基準・環境整備第1井戸水塔改修工事	試掘調査	4m ²	古・現代居址・近・現代墓石・墓葬・遺骨 ・地	年報7	
00-11-27~29	0006	(本荘市) 附城病院新基準・環境整備給水塔改修工事	立会調査	85.5m ²	遺構・遺物なし	年報7	
00-12-4~13	0006	(本荘市) 附城病院新基準・環境整備給水塔改修工事(Ⅴ区)	発掘調査	32m ²	純文・古 代 土堆積構造・純文時代石器・土器・ 瓦・ガラス玉・灰器・俎忠器	本報告VI	
00-12-8~01-1-10	0006	(本荘市) 附城病院新基準・環境整備電気供給工事(Ⅳ区)	立会調査	31.5m ²	古・代 遺構なし・土頭跡数点	年報7	
00-12-19~20	0006	(本荘市) 附城病院新基準・環境整備新水塔改修工事(Ⅴ区)	発掘調査	20.4m ²	居住址・土器形	本報告VI	
00-12-26~28	0006	(本荘市) 附城病院新基準・環境整備給水塔改修工事	立会調査	100.7m ²	古・現代 近代墓塚・墓石・遺骨 ・地	年報7	
01-1-29	0006	(本荘市) 附城病院新基準・環境整備給水塔改修工事(V区)	立会調査	7m ²	遺物・遺構なし	年報7	
01-1-22~30	0007	(昭明) 昭明中学校新校舎新工事	発掘調査	119.4m ²	衛生・古 代 古生・古土器類・灰器・土製 障	年報7	
01-2-5	0008	(黒川) 生涯学習環境研究センター・リースロード改修工事	立会調査	28m ²	亂乱のため遺物・遺構なし	年報7	
01-2-6~9	0009	(黒川) 理学部1号館体育障害者用設備整備工事	立会調査	70m ²	古代 包含層を確認・古代土器類・灰器 ・器	年報7	
01-2-16~19	0110	(黒川) 体育系部室解体・新工事	立会調査	372m ²	遺物・遺構なし	年報7	
01-2-22	0111	(大江) 旧歴史解体施設工事・旧ボウラー室解体解体工事	立会調査	132m ²	遺物・遺構なし	年報7	
01-3-5~6	0112	(黒川) 写真取付工事	立会調査	3m ²	遺物・遺構なし	年報7	
01-3-6	0113	(大江) 屋内運動場(角武館)取り壇工事	立会調査	500m ²	遺物・遺構なし	年報7	
01-3-22	0114	(黒川) 旧生活協同組合事務所解体搬入工事	立会調査	66m ²	遺物・遺構なし	年報7	
2001年度							
01-4-9~7-3	0101	(本荘市) 附城病院医学部組合研究棟新工事	発掘調査	1,733.75m ²	古・代 ・近・古 ・近・代 ・古 ・器 ・器	本報告VII	
01-5-14	0102	(黒川) 基幹・環境整備	試掘調査	48m ²		本報告VII	
01-5-14	0103	京町団地高齢者アパート改修工事	立会調査	59.5m ²	遺構・遺物なし	年報8	
01-7-9~26	0102	(黒川) 名鉄・環境整備	発掘調査	418.5m ²	純文土器・瓦水道室・風呂桶本体・ 防空壕	年報8	

3. これまでの調査と本書収録の遺跡

01・7・4～10・29	0104	(本庄北) 病院基幹・環境整備(共同溝設置)	発掘調査	1,023.8m ²	縦文・弥生 古墳・古代	住居址・溝・土器・土器類・須恵器・石器・瓦 土器・青銅器	本報告書
01・7・13	0105	(京町) 正門取扱工事	立会調査	7.12m ²	遺構・遺物なし	年報8	
01・7・30～11・14	0106	(黒北) 大学教育研究センター等改修工事	立会調査	3,907m ²	遺構・遺物なし	年報8	
01・7・31	0107	(大元) 学業会共同実習棟改修工事	立会調査	97.84m ²	遺構・遺物なし	年報8	
01・8・1～13	0108	(京町) キャンパス情報ネットワークその他の施工事	立会調査	25m ²	遺構・遺物なし	年報8	
01・8・2～21	0109	(黒北) キャンパス情報ネットワークその他の施工事	立会調査	58m ²	遺構・遺物なし	年報8	
01・8・27	0110	(大元) 葉学部キャンパス情報ネットワークその他の施工事	立会調査	20m ²	遺構・遺物なし	年報8	
01・9・4	0111	(本庄南) 西部学部キャンパス情報ネットワークその他の施工事	立会調査	278m ²	遺構・遺物なし	年報8	
01・9・22～24	0112	(黒北) 衛生館改修アサヒ整備工事	立会調査	662m ²	遺構・遺物なし	年報8	
01・9・14 10・1	0113	(本庄北) 医術技術研究館新キャンパス情報ネットワークその他の施工事	立会調査	105m ²	遺構・遺物なし	年報8	
01・9・17	0114	(本庄北) 沿街建物キヤマックス情報ネットワークその他の施工事	立会調査	38m ²	遺構・遺物なし	年報8	
01・10・19	0115	(黒北) 理学部2号館南側改修工事	立会調査	84m ²	遺構・遺物なし	年報8	
01・10・22～ 02・2・19	0116	(本庄北) 病院基幹・環境整備(～A～D地区・ボイラー設置更地等)	立会調査	4264m ²	遺構・遺物なし	年報8	
01・12・8～02・2・9	0117	(本庄北) 医学部改修研究棟新蔵葉城設備工事	立会調査	1331m ² 古代	住居址・柱・基礎 土器群・環状器	年報8	
01・12・22～02・2・4	0118	(黒南) 基幹・環境整備(荷物安設電設施・接続その他)	立会調査	1117m ²	遺構・遺物なし	年報8	
02・2・25～ 3・20	0119	(本庄北) 道場用ダム供給設備設置工事	発掘調査	205.8m ² 縦文・古墳 ～古代	住居址・柱・基礎 土器・土器群・須恵器・瓦器	本報告書	
02・3・18	0120	(本庄北) 研究棟裏庭環境整備工事	立会調査	1,092.7m ²	遺構・遺物なし	年報8	
02・3・18	0121	(黒北) 病院基幹改修(上木上) 新設工事	立会調査	1,076.4m ²	溝？・遺物なし	年報8	
02・3・22	0122	(本庄北) 財團法人西浦研究施設工事(仕上Ⅱ)	立会調査	54m ²	遺構・遺物なし	年報8	
2002年度							
02・4・3～4	0201	(黒北) 大学教育研究センターC棟空調取扱工事給排水及 び室外機基礎工事	立会調査	293m ²	遺構・遺物なし	年報9	
02・4・15～16	0202	(黒北) 附帯建工事	立会調査	199m ²	遺構・遺物なし	年報9	
02・4・17	0203	(黒南) インキュベーション施設新設工事	試掘調査	3m ²	年報9		
02・4・17	0204	(黒南) 合成研究棟新設工事	試掘調査	4m ²	年報9		
02・4・24	0205	(黒南) 武道室エコクリーントイレ工事	立会調査	0.73m ²	遺構・遺物なし	年報9	
02・5・20～29	0206	(黒北) 研究棟新設に伴う木質移設工事	発掘調査	28m ²	遺構	本報告X	
02・5・30～8・2	0207	(黒南) インキュベーション施設新設工事	発掘調査	810m ² 近・世 紀延	遺構・遺物なし	年報9	
02・6・3	0208	(黒南) 研究棟新設に伴う電気工事	立会調査	32m ²	遺構・遺物なし	年報9	
02・6・12～8・14	0209	(黒北) 研究棟新設工事	発掘調査	2,808m ² 縦文・古墳 ～古代	住居址・溝・古葬墓・須恵器・土器 土器群・環状器	本報告X	
02・7・2	0208	(黒北) 国書館附属学生部材販経営工事	立会調査	21m ²	遺構・遺物なし	年報9	
02・8・29	0209	(京町) 開発学校スローフ農設工事	立会調査	13m ²	遺構・遺物なし	年報9	
02・10・1～ 10・31・11・18	0210	(黒南) 工芸部耐水移設工事	発掘調査	6,119m ²	傾斜層・壁・土器 土器群	本報告X	
02・10・7	0211	(本庄北) 国書館附属学生部材販経営工事(後り底面部分)	立会調査	32m ²	遺構・遺物なし	年報9	
02・12・3・5・11	0212	(黒北) 通用門柱建工事	立会調査	480m ²	遺構・遺物なし	年報9	
02・13	0213	(本庄北) 研究棟新設電気設備工事	立会調査	216m ²	遺構・遺物なし	年報9	
03・2・7	0214	(黒北) 基幹環境改修外打灯工事	立会調査	216m ²	遺構・遺物なし	年報9	
03・2・18	0215	(大元) 基幹施設耐震化改修工事	立会調査	34m ²	遺構・遺物なし	年報9	
03・2・21	0216	(黒北) 外塀改修工事	立会調査	185m ²	遺構・遺物なし	年報9	
03・3・7	0217	(黒北) 事務室廊下(ペラハ) 新設工事	立会調査	3m ²	遺構・遺物なし	年報9	
03・3・10	0218	(黒北) 外塀改修工事	立会調査	27m ² 古代	住居址・土器器・環状器・瓦石	年報9	
03・3・11	0219	(本庄南) 延屋新設工事	立会調査	36m ²	遺構・遺物なし	年報9	
03・3・26	0220	(新南部) 教育学部新南農場竹藪・廻地塗界取り	立会調査	40m ² 古代	住居址・柱・窓・古代土器・瓦 環状器	年報9	
2003年度							
03・4・10	0301	(黒南) 工芸部楽器庫新設工事	立会調査	2m ²	遺構・遺物なし	年報10	
03・4・10	0302	(京町) 施設研究棟内溝設置工事	試掘調査	96m ²	土器器	年報10	
03・5・20	0303	(黒南) 事務室廊下改修工事	立会調査	16.8m ²	遺構・遺物なし	年報10	
03・6・2～7・2	0304	(本庄北) 基幹・環境整備工事	発掘調査	333.5m ² 縦文・弥生 古墳・古代	環状器・古代土器類	本報告X	
03・7・18	0302	(黒南) 研究棟共用溝設置工事	立会調査	296m ²	遺構・遺物なし	年報10	
03・8・19	0303	(京町) 小学校・中学校ファンクス取扱工事	立会調査	44.3m ²	遺構・遺物なし	年報10	
03・8・6～9・12	0302	(京町) 研究棟内溝設置工事(1区)	発掘調査	168.2m ² 縦文・古代 土器	遺物包含層・ 環状器	本報告詳	
03・9・4～9・8	0306	(本庄北) 医術技術研究館大学北加賀駅場環境整備工事	立会調査	539.2m ²	遺構・遺物なし	年報10	
03・9・5	0307	(京町) 大江ビル研究棟排水管新設工事	立会調査	7.54m ²	遺構・遺物なし	年報10	
03・9・29	0308	(京町) 小宿舎1号棟洗水槽温水修理工事	立会調査	3.64m ²	遺構・遺物なし	年報10	
03・10・2	0309	(京町) 研究棟温水修理新設工事	立会調査	4.02m ²	遺構・遺物なし	年報10	
03・10・1～10・10	0302	(黒南) 研究棟内溝設置工事	発掘調査	253.3m ² 縦文・古代 土器	遺物・横口土器・土器・箱 環状器	本報告詳	
03・10・27	(黒北) 敬老施設工事	試掘調査	137.5m ²	遺構・遺物なし	年報10		
03・11・6	(京町) 紀念講堂改修工事	試掘調査	7.4m ² 古代	土器器	年報10		
03・11・17～28	0310	(京町) 教育学部共同溝設置事業	立会調査	557m ²	遺構・遺物なし	年報10	
03・11・26	0302	(京町) 研究棟内溝設置工事(ダミ管)	立会調査	3.6m ²	遺構・遺物なし	年報10	
03・12・9	(本庄北) 生生医学研究センター整備事業本体工事	試掘調査	26.58m ²	遺物包含層	年報10		

03-12-16	0311	(本荘北) 中央診療棟(総) 診察工事	立会調査	4m ²	遺構・遺物なし	年報10
04-1-13	0312	茅草根掘削工事	立会調査	11.2m ²	遺構・遺物なし	年報10
04-1-14	0307	(東) 大工組合研究棟給排水管及び電気工事	立会調査	45.5m ²	遺構・遺物なし	年報10
04-1-15~19	0313	教官宿舎工事	立会調査	398.8m ²	遺構・遺物なし	年報10
04-1-23~27	0314	(本荘南) 医師部B棟・E棟・R-I・旧勤務合意環境工事	発掘調査	1900m ² 古代	遺・ビット・土器等	本報告書
04-1-30	0315	(本荘北) 東駅舎準備整備工事	立会調査	307m ²	遺構・遺物なし	年報10
04-2-9	0316	(黒面) 理学部4号館近隣ハープ等設置工事	立会調査	83m ²		年報10
04-2-16						
04-2-23	0317	(本荘北) 倉庫の木移築	立会調査	16m ²		年報10
04-3-4	0318	(黒面) 用兵満洲校門櫛木造修理工事	立会調査	2m ²	遺構・遺物なし	年報10
04-3-5~9	0319	(本荘北) 医師部B棟・E棟・R-I・旧勤務合意環境工事	発掘調査	1000m ² 中古・古代・遺・ビット・陶器等・土器等	本報告書	本報告書
04-3-9	0320	(黒北) 井戸改修工事	立会調査	2.3m ²	遺構・遺物なし	
04-3-10	0321	(黒面) 外灯設置工事	立会調査	3.4m ²	遺構・遺物なし	
04-3-10	0322	(黒面) 合成研究棟外灯設置工事	立会調査	4m ²	遺構・遺物なし	
04-3-10	0313	(黒北) 教室新築工事	立会調査	10m ²	遺構・遺物なし	
04-3-10	0323	(黒北) 教室新築工事(空調機取扱)	立会調査	44m ²	遺構・遺物なし	
04-3-11	0324	(本荘北) 外灯設置工事	立会調査	4m ²	遺構・遺物なし	
04-3-11	0325	(本荘南) 外灯設置工事	立会調査	112m ²	遺構・遺物なし	
04-3-15	0326	(黒北) 外灯設置工事	立会調査	334m ²	陶文土器片	
04-3-16	0327	(東) 外灯設置工事	立会調査	118m ²	遺構・遺物なし	
04-3-17	0328	(黒北) 教室新築工事(柱杭)	立会調査	892m ² 古代	土師器・埴輪柱脚	
04-3-22	0329	(宮町) 教育部附属小中学校街路灯設備工事	立会調査	7m ²	遺構・遺物なし	
04-3-19	0329	(黒北) 消火栓点検修理	立会調査	108m ²	遺構・遺物なし	

2004年度

04-4-7	0401	黒聖地北地区診療新築工事(洗浄下段)	立会調査	335m ²	遺構・遺物なし	年報11
04-4-9		奉行所跡北地区の古跡改修工事(総) 診察工事	試掘調査	1044m ² 古代	遺・土器等	年報11
04-4-13~8・31	0402	本荘北地区地区衛生医学研究センター建設工事	発掘調査	1241.6m ² 古代	土師器・埴輪器・鐵文土器	年報11
04-5-26		黒聖地北地区別府日本大学大学社会文化科学研究所研究室新築工事	試掘調査	7.79m ² 古代	ピット・土師器	年報11
04-5-14	0403	本荘北地区中央改修施設(総) 診察工事	立会調査	150m ² 古代	土師器	年報11
04-10-14						
04-5-21	0404	薬学部地区植物相査支柱はか設置工事	立会調査	33m ²	遺構・遺物なし	年報11
04-6-25~28	0405	薬学部地区官本庁新施設改修施設及びその他の工事	立会調査	68.48m ²	遺構・遺物なし	年報11
04-5-24~26	0406	本荘北地区(医務) 建設工事(即建物解体・樹木 撤去・電気配線・筋材代替・ガス管配管・財木移築)	立会調査	1332.6m ²	遺構・遺物なし	年報11
6-4 10-26~28 11-12-29						
04-7-26	0408	宇宙毛毛地小砾含合排水管配管改修工事	立会調査	262m ²	遺構・遺物なし	年報11
04-7-29	0409	黒聖地北地区記念碑設置工事	立会調査	72m ²	遺構・遺物なし	年報11
04-8-6						
04-8-20						
04-8-23		黒聖地北地区理学部駐輪場設置工事	試掘調査	31m ² 古代	柱穴・埴輪器・土師器	年報11
04-8-9 8-10~11 11-5-11	0410	黒聖地北地区別府日本大学大学社会文化科学研究所新築工事	立会調査	370m ²	遺構・遺物なし	年報11
04-8-17~19 9-3 9-14~22 05-1~27~	0411	本荘北地区(医務) 易転・坪塚整備(ポンプ室・R-I 実験棟取除・ガス切替・水道プラグ止・周辺設備開通) 工事	立会調査	420m ²	土師器・埴輪器・鐵文土器・堅穴・柱穴・土師器・遺・ピット	本報告書 住居址・遺・ピット
04-9-16	0412	本荘北地区附属病院廻廊ガス配管修理工事	立会調査	5.7m ²	遺構・遺物なし	年報11
04-9-16	0413	京町地区附属中学校白井川河床による削削工事	立会調査	8m ²	遺構・遺物なし	年報11
04-9-16	0414	黒聖地北地区工学部白井川河床による削削工事	立会調査	4m ²	遺構・遺物なし	年報11
04-9-21	0415	薬学部地区官本庁新施設改修施設及びその他の工事	立会調査	10m ²	遺構・遺物なし	年報11
04-9-21	0416-1	本荘北地区(医務) 建設工事による削削工事	立会調査	8m ²	遺構・遺物なし	年報11
04-9-21	0416-2	本荘北地区(医務) 白井川河床による削削工事	立会調査	15m ²	遺構・遺物なし	年報11
04-10-12	0417	黒聖地北地区重寶文化室内蔵新設工事	立会調査	0.6m ²	遺構・遺物なし	年報11
04-10-19	0418	黒聖地北地区(医務) 建設工事(即建物解体・新築工事)	立会調査	0.6m ²	遺構・遺物なし	年報11
04-10-22	0419	本荘北地区(医務) 易転・坪塚整備	立会調査	22.05m ²	遺構・遺物なし	年報11
04-11-1~28	0411	本荘北地区(医務) 易転・環境整備	発掘調査	55m ² 鐘文・古墳 ・古代	陶文・古墳 ・古代 ・土師器・埴輪器・鐵文土器・鍾 ・馬頭・勾玉・石器	本報告書 住居址・鍾・馬頭
04-11-26	0420	薬学部地区テニスコート整備工事	立会調査	605m ²	遺構・遺物なし	年報11
04-11-29	0421	黒聖地北地区さく井設置工事	立会調査	43m ²	遺構・遺物なし	年報11
04-12-6	0422	本荘北地区附属中央診療棟(総) 工事	立会調査	66.30m ²	遺構・遺物なし	年報11
04-12-15	0423	黒聖地北地区新設トイレ開通工事	試掘調査	18m ² 古代	住居址・柱穴・埴輪器・土師器	年報11
04-12-24	0423	黒聖地北地区記念碑(木造) 取扱工事	立会調査	254m ²	遺構・遺物なし	年報11
05-1-11	0424	本荘北地区(医務) さく井設置工事	立会調査	145m ²	遺構・遺物なし	年報11
05-2-1~2、7~9	0425	黒聖地北地区情報ネットワーク施設新設工事(配管工事)	立会調査	169.08m ² 古代	土師器・埴輪器	本報告書
05-2-21~2-30 5-9~6-10	0425	黒聖地北地区情報ネットワーク施設新設工事	発掘調査	1,170.4m ² 古代	土師器・埴輪器	本報告書
05-2-4~9	0426	本荘北地区防火木桶取扱工事	試掘・発掘 調査	84m ² 正・供	遺・上師器・埴輪器・馬骨・網韁	本報告書
05-2-4	0427	黒聖地北地区資料館前水道管埋設修理工事	立会調査	15m ²	遺構・遺物なし	年報11

3. これまでの調査と本書収録の遺跡

05-2-21~22	0128	黒姫山地南地区新木移築工事	立会調査	19m	遺構・遺物なし	年報11
05-2-21	0129	季楽部屋区雨水配管工事	立会調査	425m	遺構・遺物なし	年報11
05-2-28~114-1	0130	本荘市北地区南北排水渠設置工事	立会調査	1846m		
05-3-1	0131	黒姫山地北地区新木移築工事	立会調査	12m	遺構・遺物なし	
05-3-1	0132	教育学部附属小学校卒業記念碑等工事	立会調査	0945m	遺構・遺物なし	
05-3-1	0133	教育学部附属幼稚園新木移築工事	立会調査	081m	遺構・遺物なし	
05-3-2	0134	黒姫山地北地区新木移築工事(仮称)	立会調査	1925m	遺構・遺物なし	
05-3-9	0135	黒姫山地北地区さく井設置工事(追加)	立会調査	56m	遺構なし・土師器	
05-3-10~15,16,18	0136	黒姫山地北地区新木移築工事	立会調査	6244m	遺構なし	
05-3-14~16	0137	大江園地区新木移築工事	立会調査	81m	遺構・遺物なし	
05-3-22	0138	教育学部附属幼稚園新木移築工事	立会調査	414m	遺構・遺物なし	
05-3-23	0139	黒姫山地北地区新木移築工事	立会調査	6m	遺構・遺物なし	
05-3-24	0140	教育学部附属中学校洗濯機置き場新設工事	立会調査	4m	遺構・遺物なし	
05-3-24	0141	教育学部附属小学校遊具設置工事	立会調査	2m	遺構・遺物なし	
05-3-24	0142	「本荘」寄附病院新木移築工事	立会調査	9.18m	遺構・遺物なし	
05-3-24	0143	「本荘」中央診療所新木移築工事	立会調査	0.8m	遺構・遺物なし	
05-3-25	0144	黒姫東地区教育学部附属義務教育学校新木移築工事	立会調査	174m	遺構・遺物なし	
05-3-28	0145	黒姫東地区新木移築工事	立会調査	3.30m	遺構・遺物なし	
2005年度						
05-4-19~20	0201	本荘市地南地区区町里新木移築工事(追加)	立会調査	28m	古代	土師器・黒芯器
05-4-27	0502	学校附属病院排水管埋設管ラップ排水管接続	立会調査	4m	遺構・遺物なし	
05-2-4~6-10	0125	(黒姫) 清掃ネットワーカー接合作業工事	発掘調査	1065.2m	縄文・古代	竪穴式住居・假柱立柱・磯文土器 器・土師器・須恵器・黒色土器
05-5-30~ 6-4-14	0503	(本荘) 発生医学研究センター施設整備事業(外構)	立会調査	2337.2m		遺構・遺物なし
05-6-7~10	0504	小城宿荷役設置工場埋設工事	立会調査	7m	遺構・遺物なし	年報12
05-6-9,10,12	0505	(医病) 基礎・環境整備(段落・先主・主室)	立会調査	55.96m	遺構・遺物なし	年報12
05-6-20	0506	(大江) 季楽部屋ニコートウェンズ取扱工事	立会調査	228m	遺構・遺物なし	年報12
05-6-21	0507	(本荘) 袋地施設ロック改修工事	立会調査	10.5m	遺構・遺物なし	年報12
05-7-8	0508	(黒姫) 清掃ネットワーカー接合設置工事	立会調査	49.0m	古代	土師器・黒芯器
05-7-13,14 7-19~9-30	0509	(医病) 基礎・環境整備(先主・移築)	発掘調査	1147m	縄文・後世 古墳・古代	住居址・土師器・土器類 須恵器
05-7-19	0511	本荘市北地区雨水配管接続	立会調査	76m	古代	混合層・土師器・黒芯器
05-8-1	0512	教育学部附属幼稚園別持貯蔵設置	立会調査	0.96m	遺構・遺物なし	年報12
05-8-2~3	0513①	(黒姫) 基礎・環境整備(段落・先主)	立会調査	9.7m	古代	土師器・黒芯器
05-8-2~25	0513②	(黒姫) 工学部地盤改良改修設置等事業-1	立会調査	198.75m	土師器・黒芯器	
05-8-5	0514	学校附属病院ニコースト内蔵水設備工事	立会調査	19.94m	遺構・遺物なし	
05-8-5~10	0513③	(黒姫) 工学部地盤改良改修設置等事業-1	立会調査	17.8m	遺構・遺物なし	年報12
05-8-8~18	0513④	(黒姫) 工学部地盤改良改修設置等事業-2	発掘調査	80.88m	古代	住居址・土師器・須恵器
05-8-18	0515	本荘市北地区駐車場環境整備工事(その2)・追加	立会調査	235.98m	古代	住居址・土師器・黒芯器
05-8-18~23	0515①⑥	(黒姫) 工学部地盤改良改修設置等事業-2	立会調査	14.7m	遺構・遺物なし	年報12
05-8-19~29	0515②⑦	(黒姫) 地下排水管接合設置等事業-4	立会調査	250m	遺構・遺物なし	年報12
05-8-21	0516	本荘市北地区地下排水設置工事	立会調査	11.4m	遺構・遺物なし	年報12
05-8-23~29	0513⑧⑨	(黒姫) 工学部地盤改良改修設置等事業-2	立会調査	17.2m	遺構・遺物なし	年報12
05-8-25	0513⑩⑪	(黒姫) 工学部地盤改良改修設置等事業-1	立会調査	14.7m	遺構・遺物なし	年報12
05-8-25	0513⑫⑬	(黒姫) 工学部地盤改良改修設置等事業-1	立会調査	86.1m	遺構・遺物なし	年報12
05-8-25	0513⑭⑮	(黒姫) 工学部地盤改良改修設置等事業-1	立会調査	65.1m	遺構・遺物なし	年報12
05-8-25	0513⑯⑯	(黒姫) 工学部地盤改良改修設置等事業-1	立会調査	120.25m	遺構・遺物なし	年報12
05-8-29~30	0513⑰⑱	(黒姫) 工学部地盤改良改修設置等事業-2	立会調査	24.6m	遺構・遺物なし	年報12
05-8-30~9-1	0513⑲⑲	(黒姫) 工学部地盤改良改修設置等事業-2	立会調査	20.4m	遺構・遺物なし	年報12
05-9-1~13	0513⑳⑳	(黒姫) 工学部地盤改良改修設置等事業-1	発掘調査	67m	縄文・古代	混合層・土師器・土器類 須恵器
05-9-12,20	0517	(医病) 基礎・環境整備(先主・現地)	立会調査	133m	遺構・遺物なし	年報12
05-9-15	0513③③	(黒姫) 工学部地盤改良改修設置等事業-1	立会調査	48.75m	遺構・遺物なし	年報12
05-9-12~27	0513④④	(黒姫) 工学部地盤改良改修設置等事業-2	立会調査	43.9m	遺構・遺物なし	年報12
05-9-13	0518	雨漏糞便都市ガス設備改修工事	立会調査	29m	遺構・遺物なし	年報12
05-9-14	0519	(黒姫) 学務部教科収納工事	立会調査	137.76m	遺構・遺物なし	年報12
05-9-15	0513⑤⑤	(黒姫) 工学部地盤改良改修設置等事業-5	立会調査	0.79m	混合層・ビット	年報12
05-9-15	0513⑥⑥	(黒姫) 工学部地盤改良改修設置等事業-1	立会調査	40.5m	遺構・遺物なし	年報12
05-9-15	0520	本荘市北地区人道救援施設ヨーロープ取扱工事	立会調査	17.18m	遺構・遺物なし	年報12
05-9-15	0521	本荘市北地区(北地区)瓦職家本引廻し	立会調査	2.35m	遺構・遺物なし	年報12
05-9-16~10-2	0513⑦⑦	(黒姫) 工学部地盤改良改修設置等事業-2	立会調査	97.342m	古代	土師器・黒芯器
05-9-16	0522	医学部附属病院管理棟外給水パイプ取扱工事	立会調査	2.25m	遺構・遺物なし	年報12
05-9-27	0523	(医病) 中央治療棟(仕上)	立会調査	57.6m	遺構・遺物なし	年報12
05-10-11~11-7	0513⑧⑧	(黒姫) 工学部地盤改良改修設置等事業-2, 3	立会調査	150m	古代	住居址・土器類・須恵器
05-10-11	0524	本荘市北地区(北地区)駐車ゲート整備工事	立会調査	361.23m	遺構・遺物なし	年報12
05-10-12,14 17,18	0525	(黒姫) 清掃ネットワーカー設備工事	立会調査	72.6m	古代	穴井・土師器・須恵器
05-10-14	0526	理文調査室内改修費設置工事	立会調査	2.0m	遺構・遺物なし	年報12
05-10-19,20	0527	(黒姫北) 文化学部本館スロープ整備工事	立会調査	44m	遺構・遺物なし	年報12

05-10-21	0528	工学部ものづくり実習室改修工事	立会調査	810m ²	遺構・遺物なし	年報12
05-10-25	0529	(医療) 外来臨床研究棟去来間環境整備工事	立会調査	3812m ²	遺構・遺物なし	年報12
05-10-26	0530	薬学部講義室(薬庫改修)補修工事	立会調査	55m ²	遺構・遺物なし	年報12
05-11-4	0531	宿泊情報処理センター星外宿泊施設改修工事	立会調査	9m ²	遺構・遺物なし	年報12
05-11-7	0532	教育学部附属研究棟水引き込み雨水補修	立会調査	35m ²	遺構・遺物なし	年報12
05-11-7	0533	(黒麗) ポライマー安給水管補修工事	立会調査	11m ²	遺構・遺物なし	年報12
05-11-1621	0534	黒麗南地区園路改修工事	立会調査	1243m ²	遺構・遺物なし	年報12
05-11-29 12-15	05413.09	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-2	立会調査	48m ² 古代 柱穴	柱基址・柱穴	年報12
05-11-29 12-15	05413.09	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-2	発掘調査	24m ² 古代 柱基址	柱基址・溝・ピット・土師器・埴 芯器	年報12
05-12-4	05413.09	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-2	立会調査	11m ² 古代 土師器	土師器	年報12
05-12-7	05413.09	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-2	立会調査	47m ² 古代 ピット・土師器・埴芯器	ピット・土師器・埴芯器	年報12
05-12-9	05413.09	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-2	立会調査	25m ² 古代 包丁屑・土師器・埴芯器	包丁屑・土師器・埴芯器	年報12
05-12-12	05413.09	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-2, 5	立会調査	m ²	遺構・遺物なし	年報12
05-12-12	0545	教育学部新講義室場所移設	立会調査	4557m ²	柱穴	年報12
05-12-13	05413.21	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-1	立会調査	0.5m ²	遺構・遺物なし	年報12
05-12-13	05413.22	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-2	立会調査	3m ²	遺構・遺物なし	年報12
05-12-13	05413.23	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-1	立会調査	87.5m ²	遺構・遺物なし	年報12
05-12-13	05413.24	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-2	立会調査	18m ²	遺構・遺物なし	年報12
05-12-14	05413.25	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-2	立会調査	86.6m ²	遺構・遺物なし	年報12
05-12-14	0536	医学部弓道場設営工事	立会調査	82.73m ²	遺構・遺物なし	年報12
05-12-15	05413.09	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-1, 2	立会調査	286.5m ²	遺構・遺物なし	年報12
05-12-16	0537	理学部ハラマニシ新講義室	立会調査	167m ²	遺構・遺物なし	年報12
05-12-1921.26	0538	(黒麗) 情報ネットワーク類設備工事(追加)	立会調査	70235m ² 古代 土師器・埴芯器	土師器・埴芯器	年報12
05-16-11 2.27-3.2						
05-12-22	0539	本荘操地(中地区) ④工賃屋設営	立会調査	48.51m ²	遺構・遺物なし	年報12
05-12-26	051309.9	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-2	立会調査	10m ²	遺構・遺物なし	年報12
06-1-4-19	051310.9	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-2	発掘調査	89m ² 古代 柱基址・土師器・埴芯器	柱基址・土師器・埴芯器	年報12
06-1-5	051310.9	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-2	立会調査	70m ²	遺構・遺物なし	年報12
06-1-10.25	0540	本荘操地(中地区) 残瓦等収容工事	立会調査	61.8m ²	遺構・遺物なし	年報12
06-1-17	051312.0	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-7	立会調査	1m ²	遺構・遺物なし	年報12
06-1-19	051312.0	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-7	立会調査	208m ²	遺構・遺物なし	年報12
06-1-26 2.20.27	0541	(黒麗南) 理学部駐輪場整備工事(追加・再追加含む)	立会調査	1,110.6m ² 古代 土師器・埴芯器	土師器・埴芯器	年報12
06-1-23	051312.7	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-7	立会調査	45.4m ²	遺構・遺物なし	年報12
06-1-24	051312.8	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-2	立会調査	12m ²	遺構・遺物なし	年報12
06-1-26	051312.9	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-7	立会調査	40m ²	遺構・遺物なし	年報12
06-1-27	0542	(民病) 基幹・環境整備(曳き手・移動軌跡)	立会調査	146m ²	遺構・遺物なし	年報12
06-1-30	051313.0	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-3	立会調査	656.6m ²	遺構・遺物なし	年報12
06-2-13	0543	附属病院直原町厚生施設設営整備	立会調査	338.9m ²	遺構・遺物なし	年報12
06-2-16.13-13	0544	(民病) 基幹・環境整備(設営・曳き手・家作)	立会調査	39m ²	遺構・遺物なし	年報12
06-2-17	0545	教育学部附属幼稚園ブランコ用ゴムマット取扱工事	立会調査	12m ²	遺構・遺物なし	年報12
06-2-21.3.7 3-8.3.16.17	0546	(黒麗) 情報ネットワーク類設備工事(追加)	立会調査	1837m ² 古代 柱基址・土師器・埴芯器	柱基址・土師器・埴芯器	年報12
06-3-10	0547	(黒麗) 北地区学生会生懸西箭バイク置場設営工事	立会調査	48m ²	遺構・遺物なし	年報12
06-3-13	0548	本荘巡回(中地区) 洗面台下設置	立会調査	5.5m ²	遺構・遺物なし	年報12
06-3-24	0549	(民病) 外来受託座席セッター星外汚水配管工事	立会調査	192m ²	遺構・遺物なし	年報12
06-3-30	0550	木本補修工事	立会調査	0.91m ²	遺構・遺物なし	年報12
2006年度						
06-4-11	0601	教育学部附属中学校テニスコート移設	立会調査	594m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-4-11	0602	(黒麗北) 接地工事	立会調査	6m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-4-11	0603	(黒麗北) 資料館改修工事	発掘調査	321m ² 古代 土師器・埴芯器	本報告Ⅹ	
06-4-11- 4-12	0604	(黒麗北) 資料館改修工事(屋外持水)	発掘調査	25.12m ² 古代 土師器・埴芯器	柱基址・?・溝状遺構・ピット 土師器・埴芯器	本報告Ⅹ
06-4-12	0605	工学部研究実験用車庫双段工事	立会調査	4905m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-4-13	0606	筑波大学案内板設置工事	立会調査	15m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-4-18.19	0607	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-9	立会調査	5.2m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-4-21	0608	(黒麗北) 前庭歩道整備修理工事	立会調査	1.3m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-4-24	0609	理学部臨床施設(さくれい施設)	立会調査	17m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-5-2	0610	教育学部附属小学校進み新設	立会調査	0.98m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-5-11	0611.0	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-1	立会調査	32m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-5-22.25	0611.2	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-2	立会調査	129m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-5-22	0612.1	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-2	発掘調査	11m ² 古代 柱穴・土師器	柱穴・土師器	年報13
06-5-22~24	0612.2	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-6	発掘調査	21m ² 古代 柱穴・土師器・埴芯器	柱穴・土師器・埴芯器	年報13
06-6-12	0614	(黒麗) 道幅調査センターサーバ配管修繕	立会調査	0.57m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-6-19	0613	附属病院中東洋病院新設気管食事工事	立会調査	72.4m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-6-22.28 7-3	0615	附属病院中東洋病院新設気管食事工事(衛生)	立会調査	153m ² 古代 土師器・埴芯器	土師器・埴芯器	年報13
06-6-22.7-7	0612.3	(黒麗南) 工学部地盤改修施設整備等事業-1	立会調査	21.99m ² 古代 土師器・埴芯器	土師器・埴芯器	年報13

3. これまでの調査と本書収録の道筋

06-8-7	0616	教育学部附属中学校給食營繕修理工事	立会調査	1.7m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-8-11	0617	(黒聖) ブール羽屋家等環境配慮改修(アスベスト処理)工事	立会調査	0.59m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-8-11	0618	医学部附属病院駐車場側面修理	立会調査	8.75m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-8-21	0619	教育学部附属中学校校舎人工芝張替その他工事	立会調査	420.51m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-8-24-25	06113	(黒聖南) 工学部施設改修施設整備等事業-3	立会調査	20.7m ²	年報13	
06-8-31-9-1	06113	(黒聖南) 工学部施設改修施設整備等事業-2	立会調査	64.1m ² 古代 土器群	年報13	
06-9-7	0620	教育学部附属小学校ブーム系統給水設備修理工事	立会調査	2.8m ²	年報13	
06-9-11	06115	(黒聖南) 工学部施設改修施設整備等事業-10	立会調査	39.64m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-9-12	06116	(黒聖南) 工学部施設改修施設整備等事業-10	立会調査	14.0m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-9-14-15	06117	(黒聖南) 工学部施設改修施設整備等事業-10	立会調査	32.96m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-9-20-21	06118	(黒聖南) 工学部施設改修施設整備等事業-10	立会調査	38.1m ²	年報13	
06-10-2	06119	(黒聖南) 工学部施設改修施設整備等事業-2	立会調査	10.5m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-10-2	0621	(黒聖) ブール羽屋家等環境配慮改修(アスベスト処理)工事その2	立会調査	4.4m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-10-216 27.30 11-13	0622	(医病) 環境整備(西郷駅事務所)工事	発掘調査	8.6775m ² (50.66m ²) 古代 土器群、遺物群、礎石土器	年報13	
06-10-10.12	0623	黒聖地区外灯取扱工事	立会調査	26.79m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-10-13	0624	滑床南施設設備修理アスレチックマーティードレン管漏れ修理	立会調査	2.16m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-10-16	0625	(医病) 基盤・基礎地盤改良(西郷)工事	立会調査	29.4m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-10-19	0626	(医病) 基盤整備(西郷1号アスレチックマーティードレン)	立会調査	106.7m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-10-25	0627	(大江地区) 水道設備工事	立会調査	924m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-11-2	0628	医学部附属既存施設修理桜井外灯引掛け工事	立会調査	2.8m ²	年報13	
06-11-17.27 12-4	0629	(本庄) 医学部保健学科校舎改修電気設備工事	立会調査	239.4m ² 古代 土器群	年報13	
06-11-20	0630	黒聖南地区水道施設門司排水機	立会調査	15m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-11-30	0631	渡瀬地区防火用水槽撤去工事	立会調査	56.93m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-12-1	0632	事務局正門門柱替え	立会調査	3.36m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-12-15.18~ 25.27.28	06123	(黒聖南) 工学部施設改修施設整備等事業-6	発掘調査	162.7m ² 古代 土器群、遺物群	年報13	
07-1-4~9						
06-12-19	0633	本荘北地区南側駅歩道橋環境整備工事	立会調査	294.379m ²	遺構・遺物なし	年報13
06-12-25	0634	(本荘) 医学部保健学科校舎改修機械設備工事	立会調査	113.39m ²	遺構・遺物なし	年報13
07-4-2						
07-1-10.11.19	0635	雨宮養護学校ガス漏れ緊急立会	立会調査	13.45m ²	遺構・遺物なし	年報13
07-1-18.22.23	0636	理学部4号昇降施設改修工事	発掘調査	30.35m ² 古代 土器群、遺物群、礎	年報13	
07-1-30	0637	(本荘) 医学部保健学科校舎改修工事	立会調査	341.2m ²	遺構・遺物なし	年報13
07-2-1	0638	(字墨毛) ゴミ置き場取扱工事	立会調査	25m ²	遺構・遺物なし	年報13
07-2-20	0639	(本荘) 医学部保健学科校舎改修工事	立会調査	435m ²	遺構・遺物なし	年報13
07-2-26	0640	黒聖地区地盤改良施工実施費	立会調査	132m ²	遺構・遺物なし	年報13
07-3-1	0641	(本荘) 医学部部門別取扱工事	立会調査	52.42m ²	遺構・遺物なし	年報13
07-3-6	0642	宇摩田地区災害復旧工事	立会調査	134.82m ²	遺構・遺物なし	年報13
07-3-8	0643	(黒聖南) 球場埋立取り壇し工事	立会調査	101.7m ² 古代 土器群	年報13	
07-3-8	0644	(字堤西) 施設改修工事	立会調査	55.28m ²	遺構・遺物なし	年報13
07-3-12	0645	本荘北地区ニシコスコト理販給水設備工事	立会調査	763m ²	遺構・遺物なし	年報13
07-3-20	0646	(医病) 環境整備(救援棧橋改修)機械設備工事	立会調査	5.77m ²	遺構・遺物なし	年報13
07-3-22	0647	(救) 被災者搬運用機械改修工事	立会調査	25.7m ²	遺構・遺物なし	年報13
07-3-26	0648	(医病) 環境整備(崎峰記念館外部改修)工事	立会調査	115m ²	遺構・遺物なし	年報13
2007(年度)						
07-4-10	0701	(医病) 同気流学校東門改修工事 (本荘) 医学部講義棧橋改修工事	立会調査	2m ² 古代 土穴・土器	遺構・遺物なし	年報14
07-4-12	0702	教育学部附属施設改修施設小屋取扱工事	立会調査	18.21m ²	遺構・遺物なし	年報14
07-4-13	0703	教育学部附属施設改修施設小屋取扱工事	立会調査	61m ²	遺構・遺物なし	年報14
07-4-16.20	07033	(黒聖南) 工学部施設改修施設整備等事業-6	立会調査	446m ² 古代 土器群、遺物群	年報14	
07-5-7.8	0704	(黒聖南) 新設工事に伴う木根移植工事	立会調査	7m ²	遺構・遺物なし	年報14
07-6-7	0705	医病施設新設に伴う土建改修工事(電気設備)	立会調査	469.2m ²	遺構・遺物なし	年報14
07-6-13	0706	(黒聖北) 工学部施設改修施設整備等事業-13	立会調査	43.5m ²	遺構・遺物なし	年報14
07-6-19.22.27	07032	(黒聖南) 工学部施設改修施設整備等事業-13	立会調査	17.4m ²	遺構・遺物なし	年報14
07-6-20	0706	本荘北地区深堀字野田門立堀	立会調査	31.4m ²	遺構・遺物なし	年報14
07-6-20	0707	黒聖地区地盤改良研究棧橋改修工事	立会調査	1580m ²	障害物撤去、一次掘削	年報14
07-6-25.29	07033	(黒聖南) 工学部施設改修施設整備等事業-13	立会調査	8.34m ²	遺構・遺物なし	年報14
07-7-30.18.19	0707	(本荘) 医学部講義棧橋改修工事	立会調査	1.5m ²	遺構・遺物なし	年報14
07-6-28	0708	(黒聖北) 大森センター南側雨水管竹より修理	立会調査	15m ²	遺構・遺物なし	年報14
07-6-29	0709	(本荘北) 我流汎引管取扱工事	立会調査	43.5m ²	遺構・遺物なし	年報14
07-7-3	07033	(黒聖南) 工学部施設改修施設整備等事業-6.14	立会調査	36m ²	遺構・遺物なし	年報14
07-7-4	0710	教育学部附属小中学校改修設立取扱工事(変更)	立会調査	40m ²	遺構・遺物なし	年報14
07-7-9.10	07033	(黒聖南) 工学部施設改修施設整備等事業-6	立会調査	58.75m ²	遺構・遺物なし	年報14
07-7-17	0711	(医病) 基盤・環境整備(胆石症治療棟新設に伴う瓦束設置)工事	立会調査	8.34m ²	遺構・遺物なし	年報14
07-7-17.	07034-1	(黒聖南) 工学部施設改修施設整備等事業-13	立会調査	1576.6m ²	遺構・遺物なし	年報14
07-7-19	07034-2	(黒聖南) 工学部施設改修施設整備等事業-13	立会調査	300.98m ²	遺構・遺物なし	年報14

I 構内道路と調査の概要

07・7・30~9・3	0707	(本荘) 医学部寄宿舎棟新設工事	発掘調査	1390m ²	縄文・古代 穴穴住居跡、水槽遺構、ピット、土器 等、須恵器、陶器	本報告書
07・8・7	0712	(医病) 東病棟新設工事	立会調査	24m ²	一次削削	本報告書
07・8・10	0713	東学部屋外給水管路水修理工事	立会調査	1m ²	遺構、遺物なし	年報14
07・8・22	0714	(黒髪南) 理学部12号館示教取扱設置工事	立会調査	157m ²	遺構、遺物なし	年報14
07・8・23	0715	(黒髪北) 工務部他校舎改修施設整備等事業-19	立会調査	208m ²	遺構、遺物なし	年報14
07・8・27~ 10・25	0712	(医病) 東病棟新設工事	発掘調査	58929m ²	縄文・古代 穴穴上部、土師器、須恵器、石 器、古代、近世、古物、古代瓦器、瓦製容器、馬骨、 史前	本報告書
07・9・3	0716	本荘南地区駐車場出入口整備	立会調査	298m ²	遺構、遺物なし	年報14
07・9・14 10・3	0717	(医病) 環境整備(旧中央治療棟取り壇に伴う移転、立会調査)	立会調査	494m ²	遺構、遺物なし	年報14
07・9・25~27	0703②	(黒髪南) 工務部他校舎改修施設整備等事業-616	発掘調査	275m ²	古代 住居址、ピット、土師器、須恵器	年報14
10・2			発掘調査	26432m ²	古代 瓦、土器器	年報14
07・9・27 10・12	0718	(大江) 草学部本館起修改修工事	立会調査	30868m ²	弥生・古代 ピット、須生土器 土器器	本報告書
07・10・4~15 16,22,25 10・13	0719	(京町) 教育学部附属小中学校校舎等改修工事	立会調査	25m ²	弥生・古代、古物、土器器	本報告書
07・10・19	0720	事務局南面等屋外給水管路修理工事	立会調査	25m ²	遺構、遺物なし	年報14
07・10・26~ 11・28	0719	(京町) 教育学部附属小中学校校舎等改修工事	発掘調査	2303m ²	弥生・古代、弥生文化層、ピット、漢、先生土 器、土師器、須恵器、打製石器	本報告書
07・12・3~ 12・16	0721	(京町) 市立小中学校等機械設備改修	立会調査	1,38905m ²	弥生・古代、穴穴住居、ピット、先生土器、土 器、瓦器、瓦、須恵器、近世、近代陶器器 類	本報告書
08・1・18			立会調査	95m ²	遺構、遺物なし	年報14
07・12・5	0722	(黒髪) 工務部8号館内部改修その他の工事	立会調査	141m ²	遺構、遺物なし	年報14
07・12・5,11	0723	(黒髪) 工務部8号館内部改修瓦気設備工事	立会調査	1,000m ²	古代 上戸、ピット、土師器	年報14
07・12・7,10,12	0724	(本庄) 医学部基礎研究棟(C棟取り壇し)工事	立会調査	90m ²	遺構、遺物なし	年報14
07・12・7	0725	(京町) 教育学部附属小・中学校校舎等改修瓦気設備工事	立会調査	14825m ²	古代? ピット	年報14
07・12・10,17,18 08・1・16,17	0703③-1	(黒髪南) 工務部他校舎改修施設整備等事業-618	立会調査	11265m ²	弥生・古物、穴穴住居、ピット、近代土坑、先 代、近世、瓦、器、土師器、須恵器、瓦器、 瓦器	本報告書
07・12・14~ 12・27	0721	(京町) 市立小中学校校舎等機械設備改修	発掘調査	1m ²	遺構、遺物なし	年報14
07・12・19	0726	医学部系研究棟北側砌石壁	立会調査	945m ²	遺構、遺物なし	年報14
08・1・16,17	0703④	(黒髪南) 工務部他校舎改修施設整備等事業-20	立会調査	12m ²	遺構、遺物なし	年報14
08・1・22	0727	(黒髪) 工務部8号館耐震改修機械設備工事	立会調査	2m ²	遺構、遺物なし	年報14
08・1・22	0728	(黒髪) 工務部8号館耐震改修機械設備工事	立会調査	89m ²	遺構、遺物なし	年報14
08・1・23	0703④-2	(黒髪) 工務部他校舎改修施設整備等事業-418	立会調査	204m ²	遺構、遺物なし	年報14
08・1・25	0703④-3	(黒髪南) 工務部他校舎改修施設整備等事業-418	立会調査	967m ²	古代 土師器	年報14
08・1・29,30	0703④-4	(黒髪南) 工務部他校舎改修施設整備等事業-418	立会調査	530m ²	古代 土師器	年報14
08・2・14	0729	(黒髪南) ポイラー等取り去工事	立会調査	388m ²	遺構、遺物なし	年報14
08・2・20	0730	(黒髪南) 教育学部附属小中学校校舎大雨水槽撤去工事	立会調査	4m ²	遺構、遺物なし	年報14
08・2・27	0731	(黒髪南) 地盤処理並びにセンター改修	立会調査	1125m ²	遺構、遺物なし	年報14
08・2・29	0732	(本荘) 特別研究室用電気機器整備工事	立会調査	12m ²	土師器	年報14
08・3・11,26	0733	(医病) 旧中央治療棟取り壇し工事	立会調査	84m ²	遺構、遺物なし	年報14
08・3・17	0734	(黒髪北) 排水路開口部瓦レス設置工事	立会調査	503m ²	遺構、遺物なし	年報14
08・3・21	0735	医学部附属学科ダイヤー用地下重油タンク撤去工事	立会調査	9m ²	遺構、遺物なし	年報14
08・3・25	0736	(大江) 医学部附属小中学校校舎瓦修理工事	立会調査	723m ²	遺構、遺物なし	年報14
08・3・27	0737	(黒髪南) ポイラー等取り去工事	立会調査	208m ²	遺構、遺物なし	年報14
08・3・31	0738	(本荘) 医学部保健学科行記念講習工事	立会調査	18m ²	遺構、遺物なし	年報14
2008年度			立会調査	10135m ²	遺構、遺物なし	年報14
08・4・2	0801	(医病) 旧中央治療棟上りこわし工事(追加)	立会調査	20m ²	遺構、遺物なし	年報15
08・5・7	0802	附属中学校校舎剥出工事	立会調査	2m ²	遺構、遺物なし	年報15
08・5・20	0803	薬学部草薙寮管理会館ガラス修改工事	立会調査	18m ²	遺構、遺物なし	年報15
08・5・26	0804	(本荘北) 駐車場取壇し工事	立会調査	111m ²	遺構、遺物なし	年報15
08・6・5	0805	(黒髪南) ポイラー等取り去工事	立会調査	2m ²	遺構、遺物なし	年報15
08・6・6~19,23,26 7・4,10,16,28 8・25 12・18	0806	(黒髪) 南地区福利施設支撑配管改修工事	発掘調査	306,46m ²	古代 土師器	年報15
08・6・20,23 7・1 7・28~30 12・4,18,19	0806	(黒髪) 南地区福利施設支撑配管改修工事	立会調査	125,2m ²	古代 土器、土師器、須恵器、石器	本報告書
08・6・9,10	0807	(本荘) 医学部寄宿舎棟新設改修改修工事	立会調査	297m ²	遺構、遺物なし	年報15
08・6・18	0808	(黒髪北) 有系統治済施設改修改修改修工事	立会調査	0,3m ²	遺構、遺物なし	年報15
08・6・23	0809	(黒髪北) 福利施設支撑配管改修工事(追加)	立会調査 / 発掘調査	235m ²	古代 遺構、住居址、土師器、石器	本報告書
08・7・13,14 7・15 7・16	0810	宇宙毛田地給水管修理工事	立会調査	2m ²	遺構、遺物なし	年報15

3. これまでの調査と本書収録の遺跡

08・7・11	0811	(黒斐南) 共用棟Ⅱ改修電気設備工事	立会調査	36nf	遺構・遺物なし	年報15
08・7・14	0812	(黒斐南) 排水機器工事	立会調査	41.1nf	遺構・遺物なし	年報15
08・7・15	0813	(本荘中) 医学部基礎館内床面低ガス配管漏れ修理	立会調査	2.42nf	遺構・遺物なし	年報15
08・8・18	0814	(医病) 東側新宮新工事	立会調査	8nf	井戸・生糸 発見	年報16
08・8・20~ 8・22	0814	(医病) 東側新宮新工事	免会調査	212m	生糸・近世 弥生時代器・近世 弥生時代器・石器・近世陶器類	本報告書
08・8・21	0815	(本荘南) こばと保育園支障施場等撤去工事	立会調査	1nf	遺構・遺物なし	年報15
08・8・21	0816	(本荘中) 医学部基礎館内外水道配管漏れ修理	立会調査	177nf	遺構・遺物なし	年報15
08・8・29	0817	半蔵毛庭地タンク替換修理工事	立会調査	0.96nf	遺構・遺物なし	年報15
08・9・1	0818	(黒斐北) ホンダ西側小菅渕水修理	立会調査	21nf	遺構・遺物なし	年報15
08・9・9~10	0820	(黒斐北) 文化学部本館改修南面瓦葺物置き工事	立会調査	89.2nf	遺構・遺物なし	年報15
08・9・9	0821	本荘道地(北地区)看護室谷筋改修瓦葺修理	立会調査	7.4nf	遺構・遺物なし	年報15
08・10・6	0822	本荘地区保護桟木桶野川岸壁修理	立会調査	30nf	遺構・遺物なし	年報15
08・10・10~ 11・28	0819	(波賀) 体育館改修改修その他の工事	一次掘削 免会調査	6915.6m ²	博文・吉崎 鐵文・土器・石器・古墳時代瓦・土・ 古代 鉄器・石器・人骨	本報告書
08・10・10	0823	教育学部附属骨盆脊柱支援学校深瀬温泉改修工事	立会調査	48nf	遺構・遺物なし	年報15
08・10・15	0824	(本荘南) 医学部基礎学科実験用取扱工事	立会調査	0.8nf	遺構・遺物なし	年報15
08・10・28	0825	(医病) 食方工事自担金	立会調査	120.5nf	遺構・遺物なし	年報15
08・10・29	0826	(黒斐南) 共用棟改修3階木造柱・移柱工事	立会調査	44.55nf	遺構・遺物なし	年報15
08・11・4	0827	五高校舎120周年記念植樹	立会調査	0.25nf	遺構・遺物なし	年報15
08・11・6	0828	(本荘) こばと保育園改修電気設備工事	立会調査	107nf	遺構・遺物なし	年報15
08・11・10	0829	(黒斐北) 文化学部プレハブ南面改修機械設備工事	立会調査	25nf	遺構・遺物なし	年報15
08・11・18~19 21.25	0830	(本荘) こばと保育園新宮営施設工事(要更2)	一次掘削 免会調査 立会調査	20m ² 113.3nf	遺構 古代土器群・植志器・石器	本報告書
08・11・1820 12・24	0831	(波賀) 体育館改修改修機械設備工事	免会調査	113.3nf	遺構・遺物なし	年報15
08・12・1	0832	文化学部講義室北側給水管漏水調査	立会調査	104nf	遺構・遺物なし	年報15
08・12・3	0833	(黒斐北) 教育学部本館東側汚水栓塗装工事	立会調査	14nf	遺構・遺物なし	年報15
08・12・10	0834	(本荘中) 費用削減新宮工事(変更)	立会調査	143.1nf	加藤石器	年報15
08・12・11.5 ~19	0835	(医病) 本館新規機械設備(南北)工事(変更)	一次掘削 免会調査	580m ²	ピット・住居址・土器群・植志器・ 鐵文・生糸土器・鐵文土器・石器・ 瓦器	本報告書
08・12・13~2.19	0836	(黒斐北) 教育学部本館・文化学部本館改修機械設備工事(要更1,その2)	一次掘削 免会調査	456.54m ²	土器・住居址・ピット・土器群・鐵 器・植志器・石器	本報告書
08・12・22 12・24.25 09・1・5~2・27 3・10	0837	(黒斐北) 教育学部本館・文化学部本館改修機械設備工事(要更1,その2)	立会調査	93nf	遺構・遺物なし	年報15
08・12・25	0838	(黒斐北) 教育学部本館改修南側耐震補強工事	立会調査	60nf	遺構・遺物なし	年報15
09・1・20	0839	(黒斐南) 備蓄食庫取扱工事	立会調査	43.5nf	遺構・遺物なし	年報15
09・1・22	0840	(黒斐南) 南地区区立図書室改修工事	立会調査	5nf	遺構・遺物なし	年報15
09・2・2	0841	(黒斐南) ものづくり実習室Ⅱ新設に伴う支障樹木伐採・移植工事	立会調査	8nf	遺構・遺物なし	年報15
09・2・4	0842	(本荘) 医学部書課典義塾増築機械設備工事	立会調査	2.2nf	遺構・遺物なし	年報15
09・2・5	0843	(黒斐北) ホリヤマ健歩橋改修工事	立会調査	5nf	遺構・遺物なし	年報15
09・2・12	0844	(黒斐北) 教育学部本館・文化学部本館改修電気設備工事(変更)	立会調査	96nf	遺構・遺物なし	年報15
09・2・12	0845	(黒斐南) 業務施設建工事	立会調査	1.6nf	遺構・遺物なし	年報15
09・2・13	0846	(城東町) 駐馬幼稚園北門改修工事	立会調査	1nf	遺構・遺物なし	年報15
09・2・13	0847.1	(黒斐北) 教育学部本館改修(変更)	立会調査	130.8nf	遺構・遺物なし	年報15
09・2・23~24 2・27 3・4~ 3・5 3・13	0848.1	(黒斐北) 文化学部本館改修(変更,要更その2)	立会調査	128.17nf	遺構・遺物なし	年報15
09・2・26~5	0849	黒斐北地(北地区)外灯増設その他工事	立会調査	3nf	遺構・遺物なし	年報15
09・2・16	0850	(波賀) 体育館改修機械設備工事(追加)	免会調査 (立会調査)	13.32nf	遺構・遺物なし	年報15
09・2・17	0851	(医病) 本館改修工事	立会調査	8nf	遺構・遺物なし	年報15
09・2・18	0852	(黒斐南) 排水ポンプ電源工事	立会調査	1nf	遺構・遺物なし	年報15
09・2・18	0853	(黒斐南) ものづくり実習室Ⅲ新設改修電気設備工事	立会調査	0.6nf	遺構・遺物なし	年報15
09・2・23	0854.3	(黒斐北) 教育学部本館改修(変更その2)	立会調査	244.6nf	遺構・遺物なし	年報15
09・2・24	0854	(黒斐北) 北地区区立図書室改修工事	立会調査	12nf	土器群・植志器	年報15
09・2・26~ 3・12	0854	(黒斐北) 北地区ホリヤマ室改修工事	免会調査	106nf	ピット・壁穴住居址・遺灰遺構・ 土器群・土器群・植志器・石器等	本報告書
09・2・26	0855	(黒斐南) 旧排水処理センター改修電気設備工事	立会調査	20.85nf	遺構・遺物なし	年報15
09・2・27	0856	(黒斐南) ものづくり実習室Ⅲ新設工事	立会調査	60.99nf	遺構・遺物なし	年報15
09・3・3	0857	(黒斐南) 旧排水処理センタースロープ取扱工事	立会調査	33.114nf (内112.2nf)	遺構・遺物なし	年報15
09・3・4~6.11	0858	(黒斐北) 教育学部本館改修家畜排糞工事	立会調査	117nf	遺構・遺物なし	年報15
09・3・6	0859	(黒斐南) 共用棟改修3階改修機械設備工事	立会調査	36nf (0.82nf)	遺構・遺物なし	年報15

09・3・6-13	0860	(黒発南) のづくり実習室Ⅱ新营機械設備工事	立会調査	115.54m ² (17.74m)	遺構・遺物なし	年報15
09・3・9-11.7	0861	(黒発北) 文部科学部本館改修東側新築工事	立会調査	33m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・3・9	0862	(黒発南) 共用棧橋Ⅲ階新設改修工事	立会調査	21m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・3・10-11	0863	(黒発南) ポイラー室改修改修機械設備工事	立会調査	98.5m ² (4.89m)	遺構・遺物なし	年報15
09・3・16-23	0864	(黒発北) 環境整備(排水等) 工事	立会調査	1199.90m ²	既存屋・ビット・土的跡	年報15
09・3・17	0865	(黒発南) 地区巡回ボンバー巡回外機工事	立会調査	385.76m ² (11.22m)	遺構・遺物なし	年報15
09・3・23	0866	(黒発北) 学生会館北側排水等工事	立会調査	18m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・3・27	0867	(黒発北) 北地区ボンサー室周辺工事	立会調査	37.21m ² (16.1m)	遺構・遺物なし	年報15
09・3・31	0868	(医病) カーボンアース取設工事	立会調査	2m ²	遺構・遺物なし	年報15
2009年度						
09・4・15-17	0901	(黒発南) 西門改修移転工事	立会調査	18m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・4・20-22	0902	(黒発南) 西門改修工事	立会調査	422m ²	内壁・研磨面に隠し黒褐色の住居 丸らしき構造部	年報16
21.27.30					それ以外は構造・遺物なし	
5・12.27.28						
09・4・23	0903	(本宮中) 中端地区内カーブミラー取設工事	立会調査	1.19m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・5・8	0904	(下平毛) 学生寄宿舎施場新設工事	立会調査	16m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・5・8	0905	(黒発北) 屋外雨水改修工事	立会調査	5.8m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・5・27	0906	(大宮) 基幹幹管フランジアンセーター新設その他の工事	立会調査	0.8m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・5・28	0907	(医病) 基幹幹管(電話交換設備更換)工事その1(電気)	立会調査	11.48m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・6・5	0908	(医病) 基幹幹管(電話交換設備更換)工事その2	立会調査	1.6m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・6・4	0909	(大宮) 教育学園附属機械設備工事	立会調査	10.8m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・6・11	0910	(黒発北) ガス配管改修	立会調査	2m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・7・3 7・22	0911	(大宮) 學校体育館フロントセイメント新設その他施設改 修工事	立会調査	324m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・7・6	0912	駒木本校黒塗地(東地区)インフレ調整	立会調査	12m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・7・8	0913	(黒発北) 勉強部屋新設施設外壁外装配管漏水修理	立会調査	0.6m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・7・8	0914	(黒発北) 別荘棲家式校舎屋外水管漏水修理	立会調査	0.8m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・7・13	0915	(黒発北) 文部科学部本館耐震化基礎より工事	立会調査	35m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・7・28	0916	(下平毛) 学生寮新設新幹電気設備工事(追加その5)	立会調査	2m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・8・7	0916	(本宮中) 勉強部屋新設施設外壁外装配管漏水修理	立会調査	3m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・8・10	0917	(本宮中) 勉強部屋新設取設工事	立会調査	0.41m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・9・4	0918	(黒発北) 教育学園附属機械設備工事	立会調査	50.37m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・9・4	0919	(黒発北) 教育学園附属部II期改修改築工事(電気)	立会調査	46.84m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・9・4	0920	(黒発北) 文部科学部本館II期改修改築外構工事	立会調査	35.6m ²	遺構・遺物なし	年報16
10・2・24						
09・9・29	0921	(黒発北) 技能教育部・文法学校本館改修電気設備工事	立会調査	8.26m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・10・6	0922	(医病) 工学部研究実験棟宿舎A棟改修工事	立会調査	36m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・10・13	0923	(医病) 東校舎新設機械設備(衛生)工事(変更)	立会調査	工事1.0m ² 古代 発掘調査 (0.025m ²)	ビット・住居 土器類・環・遺物群	本報告書
10・27-30				3.8-25.0m ² (3.15m ²)		
11・12						
11・13						
09・10・19	0924	(医病) 気象接新宮宮殿設備(衛生)工事 追加その2	立会調査	工事1.0m ² 古代 発掘調査	ビット	本報告書
10・23						
10・27-30						
09・10・27-30	0925	(医病) 東校舎新設機械設備(衛生)工事 追加その1	立会調査 発掘調査	工事14.5m ² 古代 0.023 合計2.2m ² 3.72m ² 0.237m ²	ビット・住居跡・構 上部窓・高床 上部窓・遺物群	本報告書
11・12.23.29 12・1~3						
09・10・10-13.26	0926	(医病) 基幹幹管(自家電気設備更換)工事	立会調査	64m ²	土壌層	年報16
09・10・20	0927	(黒発南) ポンプ室接場設工事	立会調査	9.9m ²	土壌層	年報16
09・10・21	0928	(黒発北) 教育学園附属・文法学校本館二期改修機械設備工事	立会調査	33m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・10・29	0929	(医病) 第6号機器スロープ取設工事	立会調査	2m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・11・4	0930	(本宮北) 基礎研究採掘割レハブ小屋改修工事	立会調査	0.9m ²	地形	年報16
09・11・10 11・18	0931	(医病) 東校舎新設排水管等取設工事	立会調査	14m ²	A-C 潜窓・通風なし 住居跡・埴輪附土器・古代土 器類・頸器	年報16
09・11・10 11・30- 12・3 12・14	0932	(黒発南) 田代書道部室改修工事	立会調査 地中赤外線 発掘調査 ビット・探 0.009 外底土工 230.7m ²	溝 古代土器類・植物 古物	本報告書	
09・12・9	0933	(医病) 財團学校小学校B棟改修機械設備工事	立会調査	18m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・12・9	0934	(黒発南) 田代書道部室改修電気設備工事	立会調査	146.4m ²	遺構・遺物なし	年報16
10・1・12.19.28 2・2	0935	(黒発北) 体育館改修電気設備工事	立会調査 発掘調査	423.21m ² 古代・近代 ビット 土壌層・遺物・柱基	ビット 土壌層・遺物・柱基	本報告書

3. これまでの調査と本書収録の遺跡

10・1・12	0936	(医病) 田こばと保育園寺場整備	立会調査	12m	埋め	年報16
10・1・13-23	0937	(黒堀南) 田舎者工学部分室改修機械設備工事	立会調査	56m	遺構・遺物なし	年報16
10・1・14	0938	(黒堀南) エコロジーシステム実験室改修工事	立会調査/発掘調査	10m 古文	唐・包装層 碳化土器・生土器	本報告書
2・17~19						
10・1・15	0939	(黒堀北) 教育学部本館Ⅱ期改修西側外構工事	立会調査	12m	遺構・遺物なし	年報16
10・1・26	0940	(黒堀南) 生物生息環境解析室新設工事	立会調査	1m	遺構・遺物なし	年報16
10・1・29	0941	(黒堀北) 体育部屋外階段改修工事	立会調査	1m	遺構・遺物なし	年報16
10・1・29	0942	(黒堀北) 体育部屋外配水池改修	立会調査	1m	遺構・遺物なし	年報16
10・2・2	0943	(黒堀南) 旧図書館2号室改修工事	立会調査	7m	V字型遺構(唐?)	年報16
10・2・8	0944	(黒堀北) 教育学部本館Ⅱ期改修東側外構工事	立会調査	1m	遺構・遺物なし	年報16
10・2・8	0945	(黒堀北) 教育学部本館・文法学部本館改修機械設備工事	立会調査	3m	遺構・遺物なし	年報16
		(黒堀)				
10・2・8	0946	(黒堀北) 教育学部本館・文法学部本館改修機械設備工事 (京町) 造詣	立会調査	72m	遺構・遺物なし	年報16
10・2・12	0947	(大江) 奉事部講義棟前外壁工事	立会調査	2m	遺構・遺物なし	年報16
10・2・15	0948	(黒堀北) 教育学部教室用施設床板撤去・新設工事	立会調査	45m	遺構・遺物なし	年報16
10・2・15	0949	(黒堀北) 教育学部教室外壁工事	立会調査	65m	遺構・遺物なし	年報16
10・2・15	0950	(黒堀北) 教育学部東教室前改修民設工事	立会調査	4m	遺構・遺物なし	年報16
10・2・15	0951	(黒堀北) 教育学部東教室前改修民設工事	立会調査	0.5m	遺構・遺物なし	年報16
10・2・22	0952	(黒堀南) 生物生息環境解析室新設工事	立会調査	15m	遺構・遺物なし	年報16
10・2・22	0953	(黒堀南) 生物生息環境解析室新設工事	立会調査	1m	遺構・遺物なし	年報16
10・3・1	0954	(黒堀南) 環境整備(駐輪場等)工事	立会調査	2m	遺構・遺物なし	年報16
10・3・1	0955	(黒堀南) 環境整備(駐輪場等)工事	立会調査	2m	遺構・遺物なし	年報16
10・3・2	0956	(本庄) ライバーラボ改修改修工事	立会調査	2m	遺構・遺物なし	年報16
10・3・2	0957	(大江) 教学部外廊道改修改修工事	立会調査	3m	遺構・遺物なし	年報16
10・3・4	0958	(黒堀北) 教育学部本館B棟配水管接続工事	立会調査	2m	遺構・遺物なし	年報16
10・3・4	0959	(黒堀北) 教育学部本館B棟配水管接続工事	立会調査	2m	遺構・遺物なし	年報16
10・3・5	0960	(本庄) 医師部事務取扱工事	立会調査	17m	遺構・遺物・柱脚・計画変更により保存・遺物なし	年報16
10・3・8	0961	(黒堀南) 師範会倉庫2段取扱工事	立会調査	0.8m	遺構・遺物なし	年報16
10・3・8	0962	(黒堀南) 大学院自然科学研究科実験棟地図修正工事実験室	立会調査	0.7m	遺構・遺物なし	年報16
10・3・10	0963	(京町) 貢誠中学校南館改修工事	立会調査	0.63m 占生	ピット・窓・庇み 弥生時代初期11世紀	年報16
10・3・11	0964	(黒堀北) 体育部屋改修電気設備工事(電柱撤去)	立会調査	12m	遺構・遺物なし	年報16
10・3・11	0965	(黒堀北) 文法学部本館耐震補強工事	立会調査	0.68m	遺構・遺物なし	年報16
10・3・12	0966	(黒堀北) 保健センター前耐震化改修工事	立会調査	0.8m	遺構・遺物なし	年報16
10・3・15	0967	(黒堀南) 事務所兼用駐車場改修工事	立会調査	2.34m	遺構・遺物なし	年報16
10・3・16	0968	(黒堀北) 先用橋梁6号排水改修改修工事	立会調査	3.76m	遺構・遺物なし	年報16
10・3・19	0969	(黒堀南) ソフトニスコート設立工事	立会調査	0.24m	遺構・遺物なし	年報16
10・3・23	0970	(京町) 周囲中学校教育学部会議室改修工事	立会調査	0.12m	遺構・遺物なし	年報16
10・3・23	0971	(黒堀北) 文法学部古語文部設置工事	立会調査	1.8m	遺構・遺物なし	年報16
10・3・26	0972	(本庄) 保健室E棟配水管工事	立会調査	8.7m	遺構・遺物なし	年報16
10・3・26	0973	(大江) 医事部事務組屋改修配水管工事	立会調査	0.34m	遺構・遺物なし	年報16
2010年度						
10・4・6	1001	(本庄) ガスメータ付送ガス管設置調査	立会調査	3.9m	遺構・遺物なし	年報17
10・6・25 9・1	1002	(黒堀北) 文法学部本館耐震化プレース設置工事	立会調査	22m	遺構・遺物なし	年報17
				0.18m		
10・6・30	1003	(黒堀南) 生物生息環境解析室新設工事	立会調査	0.18m	遺構・遺物なし	年報17
10・8・4	1004	(黒堀北) 守衛室・セッターワーク改修工事	立会調査	11.04m	遺構・遺物なし	年報17
10・8・9	1005	(京町) 周囲小学校給排水改修工事	立会調査	17m	遺構・遺物なし	年報17
10・8・10 9・36~10 11・3・4	1006	(黒堀北) 文法学部本館Ⅱ期改修外構工事	立会調査 / 発掘調査	121.168m 古代	ピット・住居址・墓塚 土師器・須恵器	本報告書 XI
10・8・10-9・3	1007	(黒堀北) 教育学部本館・文法学部本館Ⅱ期改修機械設備工事	立会調査	48.2m	遺構・遺物なし	年報17
10・8・11	1008	(黒堀北) 高配電盤等改修工事	立会調査	13m	遺構・遺物なし	年報17
10・9・1 9・3	1009	(黒堀北) 教育学部本館・文法学部本館Ⅱ期改修電気設備工事	立会調査 / 発掘調査	1.66m 古代	ピット・遺物なし	年報17
10・9・15	1010	(京町) 四輪駆動車用運動場等アスレチック	立会調査	2m	遺構・遺物なし	年報17
10・9・24	1011	(黒堀南) 理学部1・2号棟塗装工事	立会調査	23m	遺構・遺物なし	年報17
10・10・15-15.22.25 3・23	1012	(黒堀北) 教育学部本館・文法学部本館Ⅱ期改修機械設備工事(追加)	立会調査	67.7m	遺構なし 土師器片	年報17
10・10・15.5	1013	(黒堀北) 教育学部本館・文法学部本館改修等工事	立会調査	82m	遺構・遺物なし	年報17
10・11・10.11	1014	(黒堀北) 教育学部本館改修設置工事	立会調査	91.63m	遺構・遺物なし	年報17
10・10・26 11・2・11.0 15.22.25 3・23	1015	(黒堀北) 教育学部本館改修外構工事	立会調査	210.01m	遺構・遺物なし	年報17
10・10・7	1016	(黒堀北) 教育学部浄化槽等塗工事	立会調査	98.46m	遺構・遺物なし	年報17
10・12・6	1017	(本庄) ナンバーストモ配管工事	立会調査	0.25m	遺構・遺物なし	年報17
10・12・29	1018	(黒堀北) 五高記念碑改修外構工事	立会調査	4m	遺構なし 頃造形・土器碎片	年報17
10・12・29	1019	(黒堀北) 五高記念碑改修新幹工事	立会調査	5m	遺構・遺物なし	年報17

3. これまでの調査と本書収録の遺跡

11・12・9.13.14 12・1・23.26・27 2・15	1130 (本荘中) 医学部基礎研究棟(B・D棟)とりこわし工事	立会調査 / 発掘調査	1169m ²	中世以降	溝・土坑・ピット 土器碎片・動物骨	本報告X
12・1・25	1131 (京町田) 環境整備(法面復讐)工事	立会調査	43m ²	遺構・遺物なし	年報18	
12・1・31 2・16	1132 (医病) 養育・障害整備(波引廻下Cとりこわし)工事	立会調査	148m ²	遺構・遺物なし	年報18	
12・2・8	1133 (本荘中) 医学部駅ハイアリーム改修機械設備工事	立会調査	465m ²	遺構・遺物なし	年報18	
12・2・16.17 21	1134 (黒巣南) 理学部周囲整備その他の工事(その1)	立会調査	747m ²	住居址もしくは溝と思われる遺構 プラン・遺物なし	年報18	
12・2・16	1135 (黒巣南) 理学部周囲整備その他の工事(その2)	立会調査	1m ² (128m ²)	遺構・遺物なし	年報18	
12・2・16.20.21	1136 (黒巣南) 理学部周囲整備その他の工事(その3)	立会調査	608m ²	住居址か溝?・ 土器碎片・頸部器片	年報18	
12・2・20	1137 (黒巣南) 理学部3号館スロープ取扱工事	立会調査	1156m ²	遺構・遺物なし	年報18	
12・2・27	1138 (宇都毛) 建物名表示看板設置	立会調査	0.09m ²	遺構・遺物なし	年報18	
12・2・27	1139 (黒巣北造) 施設名看板サイン設置工事	立会調査	0.63m ²	遺構・遺物なし	年報18	
12・2・28	1140 (京町) 環境整備(法面整備等)工事	立会調査	1.8m ²	遺構・遺物なし	年報18	
12・2・28	1141 (京町) 環境整備(南側園庭)工事	立会調査	20m ²	遺構・遺物なし	年報18	
12・3・7	1142 (丸山) 基礎用植物園地外給水栓設置工事	立会調査	1.6m ²	遺構・遺物なし	年報18	
12・3・12	1143 (本荘中) ガス供給施設取扱	立会調査	248m ²	遺構・遺物なし	年報18	
12・3・14	1144 (本荘中) エイズ学研究センター・生命資源研究・支援センター、動物資源開発研究施設新築、実験施設水槽配管並り付 工事	立会調査	75m ²	遺構・遺物なし	年報18	
12・3・26~3・27 4・24 8・21~23	1145 (医病) 養育・環境整備(第6病棟とりこわし)工事	立会調査 / 発掘調査	42730m ²	古代・中世 溝・土坑・ピット 土器碎片・瓶の取手・頸部器片	本報告X	
2012年度						
12・4・10	1201 (黒巣南) 事務局周辺急傾斜削除工事	立会調査	89m ²	遺構・遺物なし	年報19	
12・6・13	1202 (京町) 周囲小学校給食センター震災二次診察調査発掘	立会調査	71m ²	遺構・遺物なし	年報19	
12・6・14.15 6・18 7・9.10 10・15.16	1203 (本荘北) 本荘北地区駐車場配管工事(新設)	立会調査	1507m ²	組器	年報19	
12・6・20.29 7・3.26 7・31 8・6.17	1204 (本荘北) 根木移植等工事	立会調査	1300m ²	組器	年報19	
12・6・19~7・19	1205 (本荘中) 医学部基礎研究棟(B棟東側)とりこわし工事	立会調査 / 発掘調査	756m ²	古代・近世 溝・ピット・土器器・頸部器・陶 組器・骨骼	本報告X	
12・6・25	1206 (黒巣北) 五高記念館周囲外縁水管修理工事	立会調査	1.8m ²	遺構・遺物なし	年報19	
12・6・29 7・3・5	1207 (本荘北) 本総指定基準通過区域土壤剥離除去に伴う立会調査 立会調査	立会調査	100m ²	古代・近世 原穴・住居址・墓・溝(復元)・ ヒツコ・土切跡・組合意	年報19	
12・7・9.10	1208 (本荘北) 立体駐車場支障解消工事	立会調査	737m ²	遺構・遺物なし	年報19	
12・7・6.9.13	1209 (本荘中) 医学部基礎研究棟B棟漏水修理工事	立会調査	9.7m ²	遺構・遺物なし	年報19	
12・7・17	1210 (京町) 周囲小学校体育系排水管改修工事	立会調査	33m ²	遺構・遺物なし	年報19	
12・7・23.24	1211 (京町) 教育学部附属中学校西館フェンス改修工事	立会調査	32m ²	遺構・遺物なし	年報19	
12・7・31	1212 (医病) 西側西側周囲道路改修工事	立会調査	6.9m ²	遺構・遺物なし	年報19	
12・8・17.29	1213 (本荘北) 本荘北地区駐車場配管工事	立会調査	468m ²	遺構・遺物なし	年報19	
12・8・16.17.20 9・5	1214 (本荘北) 立体駐車場新設その他の工事	立会調査	2243m ²	組器・土器器	年報19	
12・8・21	1215 (城東) 教育学部附属幼稚園外縁水管改修工事	立会調査	25m ²	遺構・遺物なし	年報19	
12・8・28	1216 (京町) 附属小学校体育系排水管改修工事	立会調査	395m ²	遺構・遺物なし	年報19	
12・8・30	1217 (医病) 駐車場改修掛枝堂校舎改修機械設備工事	立会調査	4.1m ²	遺構・遺物なし	年報19	
12・9・3.4	1218 (黒巣北) 障災対応システム取扱工事	立会調査	100.3m ²	ピット・土器・石器・組合意	年報19	
12・9・12.13	1219 (大江) トイレ外給水装置修理	立会調査	399m ²	遺構・遺物なし	年報19	
12・9・14	1220 (黒巣北) プール機械室水封対策工事	立会調査	12m ²	遺構・遺物なし	年報19	
12・9・19	1221 (京町) 駐車場改修工事	立会調査	171m ²	遺構・遺物なし	年報19	
12・9・20.23	1222 (医病) 外来診療棟新設機械設備工事	立会調査	40m ²	遺構?	年報19	
12・9・26~28 10・1~	1223 (本荘中) 國際先端医学研究拠点建設工事	立会調査 / 発掘調査	1059m ²	古代・近世 溝・穴・住居址・掘立建物址・ 土坑・ピット・石器品・土器器・ 組合意・陶器・土製品・瓦製 品・骨質	本報告X	
12・10・15.23.24	1224 (黒巣南) 理学部教室Aとりこわし工事	立会調査	146m ²	遺構・遺物なし	年報19	
12・11・9	1225 (医病) 西病棟西側地盤改良工事	立会調査	31.6m ²	遺構・遺物なし	年報19	
12・11・13	1226 (本荘北) 外来診療棟新設空気清浄機設置工事	立会調査 / 発掘調査	2.2m ²	遺構?	年報19	
12・11・19.20.21	1227 (本荘北) 立体駐車場新設その他の工事(追加)	立会調査	27.6m ²	遺構・遺物なし	年報19	
12・11・26.27 12・20	1228 (黒巣南) 理学部周囲庫新工事	立会調査	27.6m ²	古 代 溝又は住居址?	年報19	
12・12・10	1229 (黒巣北) 教育学部木組建具移設工事	立会調査	2.5m ²	遺構・遺物なし	年報19	
12・12・18.19	1230 (黒巣北) 教育学部北側擁壁改修工事	立会調査	5.2m ²	ピット・土器器・組合意	年報19	
13・1・28.29	1231 (大江) 奈良部A種植地外給水管改修工事	立会調査	36.3m ²	遺構・遺物なし	年報19	
13・1・30	1232 (大江) 大江地区R1区施設外給水管改修工事	立会調査	12m ²	遺構・遺物なし	年報19	
13・2・7.8 12.13	1233 (本荘中) 医学部駅ハイアリーム室間突き去工事	立会調査 / 発掘調査	93m ²	ピット・土器器	本報告X	

13・2・21,22	1231	(本荘) 医学部駆輪場取扱工事	立会調査 / 発掘調査	24.1m ²	古代・近世 土坑・土器類・埴造器・磁器 以降	年報19
13・2・21	1235	(医病) 墓内ガス管整備修理工事	立会調査	1.1m ²	遺構・遺物なし	年報19
13・2・27	1236	(黒巣北) 教育学部駆輪場設置工事	立会調査	0.6m ²	遺構・遺物なし	年報19
13・2・27	1237	(黒巣南) 理学部3号館南面駆輪場設置工事	立会調査	9.0m ²	遺構・遺物なし	年報19
13・2・28	1238	(黒巣南) 夏至點測量車両新官工事	立会調査	11.2m ²	遺構・遺物なし	年報19
13・3・5	1239	(医病) 墓内ガス管整備修理工事	立会調査	8.0m ²	遺構・遺物なし	年報19
13・3・6	1240	(黒巣北) 工学部駆輪場工事	立会調査	2.7m ²	遺構・遺物なし	年報19
13・3・7	1241	(京町) 教育学部駆輪場小学校校舎AB棟空気調節設備設置工事	立会調査	27.2m ²	遺構・遺物なし	年報19
13・3・11,14	1242	(本荘中) 物色資源研究開発実験施設本館油地下タンク掘立会調査	立会調査	29.6m ²	遺構・遺物なし	年報19
13・3・11,14	1243	(本荘中) 物色資源研究開発実験施設本館油地下タンク掘立会調査	立会調査	29m ²	遺構・遺物なし	年報19
13・3・26	1244	(本荘北) 游説課宿舎E棟東面地盤埋設工事	立会調査	1.8m ²	遺構・遺物なし	年報19
2013年度						
13・5・21~7・27	1301	(黒巣北) 駆輪閣西面中央駆輪木板修理工事	立会調査	298.0m ²	遺構・遺物なし	年報20
13・5・21~7・10	1302	(黒巣北) 駆輪閣西面中央駆輪改修機械設置工事	立会調査 / 発掘調査	295.0m ²	古代 住居・柱穴・土器類・埴造器	年報20
13・5・21~6・12	1303	(黒巣北) 駆輪閣西面中央駆輪改修電気機械工事	立会調査	97.0m ²	遺構・遺物なし	年報20
13・5・25,31	1304	(黒巣北) 五感記念館裏面木精作工事	立会調査	0.45m ²	遺構・遺物なし	年報20
13・6・17,21,25	1305	(黒巣南) 国際革新技術研究拠点施設新設に伴う支撑樹木移植等工事	立会調査	127.6m ²	遺構・遺物なし	年報20
13・6・18~7・12	1306	(黒巣北) 駆輪閣西面中央部外構工事	立会調査 / 発掘調査	1368.00m ²	古代 溝	年報20
13・7・19	1307	(黒巣南) 松原本館西側斜面講堂補修工事	立会調査	4.10m ²	遺構・遺物なし	年報20
13・7・19	1308	(大川北) 葉栗部駆輪木取りこし工事	立会調査	47.03m ²	遺構・遺物なし	年報20
13・8・8~10・4	1309	(黒巣南) 国際革新技術研究拠点施設新設に伴う支撑樹木移植等工事	立会調査 / 発掘調査	632.00m ²	古近代 開拓・土塁・墓葬器・廻遊路 ガラス製品・扇子・弦貯品	本報告20
13・8・5~ 15・3・20	1310	(黒巣南) ライフライン再生(給水設備)工事	立会調査 / 発掘調査	5,251.70m ²	鉄文・古代 溝・柱穴・廻遊路・土器 近世・近代 器・頭蓋骨・鐵器・鐵文土器・石器・土器品	本報告
13・9・21~10・4	1311	(黒巣南) 国際革新技術研究拠点施設新設に伴う支障配管改修工事	立会調査	161.00m ²	遺構・遺物なし	年報20
13・10・11	1312	(黒巣北) 応急砂防水資源水槽修理工事	立会調査	0.615m ²	遺構・遺物なし	年報20
13・9・13	1313	(黒巣北) ニースコット改修工事	立会調査	6.48m ²	遺構・遺物なし	年報20
13・9・2~2	1314	(黒巣北) 知念金改修工事	立会調査	41.45m ²	遺構・遺物なし	年報20
13・9・12~ 14・3・14	1315	(黒巣北、黒巣南) 松原市街道事業 中部及び東部処理区雨水立坑留置(C-E-4)築造工事	立会調査	5.60m ²	近世・近代 周辺器	年報20
13・30~28	1316	(医病) 中央駆輪閣排水構造施設工事	立会調査	0.50m ²	遺構・遺物なし	年報20
13・11・1~ 12・18	1317	(本荘中) 施設整備(自家電気設備)工事(地下タンク)	立会調査 / 発掘調査	100.10m ²	古代 住居・溝・柱穴・土器類・埴造器	年報20
13・11・1~ 12・18	1318	(本荘中) 施設整備(自家電気設備)工事(電気機械設備)	立会調査 / 発掘調査	295.40m ²	古代 住居・溝・柱穴・土器類・埴造器	年報20
13・11・1~ 12・18	1319	(本荘中) 施設整備(自家電気設備)工事(暖配管)	立会調査 / 発掘調査	155.90m ²	古代 住居・溝・柱穴・土器類・埴造器	年報20
13・11・20	1320	(医病) 環境整備(駆輪駕籠車等)工事(藤袋・構造物関係)	立会調査	3,309.80m ²	遺構・遺物なし	年報20
13・11・15~ 14・12・9	1321	(医病) 環境整備(駆輪駕籠車等)工事(人孔・雨水関係)	立会調査 / 発掘調査	389.50m ²	古代 住居・溝・柱穴・土器	年報20
13・11・15~ 14・12・2	1322	(医病) 環境整備(駆輪駕籠車等)工事(雨水関係)	立会調査	73.00m ²	遺構・遺物なし	年報20
13・11・23	1323	(医病) 作業室改修機械設置工事	立会調査	3.75m ²	遺構・遺物なし	年報20
13・11・19	1324	(医病) 施設機械修理様式リメイク設置等工事(配管工事)	立会調査	17.70m ²	遺構・遺物なし	年報20
13・11・20~ 11・13	1325	(医病) 基幹整備(電気設備)工事	立会調査 / 発掘調査	468.10m ²	古代 柱穴	年報20
13・11・21,22	1326	(医病) 旧駆輪室改修施設修理工事	立会調査	137.8m ²	遺構・遺物なし	年報20
13・11・21,22	1327	(医病) 旧駆輪室改修換気改修工事	立会調査	26.49m ²	遺構・遺物なし	年報20
13・11・25,26	1328	(医病) 通報看護室等改修工事	立会調査	30.50m ²	遺構・遺物なし	年報20
13・11・29	1329	(本荘北) 犬走場ゲート・インターホン移設工事	立会調査	22.60m ²	遺構・遺物なし	年報20
13・11・26~ 14・2・7	1330	(城東) 教育学部駆輪場施設管理棟改修等の施設工事	立会調査	308.49m ²	遺構・遺物なし	年報20
13・12・9~ 14・1・14	1331	(本荘中) 国際先端医療研究拠点新官定気改修工事	立会調査	835.51m ²	遺構・遺物なし	年報20
13・12・9~ 14・2・25	1332	(本荘中) 国際先端医療研究拠点新官定気改修工事	立会調査	75.26m ²	遺構・遺物なし	年報20
14・1・17~ 2・12	1333	(医病) 施設管理棟ボイラーアセメント等工事(東油地下タンク更替・新・汚染土処理)	立会調査 / 発掘調査	101.56m ²	古代 柱穴・土器類・埴造器	年報20
14・1・21	1334	(黒巣北) 黒巣駅交通安全施設要新工事	立会調査	1.28m ²	周辺器	年報20
14・1・31	1335	(大川北) PITS 改修工事	立会調査	0.64m ²	遺構・遺物なし	年報20
14・2・5	1336	(城東) 教育学部駆輪場施設管理棟改修等の施設工事(機械)	立会調査	529.10m ²	遺構・遺物なし	年報20
14・2・10	1337	(医病) 外套診療棟新規機械設置工事	立会調査	10.62m ²	遺構・遺物なし	年報20
14・2・17	1338	(黒巣北) 全学教育棟(C棟) スローペ取扱工事	立会調査	57.68m ²	遺構・遺物なし	年報20
14・2・17~26	1339	(黒巣北・南) 屋外サイド取扱工事	立会調査	196.00m ²	遺構・遺物なし	年報20
14・2・28	1340	(黒巣北) 黒巣駅車庫A(車両外回り用)改修工事	立会調査	39.30m ²	遺構・遺物なし	年報20
14・2・21	1341	(京町) 教育学部駆輪場小学校駆輪場改修工事	立会調査	20.00m ²	遺構・遺物なし	年報20

3. これまでの調査と本書収録の遺跡

14・3・25 3・13～17	1342	(京町) 教育部附属小学校体育館改修その他の工事	立会調査	4870ml	遺構・遺物なし	年報20	
14・3・12～25	1343	(京町) 教育部附属小学校体育館改修その他の工事 (機械設置工事)	立会調査	588.00ml	遺構・遺物なし	年報20	
14・2・24～3・13	1344	(京町) 教育部附属小学校体育館改修その他の工事	立会調査	70290ml	遺構・遺物なし	年報20	
14・2・23～3・12	1345	(木本町中地区) 墓發祭場 (榎木作業等) 工事 (木本町中地区)	立会調査	999.00ml	遺構・古墳群	年報20	
14・3・6～3・17	1346	(黒壁南) 総合研究棟 (工学系) 改修工事	立会調査	29.45ml	遺構・遺物なし	年報20	
14・3・6	1347	(黒壁南) 総合研究棟 (工学系) 改修工事	立会調査	13290ml	遺構・遺物なし	年報20	
14・2・27	1348	(黒壁南) 総合研究棟 (工学系) 改修電気設備工事	立会調査	48.76ml	遺構・遺物なし	年報20	
14・2・27～3・17	1349	(黒壁南) 総合研究棟 (工学系) 改修機械設備工事	立会調査	365.00ml	近鉄・近代 古墳群・瓦・泥瓦子	年報20	
14・2・28	1350	(京町) 長屋町木造工事	立会調査	57.40ml	遺構・遺物なし	年報20	
14・3・10	1351	(京町) 備蓄庫新設	立会調査	141.00ml	遺構・遺物なし	年報20	
14・2・28	1352	(城東町) 教育部附属図書館後掛図書館プロック改修工事	立会調査	222.00ml	遺構・遺物なし	年報20	
14・3・6	1354	(黒壁北) 黒壁北地区A改修機械設備工事	立会調査	0.60ml	遺構・遺物なし	年報20	
14・3・6	1355	(黒壁北) 備蓄庫新設	立会調査	52.50ml	遺構・遺物なし	年報20	
14・3・7	1356	(大江北) 常勤部北門入口復旧設置工事	立会調査	4.00ml	遺構・遺物なし	年報20	
14・3・7	1357	(大江北) 備蓄庫新設	立会調査	24.50ml	遺構・遺物なし	年報20	
14・3・7	1358	(大江北) 外附則木造去	立会調査	18.80ml	遺構・遺物なし	年報20	
14・3・22	1359	(黒壁北) 恽莊駐車場設置工事	立会調査	42.00ml	遺構・遺物なし	年報20	
14・3・19	1360	(黒壁北) 文化財耐震補強計画実施業務	立会調査	30.00ml	近代 古代 古墳群・瓦	年報20	
14・3・19～20	1361	(黒壁南) 文化財耐震工学部部長資料室耐震計画実施業務	立会調査	4.00ml	古代	年報20	
14・3・27	1362	(京町) 教育部附属中学校校章記念碑設置工事	立会調査	4.00ml	遺構・遺物なし	年報20	
14・3・28	1363	(黒壁南他) 郡ガスメーター取替工事	立会調査	22.00ml	遺構・遺物なし	年報20	
2014年度							
14・4・3	1401	(黒壁北) 将國書類中央細井水槽ボンプ設置工事	立会調査	4.41ml	遺構・遺物なし	年報21	
14・4・11	1402	(大江北) 体育館改修その他の工事	立会調査	60.80ml	遺構・遺物なし	年報21	
14・4・14～16	1403	(大江北) 体育館改修その他の工事 (機械設置工事)	立会調査	414.00ml	古代	土師器	年報21
14・4・14	1404	(大江北) 体育館改修電気設備工事	立会調査	44.29ml	遺構・遺物なし	年報21	
14・4・17	1405	(京町) 教育部附属中学校耐震化記念樹再植樹	立会調査	4.00ml	遺構・遺物なし	年報21	
14・4・18～19	1406	(本庄町) 国際先端開拓研究拠点新設その他の工事 (外構工事)	立会調査	162.72ml	遺構・遺物なし	年報21	
14・5・30	1407	(京町) 教育部附属小学校耐震セントーキこわし工事 (機械設置)	立会調査	3.50ml	遺構・遺物なし	年報21	
14・6・9	1408	(黒壁南) 本部 (田川務所本部) 基礎調査	立会調査	21.00ml	近代 古代 古墳瓦基礎	年報21	
14・6・24	1409	附属幼稚園ブーム光ネット取付	立会調査	180ml	遺構・遺物なし	年報21	
14・6・29	1410	(黒壁北) 将國書類中央細井桿板修理工事	立会調査	0.50ml	遺構・遺物なし	年報21	
14・6・19～26	1411	(京町) 教育部附属小学校給食センターとりこわし工事 (機械設置)	立会調査	16.00ml	遺構・遺物なし	年報21	
14・6・19～26	1412	(京町) 教育部附属小学校給食センターとりこわし工事	立会調査	396.70ml	土師器	年報21	
14・7・8・14	1413	(医病) 中央治療棟附属環境整備工事	立会調査	225.49ml	遺構・遺物なし	年報21	
14・7・8・14	1414	(医病) 中央治療棟附属環境整備 (機械設置) 工事	立会調査	21.60ml	遺構・遺物なし	年報21	
14・7・25	1415	(黒壁北) 体育館改修電気設備工事 (機械設置)	立会調査	2.00ml	遺構・遺物なし	年報21	
14・9・4～15	1416	(黒壁北) 武道場等改修機械設置工事	立会調査	1087.20ml	古代・近世 ピット・里忠器・土師器・陶器	年報21	
14・9・11～15	1417	(京町) 教育部附属小学校耐震新設その他の工事 (建替工事)	立会調査・免査査	747.90ml	古井・古窯・住居・古窯・ピット・建物基礎・供養塔・土器・土石器・土器蓋・陶器	本報告書	
14・6・10			免査査				
14・9・9～11～15	1418	(黒壁南) 國際革新技術研究拠点新設工事 (機械設置工事)	立会調査	532.00ml	近現代 土坑墓・墓石・骨壺・周溝	年報21	
14・10・10～14	1419	(黒壁南) 國際革新技術研究拠点新設工事 (電気設備工事)	立会調査	49.38ml	遺構・遺物なし	年報21	
14・10・14	1420	(本庄町) 体育館改修機械設備工事	立会調査	36.00ml	遺構・遺物なし	年報21	
14・10・14～15	1421	(本庄町) 体育館改修工事	立会調査	330.02ml	遺構・遺物なし	年報21	
14・10・14	1422	(本庄町) 体育館改修電気設備工事	立会調査	6.48ml	遺構・遺物なし	年報21	
14・10・16～17	1423	66.5V 領地内核大医学部櫻坂校舎O'ケーブル改修工事	立会調査・免査査	148.26ml	古代 清・土師器・根窓器	年報21	
15・9・2			免査査				
14・10・29～11・26	1424	(医病) 枝木樹根伐採業務	立会調査	21.16ml	遺構・遺物なし	年報21	
14・11・21～26	1425	(本庄町) 隆床革新技術研究拠点新設工事 (地下躯体撤去・廻廊設置)	立会調査	1,655.00ml	古代・近世 住居・溝・ピット・建物基礎・土 廃物	本報告書	
15・7・29			立会調査				
14・11・21～24	1426	(本庄町) 隆床研究新設新設その他の工事 (本体工事)	立会調査・免査査	2,141.00ml	古代・近世 住居・溝・ピット・建物基礎・土 廃物	本報告書	
15・11・2			免査査				
14・11・18	1427	(黒壁北) 体育館改修工事	立会調査	81.00ml	遺構・遺物なし	年報21	
14・11・19	1428	(京町) 教育部附属教育実践社会セミナー等外部改修工事	立会調査	7.00ml	遺構・遺物なし	年報21	
14・12・12～	1429	(黒壁南) 本部樹木等撤去工事	立会調査・免査査	282.80ml	古代・近世 住居又は溝・ピット・赤堀瓦基礎・土 廃物	年報21	
15・7・24			免査査				
14・12・12～	1430	(黒壁南) 本部屋外スロープ設置工事	立会調査・免査査	195.77ml	古代・近世 赤堀瓦基礎・土師器・灰窓器・陶器	年報21	
15・7・24			免査査				
14・12・15・16	1431	(京町) 教育部附属小学校耐震新設その他の電気設備工事 (建替工事)	立会調査	12.50ml	遺構・遺物なし	年報21	
15・6・24	1432	管理機器改修その他の工事 (建替)	立会調査	279.20ml	遺構・遺物なし	年報21	
14・12・19	1433	(医病) 宮内省設置業務	立会調査	2.00ml	遺構・遺物なし	年報21	
14・12・22	1434	(黒壁南) 黒壁S1等太陽光発電システム基礎設置その他の工事 (電気設備)	立会調査	77.80ml	古代・近代 土器片・建物基礎	年報21	
15・1・16	1435	(黒壁南) 黒壁S1等太陽光発電システム基礎設置その他の工事 (電気設備)	立会調査	46.00ml	遺構・遺物なし	年報21	
15・1・7～6・2	1436	(黒壁南) 本部エレベーター増設工事	立会調査・免査査	60.30ml	古代・近代 赤堀瓦基礎・土師器・灰窓器・陶器	年報21	

15・1・14～97	1437	(黒巣南) 本部改修その他の機械設備工事	立会調査／発会調査	1020m ²	古代・近世・近・古代	赤煉瓦基礎、土師器、埴瓦器、陶器	年報21
15・2・9	1438	(黒巣北) 葵合研究棟(教育学系) 改修その他の工事	立会調査	159.10m ²	道橋・道物なし	年報21	
15・2・9～27	1439	(黒巣北) 葵合研究棟(教育学系) 改修機械設備工事	立会調査	73.00m ²	道橋・道物なし	年報21	
15・2・10～4	1440	(黒巣北) 体育館改修電気設備工事	立会調査	85.80m ²	道橋・道物なし	年報21	
15・2・12	1441	(本庄北) 開拓研究棟新宮機械設備工事	立会調査	40.00m ²	道橋・道物なし	年報21	
15・2・25～7・3	1442	(医病) 管理修改その他の工事	立会調査	563.40m ²	道橋・道物なし	本報告22	
15・2・26～4・16	1443	(京町) 教育学部附属小学校新宮その他の機械設備工事(その2)	立会調査	241.80m ²	鉄・生	鉄・ビット、油生土器	本報告22
15・2・27	1444	(黒巣北) 法学部サークル棟新宮その他の工事	立会調査	64.80m ²	道橋・道物なし	年報21	
15・3・2～3・6	1445	(黒巣北) 環境整備(駐車場等) に伴う新木等移植業務	立会調査	86.00m ²	道橋・道物なし	年報21	
15・3・18～23	1446	(黒巣北) 環境整備(駐車場等) 工事	立会調査	194.00m ²	道橋・道物なし	年報21	
15・3・3	1447	(黒巣北) 屋外サイン設置工事(大江)	立会調査	32.60m ²	土師器	年報21	
15・3・4	1448	(黒巣北) 屋外サイン設置工事(原型)	立会調査	37.80m ²	道橋・道物なし	年報21	
14・12・21	1449	(黒巣北) 全校性校舎屋外下水漏洩修理工事	立会調査	3.00m ²	道橋・道物なし	年報21	
15・3・16	1450	(洗鹿2) 流浸槽合築新設改修工事	立会調査	213.60m ²	道橋・道物なし	年報21	
14・5・2	1451	(本庄南) ポンプ室設置及び給水設備取替工事	立会調査	180.00m ²	道橋・道物なし	年報21	
2015年度							
15・5・11～11	1501	(黒巣北) 五高記念館耐震強化改修工事	立会調査	30.00m ²	道橋・道物なし	年報22	
15・5・18～19	1502	(本庄北) 開拓研究棟新宮電気設備工事	立会調査	77.87m ²	道橋・道物なし	年報22	
16・11・4							
15・5・20～21	1503	(本庄北) 開拓研究棟新宮機械設備工事(その2)	立会調査	19.00m ²	古代	土師器・瓦	年報22
15・5・18～7・28	1504	(本庄北) 開拓研究棟新宮機械設備工事(その3)	立会調査	485.00m ²	古代・近世・近・古代	住居・唐・土坑・ビット・便物等	本報告23
15・6・12～7・29	1505	(医病) 管理修改機械設備工事	立会調査	349.00m ²	古代・近世	土師器・陶器	年報22
15・6・29	1506	(黒巣南) 黒巣南C7 6階実験室窓梁その他の工事	立会調査	40.80m ²	道橋・道物なし	年報22	
15・7・30	1507	(黒巣北) 北地区学生宿舎A棟前庭改修工事	立会調査	150.00m ²	道橋・道物なし	年報22	
15・8・7・12・18	1508	(黒巣北) 校舎(旧北地区食堂) 改修工事	立会調査	36.70m ²	道橋・道物なし	年報22	
15・8・20	1509	(大江) A棟北側外階段改修工事	立会調査	28.00m ²	道橋・道物なし	年報22	
15・9・11	1510	(黒巣南他) 台風15号に伴う木造現用木造(黒巣)	立会調査	42.20m ²	道橋・道物なし	年報22	
15・9・14	1511	人文社会科学院現用施設改修工事	立会調査	12.06m ²	古代	土師器・埴瓦器	年報22
15・9・15	1512	(黒巣南他) 台風15号に伴う木造復旧作業(大江)	立会調査	14.00m ²	道橋・道物なし	年報22	
15・9・28	1513	(本庄北) 開拓研究棟新宮改修電気設備工事	立会調査	9.00m ²	道橋・道物なし	年報22	
15・10・26～29・3・1	1514	(黒巣北) 校舎(旧北地区食堂) 改修機械設備工事	立会調査	78.90m ²	古代	住居・唐・ビット・土師器・埴瓦器	本報告23
15・11・26	1515	(黒巣北) 北地区学生会館中庭インテラクティブガーデン工事	立会調査	19.60m ²	道橋・道物なし	年報22	
15・11・26	1516	(黒巣北) 黒巣北E1 (全学教育棟) 西面インテラクティックガーデン改修工事	立会調査	27.30m ²	道橋・道物なし	年報22	
15・11・30	1517	(宇留美) 密閉化共通男子浴室等改修機械設備工事	立会調査	9.2m ²	道橋・道物なし	年報22	
15・12・8	1518	(本庄北) 屋外サイエンス設置工事	立会調査	32.5m ²	古代	土師器・埴瓦器	年報22
15・12・29・79・16	1519	(本庄北他) 屋外サイエンス設置工事	立会調査	54.4m ²	道橋・道物なし	年報22	
16・1・4・6・12	1520	(黒巣北他) 電力ディマンド等計画システム(電気・ガス・水)	立会調査	172.50m ²	道橋・道物なし	年報22	
16・1・4	1521	(黒巣北) 従前履歴(五高記念館) フェンス復旧工事	立会調査	5.88m ²	古代	道橋・道物なし	年報22
16・1・18・19	1522	(黒巣北他) 電力ディマンド等計画システム(電気・水・ガス)	立会調査	40.3m ²	道橋・道物なし	年報22	
16・3・11	1523	(黒巣北) 黒巣南C7分室改修工事	立会調査	10.60m ²	道橋・道物なし	年報22	
16・1・5・2～29	1524	(黒巣北) 校舎(旧北地区食堂) 改修工事(外構工事)	立会調査	412.30m ²	古代	住居・唐・ビット・土師器・埴瓦器	本報告23
16・1・25・2・12	1525	(黒巣北他) 電力ディマンド等計画システム(電気・水・ガス)	立会調査	93.50m ²	道橋・道物なし	年報22	
16・1・28	1526	(京町) 教育学部附属教育実践融合センター東側プレハブ	立会調査	11.91m ²	鉄・生	生土器	年報22
16・2・4	1527	(黒巣北他) 電力ディマンド等計画システム(電気・水・ガス)	立会調査	12.00m ²	道橋・道物なし	年報22	
16・2・12・22	1528	(黒巣北) 合成研究棟(黒巣北N) 改修工事	立会調査	31.00m ²	近代	赤煉瓦基礎	本報告23
16・2・12	1529	(黒巣北) 合成研究棟(黒巣北N) 改修電気設備工事	立会調査	35.20m ²	道橋・道物なし	年報22	
16・2・12・12・19	1530	(黒巣北) 合成研究棟(黒巣北N) 改修機械設備工事	立会調査	22.00m ²	道橋・道物なし	年報22	
16・2・3	1531	(大江) 豊富館東側改修ガラス漏洩修理工事	立会調査	2.00m ²	不明遺物	年報22	
16・3・7・28	1532	(本庄北) 総務部改修工事	立会調査	80.00m ²	道橋・道物なし	年報22	
2016年度							
16・8・8	1601	(黒巣南) E9改修に伴う支障配管撤去工事	立会調査	1.53m ²	道橋・道物なし	年報23	
16・9・12	1602	(宇留美) 國際交流会館A・B棟北側中庭改修工事	立会調査	44.73m ²	道橋・道物なし	年報23	
16・11・4	1603	(本庄北) 開拓研究棟新宮電気設備工事	立会調査	12.51m ²	土師器	年報23	
16・11・9	1603	(黒巣北) 台風15号に伴う木造の木造こし廻廊	立会調査	42.16m ²	道橋・道物なし	年報23	
16・11・10	1604	(黒巣北) 台風15号に伴う被災樹木除根作業	立会調査	86.25m ²	道橋・道物なし	年報23	
17・1・16～17							
16・11・11	1605	(黒巣南) C2改修に伴う仮設駐車場整備工事	立会調査	123.22m ²	道橋・道物なし	年報23	
16・12・1	1606	(黒巣南) C2改修に伴う仮設校舎改修工事(電気の1)	立会調査	11.87m ²	道橋・道物なし	年報23	
16・12・5	1607	(黒巣南) 黒巣南C2改修に伴う仮設駐車場整備工事(その1)	立会調査	0.48m ²	道橋・道物なし	年報23	
16・12・5	1608	(黒巣南) 黒巣南C2改修に伴う仮設駐車場整備工事(その2)	立会調査	2,465.00m ²	道橋・道物なし	年報23	

3. これまでの調査と本書収録の遺跡

16・12・6	1609	(黒髪南) 黒髪南 C2保険校舍取扱工事 (機械その1)	立会調査	335.00mf	遺構・遺物なし	年報23	
16・12・16.	1610	(京町) 教育部附属小学校保険校舍取扱工事	立会調査	416.10mf	傷害土器	年報23	
27・17・2・1							
16・12・20~28	1611	(黒髪南) 黒髪南 C3改築に伴う保険校舍整備工事 (その4)	立会調査	11.35mf	古代・近代 住居?・土蔵群・頃忠器・石器・ 瓦器	年報23	
17・1・16	1612	(黒髪北) 尾崎小水管設置工事	立会調査	5.37mf	遺構・遺物なし	年報23	
17・1・18	1613	(黒髪南) 黒髪南 C2保険校舍取扱工事 (機械その2)	立会調査	621.00mf	遺構・遺物なし	年報23	
17・1・18	1614	(黒髪南) 黒髪南 C2改築に伴う保険校舍取扱工事 (電気その2)	立会調査	45.80mf	遺構・遺物なし	年報23	
17・1・18	1615	(大江) 台風15号に伴う被害樹木除根業務	立会調査	96.25mf	遺構・遺物なし	年報23	
17・1・19	1616	(新潟部) 台風15号に伴う被害樹木除根業務	立会調査	32.50mf	遺構・遺物なし	年報23	
17・1・23	1617	(宇賀毛) 台風15号に伴う被害樹木除根業務	立会調査	106.50mf	傷害土器	年報23	
17・1・23	1618	(本荘北) 台風15号に伴う被害樹木除根業務	立会調査	19.50mf	遺構・遺物なし	年報23	
17・1・23	1619	(本荘中・南) 台風15号に伴う被害樹木除根業務	立会調査	8.50mf	遺構・遺物なし	年報23	
17・1・26	1620	(京町) 台風15号に伴う被害樹木除根業務	立会調査	10.25mf	遺構・遺物なし	年報23	
17・1・30	1621	(黒髪南) 台風15号に伴う被害樹木除根業務	立会調査	41.75mf	遺構・遺物なし	年報23	
17・1・30	1622	(黒髪北) 台風15号に伴う被害樹木除根業務	立会調査	15.25mf	遺構・遺物なし	年報23	
13・2・1	1623	(京町) 教育部附属小学校保険校舍取扱に伴う支障配管等工事	立会調査	62.3mf	遺構・遺物なし	年報23	
17・2・6	1624	(西舟易幹) 堤防整備 (田管理機等支障配管) 工事	立会調査	231.50mf	近傍?	土蔵群・頃忠器・陶器	年報23
17・2・7~8	1625	(黒髪南) 理学部調査場樹木切り株搬去工事	立会調査	56.00mf	遺構・遺物なし	年報23	
17・2・10	1626	(京町) 基本樹木伐根業務	立会調査	7.10mf	遺構・遺物なし	年報23	
17・2・14~22~24	1627	(宇賀毛) 墓地整備 (興野) 災害復旧工事	立会調査	157.15mf	遺構・遺物なし	年報23	
17・2・15	1628	(本荘南) 本荘南 I 等勢小水管設置改修工事	立会調査	101.580mf	遺構・遺物なし	年報23	
17・2・28	1629	(大江) 葛野頭給水管修理工事	立会調査	1.00mf	遺構・遺物なし	年報23	
17・3・1, 17	1630	(渡瀬) 渡瀬住宅2号棟屋外ガス管補修工事	立会調査	20.1mf	遺構・遺物なし	年報23	
17・3・2	1631	(医師) 本工事被害樹木伐根工事	立会調査	7.00mf	遺構・遺物なし	年報23	
17・3・6, 9	1632	(黒髪北) 仙人ボンディング事業用フェンス設置工事	立会調査	3.01mf	遺構・遺物なし	年報23	
17・3・13	1633	(本荘中) 本荘中 5 災害復旧工事	立会調査	271.00mf	遺構・遺物なし	年報23	
17・3・14	1634	(黒髪南) コンプレッサー保管庫設置	立会調査	12.28mf	遺構・遺物なし	年報23	
17・3・22	1635	(大江北) 墓地開墾物置き場樹木移植業務	立会調査	15.25mf	遺構・遺物なし	年報23	

II 黒髪南地区の調査

1. (黒髪南) ライフライン再生(給水設備等)工事に伴う発掘調査 (1310調査地点)

(1) 調査の目的と経過

① 調査の目的とこれまでの調査成果

本調査は熊本大学(黒髪南)ライフライン再生(給水設備等)工事に伴う発掘調査である。その工事内容は、給排水・ガス管の埋設、排水設備としてのU字側溝や浸透井戸、検水槽の設置、換気口やごみ置き場設置、アスファルトやインテラーロッキング舗装など様々である。調査地点のある黒髪地区は、熊本市街地の北東に位置する立田山と阿蘇に水源を持つ白川にはさまれ、この白川により運ばれた土砂が扇状地形に堆積した砂礫層を基盤としており、河川の両岸に堆積した「自然堤防」上に立地する(図1)。本調査地点は黒髪南地区の東側で、調査範囲の多くは理学部校舎間の道路・駐車場部分に相当する(図2)。

黒髪地区は黒髪町遺跡群(熊本市埋蔵文化財包蔵地図No8-88)に含まれ、縄文時代早期～晩期の土器・石器出土地、弥生時代中期の壺棺墓や奈良・平安時代の集落址が存在している。また、本敷地は明治39年(1906)に第五高等学校の工学部が独立して新設された熊本高等工業学校の敷地を含んでおり、近年では本部周辺の改修工事の事前調査である1429他調査地点において明治期の赤煉瓦基礎が発見されたほか、1309調査地点において熊本監獄・刑務所の囚人墓地が確認されるなど、近代の遺跡についても注目を浴びてきている(山野編2016、山野・柴田編2018)。

従前の調査では、本調査地点の北側にあたる9810調査地点(現自然科学研究科・理学部総合研究実験棟)において7世紀後半から～9世紀にかけての20基以上の竪穴建物や柱穴、古代や近世の溝が検出された(小畠編2009)。竪穴建物は少なくとも3時期にわたって形成されていたことが判明している。また、本調査地点の西側にあたる9412調査地点(現工学部研究棟)でも、古代の竪穴建物が複数基見つかる等している(小畠他編2003)。このように従前の調査によって、調査区周辺には奈良・平安時代の集落があったことが判明したほか、近世の溝などの遺構が存在することが明らかとなっている。また、本調査地点の東側にあたる9911調査地点では古代の遺構の検出面である地山と認定されていた褐色砂層中から縄文時代後期の土器が出土した(大坪編2014)。9412調査地点や9810調査地点でも縄文時代後期前半～晩期初頭の土器や、石錐、石斧などが古代の包含層あるいは遺構中から出土している。この様相は黒髪地区の複数の調査地点で確認でき、明確な縄文時代遺物を含む文化層または遺構が確認できないながらも、褐色砂層中より少量の遺物が散発的に出土するという傾向は調査以前に把握されていた。しかし、一定の深度まで掘り下げるに褐色砂層の下からは、砂が硬質化したブロック(砂質ブロック)や硬質砂層が検出されるため、当センターや熊本県下でもこれらを地山とみなしており、この土層から下位の発掘調査が実施されることはほぼなかった。

② 調査の経過

従前の調査成果を鑑みて熊本市教育委員会より工事立会での回答があった。当センターの大坪志子が発掘担当者となり、2013年8月5日より調査を開始した。1310調査地点の調査範囲は現状、理学部棟周辺の道路や駐車場あるいは緑地として利用されていた。調査範囲は南北約270m、東西約180mと広域であるため、調査区をI～VI区の6つの地区に大きく分けて、必要に応じて枝番号を付すこととした(図2・3)。調査開始直後のI区の掘削で古代の遺構が検出されたことから、熊本市教育委員会文化課に連絡し、埋蔵文化財保護法第92条を提出、8月8日に発掘調査に切り替えた。調査範囲が

1. (黒髪南) ライフライン再生（給水設備等）工事に伴う発掘調査（1310調査地点）

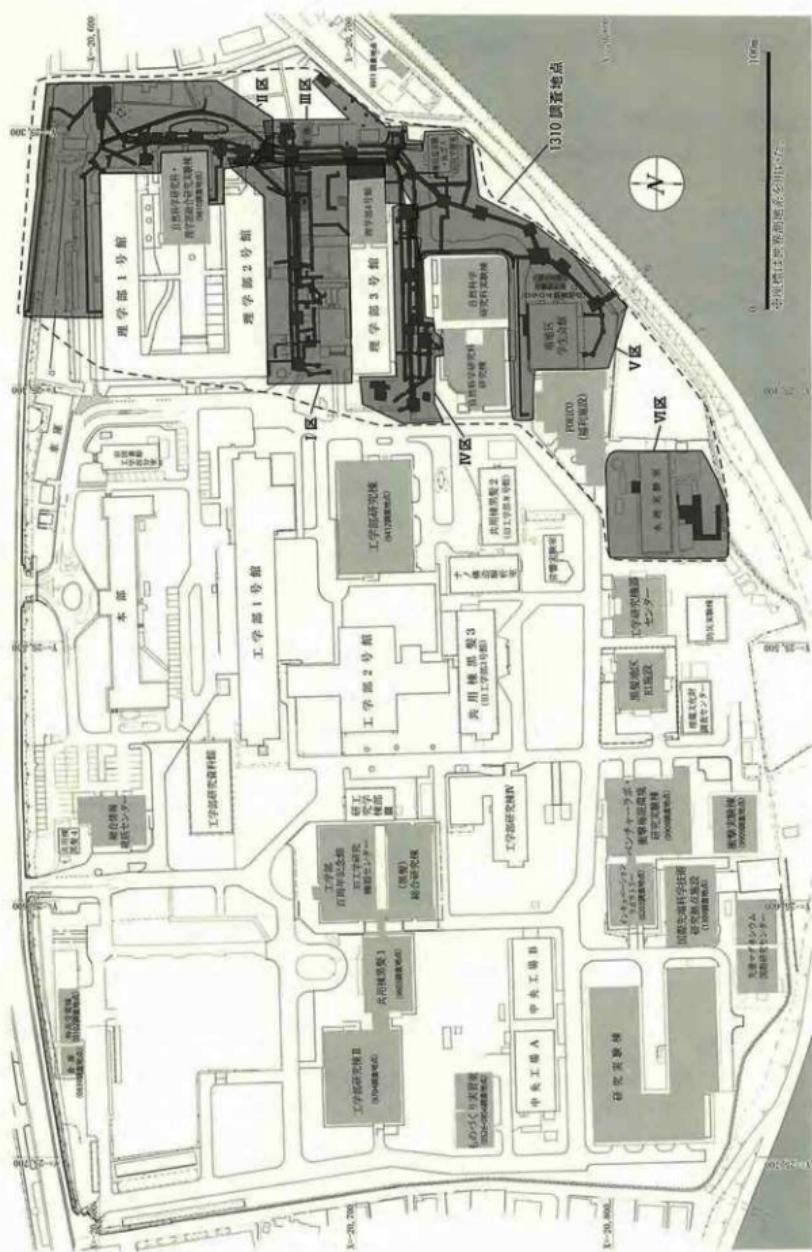


図2 黒髪南地区における調査地点位置図 (S= 1 /2,000)

広く、遺構の密度が高かったため、調査を迅速化するために8月19日から株式会社九州文化財研究所に委託し、発掘調査員を補充した。2013年10月16日からは大坪に代わり山野ケンヤ次郎が発掘調査担当となり、新たに株式会社有明測量開発社に委託し、発掘調査員を補充した上で調査を継続した。

本調査地点では、重機による一次掘削で近代の搅乱土を除去し、古代の遺物包含層から調査を実施した。まれに近世・近代の重要な遺構や遺物を検出した際は、これらの調査も簡易的におこなった。本発掘調査では施工工程、車両や人の動線の確保、廃土置場の都合上、広い範囲を一度に調査することはできなかった。その上、熊本高等工業学校時代からの配管や基礎などが土中に多く埋もれており、とくに支障配管の対処には苦悩した。工事の進捗状況によっては発掘調査を停止せざるを得ない事態も生じ、発掘調査、工事ともに大変な手間と時間を要した。さらに施工予定深度によつては、掘削が現代土内におさまる調査区もあれば、奈良・平安時代あるいは縄文時代の文化層まで調査が必要な調査区もあった。上記の理由により、調査の早い段階で当初予定していた工期内に発掘調査を終えることが困難であることが想定された。そこで大学の施設部と連携をとり、発掘調査および工事の工程を定期的に組み直し、當時、発掘調査員の補充をおこなうことで、複数の調査区を同時に調査しながら、センター発掘担当者が全体を統括した。

発掘調査では従前の調査結果から、古代と近世の調査が主体になると考えられていた。実際、浅い場所では地表下20~30cm程で古代の遺物包含層が検出でき、竪穴建物やピットなど遺構の密度も高かった。しかし、Ⅲ1区において近世および古代の溝の調査中、縄文時代の土器が出土したことで状況が一変した。従来は地山と考えられていた褐色砂層中に縄文土器が含まれることが明確となった。この褐色砂層を掘り下げたところ、出水式や御手洗A式など縄文時代後期前葉を主体とする土器が大量に出土した。従前の調査では明確に把握できていなかった縄文時代後期の遺物包含層を褐色砂層中に認識できたのである。この調査成果を契機に、以後褐色砂層まで施工深度がおよぶ調査区については、本層を人力で掘削し、遺物の取り上げを実施した。こうした事情から、縄文時代の遺物包含層を認識した2014年2月18日以前に調査した施工深度の深い調査区（I1~7区、II1~4区、III5区、IV2~8区、V10区など）については、古代の遺構の調査は実施できたが、縄文時代の遺物包含層を一部破壊してしまった可能性があることを明記しておく。

また、2014年4月にはV11区において新たに重要な成果が上がった。褐色砂層のさらに下位、地表下21m程（標高約17.00m）より縄文時代の人骨が発見されたのである。加えて、同レベルで遺物包含層も確認できた。褐色砂層の下位には砂が硬質化した砂質ブロックが一面に広がっており、従前の熊本市内の調査ではこの下位から文化層が確認された事例はほんなかつた。縄文人骨はこの硬質砂層で覆われ、土坑墓や配石墓に埋葬されていた。発掘調査や工事の進捗に遅れがあったものの、貝塚や洞穴遺跡ではなく、人骨が残りづらい平野部での縄文時代人骨の発見ということもあり、本遺跡は学術的に価値が高く、入念な調査が必要であると考えた。そのため2014年4月28日、調査担当者は本学施設部工事担当者との話し合い後、熊本大学学長、施設ユニット長、広報ユニット長との面談を実施した。この際、遺跡の重要性について本学学長の理解を得て、特別に学長裁量経費を取得し、本遺跡の調査・研究体制を整えた。工事の進捗に影響のないよう、熊本大学文学部歴史学科考古学研究室の院生・学部生を臨時で雇用し、調査に参加してもらった。また、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムの松下孝幸氏とNPO法人・人類学研究機構の松下真実氏に依頼し、縄文人骨について取り上げて調査を実施した。5月27日にはテレビ放送局、新聞社に対してプレスリリースをおこない、5月29日に熊本大学本部で記者会見を開いた。5月31日には現地説明会を実施し、300名を超える見学者が大学内外から訪れた。

1. (黒髪南) ライフライン再生（給水設備等）工事に伴う発掘調査（1310調査地点）

調査はその後も継続し、2015年3月20日で終了した。本発掘調査では縄文時代、奈良・平安時代、近世、近代の遺構・遺物が確認されている。予算や時間の都合から本報告ではこのうち縄文時代に関する調査成果のみを掲載している。奈良・平安時代以降の調査成果については次年度以降の報告書に掲載する予定である。以下、縄文時代に関する調査経過の概要を記す。

- 2013年8月5日 大坪が発掘担当者となり調査開始。I区の重機による表土掘削の立会開始。
- 2013年8月8日 埋蔵文化財保護法第92条を熊本県、熊本市へ提出。発掘調査に切り替わる。
- 2013年8月19日 石橋和久氏・中村幸史郎氏（株式会社九州文化財研究所）が調査に参加開始。
- 2013年9月6日 西谷彰氏（株式会社九州文化財研究所）が調査に参加開始。
- 2013年9月11日 II区の調査開始。
- 2013年10月16日 大坪に代わり山野が発掘担当者となる。
- 2013年10月23日 宮崎敬氏（株式会社有明測量開発社）が調査に参加開始。
- 2013年11月7日 V区の調査開始。
- 2013年11月19日 IV区の調査開始。
- 2013年12月2日 浦辺栄治（当センター発掘調査員）が調査に参加開始。発掘作業員を増加。
- 2013年12月16日 V5区においてヒューム管理土中より「焼夷弾」が出土。
- 2013年12月17日 V5区の焼夷弾の処理のため熊本県北警察署に連絡、対応。
- 2013年12月28日～2014年1月5日 冬期休業。
- 2014年1月6日 調査再開。III区の調査開始。
- 2014年2月19日 III1区の古代の溝の掘削中に、掘方壁面より縄文土器片を数点検出。
- 2014年2月24日 III4区の褐色砂層中より縄文土器出土。
- 2014年2月25日 大学入試前期試験のため調査停止。
- 2014年3月31日 宮緑育夫先生（熊本大学教育学部）來訪。褐色砂層の由来について地質学的意見を頂く。
- 2014年4月1日 水ノ江和同氏（文化庁文化財部記念物課）來訪。遺跡出土縄文土器と遺跡の評価について指導を頂く。
- 島浦健生氏（株式会社有明測量開発社）が調査に参加開始。
- 2014年4月7日 V11区より灰色硬質砂層の直下から縄文土器出土。
- 2014年4月9日 V11区より配石（後のST02）を検出。
- 2014年4月11日 V11区より哺乳類の四肢骨（後のST01）を検出。後に人骨と判明。
- 2014年4月15日 人骨全体の調査のためV11区人骨検出付近に拡張区を設ける。木下尚子センター長（熊本大学文学部）來訪。宮緑育夫先生（熊本大学教育学部）來訪。西谷氏・石橋氏（株式会社九州文化財研究所）來訪。
- 2014年4月16日 小畠弘己先生（熊本大学文学部）、杉井健先生（熊本大学文学部）、熊本大学文学部の学生十数名が現場見学。
- 2014年4月18日 山本耕三先生（熊本大学教育学部）と熊本大学学生約40名が現場見学。
- 2014年4月24日 松下孝幸氏（土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム）、松下真実氏（NPO法人・人類学研究機構）が人骨調査と指導のため來訪。V11区の人骨検出開始。熊本大学文学部考古学研究室学生6名が來訪。
- 2014年4月25日 V11区のST01人骨の取り上げ。杉井健先生（熊本大学文学部）と熊本大学法学

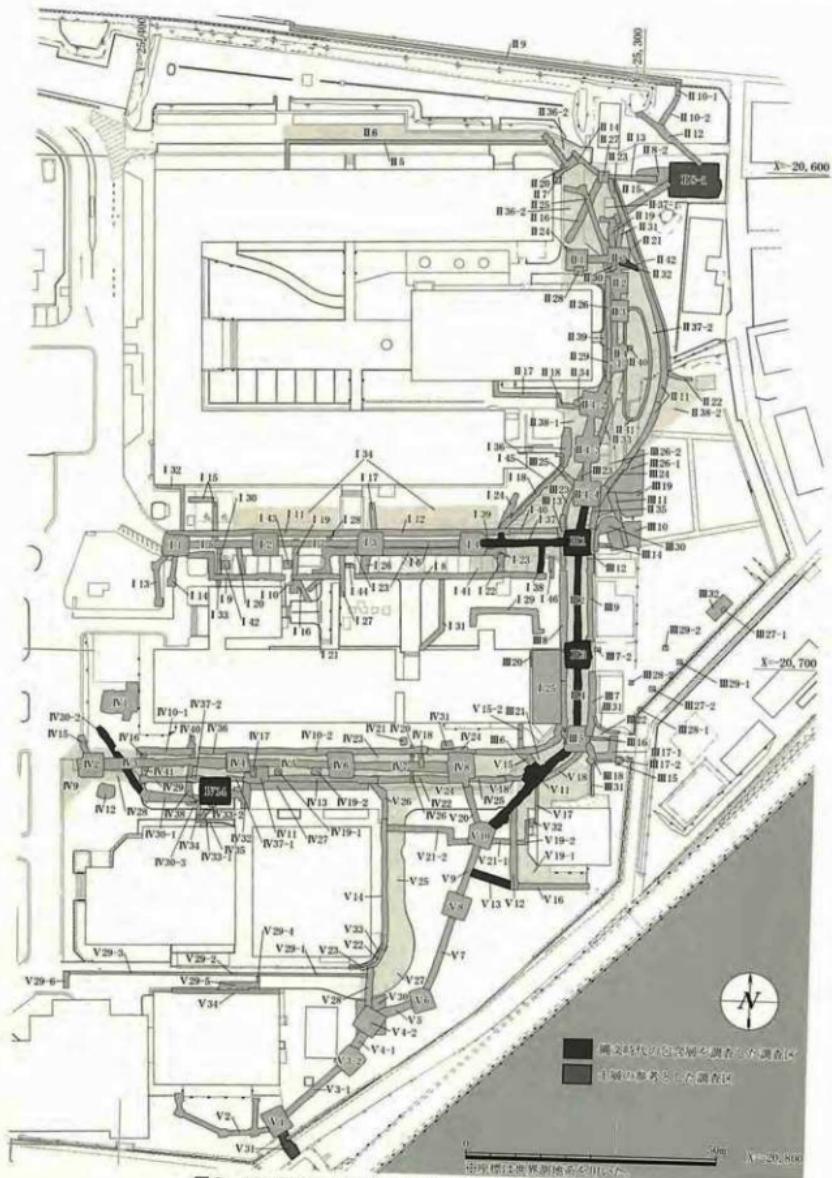


図3 1310調査地点の調査区の位置と名称 (S=1/1,000)

1. (黒髪南) ライフライン再生(給水設備等)工事に伴う発掘調査(1310調査地点)

- 部・文学部・教育学部の学生が現場見学。宮縁育夫先生（熊本大学文学部）と熊本大学教育学部学生5名が来訪、現地見学。
- 2014年4月28日 縄文人骨の調査、研究、広報について谷口功熊本大学学長との面談。
- 2014年4月30日 岡本真也氏（熊本県教育庁文化課）来訪、熊本市内の土層に関する知見を頂く。
- 2014年5月2日 熊本大学学長との面談。学長裁量経費の獲得。
- 2014年5月8日 山田文彦先生・鳥井真之先生（熊本大学減災型社会システム実践研究教育センター）が調査現場に来訪。
- 2014年5月12日 熊本大学文学部歴史学科学生5名が調査に参加。
- 2014年5月13日 松田博貴先生・鳥井真之先生（熊本大学減災型社会システム実践研究教育センター）が調査現場に来訪。土壤の分析について話し合いを実施。
- 2014年5月14日 本学学長との面談。調査・分析成果について説明。
- 2014年5月24日 水ノ江和同氏（文化庁文化財部記念物課）来訪。縄文土器の指導と現地視察。
- 2014年5月27日 村崎孝宏氏・宮崎敬士氏（熊本県教育庁文化課）、西住欣一郎氏・網田龍生氏（熊本市文化振興課）、熊本大学施設部担当者で人骨の保存と設計変更に関する話し合いを実施。縄文土器と人骨発見に関するプレスリリースを提出。
- 2014年5月28日 松下孝幸氏（土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム）との松下真実氏（NPO法人・人類学研究機構）が来訪、人骨調査と指導。
- 2014年5月29日 記者会見開催。ST02人骨検出。
- 2014年5月30日 凸版印刷株式会社による配石墓と人骨の三次元計測を実施。
- 2014年5月31日 現地説明会を開催。甲元眞之先生（熊本大学文学部名誉教授）が来訪。ST02人骨取り上げ。
- 2014年6月4日 三好栄太郎氏（熊本市文化振興課）が来訪、現地見学。土層に関する知見を頂く。
- 2014年6月5日 山崎純男氏（高麗大学校考古環境研究所）、杉村彰一氏（肥後考古学会）、松本博幸氏（天草氏教育委員会）、長谷義隆氏（元熊本大学理学部教授）が来訪、縄文土器実見と現地見学。山崎純男氏より遺跡の堆積過程と縄文土器に関する知見を頂く。
- 2014年6月23日 前日の大雨により調査区一部冠水。復旧作業。
- 2014年6月6日 I 37区の縄文時代遺物包含層掘削開始。
- 2014年6月30日 横田光智（株式会社有明測量開発社）が調査に参加開始。
- 2014年7月16日 V 11区の調査終了。ST02配石墓およびST03の養生。
- 2014年8月12日 IV 14区の縄文時代遺物包含層掘削開始。IV 14区の褐色砂層から縄文時代遺物が検出された。
- 2014年8月29日 IV 14区の黒褐色砂層から縄文時代遺物が検出された。
- 2014年10月15日 IV 14区の黒褐色砂層より下位、地表下約3mのオリーブ黑色粘質砂層から縄文時代の遺物が検出。
- 2014年10月27日 IV 14区の調査終了。
- 2013年12月26日～2014年1月4日 冬期休業。
- 2014年1月7日 調査再開。以後、別調査地点と並行して本調査地点の調査を継続。
- 2015年3月20日 全調査終了。

③ 調査の組織

調査員：山野ケンヤ次郎・大坪志子・浦辺栄治・柴田亮（熊本大学埋蔵文化財調査センター）

：石橋和久・中村幸史郎・西谷彰（株式会社九州文化財研究所）

：宮崎拓・島浦健生・横田光智・米村大・種浦加代子（株式会社有明測量開発社）

事務担当：大崎喜美子（2013・2014年度発掘調査時）・濱田春美（2017～2019年度整理作業時）

発掘作業員：石倉武夫・石村義則・今村明美・押方富江・岡本敬裕・片桐徹・川元恵子・栗崎強・栗崎信行・後藤まや・椎葉仁美・柴田道子・白石美枝子・白石美智子・岡田輝夫・高瀬正志・西村和幸・野田昇・早田咲百合・番山明子・藤本龍三・堀川民夫・堀部和憲・松井昭子・松下義章・松永一代・松本晋治・三島多恵子・水本美恵子・宮田義則・村上親敏・森清・森川征子・森川護・森本紀代子・森本清子・吉永孝夫・米光司朗

：入江由真・岡田有矢・黄訛民・津田裕美・秦翔平・宮崎大和・與嶽友紀也（以上7名は熊本大学文学部歴史学科考古学研究室）

整理作業員：稻本奈津紀・井上裕美・江口路・鬼塚美枝・小山正子・後藤恵・首藤優子・末吉美紀・岡田智子・増井弘子

（2）調査区の基本層序

本調査地点では、南北270m、東西180mの広い範囲に幅の狭い調査区が密集しており、舗装も含めた掘削の総面積は約5251.7m²である。このうち縄文時代の遺物包含層を掘削した調査区はI 37・38区、III 1～4区、IV 14区、IV 30-2区、V 11・13区で、総面積は約198m²である。現在、調査地周辺には理学部に隣接する建物が立っており、調査区はこの建物間の道路や駐車場、緑地として利用されていたため、過去に大型構造物が建設されておらず、遺構の残りは良好であった。ただし、部分的には既設管や共同溝により破壊を受けている状況が見られた。また、白川右岸により近いV区の多くは近代の瓦やガラスを含む現代盛土が1m以上厚く堆積している状況が確認されている。縄文時代の遺物包含層の調査成果に加え、より陸側にあたるII 32区と、白川右岸に近いV 31区の土層等とも比較を実施したところ、図4の通り基本層序を把握することができた。土層の由来や比較については、現地における土層の比較だけでなく、遺物の内容や、遺跡現地や現代の白川洪水砂をサンプリングし、その土壤をデジタルマイクロスコープで観察した結果も反映させている（本書pp.90～99）。発掘調査では各調査区で取り上げ層名を付していたが、整理作業中にこれを精査し、以下の1～13層の基本土層を設定した（図4）。報告書中の土層断面実測図では上位から下位に向けて通し番号を付したが、その他の文章、図面、表、写真図版の層名は基本土層に対応している。

調査指導・協力者：岡本真也（熊本県教育府文化課、2019年3月現在：歴史公園鞠智城・温故創生館）、小畠弘己（熊本大学文学部）、甲元眞之（熊本大学名誉教授）、芝原次郎（奈良文化財研究所）、遠入楓太（熊本大学教育学部）、島井真之（熊本大学減災型社会システム実践研究教育センター）、松下孝幸（土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム）、松下真実（N P O 法人・人類学研究機構）、松田博貴（熊本大学理学部）、水ノ江和同（文化庁文化財部記念物課、2019年3月現在：同志社大学文学部）、官綠育夫（熊本大学教育学部、2019年3月現在：熊本大学大学院先端科学研究所）、三好榮太郎（熊本市教育委員会）、山崎純男（高麗大学校考古環境研究所）（敬称略、五十音順）

1層 表土、現代盛土、碎石、アスファルト。

2層 (灰白色砂層)

昭和28年6月28日の白川大水害によって堆積した砂層。砂質細かく、しまり弱く、粘り気はない。細かい平行葉理が認められる。遺物はほとんど含まないが、まれにガラスや陶磁器が出土する。調査地点の南側、白川により近い範囲でのみ検出される。本発掘調査では重機によって掘削した。

3層 (暗褐色土層)

近世・近代の遺物包含層。しまりやや強く、粘り気は少ない。暗褐色土を主体とし、炭化物小片や土器由来の褐色粒子、1~5cm程の小礫が含まれる。近代の遺物は少量で、近世の遺物が多く出土する傾向がある。調査地点のほぼ全域に堆積しているが、近代に削平されている箇所もあり、本層が堆積しない調査区も認められる。本発掘調査では、しまりが強いより上位の土を重機掘削し、しまりの弱い下位の土については一部を人力で掘削し、遺物を取り上げた。

4層 (黒褐色土層)

古代の遺物包含層。しまりは3層に比べて弱く、粘り気はややある。黒褐色土を主体とし、炭化物小片や土器由来の褐色粒子、1~5cm程の小礫を少量含む。調査地点のほぼ全域に堆積するが、より南側では近代に削平されて堆積が薄いか、堆積しない調査区もある。本発掘調査では本層の下位からは全て人力掘削によって遺物の取り上げをおこなった。本層上面で近世あるいは近代の溝、敷石、煉瓦基礎などの遺構を検出している。

5層 (褐色砂層)

縄文時代後期の遺物を含む。調査によって縄文時代後期前葉以降に堆積した、いわゆる白川の「自然堤防」の上層に相当することが分かった。褐色砂を主体とし、最上位には黒褐色土が植物根由来の貫入を見せる。しまりはよく、粘り気はほぼない。混ざり気は少なく、小礫や炭化物小片などはほぼ認められない。本層上面では古代の遺構を検出することができる。従前の調査では本層上面で縄文時代後期の土器が見つかることがあったが、基本的には地山として捉えられており、本発掘調査でもⅢ1区において縄文時代の遺物が本層に含まれることが判明するまでは掘削しておらず、調査を実施できていない。褐色砂層は下位に向かって漸移的に色調が変化しており、やや赤みが強い上層(5a層:赤褐色砂層)と、やや緑がかるかオリーブ色に近い色調の下層(5b層:緑褐色砂層)に分層できる。Ⅲ2区やV11区では、両層の境目に砂質ブロックが部分的に入り込むか、あるいは水平かつ面的に堆積することがあった。ただし、次の6層の堆積状況と比べると薄く、貫入も多い。またこれら砂質ブロックに6層のように明瞭な平行葉理はほぼ認められなかった。褐色砂層は調査地点の南側(I区東側、Ⅲ~V区)には厚く堆積しているが、Ⅱ区の北側には堆積しない状況が確認された。本発掘調査ではⅢ1区での発掘調査以後、施工深度が深い調査区について調査対象としている。縄文時代後期土器を主体とし、石器や土製品が出土している。

6層 (灰色硬質砂層)

無遺物層である。調査によって縄文時代後期前葉に堆積した白川の自然堤防の一部にあたると分かった。灰色砂を主体とし、断面には平行葉理が見られ、灰黒砂粒子と黄褐色砂粒子とで細かい単位の互層を形成することが多い。しまりは非常に強く、粘りはない。砂が硬質化し一つの層を形成しており、厚い場所では70~80cm程の堆積が認められるが、部分的に植物根あるいは水性由来と思われる貫入が認められる。Ⅲ2区南側より白川側にのみ堆積しており、V11・13・31区では明確に層として確認できたが、最も深い調査区であるIV14区では薄く堆積するのみであった。河岸段丘の凹部に白川の水が冠水し、一度に砂が堆積したと考えられる(本書:pp.92~95)。本層直下で縄文

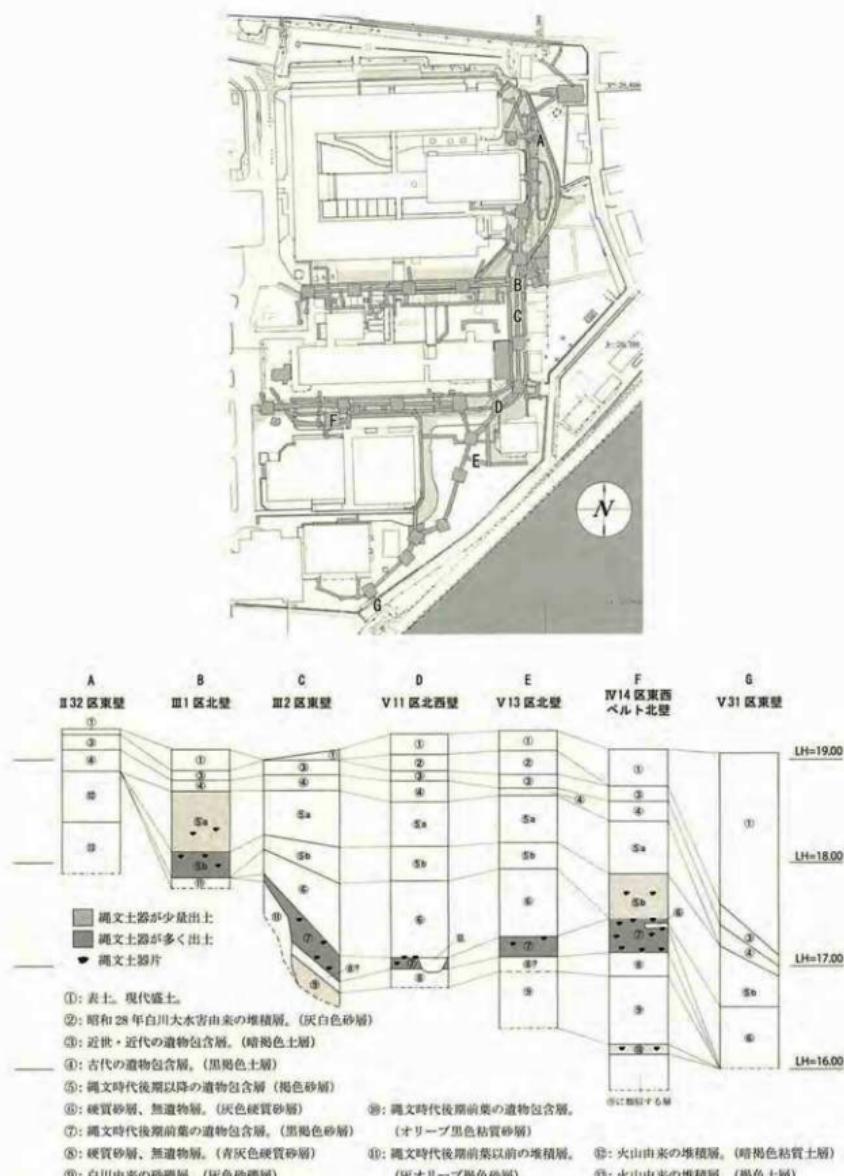


図4 1310調査地点基本土層模式図 (S=1/50)

(①～⑬は1～13層に対応、地区によって間層を挟む)

時代後期前葉の土器が出土する7層と、縄文時代の墓と人骨が検出された。

7層（黒褐色砂層）

縄文時代後期前葉の遺物包含層である。しまりはやや強く、粘性は弱いが全くの砂質ではない。黒褐色砂を主体とし、1cm程の白粒、炭化物小片を含み、部分的に砂質ブロックが混じる。V11区では本層上面を掘りこむ形で土坑墓や配石墓が検出された。検出深度が地表下2m程（標高約17m）と深く、本調査地点ではⅢ2、IV14区、V11区、V13区で確認、調査されている。V11区7層で検出した炭化物の放射性炭素年代測定結果は 3690 ± 30 BPであった（本書：pp.90～91）。

8層（青灰色硬質砂層）

7層直下に堆積する無遺物層である。全体的にしまりは強いが、最下部は風化しており、しまりが弱い。粘性はほぼない。青灰色砂とオリーブ色砂の互層が平行葉理を形成することがある。IV14区とV11区において7層の下に堆積していた。

9層（灰色砂礫層）

ほぼ無遺物層だが、まれに縄文時代後期前葉の遺物が出土する。しまりは弱く、乾燥すると表面がサラサラと崩れる。灰色砂と橙色の5cm程以下の軽石や円礫によって構成され、砂粒の大きさや、礫の密度によって細かい分層が可能である。IV14区では本層下位にあたる10層から縄文時代後期前葉らしき土器が出土していることや、10cmに満たない円礫が砂に混じることから、縄文時代後期前葉頃の白川の洪水に由来するか、あるいは一次的に本流や支流の川底となり堆積した砂礫層の可能性が高い（本書：pp.92～99）。類似する層をIV14区で10層の下位に検出している。

10層（オリーブ黒色粘質砂層）

縄文時代後期前葉の遺物が少量含まれる。オリーブ黒色の砂を主体とし褐色の粘質砂が沈着するよう混じる。しまりはやや弱く、やや粘性を持つ。検出面の深度が地表下約3m（標高15.7m～16.4m）と深く、本発掘調査ではIV14区でのみ掘り下げと遺物の取り上げを実施した。

11層（灰オリーブ褐色砂層）

無遺物層。しまり強く、粘性は弱い。灰オリーブと褐色の堅い砂質土が縞状に積み重なって堆積した層である。色調や砂質ブロックの割合で分層が可能で、確認できていないだけで12層との間にいくつもの間層があると思われる。Ⅲ2区では白川の洪水由来と考えられる9層によって本層が削られていることが確認でき、縄文時代後期以前に白川右岸の河岸段丘の一面を形成していた自然堤防だが、白川右岸に近い場所では川の増水などで削平されたと考えられる。I37区で一部深く掘下げたが、本調査地点では本層より下位から遺物は検出されなかった。

12層（暗褐色粘質土）

無遺物層。火山灰由来と考えられる堆積層である。しまりは並で、粘性はやや強い。暗褐色土を基本とし、上位は4層の黒褐色土の貫入がみられ、下位では13層の褐色土と混じる。II区の北側では古代の遺物包含層である4層の直下に本層が堆積しており、本層上面で古代の遺構が検出できる。従前の構内の調査では本層と5層（褐色砂層）とが地山として認知され、別の堆積層として認識されてこなかった。本調査と報告書中の分析により5層とは構成物が大きく異なり、バブルウォール型火山ガラスを多く含むことから、より下位の堆積層であることが判明した（本書：pp.95～99）。II区の北東端にあたるII8-1区で本層を広い範囲で掘り下げたが、遺物は出土しなかった。

13層（褐色土）

無遺物層。火山灰由来と考えられる堆積層。しまりが強く、粘性はややあり、削るとザクザクとした感触がある。褐色土を主とし、赤褐色粒や軽石が混じる。II区北側では地表下80cm程で検出され

る。砂粒の観察によりバブルウォール型火山ガラスを多量に含むことが分かった（本書：pp.95～99）。熊本大学構内遺跡ではこの層より下位に遺物が出土した例はない。本調査でも掘削は実施していない。

（3）土器の分類（図5）

本報告書では縄文時代の遺構、遺物に関する報告をおこなった。遺物は大きく土器、石器、土製品に分けられる。発掘調査では土器について2cmに満たない小破片を除き、可能な限り測量機器による点上げを実施し、出土位置情報を記録した。小破片や位置が大きく動いた遺物については各層位一括で取り上げた。また調査終了後、各調査区の遺物を精査し、搅乱や古代包含層（4層）や古代遺構埋土中から縄文土器と石器を抽出した。さらに土器片の接合に充分な時間を費やし、可能な限り口縁部から胴部にかけての復元をおこなった。報告書では土器の口縁部が残存している資料の中で文様が施された資料を優先して掲載し、次に無文の口縁部や底部破片を報告している。ただし土器の胴部片については有文の資料を除き、10cmを超える大型の破片も掲載はしなかった。また、実測図化しなかった文様を持つ小破片については図版の最後にまとめて写真を掲載しているので参考にされたい。

出土遺物の中で土器の数量が最も多く、各層に様々な器種、器形や文様、調整を施した土器が認められる。出土土器を整理するにあたり、本報告書中の分類を試みた。分類にあたり文様を主とし、口縁部形態、壁面調整、器種などの属性を用いた。例に上げた土器型式は、「西日本の縄文土器－後期－」（千葉編2010）や『総覧縄文土器』（小林久雄編2008）などを参照とした。土器分類について以下に内容をまとめることとする。

I類

波状口縁や平口縁の深鉢を主体とし、口縁はやや外反しながら立ち上がるか、文様施文部がわずかに厚みを持って緩く外反する。頸部にくびれを持つものが多い。口縁部付近の施文によってI a類とI b類の2種類に細分した。I a類は口縁部から胴部上半にかけての横位、縦位、斜位の沈線による文様を主体とする。加えて口唇部に刻目や刺突文を施すものも若干存在する。I b類は口縁部付近への連続刺突文あるいは刻目突帯文を指標とする。I a類と異なり沈線文がほぼ認められない特徴がある。両者とも口縁部から底部までの接合資料は存在しないが、出土状況や胎土から推測するに底部形態はくびれた平底が主体とみられる。II b類には、まれに浅鉢あるいは皿のごとき器種も存在する。一般的に縄文時代後期前葉の出水式土器と呼ばれる土器群に相当する。

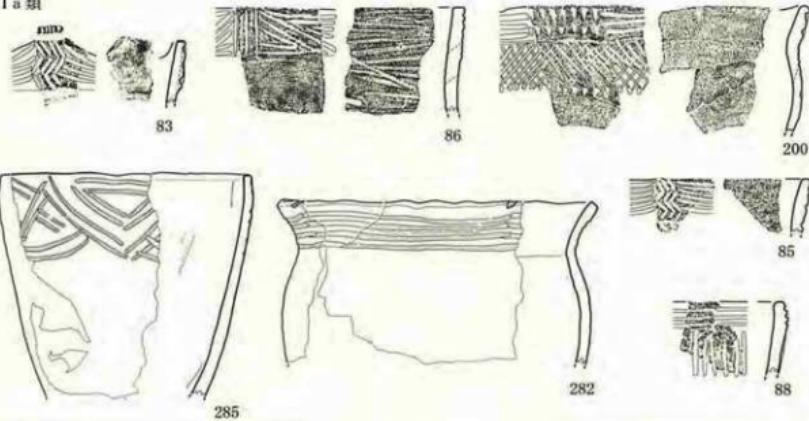
II類

波状口縁の深鉢を主体とし、口縁部はバケツ状に広がるか、やや内湾ぎみに立ち上がる。口縁部の上位に連続刺突文あるいは横位の沈線文、やや間をあけて下位に刻目突帯文を施し、波頂部では両文様を繋ぐように縦位または斜位に刻目突帯文あるいは沈線文が伸びる。I類との大きな違いは波頂部の内面にも連続刺突文が施される点にある。また、波頂部の口唇部へ刻目や刺突文を施す資料も散見される。出土状況や胎土の共通性から底部はくびれた平底と想定される。一般的に御手洗A式古段階と呼ばれる土器群の深鉢に相当する。

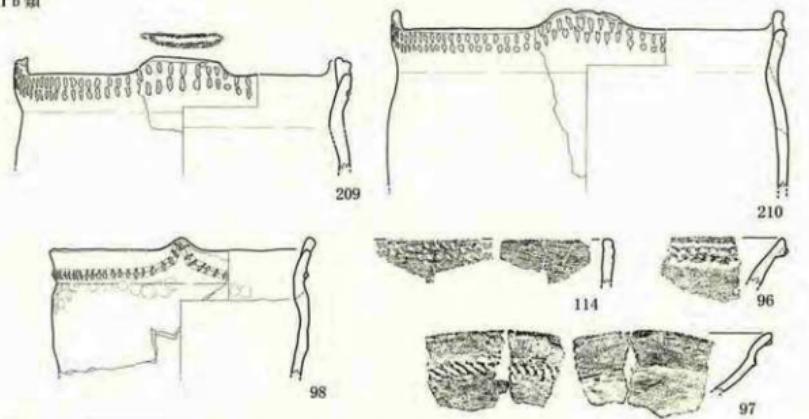
III類

波状口縁の鉢を主体とする。頸部にくびれを持ち、文様施文部である口縁が厚みを以て外反する例と、くびれを持たず口縁部に向けて広く立ち上がる器種形態がある。口縁部では、波頂部に深く施した円文あるいは焼成前穿孔を中心として対向弧文と沈線文が両側へ展開しており、その周囲に縄文が施される。胴部から底部にかけては沈線による鉤手入組文で区画され、その内外に縄文を充填

I a 類



I b 類



II 類

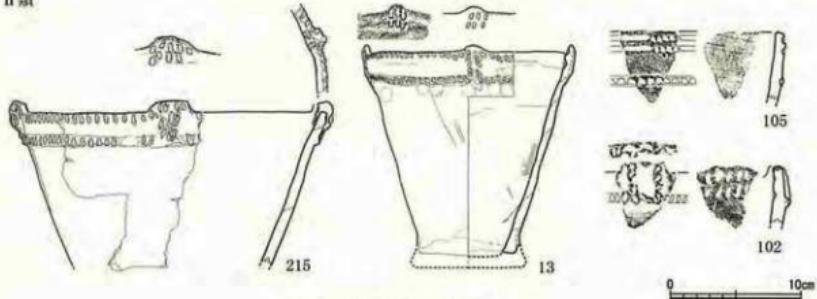


図5 土器分類図1 (S=1/4)
(※数字は報告書の遺物番号を示す)

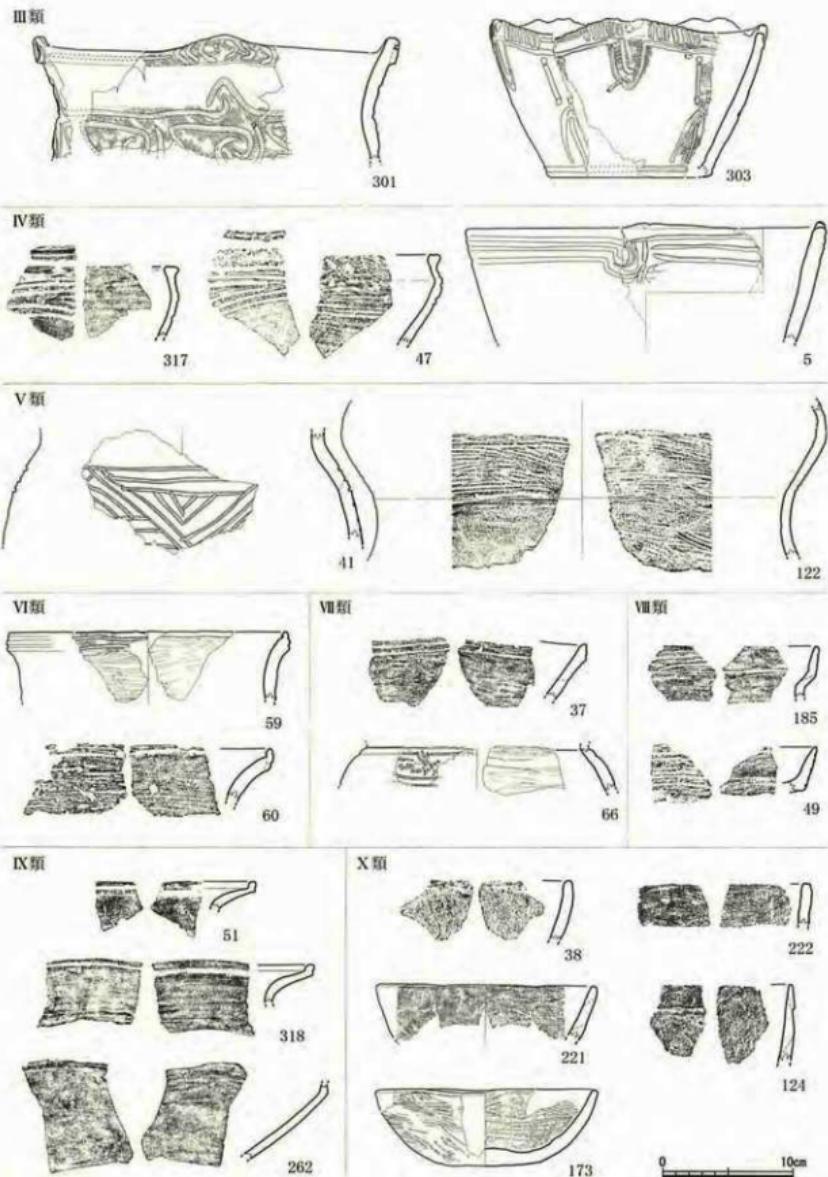


図6 土器分類図2 (S=1/4)
(番号は報告書の遺物番号を示す)

している。底部は平底か、やや丸みをおびた平底と思われる。器壁調整として丁寧な磨きが施されるものや、文様区画内に赤色顔料が付着するものも散見できる。一般的に御手洗A式古段階の鉢、あるいは小池原下層式などと呼ばれる土器群に相当する。

IV類

平口縁、あるいはやや弱い波頂部を有する鉢または深鉢を主体とする。口縁部が厚みをもってL字状に屈曲し、頭部にくびれを持つものと持たないものがある。頭部より下位は沈線によって渦巻文や鉤手状文が施され、縄文を持つ例は少ない。口唇部上面には沈線文が1、2条走るか、刻目文と組み合わさるものがある。底部形態は判然としない。一般的に鐘崎式、中九州では御手洗B式と呼ばれる土器群に相当する。

V類

深鉢を主体とする。頭部に大きなくびれを持ち、口縁部に向かって内湾しながら立ち上がる。口縁部あるいは胴部外面に沈線による文様か、貝殻条痕による粗い調整が施される。一般的に北久根山第二型式と呼ばれる土器群の深鉢に相当する。

VI類

出土資料が少なく、全体形は不明だが、頭部から口縁部に向けて朝顔の花状に強く外反することを特徴とする。VII類と異なり、口唇部がやや内側に屈曲する。口縁部には縄文と横位2条の沈線が巡り、凹点文が施される例がある。器壁は基本的には磨きによって調整されている。一般的に辛川II式と呼ばれる土器群か。

VII類

出土資料が少なく、全体形は不明だが、口縁部が広く外反することを特徴とする。VI類とは口縁部が直線的に広がる点と、口縁部に沈線文が2条施されるのみである点で異なる。本遺跡での接合資料はないが、接合すると思われる胴部は丸みを帯び、沈線文によって区画され、内側に散雜な刺突文が施されることがある。一般的に太郎迫式と呼ばれる土器群に相当すると思われる。

VIII類

出土資料が少なく、全体形は不明だが、口縁部は「く」の字状に強く立ち上がる。口縁部には横位沈線文が3~5条程施される。古闕I式と呼ばれる一群の深鉢に相当すると思われる。

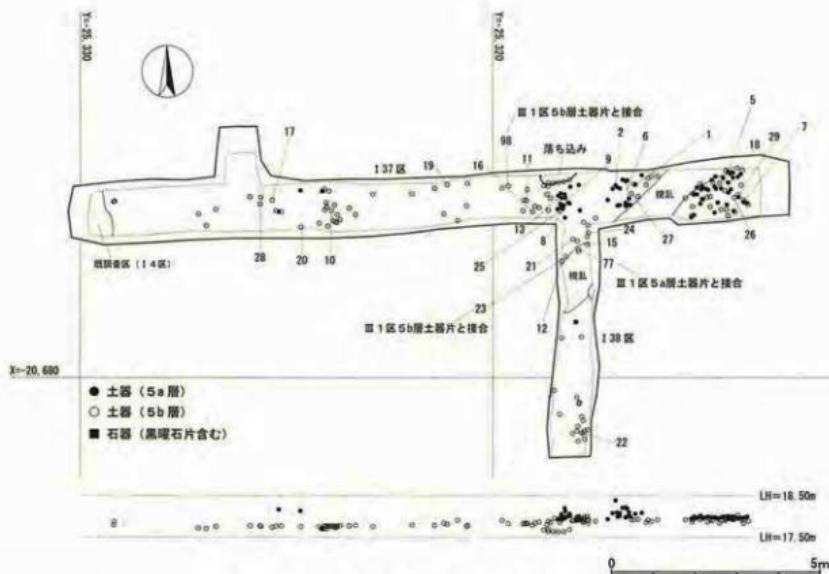
IX類

頭部から口縁部にかけて強く外反する鉢である。垂直に立ち上がる口縁部外面に1条の沈線が施される。器壁が他の土器と比べて薄く、胎土も精緻である。器面は磨きによって丁寧に調整されている。天城式あるいは古闕I式と呼ばれる一群の浅鉢と思われる。

X類

文様を施さない無文の一群について分類した。器種は深鉢や浅鉢、皿があり、口縁部形態は外反するもの、直立するもの、やや内湾するもの、肥厚するものなど様々である。

また、発掘調査では検出した石材を可能な限り現地で座標データを記録し、その後、整理作業において石器か否かの同定をおこなっている。石器として、黒曜石や安山岩を用いた石鎚や石鎚未成品、黒曜石製の搔器や石鋸、安山岩を主体とした敲石、磨石、打製石斧、石匙、搔器、石皿、台石や安山岩、蛇紋岩を用いた磨製石斧、砂岩製の砥石がある。調査では黒曜石剥片も少量ながら得られたため、接合作業を実施したが接合しなかった。また、土製品として土器片転用錘が出土している。



1. (黒髪南) ライフライン再生（給水設備等）工事に伴う発掘調査（1310調査地点）

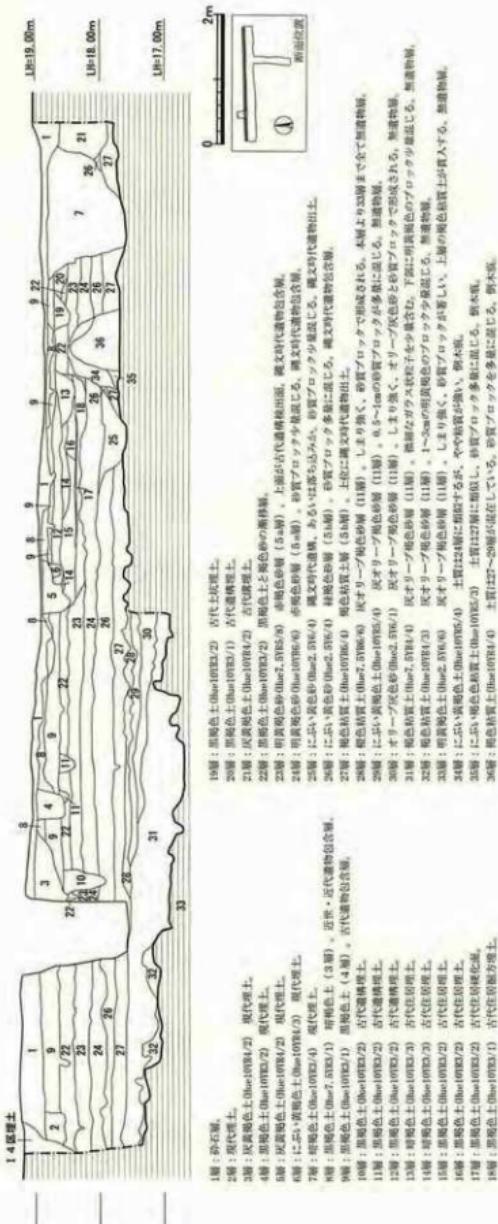


图 8 I 37区非晶断面(S=1/80)

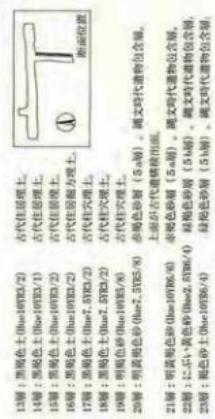


図9 138区車臂土留断面 (S=1/80)

I 37・38区の遺物出土状況（図7～9）

I 37区は東西17.5m、南北1.5mの幅狭い調査区を主体とし、調査区西端から3.5mの位置で北側に1.1×1.2mの調査区が付随する。I 38区はI 37区西端から4.6mの東の位置で南へ伸びる東西0.8m、南北5.6mの調査区である。土層は上から、表土、近世近代の遺物包含層である3層（暗褐色土層）、古代の遺物包含層である4層（黒褐色土層）の順に堆積しており、4層の下に漸移層をはさんで5層（褐色砂層）が堆積していた。古代の竪穴建物、ピットなどの遺構は4・5層の漸移層上面で検出している（図8-22）。両調査区は西に隣接するI 4区、東に隣接するIII 1区の浸透井戸および南北のU字排水溝を接続する工事に伴う。そのため施工深度が深く、一部5層について掘り下げる必要があり、古代の遺構の調査終了後、5層の掘削を実施した。

I 37区では5層を赤みの強い5a層と緑がかかった5b層とに分層し、掘削と遺物の取り上げを実施した。5a層では標高18.0～18.4mでIII 1区により近い調査区東側、東西4.5mの範囲に土器が集中して出土しており、西側では分布が希薄であった。一方、5b層では東側に分布が集中するものの、西側でも散発的に出土している。垂直分布をみると、標高17.7～18.0mの高さで東から西に向かってやや傾斜する堆積状況が確認できた。また、I 37区東端から約5mの位置では、北壁にかかるように幅1m程の落ち込みが確認できた（図7、図8-25層）。本落ち込みから出土した土器は調査区全体の垂直分布からするとややレベルが下がっている。調査区にわずかにかかる程度であったため、その性格を明確にできなかったが、竪穴建物の端部である可能性も考慮する必要があるだろう。I 38区では古代の竪穴建物によって5a層がほぼ削平されており、5b層の掘削が主体となった。I 38区と接する北側と、南端に一部土器の集中が認められたが、中央部では土器の分布が希薄である。両区の土器片の接合状況を確認したところ、6（以下報告書番号）や10、13など直径1m程の範囲内で同一層の土器が接合するほか、23や77など5m以上離れた隣の調査区とも接合する例があった。5b層のさらに下位には11層（灰オリーブ黒色粘質砂層）が堆積しており、色調と砂質ブロックの割合で分層が可能だった（図8-28～33層）。I 37区では5b層の掘削後、確認のため調査区西側を地表下2.4m（標高約16.7m）まで深掘りし、縄文時代遺物の有無を確かめたが、遺物は1点も出土しなかった。よって、I 37区東側は5b層を完掘したところで調査を終了している。

I 37・38区の出土遺物（図10～12）

1～9は5a層の出土土器である。1はII類の波頂部で、口唇部と波頂部内面に刺突文が施されている。口縁部のやや下には刻目突帯文が張り巡らされる。波頂部では刻目突帯文が逆三角形に展開している。2・3はI b類またはII類の口縁部片で、口縁部上端に刺突文が横位に1、2条走る。4はIV類の胴部片で、胴部外面に沈線によって文様が施される。器面は磨きによって調整されている。5はIV類の粗製の鉢である。口縁の一部がわずかに突出した波状口縁で、波頂部口唇部には刻目文が入る。口縁部上半には3条の沈線が巡り、波頂部直下では鉤手文となる。6～9は縄文土器の底部片で、いずれも底部がくびれている。8・9は6・7に比べてやや器壁がやや薄く、6・8は底部に木葉痕がある。7は8～15mmの細かい単位の楕円状の凹みが底部面に見られ、鯨椎骨の圧痕かと思われる。

10～32は5b層の出土遺物である。10はI 37区の西側でまとめて出土したI a類の深鉢口縁部である。器壁がひどく風化しているものの、口縁部全体の約1/3が残存しており、復元したところ口径が24.7cm程度であった。二股に分かれた波頂部を持ち、口唇部には刻目文が施される。また、断続的な横位3条の沈線が口縁部文様帶に巡る。施文部である口縁部帶はやや肥厚している。11はI b類の深鉢口縁部片で、口縁部外面に刻目突帯文が横位に1条巡る。文様や胎土、口縁部形態からIII 1区5b層出土の98と同一個体と考えられる（図22-98）。12はII類の深鉢胴部片で、口縁部に向かってバ

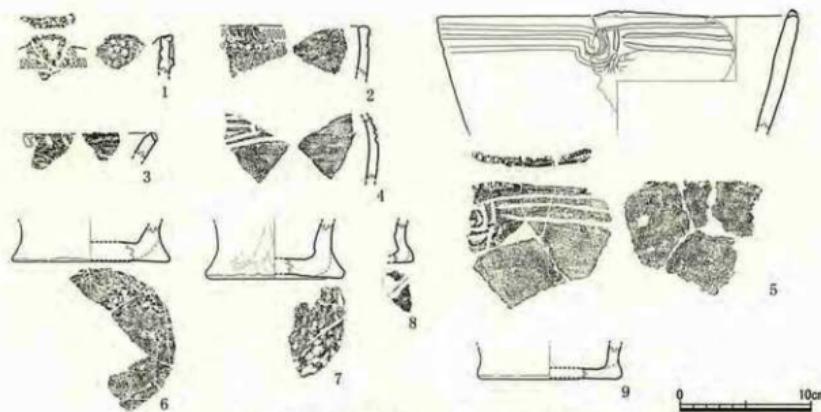


図10 I 37・38区 5a 層出土土器実測図 (S=1/4)

ケツ状に広がる。胴部上半には刻目突帯文が横位に1条走る。13は本調査地点で最も良く全体形を復元できたII類の深鉢で、I 37区の5b層と落ち込み部から出土した土器片の接合資料である。土器全体の約半分が接合するため、波頂部が4単位分あることが分かる。全形はバケツ状で口縁部は傾斜を持ちながら直線的に広がる。口縁部の上端に刺突文が横位に1条巡り、やや間をあけてこれと並行する刻目突帯文が下位に1条施される。波頂部では刻目突帯文が縦位に1条伸びるが、横位の刻目と異なり、突帯の両端部を押さえつけるように刻目が施される。また波頂部の内面にはII類の特徴の一つである刺突文が施される。条痕で器壁を整えた痕に指ナデで調整しているが、横位の刻目突帯文の上下には指オサエの痕跡が残る。底部内面には指オサエの痕跡が、外側には削りによる器壁調整の痕が認められる。底部の最下部が欠落していたが、器壁下部がやや広がることから、くびれた平底であると推定できる。14～16はI b類あるいはII類の口縁部片である。口縁部端へ横位に1、2条の刺突文が走る。17～21はX類の口縁部片である。いずれも無文だが、17・18は口縁部がやや外側に広がるのに対し、21はやや内傾する。19は口縁部の広がり方から浅鉢の可能性がある。22～29は縄文土器の底片である。22～27・29はくびれた平底で、底部に木葉痕または細かい単位の凹みが認められる。28は中空の脚台で、周縁に2条の四点文が並ぶ。四点文の凹みには白色泥らしきものが充填されていた。類似例が京都大学が1920年に調査した出水貝塚に認められる。30は土器の破片を再利用した土器片転用錘である。土器片を厚さ7mm程の扁平な直方体に研磨整形し、両短辺に1条の抉りを施している。後述するIV14区では数点が一定の範囲に集中して出土しており、抉りに紐を緊縛し、錘として使用したと考えられる。31は安山岩製の小型の石匙である。細かい剥離調整により刃部を設け、把手部との境では剥離によって深い抉りを作る。32は安山岩製の石皿である。表面中心部が窪み、周辺には敲打痕が認められる。側面部には直径約3cmの顯著な磨痕が確認できている。

33～40はI 37・38区の擾乱、4層、古代造構埋土からの出土遺物である。33はII類の深鉢胴部片である。刻目突帯文が横位に1条走る。34はII類の深鉢口縁部片である。口縁部上端に細かい爪形文状の刺突文が横位に1条巡り、その下位に刻目突帯文が横位に1条巡る。35はI b類あるいはII類で、口縁部上端に刺突文が横位に1条巡る。36はIV類の鉢口縁部片である。口唇部に2条の沈線と、口縁



図11 I 37・38区 5 b 層出土遺物実測図 (S=1/2・1/4・1/5)

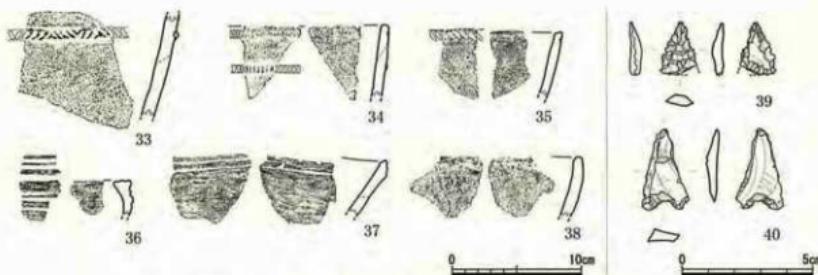


図12 I 37・38区出土土器・石器実測図 (S=1/2・1/4)
(I 37区擾乱: 35 I 37区4層: 37 I 37区古代遺構埋土: 35・38・39 I 38区擾乱: 33・36・40)

部に横位3条の沈線が並行に走り、凸面には刻目が入る。表面は黒色で磨かれている。37はV類の波状口縁の口縁部片である。口縁部外面に横位に2条の沈線が施され、器面全体が磨かれている。38はX類の口縁部片である。39は黒曜石製の石鋸である。全体形は略二等辺三角形で、縁辺部を鋸歯状に剥離調整している。40は黒曜石製の石鎌未製品である。基部には剥離による深い抉りが入るが、縁辺部には剥離調整の痕跡が認められない。

I 区の出土遺物 (図13)

I 区では I 37・38区以外の5層(褐色砂層)以下の遺物包含層の掘削は実施できなかった。41~58はI区の各調査区の擾乱、3・4層、古代遺構埋土中から出土した繩文土器、石器である。41~43はI 23区の4層から出土したV類の土器片で、出土した位置も近く、胎土や文様から同一個体と考えられる。頸部径が22cm程の大型の深鉢で、頸部で強くくびれ、口縁部と胴部で球形状に膨らむ。口縁部から胴部に対して横位と斜位の沈線を組み合わせた幾何学的文様が施されている。44はI a類の口縁部片で、横位に5~6条の細かい沈線が走る。45は口縁部から頭部片と思われ、沈線によって曲線的文様が施される。やや土器胎土の色調が明褐色と明るく、他の土器片と異なる。46はI a類の波頂部片である。2~4条の沈線が波頂部に沿って並行に伸びている。47はIV類の口縁部片である。口唇部に沈線文が1条走り、頸部屈曲部から胴部にかけて沈線による鉤手文が施される。口縁部内外面は摩滅しているが、頸部より下位は磨きで調整されている。48は口径の復元径が19.6cmのX類の鉢口縁部片である。頸部にくびれを持ち、最大径は胴部上半にある。全体に横位の貝殻条痕の痕跡が明瞭に残る。49・50はV類の口縁部片である。口縁部下位が「く」の字に屈曲しており、口縁部には3~5条の横位の沈線が走る。50は表面が磨きにより調整されている。51はIX類の浅鉢の口縁部片である。わずかに直立した口縁部外面に1条の沈線文が施される。器面は磨きによって調整されている。52~53はX類の口縁部片である。52は口縁部が朝顔形に開き、内外面が磨かれている。53は条痕の痕跡が内外面に残る。54は磨製石斧の刃部片である。小破片だが刃部は蛤刃状であったと推測できる。全面に顯著な線状の研磨痕跡が認められる。55は安山岩製の搔器である。全体形は半円形の端部につまみ状の突起が付随する。表面は自然面、裏面は全体が剥離面で、転石の剥片を剥離整形していることが分かる。両面からの細かい打割による剥離調整によって刃部を形成している。56は安山岩製の敲石である。やや扁平の球形を呈し、端部に散発的な敲打痕が認められる。57は黒曜石製の搔器である。端部へ片面からの細かい剥離によって刃部を成形している。58は黒曜石製の小型の搔器として取り上げたが、刃部の加工は明確でない。単なる剥片である可能性もある。

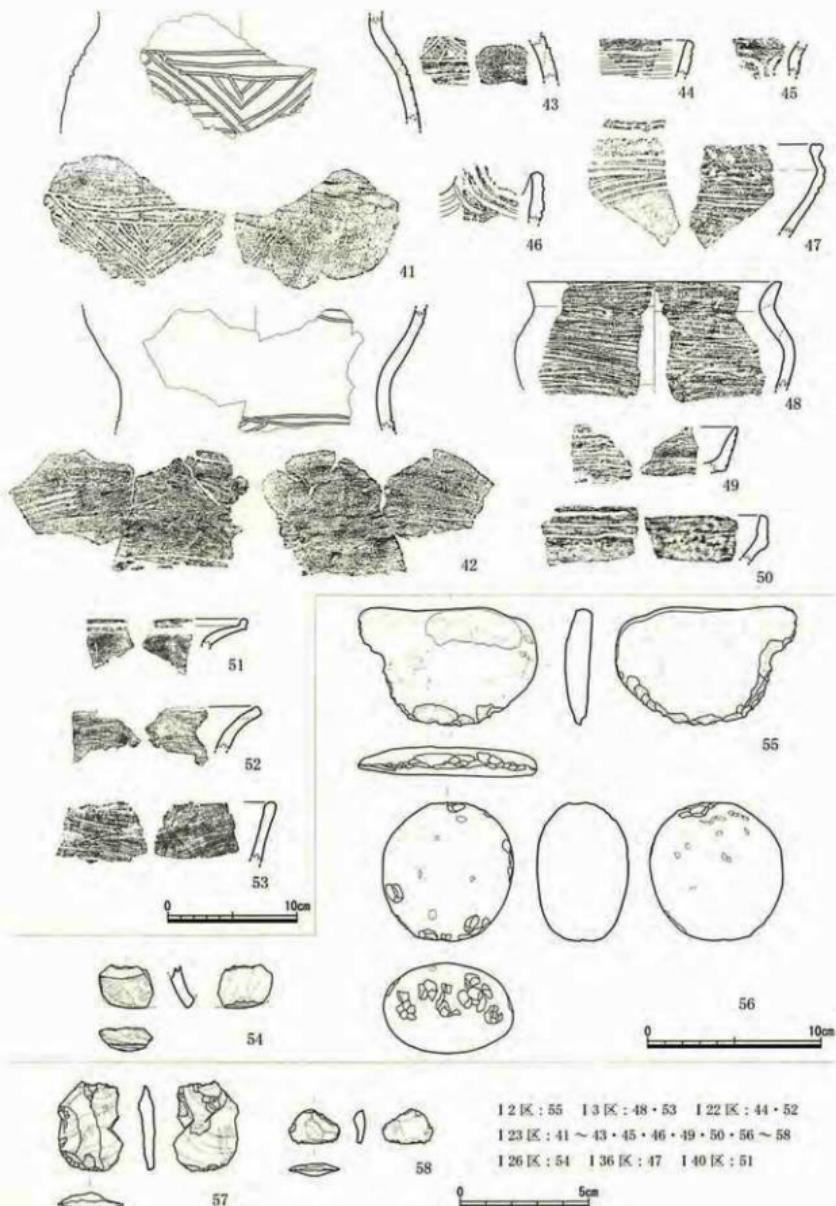


図13 I区出土遺物実測図 (S=1/2・1/3・1/4)

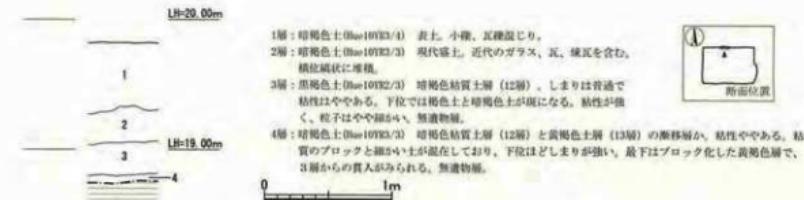
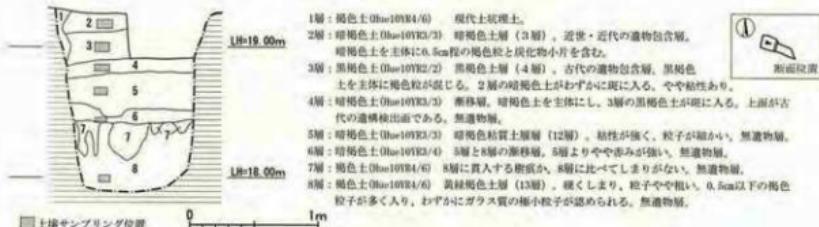


図14 II 8-1区北壁土層断面図 (S=1/40)



(2) II区

II区は理学部1・2号館、自然科学研究科、理学部総合研究実験棟の東、北側に位置し、南北約102m、東西約87mの範囲に相当する。多くが幅約1~15mの狭い水道、ガス配管施工に関連するもので、他にU字側溝、浸透井戸、検水槽などの施工に係るものなど計51区ある(図3)。本調査区は1310調査地点の中で最も白川から離れた位置にあり、調査地点の北にそびえる立田山により近い。そのため、地表面も標高19.3~19.8m程と他の調査区に比べると数十cm高くなっている。

II区の土層堆積状況(図14・15)

II区の北東端に位置するII 8-1区とII 32区の東壁で土層断面を確認し、I・III区と比較することで基本土層を確認した(図14・15)。基本土層として1層(表土)の下に部分的あるいは全面に近世近代の遺物包含層である3層(暗褐色土層)が、その下に古代の遺物包含層である4層(黒褐色土層)が堆積している。しかし、4層以下の堆積状況はI・III~V区の調査区と大きく異なる。I・III区では古代の遺物包含層である4層を掘り下げるとき構造面である5層(褐色砂層)が一面に検出されたが、II区北半では5層が認められず、代わりに12層(暗褐色粘質土層)が4層の直下に堆積している状況が確認できた。古代の遺構の検出もII区北半ではこの12層の上面でおこなった。II 8-1区では12層を人力で全面掘削したが、縄文時代の遺物は出土しなかった。また、12層の下に堆積する13層は本調査地点で掘削はおこなわなかったが、土層壁面に遺物も確認されておらず、従前の調査でも遺物の出土事例がない。このことから今回の調査結果では12・13層は無遺物層であると結論付けた。後の分析で12層と13層は火山灰に由来するバブルウォール型火山ガラスが構成物の大半を占めており、これがほとんど認められない5層(褐色砂層)とは全く異なる土層であることが判明した(本書: pp.95~99)。ただし、II 4-2区付近では5層(褐色砂層)が確認できているため、理学部2号館の東あたりから南方向の白川右岸にかけては5層が広く堆積していると考えられる。

浸透井戸に関連する施工深度の深いII 1~4区については、III 1区における縄文時代の遺物包含層

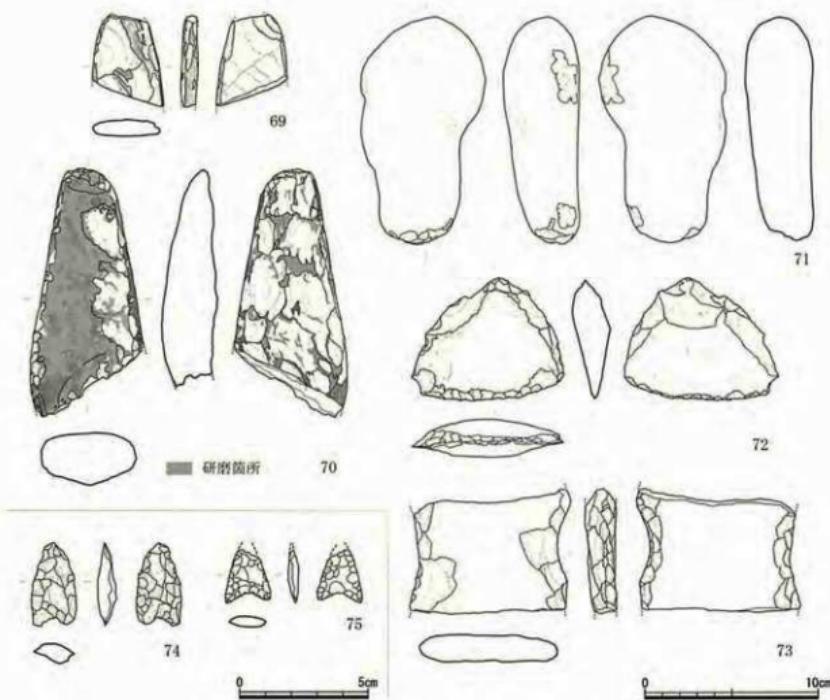
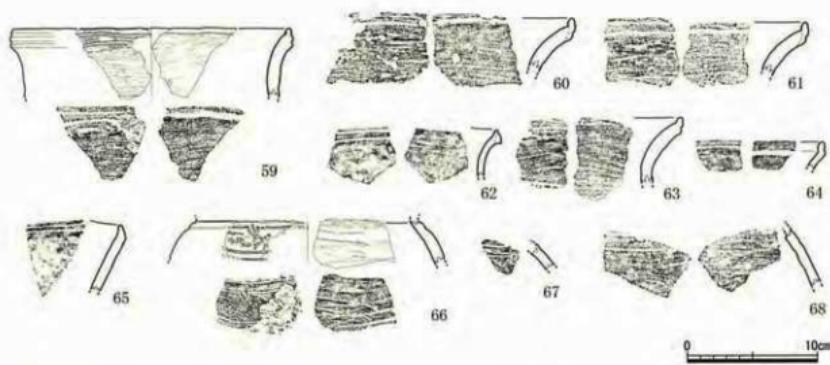


図16 II区出土遺物実測図 (S=1/2・1/3・1/4)
 II 1区4層: 73 II 2区4層: 59・60・67 II 2区古代遺構埋土: 70 II 3区4層: 71 II 4-2区古代遺構埋土: 64
 II 4-4区古代遺構埋土: 72 II 11区4層: 61・62・68・69 II 15区4層: 65 II 21区4層: 66 II 37-2区4層: 63

1. (黒髪南) ライフライン再生(給水設備等)工事に伴う発掘調査(1310調査地点)

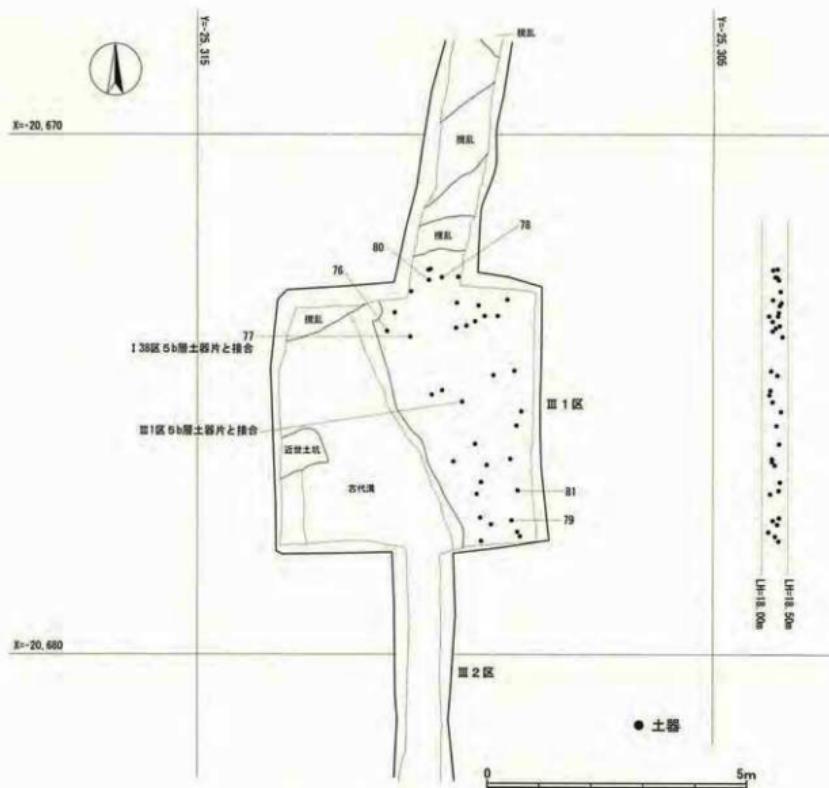


図17 III 1区 5a 層遺物出土状況図 (S=1/100)

発見以前に調査が終了しており、工事側に受け渡している。よってII区南半の5層中(褐色砂層)に縄文時代の遺物包含層があった可能性も捨てきれない。実際、II区の4層や古代造構埋土中からは後述するように縄文時代の遺物が出土している。また、II区に隣接する黒髪南地区9810調査地点でも、4層や古代造構埋土中から縄文時代後期～晩期初頭の土器の出土報告がある。注目すべきはII区の出遺物の多くが、本調査の他の調査区で数多く出土したI、II類土器をほぼ含まない点である。ある時期の縄文時代集落の範囲を示している可能性もあり、その理由の解明は課題の一つである。

II区の出土遺物(図16)

59～75はII区の4層や古代造構埋土からの出土遺物である。59～63はVI類の口縁部片である。いずれも口縁部文様帶に横位に2条の沈線と縄文が施されている。このうち60は口縁部に凹点文が刻まれている。64はIX類の口縁部片である。口縁部外面に沈線が横位に1条走る。65はVII類の口縁部片である。口縁部外面に横位2条の沈線が施される。66・67はVII類の胴部片である。胴部上半が沈線によって区画され、区内が刺突文によって充填される。68はVI類と思われる胴部片である。胴部外面に横

位に2条の沈線が施され、内側に縄文が施されている。破片上部端には凹点文の痕跡がある。

69は4層から出土した安山岩製の磨製石斧の基部である。打削によって扁平に整形した後に粗く研磨が施されている。70は古代遺構埋土中から出土した蛇紋岩製の磨製石斧である。使用によって刃部が大きく欠けている。全体を打削によって粗く整形した後、研磨によって入念に仕上げているが、表面に比べて裏面は剥離面の凹部のため研磨が充分に行き届いていない。71は安山岩製の敲石である。川原石を利用しており、短辺と長辺側の弱い突出部に敲打の痕跡が認められる。72は安山岩製の搔器である。平面形態は二等辺三角形状を呈し、この長辺の一辺に細かい剥離調整によって刃部が設けられている。73は安山岩製の打製石斧の半次品である。両面は摩耗した自然面であり、扁平な自然石の縁辺部を打削し、両辺中央には抉りを設けている。74は・75は安山岩製の石鎌である。いずれも四基式で、刃部には細かい剥離調整が認められる。

③ III区

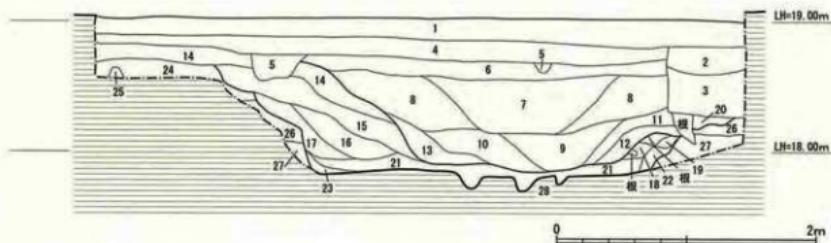
III区は、理学部2号館の南東から理学部4号館の東側の緑地や道路部分、南北約71m、東西約51mの範囲に相当する。調査区は幅1~1.5mの水道・ガス配管に連なる施工の他に、ゴミ置き場設置、低木植栽、電柱、U字型溝、浸透井戸、アスファルト舗装などの施工に係る計41区である（図3）。このうちIII 1~4区は、浸透井戸とこれを繋ぐ雨水管の施工に係る調査区であり、施工深度が深いことから縄文時代の遺跡の発見の契機となった。しかし、施工深度の深いIII 1~5区のうち、縄文時代遺物の発見以前にすでに調査を終えていたIII 5区は古代の遺構の調査に留まっている。また、III 3・4区は、III 2区で7層の検出以前に工事側に受け渡してしまったため、5b層までで調査を終えている。

III 1区の遺物出土状況（図17~20）

III 1区は東西約5.3m、南北約5.2mの方形の調査区で、北方向へ南北約4.5m、幅1.3mの調査区が付随する（図17）。基本土層として表土、近世・近代の遺物包含層である3層（暗褐色土層）、古代の遺物包含層である4層（黒褐色土層）が堆積しており、その下に5層（褐色砂層）が堆積する。III 1区には調査区西側に4層上面で近世の溝が検出できた（図18）。溝は古代の遺構面でも検出でき、近世の溝は古代の溝を一部切る形で設けられていたことが分かった。この古代の溝埋土の掘削前、溝の掘方にあたる5層（褐色砂層）中に縄文土器が食い込んだ状態で出土した（図18~26・27層）。熊本大学構内遺跡黒髪南地区の従前の調査では、本層は基本的に遺物の出土しない地山として捉えられてきた。ただし、これまで白川右岸の9911調査地点と0938調査地点において褐色砂層中から縄文土器が得られた例があった（小畠・大坪編2011、大坪編2014）。その調査成果を鑑みて、担当者はIII 1区の5層について全体を掘り下げるとした。すると5層の中でもやや赤みがかった5a層（赤褐色砂層）から少量の縄文土器が出土した（図17、図19~8・9）。またその下に堆積するやや緑がかかった5b層（緑褐色砂層）からは大量の縄文土器と少量の石器や土製品が全面に出土したのである（図19~10・11、図20）。この調査区の成果を契機として以降は、施工深度の深い調査区のうち5層の掘削が必要な調査区については全て掘削を実施し、縄文時代の遺物を取り上げている。

III 1区の5a層では小コンテナ1箱分ほどの縄文土器が出土した。調査区全体に散発的な分布を示しており、出土レベルは標高18.1~18.4mの中にはぼおさまる（図17）。一方、5b層では大コンテナ3箱分ほどの縄文土器と石器、土製品が出土した。遺物を上下2回に分けて取り上げており、5b層上位では調査区の中央から南よりに出土していたが、5b層下位では北側にも広く分布し、特に調査区中央部や北側に集中を見せた（図20）。出土レベルは標高約17.8~18.2mで、標高18.0mに最も土器が集中しており、5b層の下に堆積する11層（灰オーリーブ褐色砂層）に近づくにつれて遺物が減少

1. (黒髪南) ライフライン再生(給水設備等)工事に伴う発掘調査(1310調査地点)



- 1層：表土、砂石。
2・3層：現代耕埋土。
4層：暗褐色土 (Hue10YR3/3) 暗褐色土層 (3層)。近世・近代の遺物包含層。
5層：暗褐色土 (Hue10YR3/4) 近世以降の土坑埋土。4層より色調やや明るい。
6層：暗褐色土 (Hue10YR3/3) 近世溝埋土。炭小片、褐色粒子が混じる。
7層：暗褐色土 (Hue10YR3/3) 近世溝埋土。炭小片、褐色粒子が混じる。
8層：暗褐色土 (Hue10YR3/3) 近世溝埋土。褐色ブロック小片混じる。
9層：暗褐色土 (Hue10YR3/3) 近世溝埋土。炭小片、褐色粒子が多量に混じる。
10層：暗褐色土 (Hue10YR3/3) 近世溝埋土。炭小片、褐色粒子がごく少量混じる。
11層：暗褐色土 (Hue10YR2/3) 近世溝埋土。炭小片、褐色粒子が少量混じる。
12層：暗褐色土 (Hue10YR2/3) 近世溝埋土。暗褐色土を主体に褐色粒が混じる。陶器器や鉄釘が出土。
13層：暗褐色土 (Hue10YR2/3) 近世溝埋土。暗褐色土を主体に褐色粒と赤褐色粒が混じる。
14層：黒褐色土 (Hue10YR2/2) 黒褐色土層 (4層)。古代の遺物包含層。黒褐色土を主体に暗褐色土が斑に入る。
15層：暗褐色土 (Hue10YR2/2) 古代の遺物包含層。暗褐色土と炭小片が混じる。
16層：暗褐色土 (Hue10YR2/2) 古代の遺物包含層。下位に褐色粒が混じる。
17層：黒褐色土 (Hue10YR2/3) 古代の遺物包含層。黒褐色土を主体に褐色土が斑に入る。
18層：暗褐色土 (Hue10YR2/4) 古代の遺物包含層。暗褐色土を主体に褐色ブロックが入る。
19層：暗褐色土 (Hue10YR2/4) 古代の遺物包含層。褐色ブロックが主体である。
20層：暗褐色土 (Hue10YR2/4) 古代の遺物包含層。褐色と暗褐色土が斑に混じる。
21層：暗褐色土 (Hue10YR2/3) 古代の遺物包含層。炭小片の供献層である。
22層：暗褐色土 (Hue10YR2/3) 古代の遺物包含層。褐色粒子が混じる。27層由来のブロック少底入る。
23層：暗褐色土 (Hue10YR2/3) 古代の遺物包含層。褐色土と暗褐色土が斑に混じる。
24層：黒褐色土 (Hue10YR2/2) 古代住居埋土。褐色土と黒褐色土が斑に混じる。
25層：暗褐色土 (Hue10YR2/3) 古代住居カマド跡。白く、粘質強め。
26層：褐色砂 (Hue10YR4/6) 赤褐色砂層 (5a層)。わずかに黒褐色土が斑に入る。绳文時代の遺物包含層。
27層：にじいろ 黃褐色土 (Hue10YR4/3) 緑褐色砂層 (5b層)。26層よりやや緑色がかった色調。混じりが少ない。绳文時代の遺物包含層。
28層：褐色土 (Hue10YR4/4) 戻オリーブ褐色砂層 (11層)。上面は上層からの貢人により凹凸が若しい。無遺物層。

図18 III 1区近世・古代溝東西ベルト北壁土層断面図 (S=1/400)

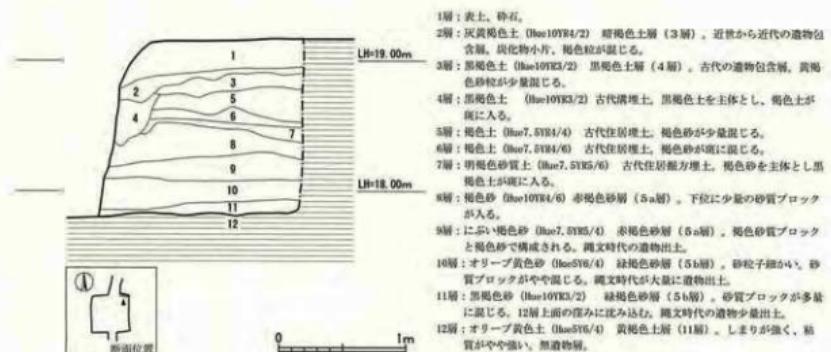
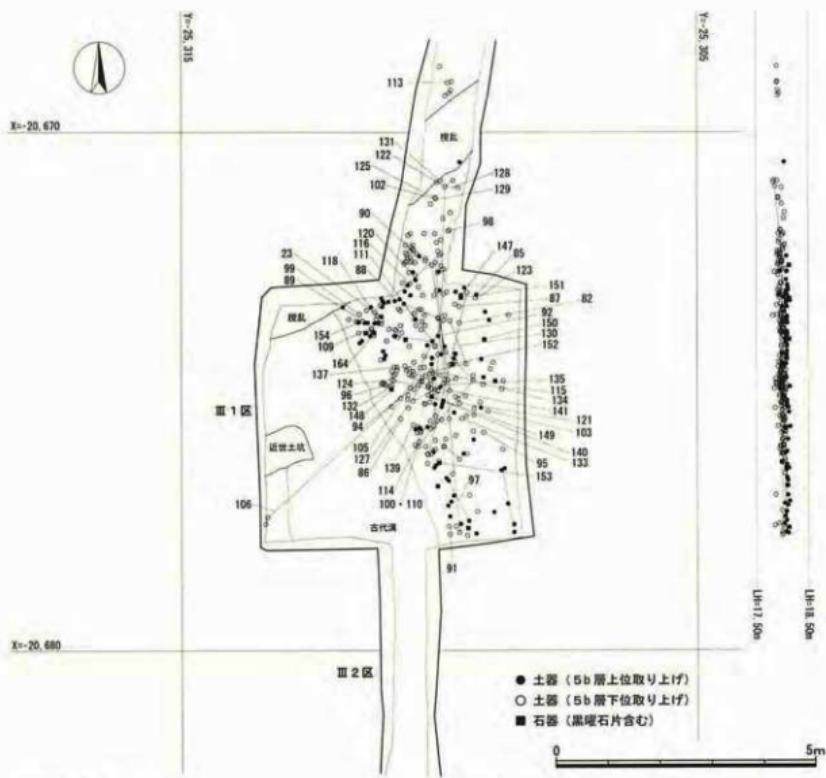


図19 III 1区北壁東側土層断面図 (S=1/40)



土器の接合状況のみ



図20 III 1区 5b層遺物出土状況図 (S=1/100)

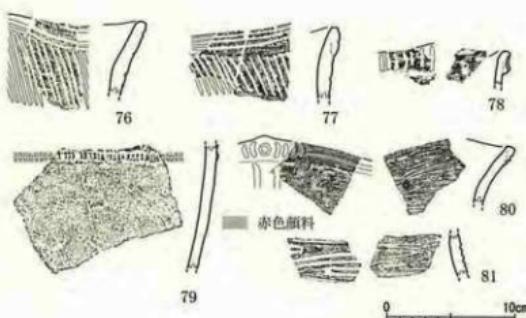


図21 III 1区 5a層出土土器実測図 (S=1/4)

響で流されて集積したのではなく、使用後の道具を人為的に廃棄した状況であると想定できる。また本調査区では土器、石器、土製品が出土したが、骨などの動物遺体は検出されなかった。

III 1区の出土遺物 (図21~26)

76~81は、5a層から出土した土器の口縁部および胴部である(図21)。76、77はIa類の波状口縁の口縁部片である。口縁部上端に沿うように横位に3条の沈線が走り、その下に斜位の沈線が連続して施されている。77は口縁部上端がやや肥厚し、そこに横位沈線文が巡る。78はIa類の口縁部片である。肥厚した口縁部に綫位の短沈線文を連続的に施している。接合はしなかったが、5b層の84と同一個体と思われる。79はII類の胴部片である。胴部に刻目突帯文が1条巡る大型の深鉢である。80はIII類の口縁部片である。やや肥厚した口縁部上端へ繩文を施し、波頂部に向けて横位1条の沈線文と連続した弧文が並ぶ。頸部には綫位の沈線の端部が見受けられる。口線上端施文部には赤色顔料が付着している。81はIV類の頸部片である。頸部外面に沈線によって鉤手文が施される。

82~98は、5b層から出土したI類の土器である(図22)。82~94はIa類の深鉢または鉢の口縁部片である。82~84は口縁部の一部が突出した波状口縁である。82は口唇部に刻目文を施し、口縁部上位に斜位の沈線を、下位に横位2条の沈線を施し文様を構成する。83は波頂部口唇部に刻目文を入れ、中央では斜位の短沈線により綫杉文が施される。その両端に口縁部と平行するよう横位の沈線文が複数走る。84は肥厚した口縁部に綫位の短沈線文が施されている。85~93は平口縁である。85は短沈線により綫杉文が施され、その端に横位の沈線文が巡っており、文様構成が83と類似する。86はやや厚みを帯びた口縁部に綫位と斜位の沈線による文様が施されている。内面には明瞭に貝殻条痕が残る。87も86と類似した構成の沈線文を持つ。88は口縁部上端に横位の沈線文、下に綫位の沈線文が施されている。89~91は口縁部に横位の沈線が数条巡る。92、93は口縁部に斜位の沈線が連続して施されている。94は口縁下部から頸部にかけての破片で斜位の沈線が連続して施されている。95は口縁部に横位の1条の沈線が走る。96~98はIb類の口縁部片である。96・97は口縁部が広く開いており、鉢あるいは浅鉢と推測される。96は口縁部上端や下に1条の刻目突帯文が走る。97は口縁部と胴部の境に刻目突帯文が走る。また口縁部の一部が注口のように広がる部分があるが明確でない。98は1あるいは2単位の波状口縁を持つ深鉢である。口縁部は広がっており、頸部がややくびれ、内面には稜線を持つ。口縁部から波頂部に沿って横位1条の刻目突帯文が走る。刻目突帯文の下位にあたる頸

していく傾向があった。これはI 37区の出土状況ともよく似ている。土器の接合状況をみると、調査区内のごく狭い範囲で接合する資料もあるが、5m以上離れたI 37・38区の5b層と接合する資料もある。遠い位置ではIII 2区7層出土土器と接合する例もあった。ただし、土器はいずれも摩耗がほとんど認められず、10cmを超えるような大型土器片も多いことから、水の影響

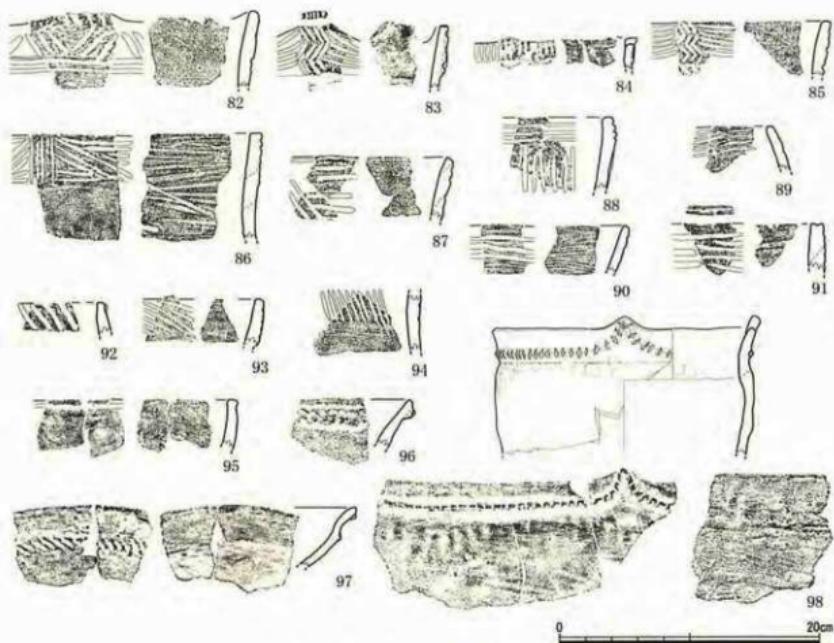


図22 III 1区5b層出土土器実測図1 (S=1/4)

部付近には指サエの痕跡が明瞭に残る。99~109は5b層から出土したⅡ類の口縁部である(図23)。99~103は口縁部の一部が突出する波状口縁である。波頂部の口唇部と口縁部内面に刺突文が施されることを大きな特徴とする。また、口縁部上端には刺突文が施され、やや空白をはさみ刻目突帯文が1条施されている。波頂部ではこの刻目突帯文が縱位あるいは斜位に上方へ向かって2条ないし1条伸びている。波頂部の形状は様々で101や103のように三角形状のもの、99や102のように台形状に立ち上がるも、100のように二股に分かれるもの等がある。103は胴部に回転穿孔によって孔が設けられている。104~109は平口縁の破片である。いずれの土器も口縁部に刺突文、その下に刻目突帯文を有する。104は刺突文を斜位に2条施してV字状の文様を持つ。105は口縁部上端に刺突文と横位2条の沈線文とを組み合わせている。106はⅡ類の大型の深鉢である。口縁部の残りが少なかったが、胴部で口径復元を試みたところ、直径37.2cmの大型品であったことが分かった。本資料は口縁部上端に平行して2条の沈線が走り、その下にやや間をおいて刻目突帯文が施されている。105の例などから、口縁部上端には刺突文が施されたことがあった可能性もある。109はⅡ類の波状口縁の一部と思われる。口縁部上端への刺突文と刻目突帯文とが並ぶ。110~114はIb類あるいはⅡ類の口縁部と思われる。115~118はⅢ類の口縁部あるいは胴部片である。115は口縁部から口唇部にかけて縄文を施した後、対向弧文と円文、沈線文を施している。また、対向弧文の中央には回転穿孔が設けられ、文様の展開が口唇部と対応している。116は胴部片で、向きは不明確だったが図化した。縄文と沈線文



図23 III 1区 5 b層出土土器実測図2 (S=1/4)

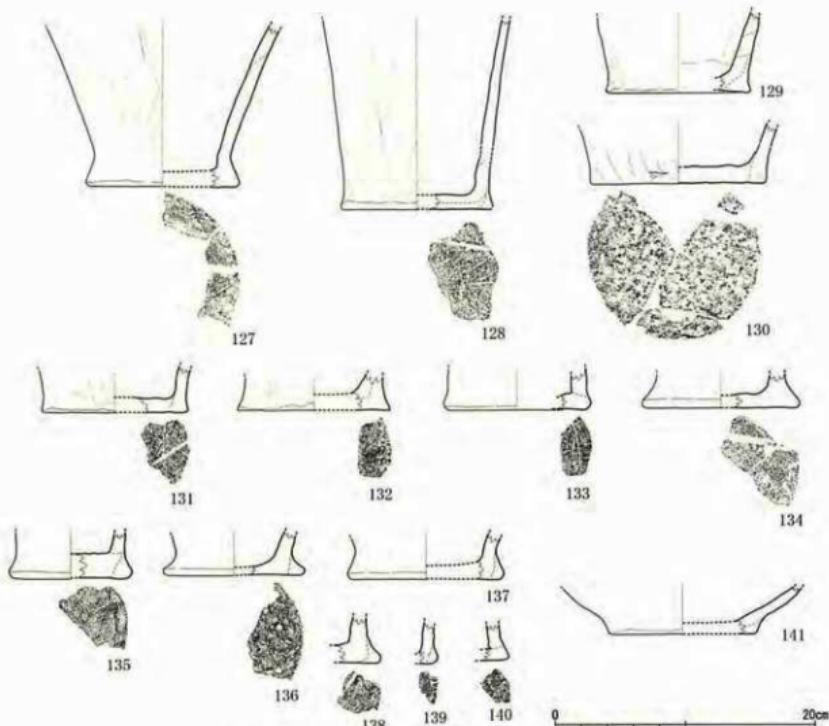


図24 III 1区 5b層出土土器実測図3 (S=1/4)

が施されている。117・118も沈線文によって文様区画され、その内側に縄文が施されている。119～121、123～126はX類の口縁部片である。122はV類の口縁部～胴部片である。口縁部と思われる上部と内面全体に貝殻条痕が明瞭に残る。194～141は縄文土器の底部破片である(図24)。そのほとんどがくびれた平底で、底部外面には木葉痕や鯨椎骨の圧痕らしきものが見受けられる。141は鉢あるいは浅鉢の底部で、全体が磨かれている。

142～146は土器片転用錘である(図25)。土器の破片を長方形あるいは隅丸方形に粗く研磨整形し、その各辺に線刻状の抉りを設けている。この抉りを用いて紐などで繋ぎ、漁網錘など錘として使用したと考えられる。147～149は安山岩製の敲石である。いずれも河原で採れるような摩耗した自然石を使用しており、小口部分に敲打痕が残る。150は安山岩製の石錘である。扁平な隅丸台形の自然石の小口部分を打削して抉りを設けている。151は砂岩製の砥石である。全体形は不明だが、剥離した部分も含めて多面的に使用しており、一部自然の凹凸面が残る。152は黒曜石の剥片である。153・154は黒曜石の搔器である。いずれも良質な黒曜石を使用し、扁平な形状に整え、線辺部に連続的な剥離調整によって刃部を設けている。164は蛇紋岩製の磨製石斧の刃部である(図26～164)。線状痕

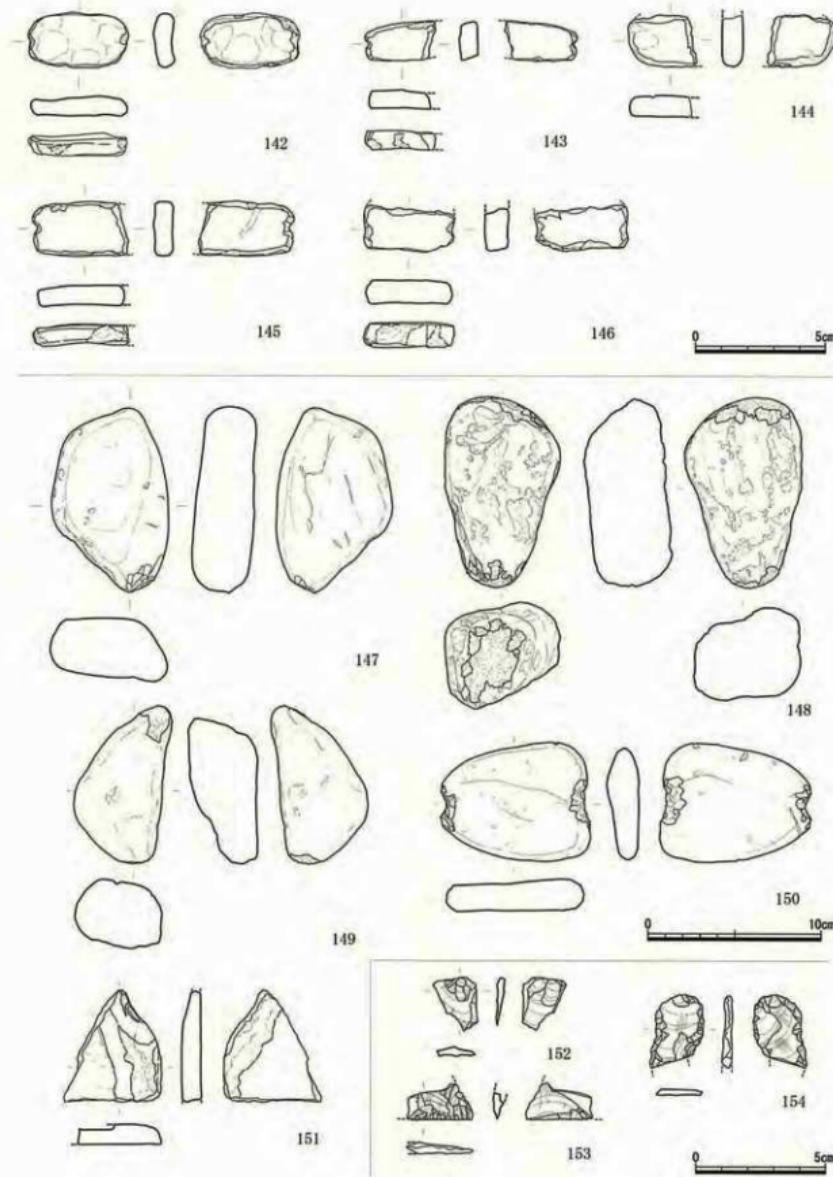


図25 III 1区 5b層出土土製品・石器実測図 (S=1/2・1/3)

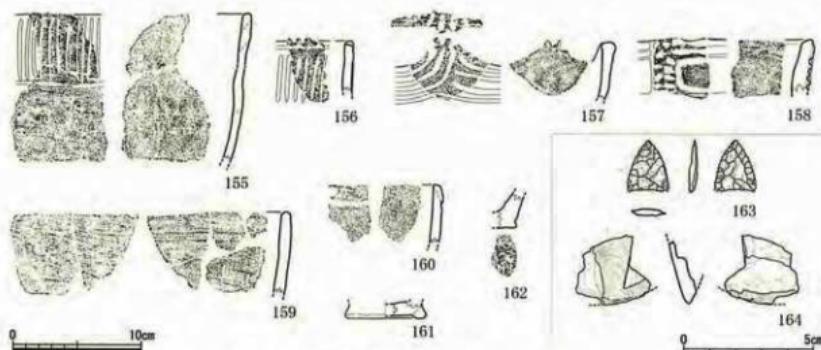


図26 III-1区出土遺物実測図 (S=1/2 · S=1/4)

搅乱: 158・163 先行トレンチ: 161 古代遺構埋土: 155~157・159・160・162 5b層: 164

が明瞭に残り、刃部形態は蛤刃状を呈するとみられるが、破片のため詳細は不明である。

155～163はIII-1区の搅乱、古代遺構埋土などから出土した土器と石器である(図26)。このうち155～160は口縁部である。155はI-a類の口縁部で、縦位の短沈線を連続的に施し、その下に横位1条の沈線文が施される。156は口唇部に刻目文があり、口縁部上端に横位1条の沈線、その下に縦位の短沈線文がほどこされる。157は波状口縁で、頂部口唇部に刺突文があり、口縁部辺に沿って数条の沈線文が施されている。158はI類の口縁部で、口縁部上端に2条の沈線文と、縦位の刻目突帯文が施される。159・160はX類の口縁部、161・162は底部片である。163は安山岩製の石鏃である。長さ2cmの小形品でややレンズ状に内湾する平基式である。

III-2区の遺物出土状況(図27・28)

III-2区はIII-1区とIII-3区の浸透井戸を接続するための排水管を設置するための工事に係る調査区である(図27)。幅1.2～1.4m、長さ約17.5mの東西に長い調査区で、施工深度は地表面から約2.2mと深かった。調査区の北側にはIII-1区に継ぐ近世溝が走っており、掘方は12層(灰オリーブ褐色砂層)まで達していたため、縄文時代の遺物包含層である5層(褐色砂層)はほぼ残っていないかった。一方、中央から南側では一部古代遺構埋土に切られていたものの5層が良好な状態で堆積していた。III-1区において5層より縄文時代遺物が出土することがすでに判明していたため、本調査区南半についても古代遺構の調査終了後、5層の掘削を開始した(図28-19～22)。すると予想に反し、本調査区では本層からの縄文時代遺物が一点も出土しなかった。そして、5b層の直下にはスコップが刺さらない程非常に硬い灰色砂層(6層)が一面に検出された(図28-23)。この層は熊本県内の埋蔵文化財行政において地山とされてきた層で、本土層より下位に文化層は存在しないとされており、大学構内遺跡でも調査事例がなかった。

調査担当者は、本調査区の土層の堆積状況が、III-1区で5b層の直下に灰オリーブ褐色砂層(11層)が堆積する状況と異なっていたことを理由に、土層の把握のため、この6層を調査区東側半分のみ深堀りすることにした。すると、この硬質砂層の直下の7層(黒褐色砂層)から縄文時代後期前葉の土器と石器が出土したのである。硬質砂層の上面は標高約18.0mではなく水平であったが、7層とその漸移層は調査区の北端で標高約18.0m、南端では標高約17.0mと下がり、白川方向に向けてゆるや

1. (黒髪南) ライフライン再生(給水設備等)工事に伴う発掘調査(1310調査地点)

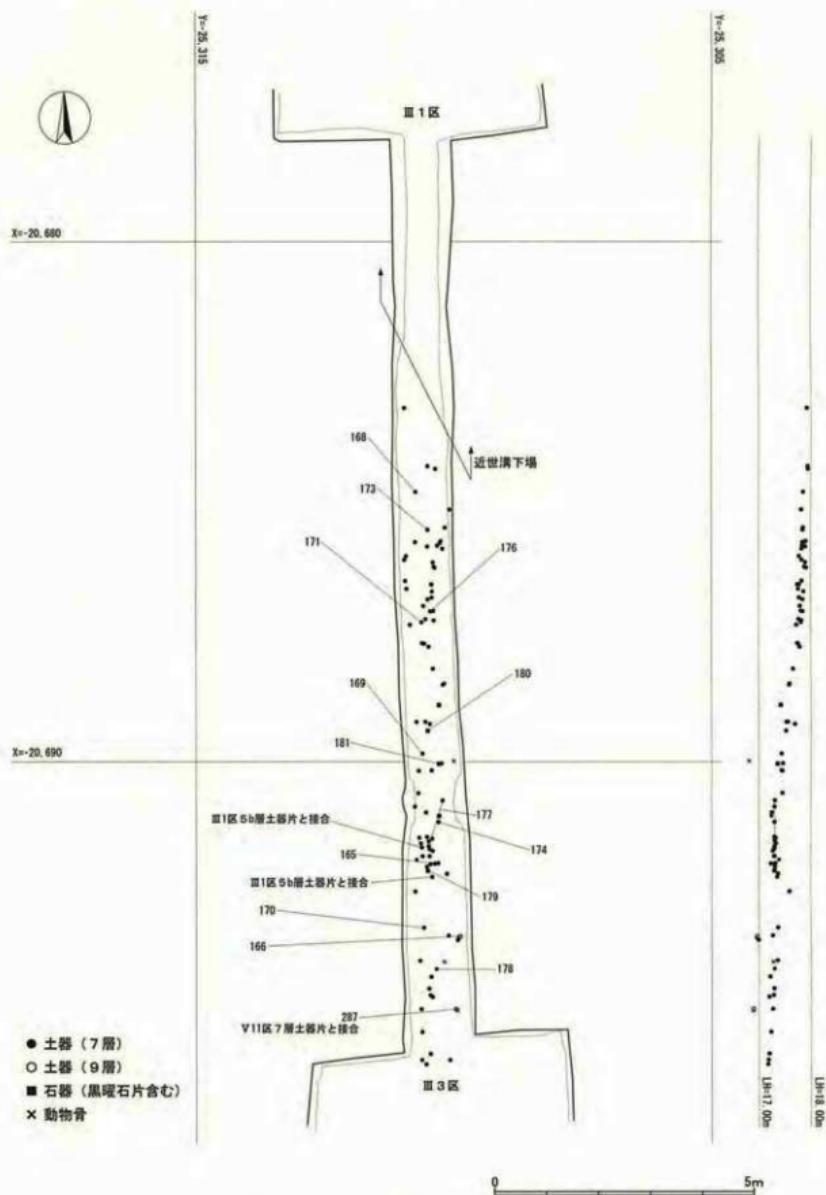
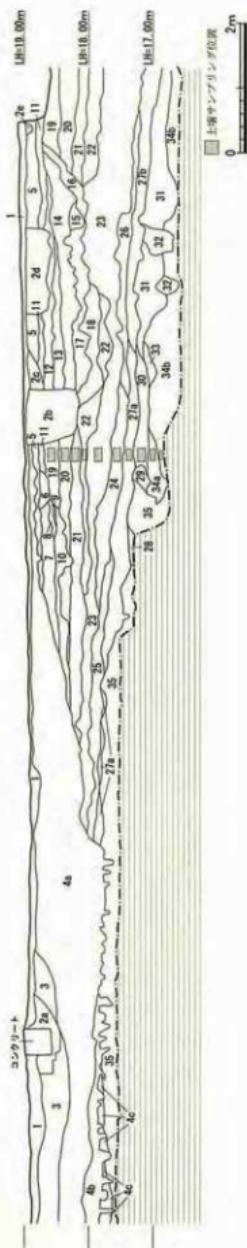


図27 II 2区 7・9層遺物出土状況図 (S=1/100)



25時ごろから赤色が現れ、その後黒色と白い斑紋が現れる。近畿地方では、従来は秋に多く含まれる。

3568: 長オリーブ色毛皮質 (blue-grey) 長オリーブ色毛皮 (9.9) 外形の特徴的な長い毛と、長い毛の部分が多く感じる。吻端は土器と似た形状を有する。

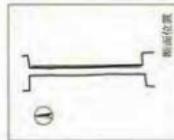


図28 Ⅲ 2区東壁土層断面図 (S=1/80)

1. (黒堀南) ライフライン再生(給水設備等)工事に伴う発掘調査(1310調査地点)

かに傾斜しながら堆積していた(図28-24-27)。7層の遺物包含層を全て掘削した後、調査区南半でⅢ1区の最下層にあたる灰オリーブ褐色砂層(11層)の堆積の続きを確認するため、土層確認面である調査区東半を掘削した。結果、11層は調査区南端から6.3mの位置で7層の下に堆積する9層(灰色砂礫層)によって大きく削られていることが確認できた(図28-35)。9層は非常にしまりの弱いサラサラの砂礫層で、川底の砂のような質感である。1、2点の土器片や獸骨片が混じるが、その土質からも遺物包含層とは考えにくく、遺物は上下からの混ざり込みと考えられる。土器の接合状況をみると、本調査区7層出土土器とⅢ1区5b層の出土土器の接合例が認められた。両土層の上下関係を鑑みると、Ⅲ1区の5b層は7層の堆積時期とほぼ同時期か、あるいはやや先行すると考えるべきである。本書の総括で土層の堆積と遺跡の形成過程に関する見解を示している(本書:pp.90~95)。本調査区の調査によって、従来は地山と考えられてきた硬質砂層の下にも遺物包含層が存在することが明らかとなった。また、本調査区からIV14区にかけて9層(灰色砂礫層)が堆積することから、白川により近い位置では洪水や冠水により土や砂の堆積や削平が活発であったことが明確となり、本調査区周辺は、白川の川幅が洪水により拡幅し、一時期川の底に沈んでいたか、あるいは支流が流れていたと推測された。

Ⅲ2区の出土遺物(図29)

165~181はⅢ2区の7層および9層の出土遺物である(図29)。165はIa類の口縁部である。口縁部は頭部から弱く外反しており、その部分に施文される。口縁部には刺突文に近い短沈線で綾杉文が施され、その両端には沈線文が数条巡っている。166はII類の口縁部片である。胴部から口縁部にかけてやや強く外反しており、口唇部は平坦面を形成する。口縁部上端に細かい連続刺突文が施され、やや間をおいて刻目突帯文が横位に巡る。167はII類らしき口縁部片である。口唇部に刺突文と口縁部外面に刺突文が施されている。168~172はX類の深鉢あるいは鉢の口縁部である。173はX類の粗製の浅鉢である。7層より破片がまとまって出土しており、復元すると全体形が復元できる資料となつた。外面に横方向の条痕が走り、内面ではこれと直行するように縦位の磨きが、外面では横位と斜位の磨きが施されている。174~177は縄文土器の底部片である。174~176はくびれた平底で底部外面に木葉痕や鰐椎骨痕らしき圧痕が確認できる。177は粗製土器の底部で、底部に高台がつき底面が持ち上がる。外面とも脚部から底部にかけて粗い磨きが施されている。この他、V11区7層と接合した資料として9層から出土したII類の土器口縁部片があるが、V11区で所見を述べる(図52-287)。178は玄武岩の剥片である。長辺を連続的に剥離させ調整しているが、未成品で器種は不明である。179は安山岩製の石器未成品である。180は楕円形の凹石の半欠品で、中央部に顯著な凹部が認められた。181は不定形の自然石の一端に研磨面のある石器で、磨石の一種と考えられる。

Ⅲ3・4区の遺物出土状況(図30~32)

Ⅲ3区は浸透井戸の設置に伴う5×5.5m程の方形の調査区である。Ⅲ4区は浸透井戸同士を接続する排水管の設置に伴う、幅1.2~1.5m、長さ11.5mの南北に長い調査区である(図30)。両調査区はⅢ1区にやや先行して調査しており、近代や古代の遺構が検出された。古代遺構の調査終了後、褐色砂層の縄文時代遺物包含層について調査を実施した。いずれの調査区でも5b層(緑褐色砂層)中から数点の縄文土器が散発的に出土するのみで、Ⅲ1区ほどの土器の集中はなかった(図31・32)。施工深度が2.2m程と深いため、本来ならば硬質砂層の下に堆積する縄文時代後期前葉の遺物包含層である7層(黒褐色砂層)まで掘削するべきだったが、Ⅲ2区で7層を認識する以前に工事へ受け渡してしまったため、本調査区については一部縄文時代の遺物包含層が破壊されてしまった可能性がある。また、Ⅲ4区の南に隣接するⅢ5区でもⅢ1区における縄文時代遺物の発見以前に調査を終了してい

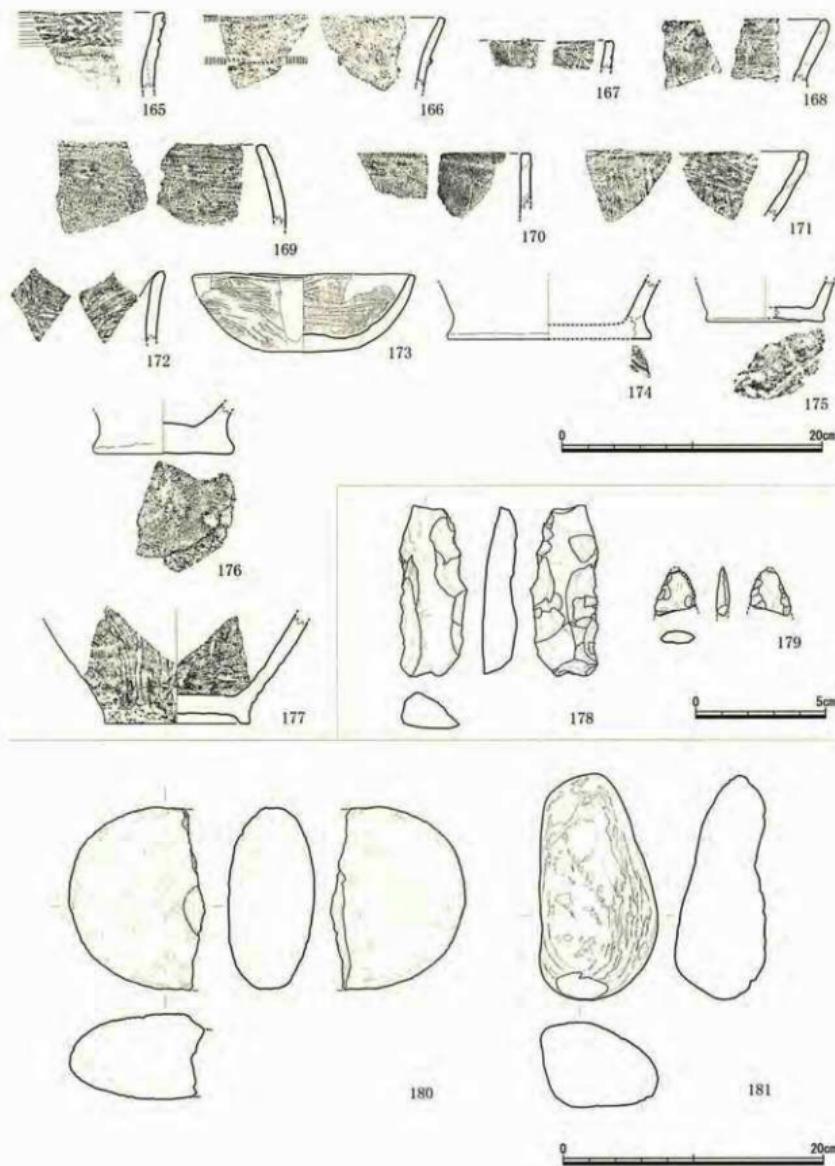


図29 III 2区 7・9層出土遺物実測図 (S=1/2・1/4)

1. (黒髪南) ライフライン再生(給水設備等)工事に伴う発掘調査(1310調査地点)

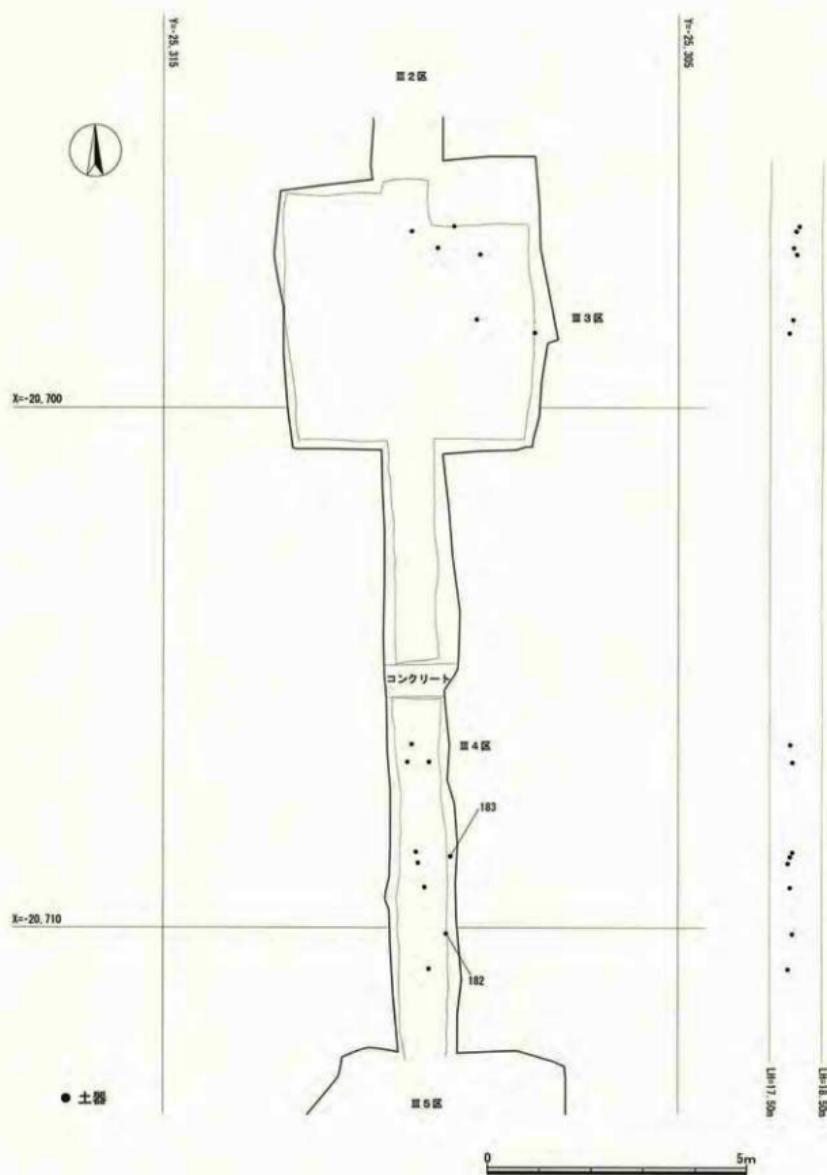
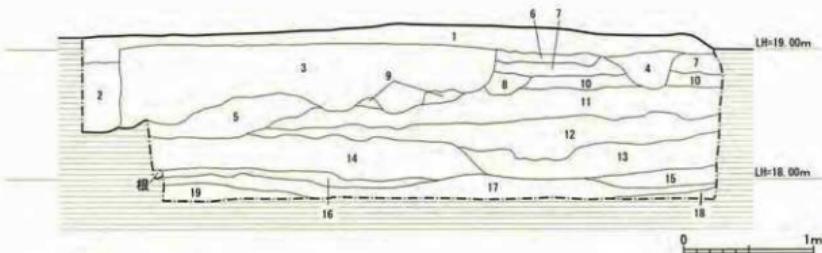


図30 III 3・4区 5b層遺物出土状況図 (S=1/100)



- 1層：砂石。
 2～4層：現代配管根方理上。現瓦土层。
 5層：褐色土 (Bue10YR1/4) 近代現瓦土。
 6層：暗褐色土 (Bue10YR2/3) 明褐色土層 (3層)。近世・近代の遺物包含層。炭小片と小亜円礫を含む。
 7層：黒褐色土 (Bue10YR2/2) 黒褐色土層 (4層)。古代の遺物包含層。少黄褐色土を少含む。
 8層：黒褐色土 (Bue10YR2/2) 古代ピット埋上。下部は黒褐色土がブロック状に入る。
 9層：褐色土 (Bue10YR1/4) 古代遺構埋上。上部は黒褐色土で覆るに混じる。
 10層：暗褐色土 (Bue10YR3/3) 遷移層。黒褐色土と褐色土が斑状に混じる。
 11層：褐色砂 (Bue10YR1/6) 小褐色砂層 (5a層)。褐色土主体とし、3cm以下の黄褐色ブロックが混じる。
 12層：褐色砂 (Bue10YR1/4) 黄褐色砂層 (5a層)。非常にしまりの強い砂質ブロックが全層に入る。一部上半の砂が貫入する。
 13層：にぶい、黃褐色土 (Bue10YR3/3) 緑褐色砂層 (5b層)。砂粒子が細かい。少しが部分的にしまりの強い砂質ブロックが入る。
 14層：褐色土 (Bue10YR1/4) 緑褐色砂層 (5a層)。縄文時代の遺物包含層。上部はごく少しが部分的にしまりの強い明褐色の砂質ブロックが混じる。
 15層：褐色砂質土 (Bue10YR3/4) 緑褐色砂層 (5b層) 他の層と比較するとやや粒度を持つ。3cm程の砂質ブロックが極少量混ざる。
 16層：褐色土 (Bue10YR1/4) 緑褐色砂層 (5a層)。15層と類似するが、部分的に5cm以下の明褐色の砂質ブロックが入る。縄文土器が出土する。
 17層：暗褐色土 (Bue10YR3/4) 下2層にかうほどしまりが強いため風化した褐色砂質ブロックが多量に混じる。
 18層：暗褐色土 (Bue10YR3/4) 黑色砂質土 (6層)。砂質細かい。全体的にしまりが強く緻密化している。
 19層：オーリーブ褐色土 (Bue2.5YR4/4) 黑色砂質砂層 (6層)。しまりの強い褐色砂質ブロックと砂質土が混じる。わずかに黒褐色土を含む。

図31 III 3区東壁土層断面図 (S=1/40)



図32 III 4区東壁土層断面図 (S=1/40)

たため、褐色砂層以下の調査は実施できていない。

III 3・4区およびIII区の出土遺物 (図33)

182～194はIII区で取り上げた縄文時代の遺物である(図33)。このうち182～184はIII 3・4区の5b層から出土した土器片である。182はIV類の口縁部である。口縁部と口縁部外面にそれぞれ横位の沈線文が施される。183は粗製深鉢の口縁部片で、口縁部に半管状の押引き文が認められる。184はIX類の浅鉢の口縁部から胴部にかけての破片である。185～194は、3・4層、近世や古代の造構埋土中から出土した縄文時代の土器、石器である。185～188はV・VI・X類の土器口縁部片と頸部から胴部片である。189～191は土器の底部である。189と190はくびれた平底で底部外面に木葉痕が認められる。192は安山岩製の石器で基部は剥離調整によって大きく抉られている。193は安山岩製の凹口の破片で

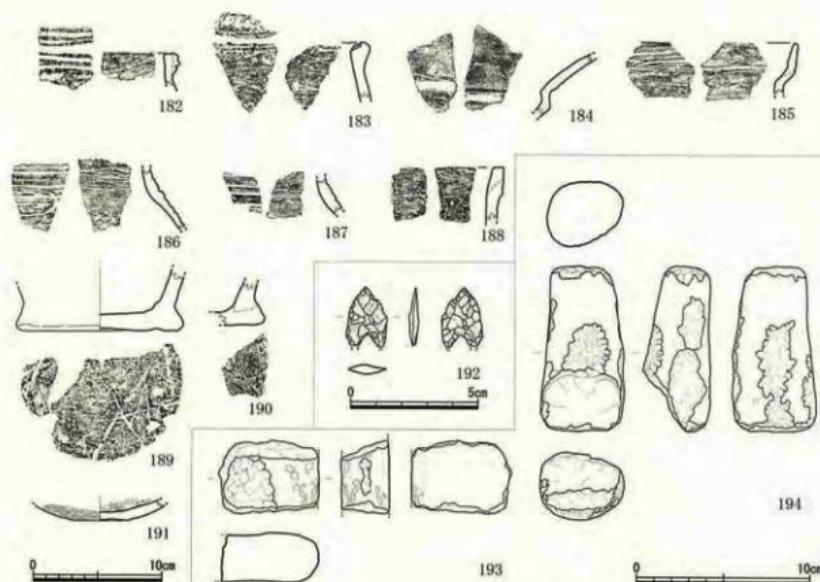


図33 III区出土遺物実測図 (S=1/2・1/3・1/4)

III 1区近世造構埋土 : 188 III 3区5b層 : 184 III 4区5b層 : 182・183 III 6区古代造構埋土 : 185 III 8区4層 : 186・187
III 9区古代造構埋土 : 194 III 13区古代造構埋土 : 189・190 III 23区3層 : 192 III 25区4層 : 193 III 25区古代造構埋土 : 194

ある。194は安山岩製の敲石で、平面が台形、断面形態が歪んだ楕円形を呈する。全面に明瞭な敲打痕が残っており、端部の大きな剥離のため最終的に廃棄されたと考えられる。

④ IV区

IV区は、理学部3・4号館の道路および緑地部分、南北30m、東西90mの範囲に相当する。調査区は幅1~1.5mの水道・ガス配管に関連する施工の他に、点検口、検水槽、U字側溝、浸透井戸、アスファルト舗装、インターロッキング舗装などの施工に関連するもので、計41の調査区に分かれる(図3)。このうち縄文の調査を実施したのはIV14区とIV30-2区の2カ所である。IV2~8区の浸透井戸とこれを接続する排水管に係る調査区は施工深度が深く縄文時代の遺物包含層に達する可能性が高かった。しかし、III1区の縄文時代の遺物包含層発見以前に古代の造構の調査を終了しており、すでに工事業者へ受け渡していたため、これらの調査区については縄文時代の文化層の一部が破壊された可能性が高い。ここでは重要な成果があったIV14区の出土状況と遺物について記す。

IV14区の遺物出土状況(図34~38)

IV14区は検水槽を設置するための事前調査を目的としており、掘削範囲は東西6m、南北5.5mと本調査地点でも広く、施工深度は3.3mと最も深かった。そのため当初から調査区周間に矢板を打ち、調査と工事の安全を確保した。本調査区の開始時点でIII1区およびV11区の調査が終了していたため、

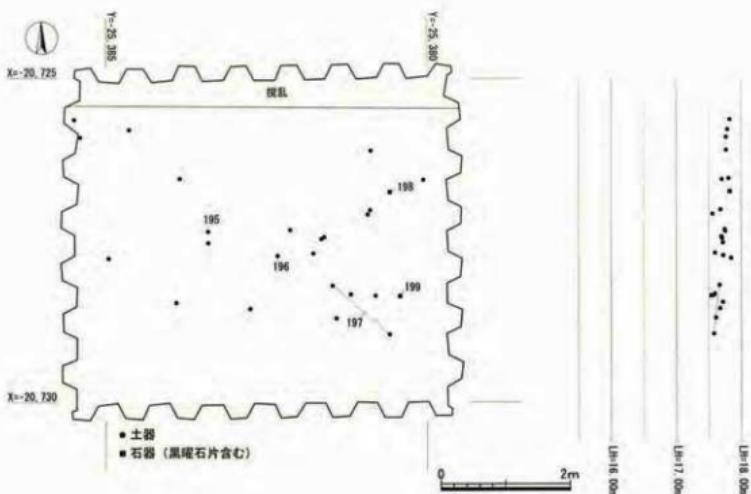
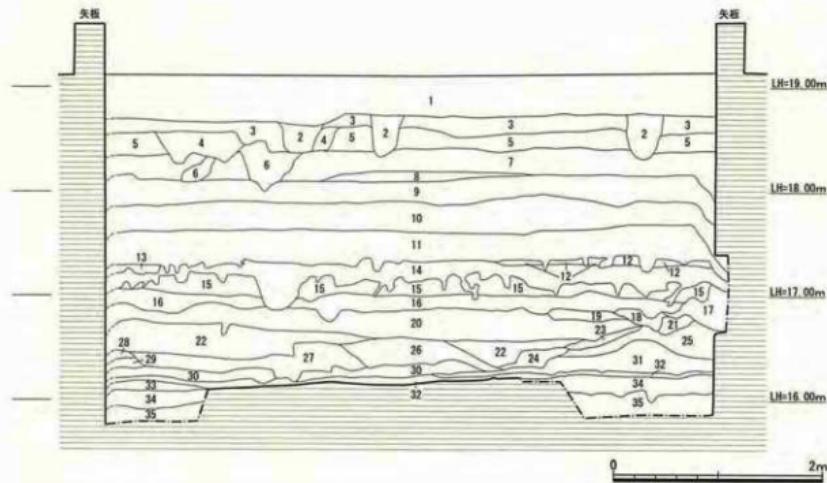


図34 M14区5b層遺物出土状況図 (S=1/80)

古代遺構の掘削終了後、少なくとも褐色砂層（5層）と黒褐色砂層（7層）の調査が必要と想定されていた。調査では周囲が矢板で囲まれているため、調査区中央に東西ベルトを設け、土層を記録、確認しながら掘削を実施した。また、本調査区の北側には共同溝が走っており、その掘方により施工深度である地表下3.3mまで搅乱していた。この掘方の南壁を利用して土層を把握しながら掘削を実施することができた。

本調査区では古代の遺構を5a層（赤褐色砂層）の上面で検出した（図35-7層）。古代の遺構の調査の後、5a層を掘り下げたところ、標高約17.8mから縁がかった5b層（緑褐色砂層）へと変化し、本層から少量ながら土器や石器が出土した（図35-10層）。III1区では5b層から縄文土器が大量に出土したが、本調査区ではIII3・4区と同様に少量の遺物が散発的に出土するのみであった。また、5b層の遺物出土レベルは調査区北側から南側、つまり白川の方に向かってやや傾斜していることが分かる（図34右）。さらに5b層（図35-11層）を掘り下げていくと部分的に硬質の砂層（図35-12・13層）が堆積する一方、調査区北側の土色のみが徐々に暗くなり、縄文時代後期前葉の土器が面的に出土した。当初、この北と南の土色の違いが堅穴建物などの遺構の存在を示している可能性があったため慎重に調査を進めたが、後に南北方向へ先行トレッチ入れて確認したところ、遺構でなく南側に向かう傾斜によるものと判明した。結果として、本調査区では5b層の下位に6層（灰色硬質砂層、図35-12層）が薄く部分的に堆積しており、5b層の下に連続的に7層（黒褐色砂層、図35-14層）が堆積している状況が明らかとなった。調査では、5b層と7層の漸移層である土（図35-11層）の中位から土器が出土し始めたが、現地では両層を明確に区別しながら遺物を取り上げることができなかった。本報告では両層の出土遺物を7層の出土遺物として報告する。本調査区では7層から5b層までの堆積時期が連続的であったことが示されており、本遺跡における5b層の堆積時期と形成過程について考える上で重要なデータとなった。

1. (黒髮南) ライフライン再生(給水設備等)工事に伴う発掘調査(1310調査地点)



- 1層：表土 現代埴土・クランシヤー。
- 2層：暗褐色土 Oba10F23/1 近代の土尻あるいは溝埋土。
- 3層：暗褐色土 Oba10F23/1 潟帶色土層（3層）。近世・近代の遺物包含層。
- 4層：暗褐色土 Oba10F23/2 近世・近代土坑埋土。
- 5層：暗褐色土 Oba10F23/2 黒褐色土層（4層）。古代の遺物包含層。
- 6層：暗褐色土 Oba10F23/2 植生。
- 7層：褐色砂 Oba10F24/6 褐色砂層（5a層）。上面が古代の遺構被出面。遺物出土せず。
- 8層：黃褐色砂 Oba10F25/6 褐色砂層（5a層）。7層と類似。砂質ブロック混じり、遺物出土せず。
- 9層：明黃褐色砂 Oba10F26/6 褐色砂層（5a層）。混じり気少なし。遺物出土せず。
- 10層：泥状黃褐色砂 Oba10F25/4 緑褐色色層（5b層）。縄文時代遺物出土層。
- 11層：オリーブ褐色砂 Oba2.574/2 緑褐色色層（5b層）と黒褐色砂層（7層）の漸移層。縄文時代遺物出土層。
- 12層：暗オリーブ褐色砂 Oba2.573/3 黒褐色砂層（6層）か。砂質ブロックで構成される。部分的に堆積する。
- 13層：暗オリーブ褐色砂 Oba2.573/3 11と14の間隔。
- 14層：暗オリーブ褐色砂 Oba2.573/3 黒褐色砂層（7層）。5mm程の白粒と炭化物が混じる。縄文時代遺物大量出土層。
- 15層：暗オリーブ褐色砂 Oba2.573/3 青灰色粘質砂層（8層）。無遺物層。
- 16層：暗オリーブ褐色砂 Oba2.573/3 青灰色粘質砂層（8層）。無遺物層。上面にやや大きめの砂粒堆積。
- 17層：オリーブ褐色砂 Oba2.573/2 青灰色粘質砂層（8層）。無遺物層。
- 18層：暗オリーブ褐色砂 Oba2.573/3 砂質ブロック混じる。無遺物層。
- 19層：オリーブ黒色砂 Oba2.573/1 19～31まで暗褐色砂層（9層）。しまりの弱いサラサラの砂層。無遺物層。
- 20層：オリーブ黒色砂 Oba2.573/1 しまりの弱いサラサラの砂層。無遺物層。
- 21層：オリーブ黒色砂 Oba2.573/1 砂質ブロック混じる。無遺物層。
- 22層：オリーブ黒色砂 Oba2.573/1 しまりの弱いサラサラの砂層。0.5～5cm程の玉砂利混じる。無遺物層。
- 23層：オリーブ黒色砂 Oba2.573/2 砂質ブロック混じる。無遺物層。
- 24層：オリーブ黒色砂 Oba2.572/1 22層に類似。より玉砂利を多く含む。無遺物層。
- 25層：黄灰色砂 Oba2.574/1 サラサラの砂層。玉砂利を少量含む。無遺物層。
- 26層：オリーブ黒色砂 Oba2.573/2 サラサラの砂層。下位に粘土が沈殿する。無遺物層。
- 27層：オリーブ黒色砂 Oba2.573/1 サラサラの砂層。30より砂礫が多く混じる。無遺物層。
- 28層：オリーブ黒色砂 Oba2.573/1 サラサラの砂層。軽石少量含む。無遺物層。
- 29層：オリーブ黒色砂 Oba2.573/2 サラサラの砂層。砂質ブロック混じる。無遺物層。
- 30層：オリーブ黒色砂 Oba2.573/2 サラサラの砂層。31よりやや砂礫多く混じる。無遺物層。
- 31層：オリーブ黒色砂 Oba2.573/2 サラサラの砂層。無遺物層。
- 32層：オリーブ黒色砂 Oba2.573/2 オリーブ黒色粘質砂層（10層）。縄文時代遺物出土層。
- 33層：オリーブ黒色砂 Oba2.573/2 オリーブ黒色粘質砂層（10層）。縄文時代遺物出土層。
- 34層：暗オリーブ黒色砂 Oba2.573/3 サラサラの砂層。褐色砂層に入る。無遺物層。
- 35層：暗オリーブ黒色砂 Oba2.573/3 サラサラの砂層。無遺物層。

図35 N14区東西ベルト北壁土層断面図 (S=1/50)

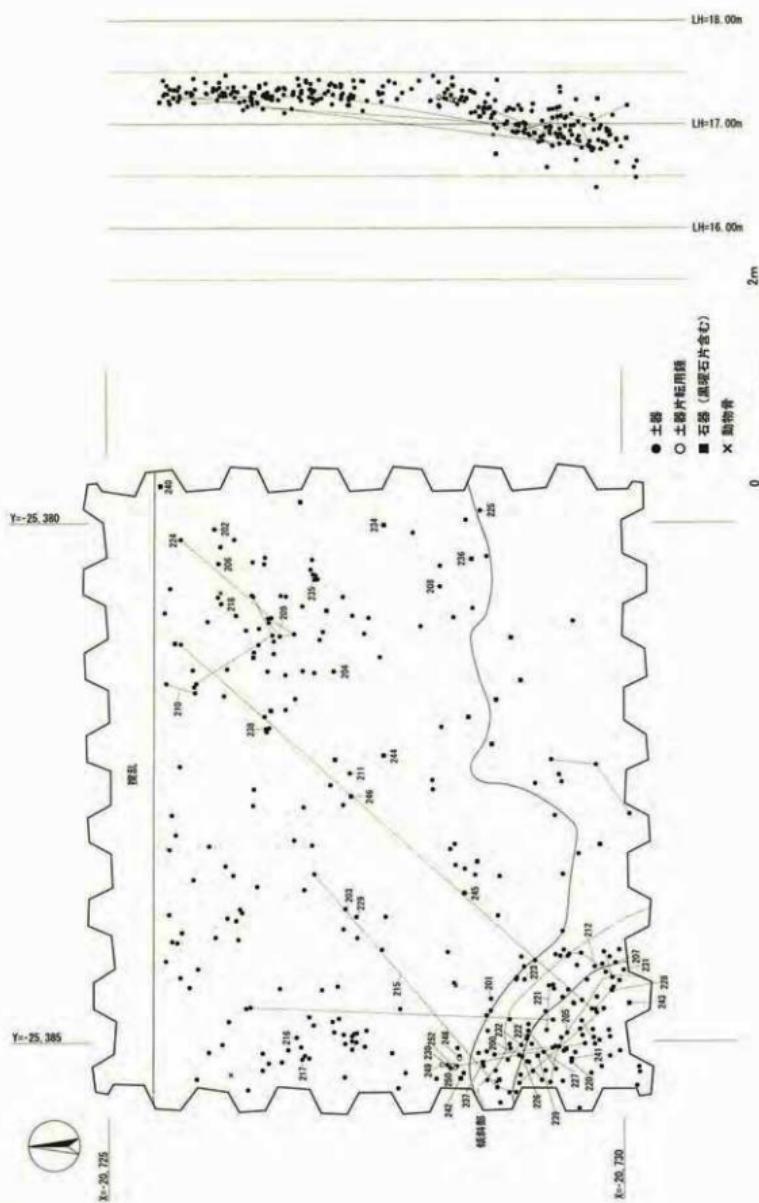


図36 M14区7層遺物出土状況図 (S=1/50)

1. (黒髪南) ライフライン再生(給水設備等)工事に伴う発掘調査(1310調査地点)

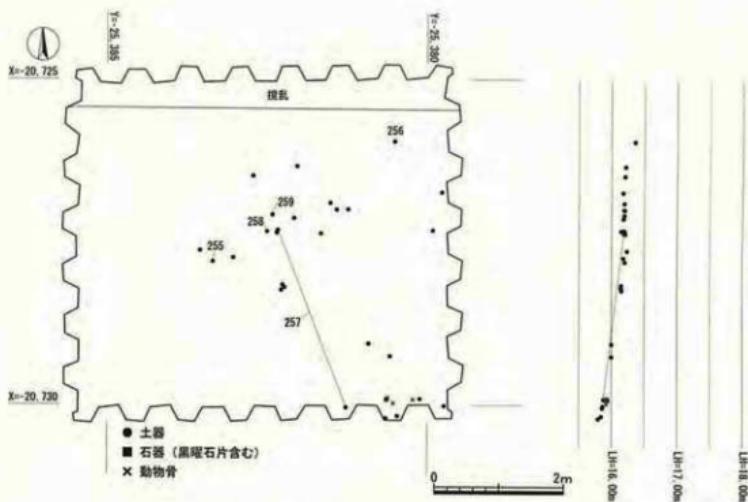


図37 N14区10層遺物出土状況図 (S=1/80)

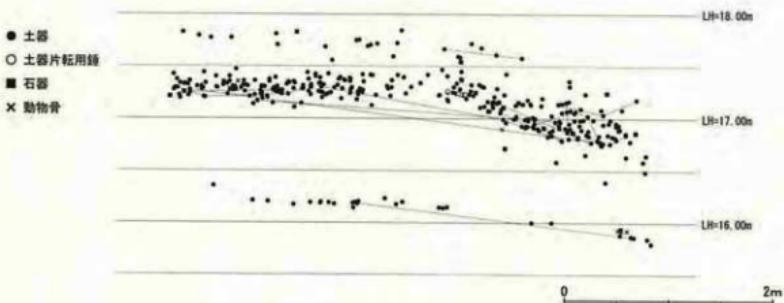


図38 N14区5・7・10層出土遺物垂直分布図 (S=1/50)

7層は調査区の北半から南側には緩く、南西側に向けて強く傾斜していた。7層直下には8層(青灰色硬質砂層)が堆積しており、この層の上面が白川に向かって下がる傾斜部を形成していることが分かった(図36傾斜部)。この傾斜はV11区南西端でも確認されている。7層からは縄文時代後期前葉の土器、石器、土製品、動物骨が出土しており、特に調査区南西隅の傾斜部には遺物が密集している様子が見受けられた。調査区北側では川原石やその剥片などが多く出土しており、現地で石窯炉など遺構の有無も検証したが、明確な遺構は見受けられなかった。土器片の多くが完形に近い状態まで復元できないことからも、その多くがすでに破損した状態で調査区周辺に廃棄されたものと考えられる。土器の接合状況をみても、北から南あるいは南西側に接合する土器片が散見され、一部の土器片が廃棄後に傾斜部へ流れ込んだ、あるいは捨て場として傾斜部を利用したと推測できる。また、注目

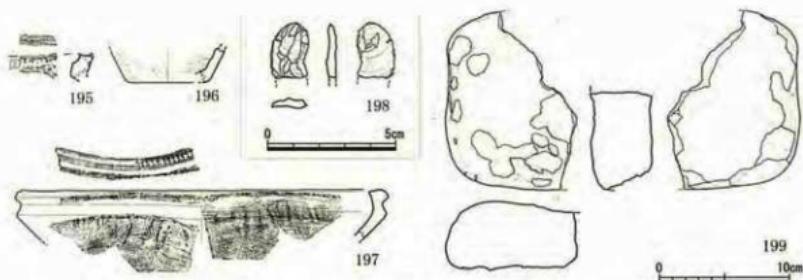


図39 M14区5b層出土遺物実測図 (S=1/2 · S=1/4)

すべきは土器片転用錘の出土位置である。本調査区からは土器片転用錘が8点出土している。これらは各短辺に抉りが設けられており、紐などでお互いを緊縛して使用したと考えられる。8点中4点は現地で出土位置を記録できており、その全てが調査区西側、傾斜部のやや北側の20cm四方の範囲に集中して出土した(図36-248~250・252)。この出土状況は偶然とは言い難く、土器片転用錘が紐で緊縛されたか、あるいはまとめて廃棄された状況を示す。

7層の調査終了後、北側の搅乱掘方壁面において、さらに下層から土器片が出土したことを受け、調査区北東隅に1m×1mの先行トレンチを入れ、縄文土器の有無を改めて確認した。8層の下位には川底砂に似た9層(灰色砂礫層)が60cm程堆積しており、中央の東西ベルトを残しながら調査区全体を掘り下げたところ、さらにその下の10層(オリーブ黒色粘質砂層)から少量ながらも土器や石器、動物骨などの遺物が出土した。これにより、本調査区では3つの縄文時代の遺物包含層の存在が明らかとなった。全土層の縄文時代遺物の垂直分布を図38に示した。5層、7層(漸移層含む)、10層の遺物の出土レベルには一定の空白があり、いずれも北から南へ傾斜する形で堆積する状況が確認できた。全土層間の土器片接合作業を実施したが、各土層内でのみ土器片が接合したことからも、本調査区の土層は上下への遺物の混ざり込みがほぼなく、安定した堆積状況を保っていたと推測される。10層の遺物取り上げ後、施工深度(標高15.8m)までさらに一部を掘り下げたが、9層に類似した砂礫層が堆積するのみで土器片などは出土しなかったため、調査を終了した。

本調査区では明確な遺構が検出されなかったものの、3つの遺物包含層が検出された。初期には川に向かってなだらかな勾配を持つ河岸段丘の平坦面が形成されており、その上に土器や動物骨を廃棄しており、当該調査区が生活圏に含まれていたと推測できる。10層の直上に堆積する川底の砂礫にも似た9層は、Ⅲ2区では基盤層の一つである11層を削るようにして堆積している。9層はⅢ2区、Ⅳ14区、V11区、V13区で確認されており、層位的にもレベル的にも対応していることが分かる(図4)。縄文時代後期のある時期に大雨の影響で白川が氾濫し、すでに形成されていた河岸段丘を削りつつ堆積し、一時期の間、Ⅲ2区からⅣ14区の付近まで、白川の本流の一部となつたか、あるいは支流が形成され川底になつたとみられる。その後、水が引いていく過程で急斜面(8層上面)が形成された。遺物の量からも7層の段階においては、居住空間は本調査区からそう遠くない位置にあつたと推測できる。7層下面で検出した傾斜部から傾斜部手前にかけての遺物の集中部は、居住域の周縁であり傾斜部でもある本調査区周辺に日常の生活道具を廃棄したことで形成されたと考えられる。詳細な遺跡の形成過程については総括に譲りたい(pp.104~109)。

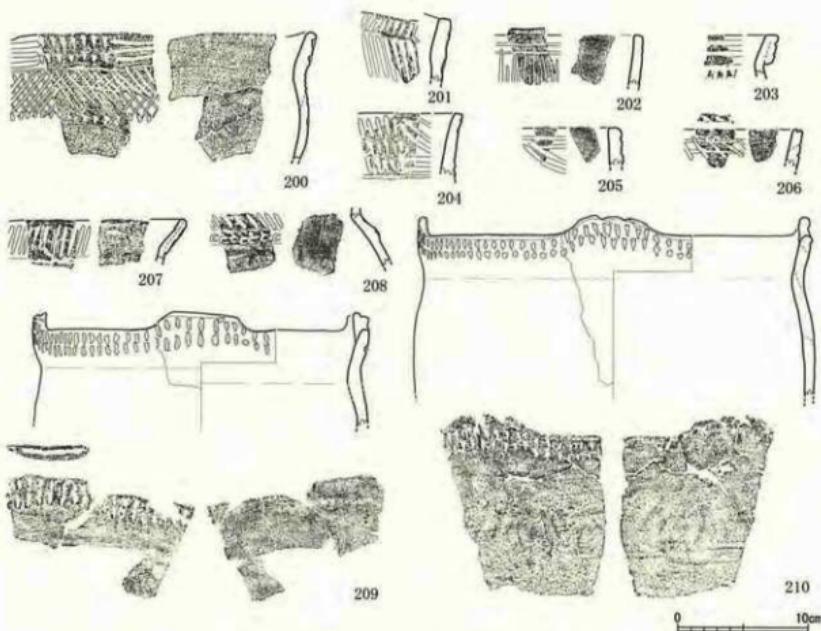


図40 N14区7層出土土器実測図1 (S=1/4)

IV14区の出土遺物 (図39~45)

195~199は、IV14区5 b層の出土遺物である(図39)。195、197はIV類の鉢あるいは浅鉢の破片である。195は口唇部に1条の沈線文が、口縁部には刺突文が施される。197は口縁部から胴部にかけての資料で、頸部と胴部の境に強い棱が走る。口唇部には刺突文の2条の沈線が、胴部外面上半には繩文が部分的に施されている。196は小型の鉢の底部片で、全体に磨きが入り、平底を呈する。199は安山岩製の石皿の半欠品である。製品中央には明瞭な敲打痕が残る。

200~233は、IV14区7層の出土土器である(図40・41)。200~207はI a類の口縁部片である。200は波頂部に向かって口縁部がやや膨らむ波状口縁で、頂部中央に刺突文が2段分、その端部から数条の沈線が横位に巡っている。さらに、くびれた頭部から胴部上半にかけては沈線による斜位の格子文が施されており、その下端に刺突文が横位に並ぶ。201は波状口縁の口縁部片である。やや厚みを持つ口縁部の上端に斜位の短沈線が連なり、その下に短沈線とは逆方向の斜位の沈線文が連続して施される。202は口縁部端部に細沈線が2条走り、その下に長さの異なる縦位の沈線が交互に施されている。他と比較してやや器壁が薄い特徴がある。203は粘土を張り付け厚みを持たせた口縁部に2条の沈線を走らせ、頸部から下には縦位の沈線が施される。204はゆるく外湾する口縁部に刺突文と斜位、横位の沈線による文様が施されている。205はやや内湾する口縁部に横位と斜位の沈線が施されている。207は朝顔状に開く口縁部に単沈線によって文様が施されている。208は頭部から胴部にかけての土器片で、口縁部が上端から広がるとみられる。頭部近くに斜位の短沈線が連続的に施され、その下

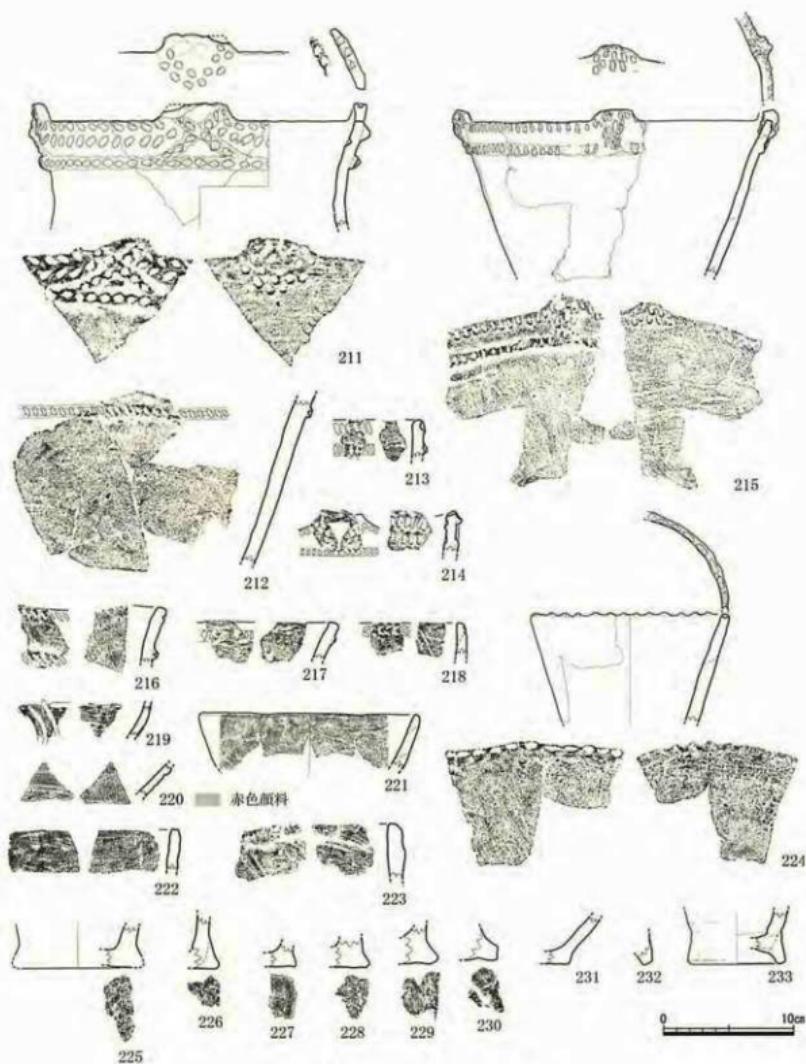


図41 M14区7層出土土器実測図2 (S=1/4)

に刻目突帯文が1条巡る。刻目は二枚貝の復縁部を使用している。209、210はI b類の深鉢の口縁部から胸部上半の破片である。頸部がややくびれており、内外面にゆるい稜線を持つ。口縁部は緩く広がり、波頂部ではやや内湾する特徴がある。口縁部上端に2列の刺突文が並び、口唇部には短い沈線が1ないし2条施されている。

211~216はII類の口縁部あるいは胴部片である(図41)。211は波状口縁の深鉢である。頸部が緩くくびれ、口縁部がやや内湾しながら立ち上がる。波頂部内面の口唇部には刺突文が施され、口縁部には2列の凹点文とその下に刻目突帯文が施され、波頂部に向けて刻目突帯文が斜めに伸びて交差する。212は深鉢の胴部下半である。胴部には刻目突帯文が横位に1条施されている。213・216は口縁部片で、上端に刺突文が施され、やや間をあけて刻目突帯文が横位に1条走る。214は波頂部片で、内面と口縁部上端に刺突文が施される。口縁部下位には刻目突帯文が1条施され、頂部ではこれが三角形状に張り付けられている。215は口縁部から胴部の資料である。波頂部は小型の台形状を呈し、その口唇部と内面に刺突文が施される。口縁部上端には刺突文が並び、やや間をあけて刻目突帯文が1条並列する。波頂部では刻目突帯文が縦位に伸びるが、やや粗雑に張り付けられている。217はIb類の鉢と思われる。口縁部上端や下に刻目突帯文が1条走る。218は口縁部片で、口縁部上端に2股に分かれた工具で刺突文が施されている。219、220はIV類の胴部片である。219は球形に近い胴部下半に繩文が施され、沈線文によって区画されている。220も胴部下半の一部と思われる。繩文が施され、沈線文によって区画されている。文様内側には赤色顔料が付着していた。221~223はX類の口縁部である。いずれも条痕後ナデによって調整された粗製土器である。224は小型の深鉢の口縁部から胴部である。口縁部はバケツ状に広がっており、口唇部には刺突文がほどこされ、それにより口縁部上辺が波打つ。225~233は土器底部片である。225~230はくびれた平底の破片とみられ、このうち230は木葉痕が認められた。231は平底で胴部に向けて器壁が広く広がる。232・233は高台を持ち、底がやや立ち上がる。233は表面が部分的に剥離した粗製土器である。

234~246・263はIV14区の7層から出土した石器である(図42・43・46~263)。234~242は安山岩製の敲石である。238以外はいずれも手になじみやすい形状をした川原石を用いており、対象物の下に台石を置くなどし、敲くことでできた敲打痕が残っている。形態は長い棒状のものと、楕円形状に近いものがあり、多くの場合、小口に敲打痕が認められる。234は断面が隅丸方形を呈する長い棒状の安山岩を用いている。両端部と長辺の一部に明瞭な敲打痕が認められる。235は扁平の楕円形に近い安山岩を用いている。両端部の広い範囲と、端部から側面にかけて帶状に敲打痕が認められる。236は断面が隅丸方形を呈する長い棒状の安山岩を用いている。両端部に顕著な敲打痕が認められる。237は面長の自然石を用いており、片側端部に顕著な敲打痕が認められる。238は敲石、あるいは敲石を用いる際の台入石として用いた後、敲石として用いられた石器と考えられる。平面形態は扁平な楕円形を呈し、全体がやや風化した安山岩と思われる自然石を用いている。その片面中央には敲打痕が顕著に認められ、縁辺部にも帶状に敲打痕が残っている。239は小型の安山岩を用いており、両端部に細かい敲打痕が確認できる。240は平面形態が楕円形を呈する扁平な自然石を用いている。片側端部に敲打痕が残り、裏面は一部剥離している。241はやや扁平な球状の自然石を用いている。両端部に敲打痕が残っており、片側は敲打痕跡が著しい。242は240と近い扁平球形の安山岩を用いており、片側端部に明瞭な敲打痕跡が残っている。243、244は安山岩製の磨石である。243は片面端辺に明瞭な研磨面があり、その裏側に不明瞭な磨痕が認められた。244は片側に1面、反対の面に2面の磨痕が確認できた。いずれも具体的な使用用途は不明である。245・246は砂岩製の砥石である。245は、片面に自然の剥離面が残っているが、もう片面は全面を研いだことによって平坦面を形成し、その面には幅約1cm程の溝状痕が2条並ぶ。また、残存している縁辺部も使用によって平坦面を形成している。246は片側がすぼまり、片側が広がった略三角形の砥石である。前者の頂部が敲打によってやや欠けている。全体に研磨の使用痕跡がある。263は玄武岩の剥片である。縁辺部を剥離することで全体を成形しているが、細かい剥離調整などは認められない。搔器の未製品の可能性がある。

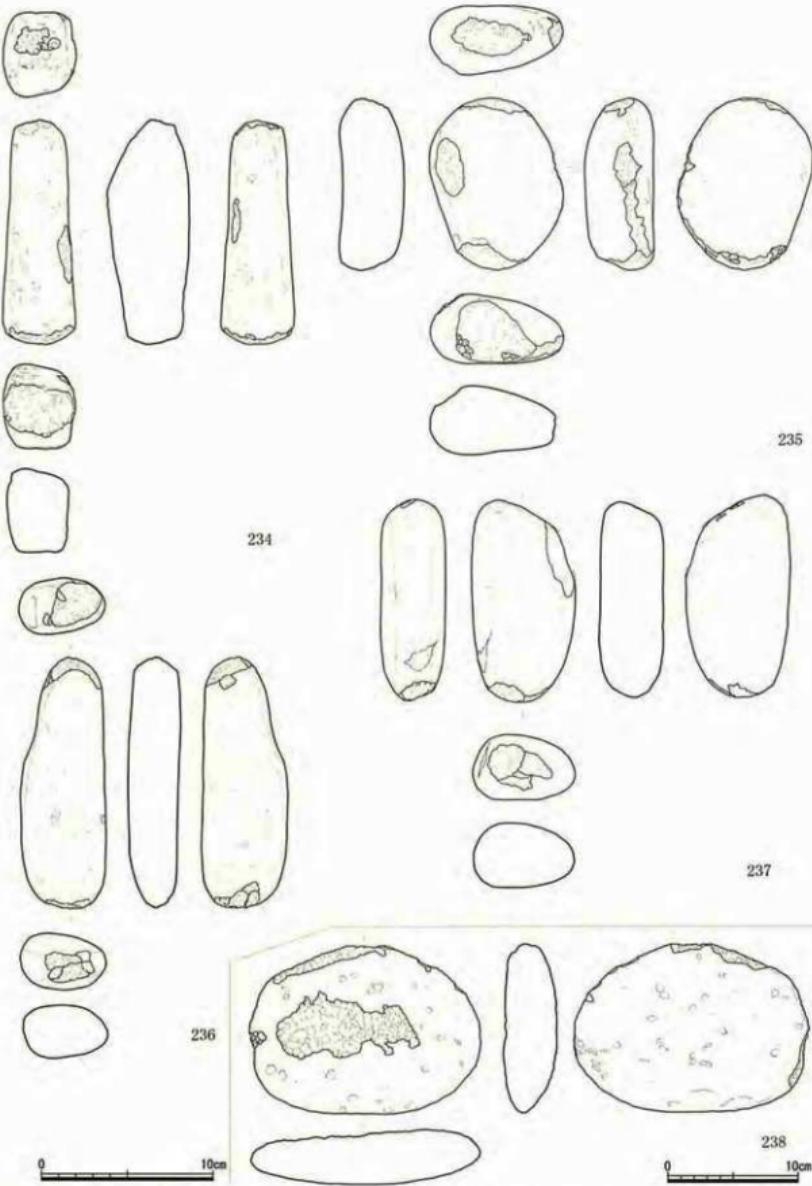


図42 IV14区7層出土石器実測図1 (S=1/3・S=1/4)

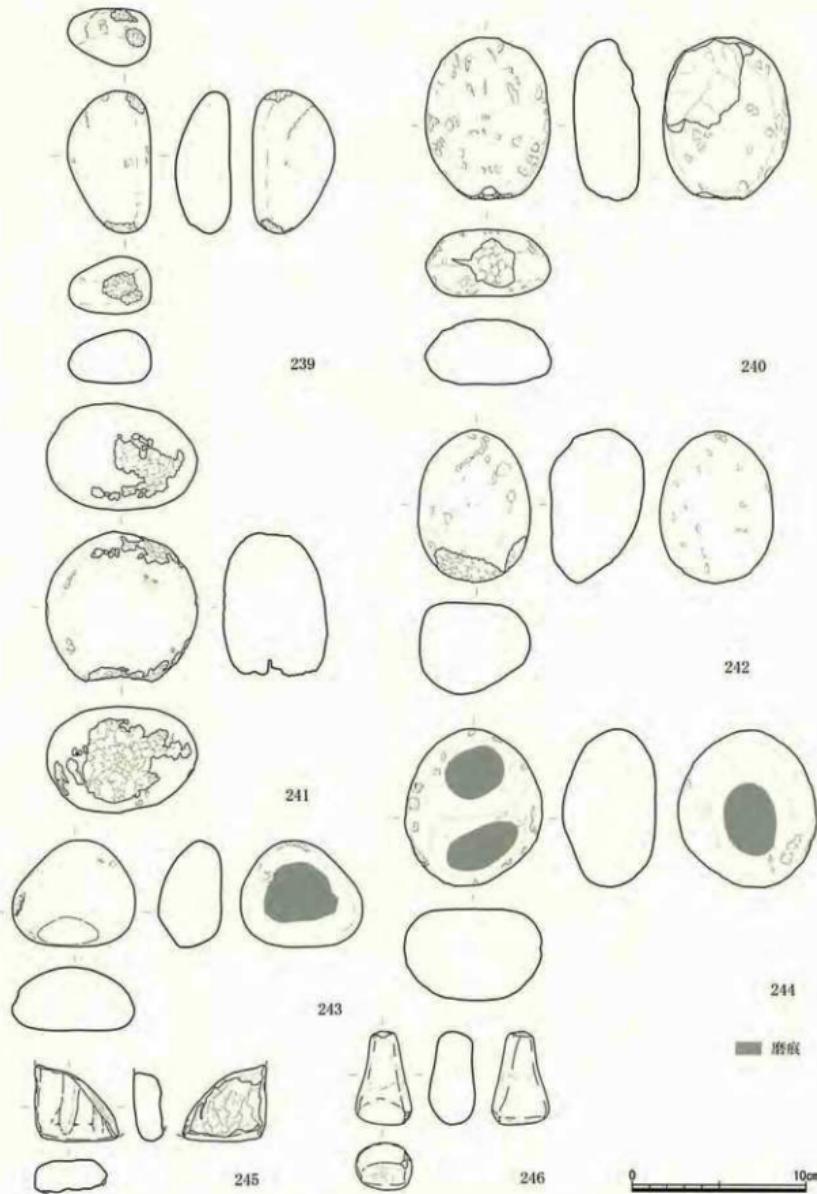


図43 N14区7層出土石器実測図2 (S=1/3)

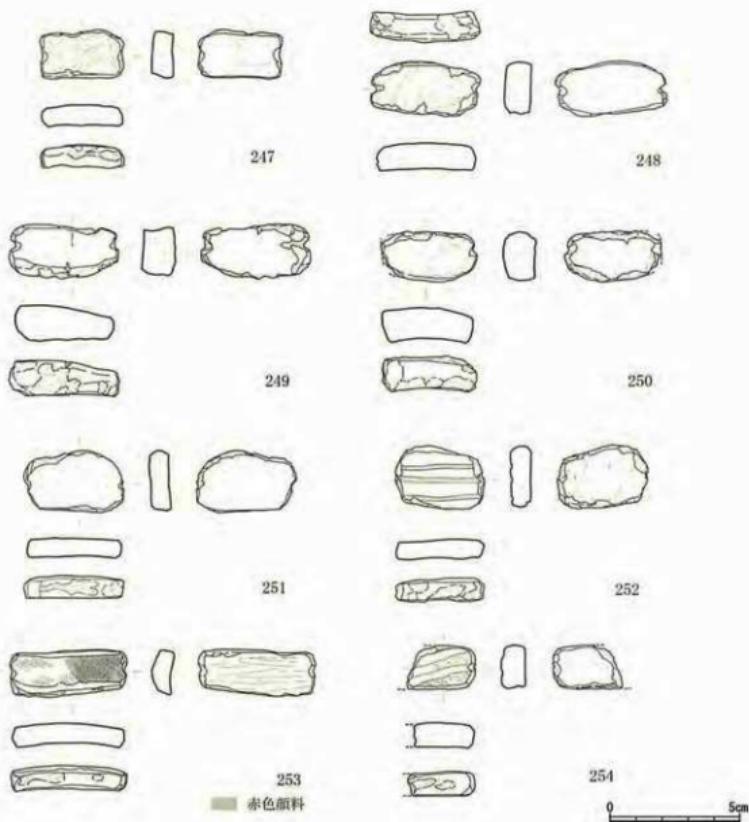


図44 IV14区7層出土土製品実測図 (S=1/2)

247~254はIV14区7層から出土した土器片転用錘である(図44)。小型の土器片を研磨し平面形態を略長方形に整えている。法量は長さ3.25~4.5cm、幅1.9~2.4cmにおさまり、その両短辺にV字状の抉りを各1つ設けている。この抉りに紐をかけ、緊縛するなどし、漁撈用の網の錘などに用いたと考えられる。247~249は長辺中心に欠けや傷が入るものもあり、あるいは十字状に紐を緊縛したと推定される。252~254は表面に沈線文や繩文が残っており、253には赤色顔料が付着していた。これらはI a類あるいはIII類の土器片を再利用したものと考えられる。IV14区で出土した土器片転用錘のうち、248~250、252の4点は現地で出土位置を記録できており、これらが調査区南西の傾斜部上端20cm四方の範囲から出土したことが確認できた。現地で埋納土坑など遺構は確認できなかったが、まとめて廃棄されたか、紐などで縛られた状態で廃棄されたことが推測できる。土器片転用錘は九州地域でも出土例が稀だが、大学構内遺跡では9911調査地点で発見されている。

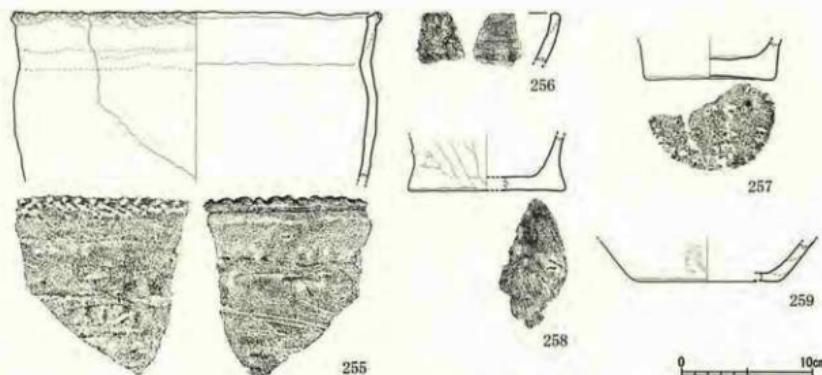


図45 IV-14区10層出土土器実測図 (S=1/4)

255～259はIV-14区10層から出土した土器片である(図45)。255はI b類と思われる深鉢土器の口縁部から胴部である。くびれた頭部を持ち、口縁部がやや内湾しながら外側に広がっている。口唇部には刺突文が打たれ、口縁上端部が鋸歯状に波打つ。また頭部付近には横位に帯状の凹みが認められ、刻目突帯などの粘土紐が付着していたものが焼成の段階ではがれた痕跡と考えられる。256はX類の口縁部である。257～260は土器底部片で、258はくびれた平底で、脚部外面に下から上方向への削りが認められる。257は底部外面の一部に細かい単位の凹みが認められる。259は平底で、胴部に向かって器壁が広がっている。

IV区の出土遺物(図46)

260～262、264～281はIV-14区以外の調査区から出土した縄文時代関連の遺物である(図46)。このうち273・274・276・281はIV-30-2区の5a層から出土した土器である。273はII類の波頂部片と思われ、刺突文が内外面に施される。274はVI類の口縁部片で、断面三角形状の口縁端部外面に縄文と2条の沈線が施される。276は皿あるいは台付皿の破片で、口縁部内面に縄文が施される。281は台石の破片で、片側に四部が、反対側は長期間の使用によるとみられる間接的な磨痕が認められた。275はIV-29区5a層より出土したIX類の口縁部片である。

上記4点以外はいずれもIV区の搅乱(1層)、3層、4層、古代遺構埋土などから出土した遺物である。260～262はIV-14区4層から出土した。260は口縁部片で、端部に3条の沈線が走る。261はIX類の口縁部から頭部にかけて、表面全体が磨きによって調整されている。262はIX類の胴部下半で、表面全体が磨かれている。264はIV-3区3層の出土で、山形押型文土器の胴部片である。265はIV-11区3層の出土で、I a類の波頂部片である。頭部は2股に分かれ、口縁部に並行して沈線文が2条巡ると思われる。266・267はIV-2区4層の出土で、IX類の口縁部である。口縁部が大きく外側に広がり、267は口縁部外面に2条の沈線が施されている。268はIV-4区4層で出土したX類の口縁部片である。269はIV-5区4層で出土したVII類の口縁部片である。「く」の字に立ち上がる口縁部外側に2条の沈線が施されている。270はIV-3区4層で出土した胴部片である。胴部が膨らみ断面が三角形の高い刻目突帯文で、II類土器とはその様相が異なる。271はIV-6区古代遺構埋土出土のX類土器胴部である。272はIV-10-2区4層出土で、X類土器胴部である。

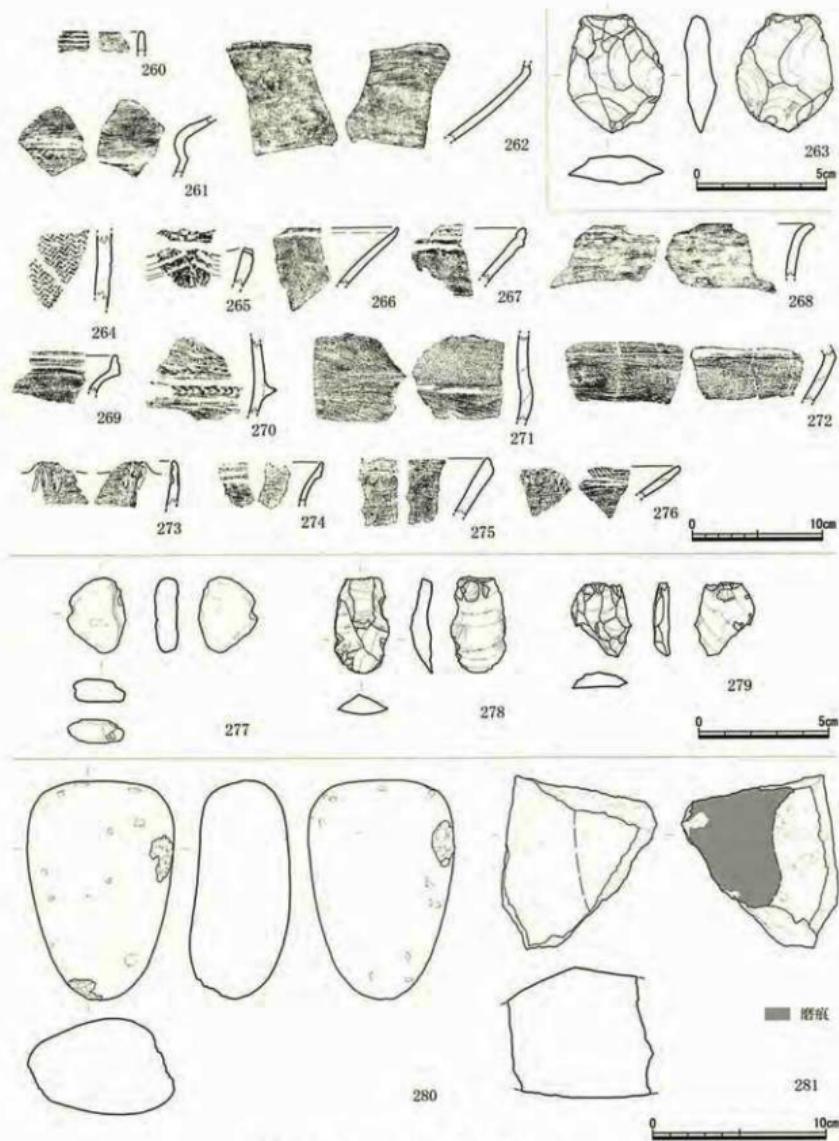


図46 IV区出土遺物実測図 (S=1/2・1/3・1/4)

IV14区7層: 263 IV29区5a層: 275 IV30-2区5a層: 273・274・276・281 IV14区4層: 260~262 IV1区4層: 279
 IV2区4層: 266・267 IV3区3層: 264 IV3区4層: 270 IV3区古代造構埋土: 280 IV5区4層: 269
 IV6区古代造構埋土: 271 IV7区3層: 278 IV7区4層: 268 IV11区搅乱: 277 IV11区3層: 265 IV10-2区4層: 272

1. (黒髪南) ライフライン再生(給水設備等)工事に伴う発掘調査(1310調査地点)

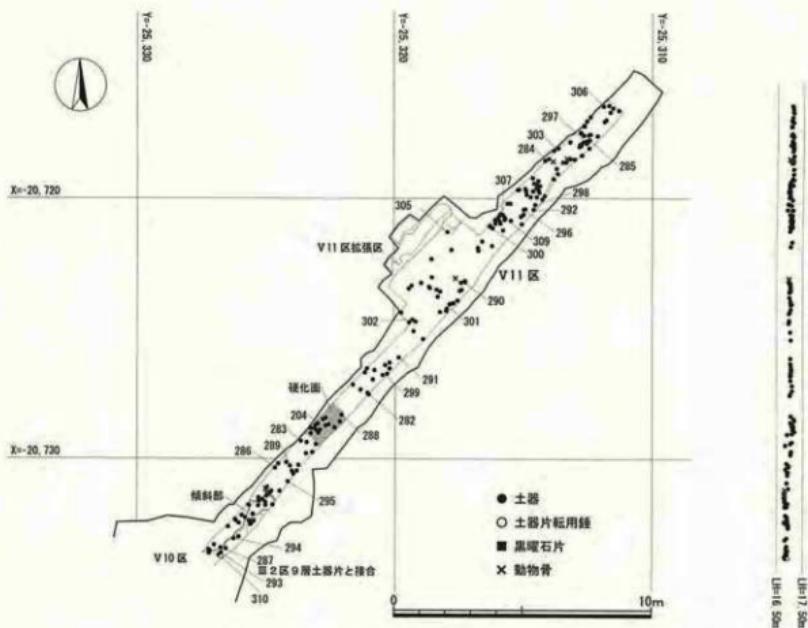


図47 V11区7層遺物出土状況図 (S=1/200)

⑤ V区

V区は、本調査地点南東にあたり、自然科学研究科研究棟・実験棟の東から南にかけての道路および緑地部分、南北87m、東西107mの範囲に相当する。調査区は幅1~15mの水道・ガス配管に関連する施工の他、U字側溝、浸透井戸、アスファルト舗装などの施工に関連するもので、計33の調査区に分かれる(図3)。このうち縄文の調査を実施したのはV11区とV13区の2カ所である。V1~10区の浸透井戸とこれを接合する排水管に係る調査区は施工深度が深く縄文時代の遺物包含層に達する可能性があった。しかし、これらの調査区はIII1区の縄文時代の遺物包含層発見以前に古代の遺構の調査を終了しており、すでに工事業者へ受け渡していた。V9区の南側から白川方面に向かっては現代埋土が厚く堆積していたため、V1~8については地表下15m程度まで重機によって掘削し、その下に近世や古代の遺物包含層を確認している。他の調査区とは堆積状況が大きく異なるため縄文時代の包含層が存在しないか、あるいは到達しなかった可能性も捨てきれない。ただし、V10区については縄文時代の文化層の一部が破壊された可能性が高い。また、V11区では6層(灰色硬質砂層)の下から土坑墓と配石墓とこれに伴う縄文人骨が発見された。縄文人骨の発見は、本調査地点を内包する黒髪町遺跡群でも初めてのこと、最も重要な成果といえる。ここでは重要な成果があったV11区とV13区の遺構と遺物出土状況と遺物について記す。

V11区の調査経過と出土状況(図47~51)

V11区はIII5区とV10区の浸透井戸同士を接続する排水管の設置目的としており、掘削範囲は幅

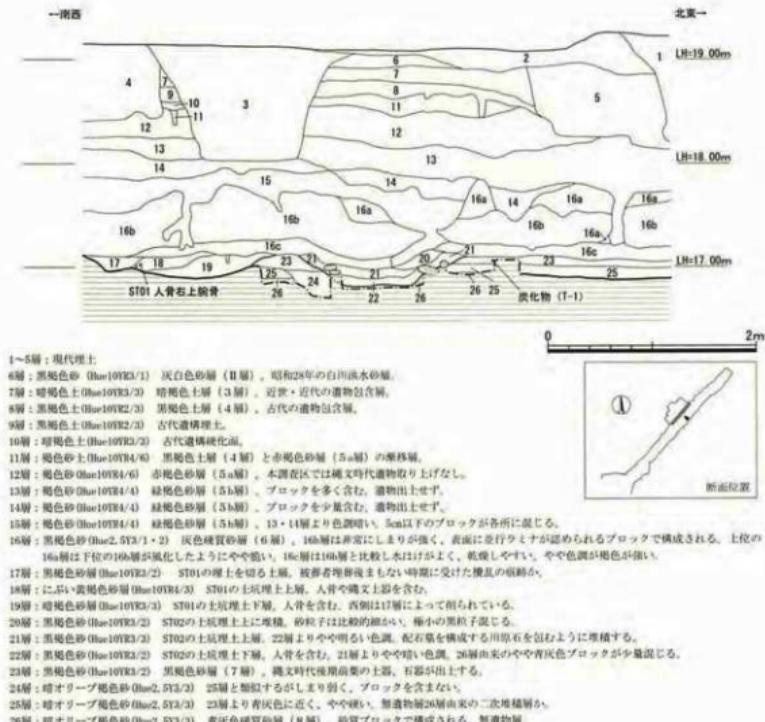


図48 V11区抜張区北西壁土層断面図 (S=1/50)

約15m、長さ約25mの北東・南西方向に長い調査区である（図47）。施工深度は22~24mと深かつたが、当初は古代の遺構の掘削後に工事側へ受け渡す予定だった。しかし、Ⅲ1・2区の調査成果により、V11区でも少なくとも5層（褐色砂層）と7層（黒褐色砂層）の調査が必要と想定された。Ⅲ3・4区では調査面積に対して土器片が数点であったことから、白川に近い南側では5層の遺物包含層の遺物内蔵量が少ないと想定し、本調査区については5層を重機にて掘削しながら調査員が土器の有無を確認したが、遺物は得られなかった。また、5層の直下に堆積していた6層（灰色硬質砂層）についても、Ⅲ2区の調査で無遺物層であることが確認できていたため、重機による掘削をおこなつた。6層を除去すると、下位から7層（黒褐色砂層）が検出されたため、調査区北東端を掘り下げたところ、標高約17.00mで縄文時代後期前葉の土器片や石器が出土した（図48-23）。

7層の掘削に入ると、調査区中央付近に10~30cm程の大きさの川原石が列状に並んだ状態で検出された。また、さらにその1m程南西側では哺乳類の四肢骨が検出され、他の調査区と様相が異なった。この四肢骨が人間の骨である可能性を考え、写真を撮影し、形質人類学者に確認したところ、人骨であるとの解答を頂いた。骨は非常ににもろく、検出した時点からすでに風化し始めていたため早急に取

り上げる必要があった。そこで、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムの松下孝幸氏とNPO法人・人類学研究機構の松下真実氏に依頼し、他の調査と並行しながら人骨および墓の調査を実施した。ST01と名付けたこの墓の人骨は上半身が調査区外に広がることが分かったため、人骨と墓全体を調査するために熊本市文化振興課に申請、許可を取り、 2×2 mの拡張区を調査区北西側に設けた。拡張区では古代の遺構調査後、5層から6層を人力で掘削し、7層上面で土坑墓の平面プランを確認した。人骨の出土状況と土坑墓の記録を実施した上で、人骨を取り上げた。一方、ST01人骨の調査中、その約1m北東側に検出された配石の内側にも人骨らしき四肢骨が検出され、こちらも墓であることが確認された。本墓をST02と名付け、その調査のために拡張区をさらに2.6m北東方向に広げた。こちらも5、6層を人力掘削し、7層上面で配石墓の平面プランを検出、人骨と配石墓を実測と三次元計測によって記録した上で人骨を取り上げている。また、ST02の西側には拡張区の壁にかかる形で半円形の平面プランと人骨の四肢骨の一部が検出された。この墓をST03と名付けたが、施工範囲外であったため調査は実施しなかった。墓は 4×2.5 mの狭い範囲に3基存在することから、墓は単体で営まれたのではなく、墓域という空間として利用されていたと考えられる。出土状況から墓は北東側や南西側には広がらないが、北西側あるいは南側に広がる可能性がある。

ここで墓の形成時期に関連して調査時重要な見解を記しておきたい。各墓は縄文時代後期前葉の遺物包含層である7層を掘りこんでいることが平面や土層断面で確認できた。また、I類やII類の土器の一部が7層に食い込むことを土層断面上で確認している。そのため層位学的には7層の形成以後に墓が形成されたと想定されるべきである。しかし、現地で確認した土器の出土状況からすると7層の土器の堆積時期と墓の形成時期に大きな差はないと判断できる。なぜなら7層として取り上げた遺物の多くは、7層(図48の23層)の中でも上位あるいは6層(灰色硬質砂層:図48の16層)と7層との層理面で検出されたためである。この土器の出土状況から7層は当時の地表面を形成していた土層と考えられ、その地表面には連続的に土器などが廃棄あるいは設置され、砂粒の移動などで薄く包まれていたと想定できる。そこに6層が短時間で堆積し、全体をパックしたために本調査区のような堆積状況を形成した。後述するが、6層はある時期に白川が氾濫して冠水し、水が引いた後に残った堆積砂である可能性が極めて高い(本書:pp.90~95)。現地における遺物の出土状況から、7層で取り上げた遺物の多くは墓の形成時期とあまり時期幅がない、または一部遺物についてはほぼ同時期であると判断した。また、墓の周囲にはIII類の土器がまとめて出土している(図49-301、302、305)。他の調査区と比べてもV11区の北半ではIII類が多く出土しており、墓域の周辺にこうした縄文の施される鉢がまとめて出土する傾向は偶然とは考えにくい。これらも7層の上面で検出され、6層にパックされていたことから、副葬品とは断定できないが墓と関連している可能性を考慮しておくべきである。

調査終了後、このST02の配石墓については大学の施設担当者と工事業者との協議をおこない、工事の設計変更によって現地で保存することができた。今回の調査で洞窟でも貝塚でもない平野部に人骨が残っていた理由として硬質砂層の影響が考えられた。人骨を取り上げた松下孝幸氏によると硬質砂層が厚く堆積していた箇所は人骨の残りが良い状況があったという。ST03人骨の他にも人骨が残存している可能性があり、すでに調査区内の硬質砂層を完掘していたため、人骨を保存する目的で調査区周辺に石灰を散布した上で埋め戻しをおこなった。

このほか、本調査区南西端から5m程の位置で、7層の掘削途中で幅約1.6mの硬化面を検出した(図47硬化面)。しかし、土層断面では明確に確認できず、8層(青灰色硬質砂層)上面が検出されていた可能性が否定できない。また、7層の掘削途中で調査区南西端において色調の異なる土層の堆積

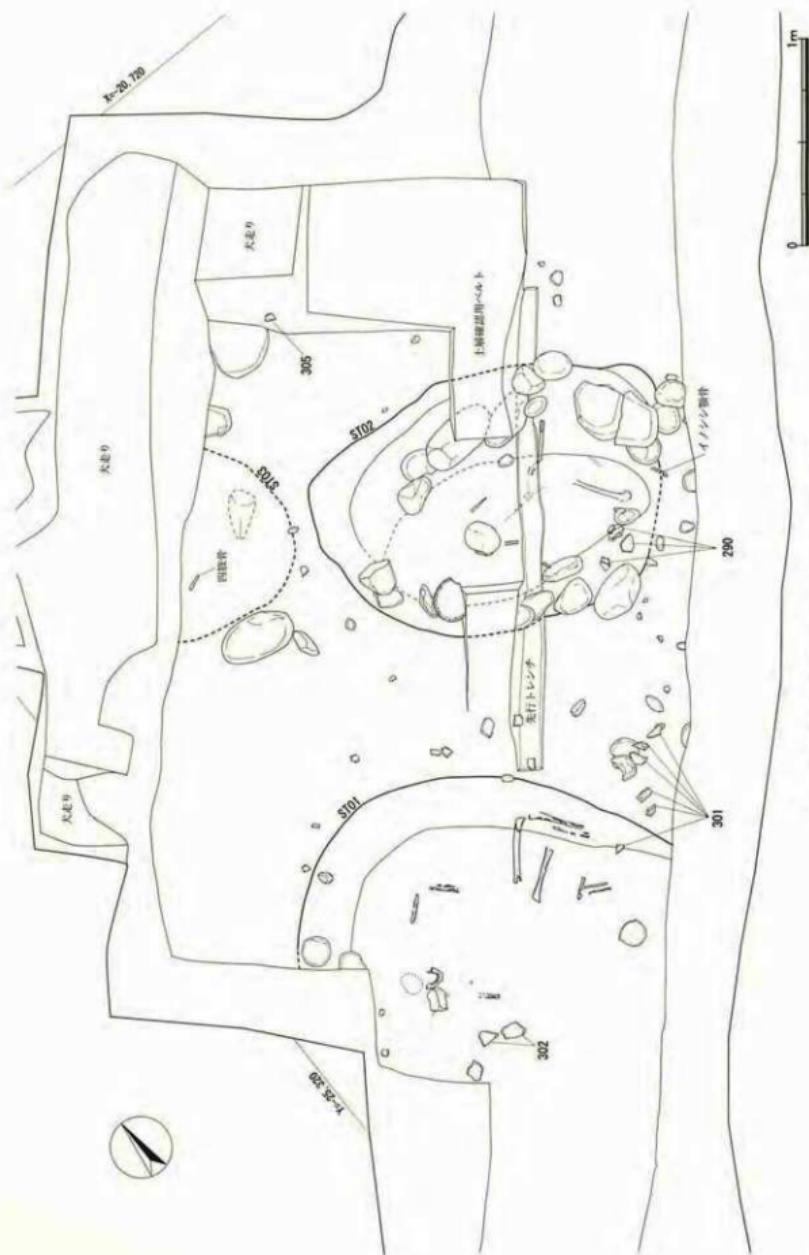


図49 V11区縄文人骨・墓検出状況図 (S=1/25)

1. (黒髪南) ライフライン再生(給水設備等)工事に伴う発掘調査(1310調査地点)

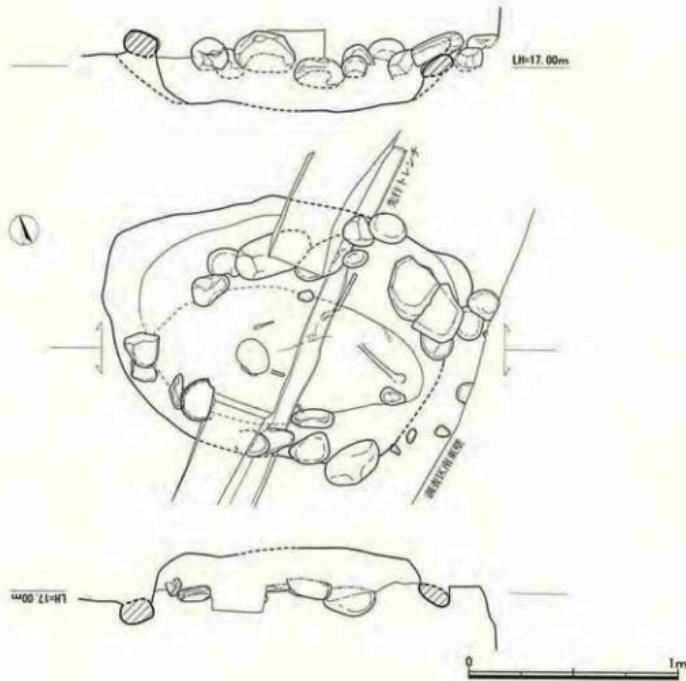


図50 V11区 ST02配石墓実測図 (S=1/25)

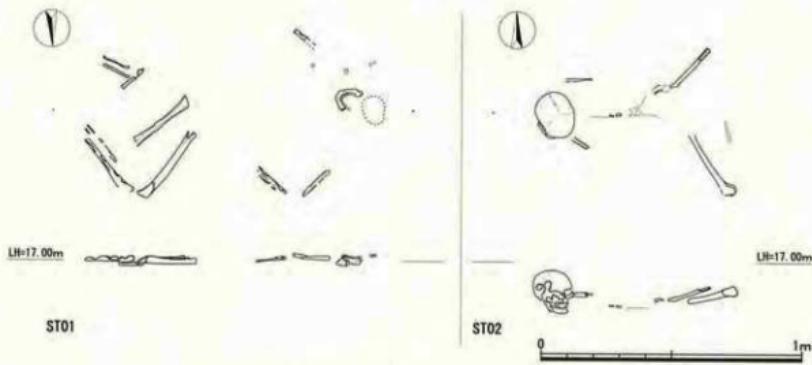


図51 ST01・ST02人骨実測図 (S=1/20)

を確認した。7層の下部にあたると思われ、やや色調が明るく、土壌を築ったところ5mm以下の細かい動物骨片を抽出できた。本土層を掘削すると、下層にあたる8層上面が白川方向に向かって傾斜しており、その傾斜部に堆積した土であることが判明した(図47傾斜部)。この傾斜部はIV14区でも検出できており、河岸段丘の縁辺である可能性が高い。

ST01

ST01は検出面で縦188cm、幅110cm以上、深さが25cmの土坑墓である(図49・51左)。土坑墓は7層を切る形で掘りこまれており、拡張区において7層上面で平面プランを検出することができた。平面形態は楕円形で、浅いレンズ状の掘方を呈する。ただし、墓形成から6層の堆積までの間に搅乱を受けていることが土層によって確認でき、土坑墓の南側は平面プランを明確にすることはできなかつた。墓埋土中には扁平な円環が数点出土しているが、墓との関係性は不明である。このうち人骨頭部に隣接して検出された角環は人骨そのものが原位置から大きく動いていないことから、被葬者埋葬時点で遠くない位置に配置されていた可能性が高い。人骨の詳細については松下孝幸・眞実両氏の報告があるので、ここでは概略のみ述べる。人骨の埋葬姿勢は仰臥屈肢葬で、頭位は西向きである。男性の壯年で、人骨の遺存状態は良好ではない。頭蓋の一部、下顎骨、両腕、両大脚骨と左側下腿が検出されたが、右側下腿が消失しており、右前腕が下半身に近い位置にあるなど埋葬時の状態を保っていない骨がある。この点は土坑墓の南側が搅乱されていることと整合性が取れる。土坑墓の埋土中からは数点の土器片が出土したが、墓に関連するものは不明である(図49-301・302)。あるいは墓の掘削時や埋土の埋め戻し時に7層から混入した可能性もある。また、土坑埋土を現地で1mmメッシュの篩で振るったが、その他遺物は検出されず、副葬品は持っていないかった。

ST02

ST02は検出面で縦175cm、幅125cm、深さが28cmの土坑を持つ配石墓である(図49・50・51右)。土層断面で確認すると土坑幅160cmが見込まれた。土坑は7層を切る形で掘りこまれており、7層上面で平面プランを検出することができた。平面形態は東西に長軸を持つ楕円形で、土坑北西側でやや膨らみ、ST01土坑墓に比べて深いレンズ状の掘方を持つ。土坑周囲には安山岩を主体とした10cmから30cm程の川原石が21~23程度、土坑掘方縁辺へ楕円形に配置されている。石は整然と積まれた場所と隙間が空いているところがあるが、ほぼ同レベルに積まれており、原位置から大きくなっていることが分かる。土坑埋土は2層に分かれしており、土坑を掘削してから被葬者を埋葬し、一度埋め戻し、被葬者を間うように石を配置した後、さらに土を被せたか、徐々に凹みに砂が堆積したと推測される。人骨の詳細については松下孝幸・眞実両氏の報告があるので、ここでは概略のみ述べる。人骨の埋葬姿勢は仰臥で、大脚骨が大きく開いた屈肢葬、頭位は西向きである。女性の壯年で、人骨の遺存状態は良好ではない。頭蓋、両側鎖骨、両上腕骨、両大脚骨などが検出されており、埋葬時の状態をほぼ保っていると考えられる。埋土中からは数点の土器片が出土したが(図49-290)、墓に関連するものは不明で、7層からの混ざり込みの可能性も捨てきれない。ただし、先述の通り、墓周囲から出土しているⅢ類土器は墓と関連する可能性がある。また、土坑埋土、人骨足元近くにイノシシの下顎部片が検出されたが、こちらも関連性は不明である。土坑埋土の土を1mmメッシュの篩で全て振るったが、その他遺物は検出されず、副葬品は持っていないかった。

V11区の出土遺物(図52・53)

282~289はV11区7層で出土した土器片である(図52・53)。282~285はIa類の口縁部あるいは胴部片である。282は胴部がやや膨らみ、頸部で強くくびれ、口縁部が外反する。口縁部には4条の沈線が横位に施されている。283は波状口縁の一部で、頸部はややくびれ、口縁部がゆるく立ち上がり

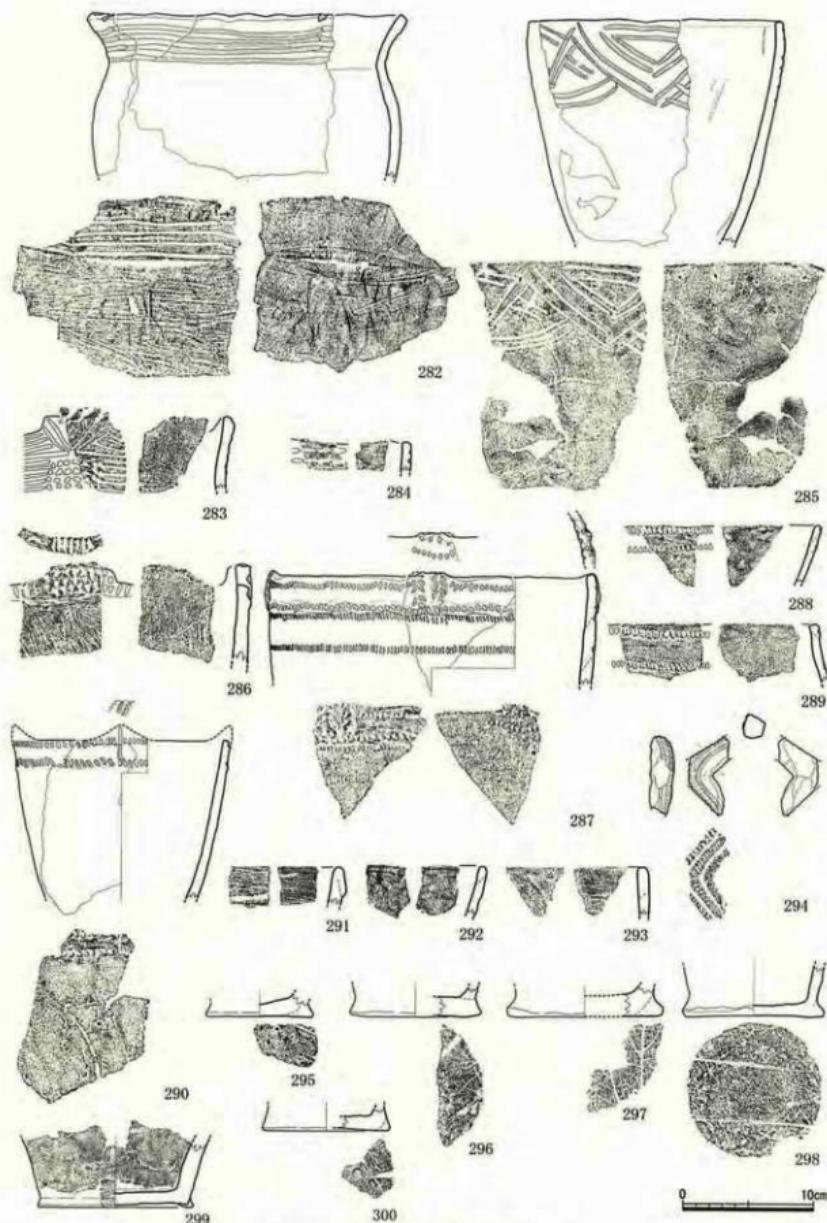


図52 V11区7層出土土器実測図 (S=1/4)



図53 V11区7層出土土器・土製品実製図 (S=1/2・1/4)

る。口縁部から頭部にかけて斜位と横位の沈線と刺突文によって文様が構成される。口唇部にも刻目文が認められる。284は短沈線が2列、連続して施されている。285は口縁部から胴部下半にかけての資料である。器壁が胴部からバケツ状に広がり、口縁部で直立ぎみに立ち上がる。口縁部から胴部上半にかけて、斜位と横位の沈線によって文様が施されている。286はI b類の波頂部である。口縁部はやや内湾しながら立ち上がり、上端に厚みを持つ。この部分と頭部に刺突文が施されている。287～290はII類の口縁部あるいは胴部片である。287は器壁が胴部から口縁部へわずかに広がりながら立ち上がる。台形状のわずかな膨らみを持つ波状口縁で、口唇部と波頂部内面に刺突文が施される。また、口縁部に並行して刺突文が横位に1条、やや間をあけて刻目突帯文が並列する。この刻目突帯文は波頂部で縦位2条に伸びており、横位の刻目突帯文と異なり、突帯の左右に刻目を入れている。さらに刻目突帯文の直下に1条、やや間をあけて1条の刺突文が施されている。本資料は、III 2区9層の土器片との接合資料である。288・289はいずれも口縁部片で、口縁部の上端に横位に1条の刺突文が施され、やや間をあけてもう1条刺突文が並列する。290は口縁部から胴部下半にかけての土器片である。胴部から口縁部がバケツ状に広がりながら立ち上がる。口縁部の上端には横位に1条の刺突文が施され、その下に刻目突帯文が施される。また本資料には縦位に1条の沈線が走っており、この

部分を波頂部として図面を復元した。291~293はX類の口縁部である。このうち291は口縁部がやや膨らむ。294は皿あるいは鉢などに付随する把手と思われる。形態はV字形を呈し、沈線文と刺突文によって装飾されている。295~300は土器底部である。295~298・300はくびれた平底で、底部外面には木葉痕が残る。299は断面の位置によりくびれた平底である。301~309はIV類である。このうち301と302は墓の周辺から出土している。301は胴部から頭部にかけて緩くくびれ、口縁部にむかってやや外溝する。文様帶が口縁部と胴部に分かれしており、やや肥厚した口縁部全体に繩文が施され、口縁部に沿って横位1条の沈線文が走り、波頂部付近では対向弧文が並び、中央に孔を穿つような深い円文が施される。また、胴部には沈線によって鉤手文が施されており、その文様内側に繩文を施そうとしているが、部分的に外側にも飛び出している。沈線施文後に繩文を充填しており、はみ出した繩文を磨り消したような痕跡は認められない。302は胴部下半から底部にかけての資料である。底部はやや丸みを帯びた平底で、器壁が胴部上半に向かって大きく広がる。胴部下半に沈線による区画が設けられその内側に繩文が施されている。また、文様区画内には赤色顔料が付着している。303は口縁から底部までが残存する資料である。底部は平底で、口縁部にむかって胴部がバケツ状に広がり、上端でやや内湾ぎみに傾く。口縁部の文様構成は301と類似しており沈線で区画された口縁部上端に繩文が施され、口縁部に並行する横位1条の沈線文と対向弧文に近い短沈線が施される。文様を区画する横位の沈線は波頂部の位置で胴部に向けて鉤状に展開しており、その内側に繩文を施すが、文様区画外に繩文がはみ出しており、磨り消された痕跡がない。波頂部を中心に左右胴部には沈線文と凹点文によって縦方向に区画が設けられ、その内側にも繩文が施されている。また、底部付近にも沈線が横位に1条巡っているとみられる。文様区画外の胴部の空白は細かい磨きが施されている。304は口縁部にやや膨らみを持ち、沈線文と刻目によって装飾を施している。305~309はIV類口縁部あるいは胴部片である。沈線によって文様区画がなされ、その内面に繩文が施されるものと、これに加えて赤色顔料が付着するものがある。310は土器片転用錐である。本調査地点の資料の中では小型だが、縁辺全体を粗く研磨することで整形しており、短辺に抉りを設けている。

V13区の出土状況と出土遺物 (図54・55)

V13区はヘリウム棟の南西側、U字型溝の排水を浸透井戸の排水管につなげるための排水管の施工に係る工事で調査を実施した。幅1m、長さ8.3mの東西に延びる調査区で、施工深度が2.2mと深いため古代包含層である4層(黒褐色砂層)の掘削後、5層(褐色砂層)と7層(黒褐色砂層)の掘削をおこなった(図54・55)。5層では遺物が出土せず、7層では数点の土器片と石器が出土している。本調査区では基本土層は、1層(表土)の下に昭和28年の白川大水害による灰白色砂層(2層)、暗褐色土層(3層)、黒褐色土層(4層)、褐色砂層(5層)、灰色硬質砂層(6層)、7層(黒褐色砂層)、そして9層(灰色砂礫層)の順に堆積している。本調査区ではこのように基本土層が明確に堆積していたため、土壤サンプリングを実施しており、後の分析に活用した。

311はI b類の土器片である。連続刺突文が2列並んで施されている。312は安山岩製の磨石で敲石に二次利用したとみられる。扁平な円形で、縁辺に帶状に敲打痕が広がっている。

V31区の土層堆積状況 (図56)

V31区は南地区学生会館の南東端に位置しており、本調査地点で最も白川に近い場所に設けられた調査区である(図56)。調査で繩文時代の遺物包含層は確認できなかったが、層位に関して重要な情報が得られたため記載しておきたい。本調査区やV区1~8の土層は地表下約1.5~2mまで現代の盛土(1層)が堆積していた。盛土内からは近代瓦やガラス片など塵芥が多く認められることから、明治41年の熊本高等工業学校設立以降に、ゴミ捨て場として利用されたか、あるいは焼夷弾などが出

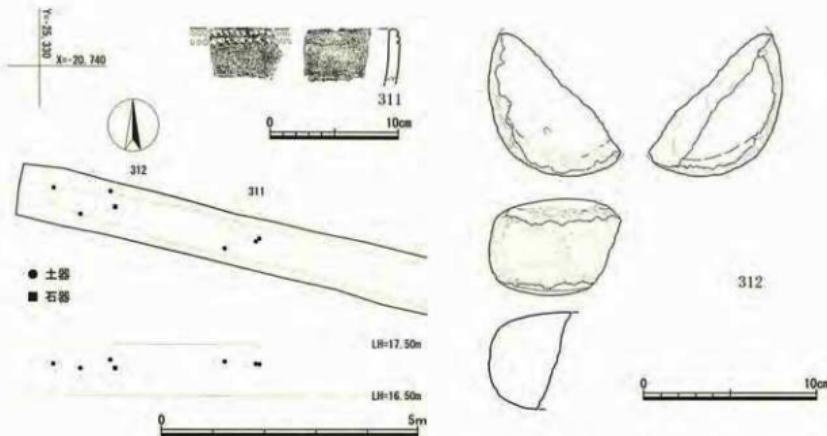


図54 V13区7層遺物出土状況図および出土遺物実測図 (S=1/3・1/4・1/100)

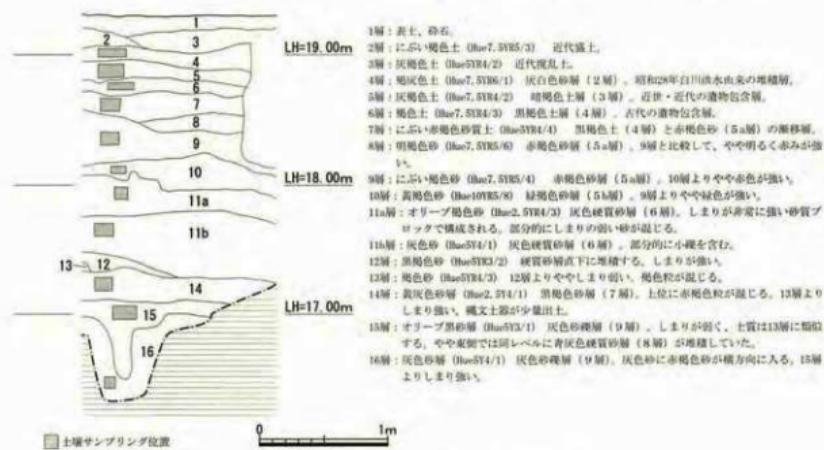


図55 V13区西側北壁土層断面図 (S=1/40)

土するため戦後になって整地されたとみられる。近代盛土の下位には、近世・近代の遺物包含層である3層（暗褐色土）と古代の遺物包含層である4層（黒褐色土）が堆積しており、I～IV区やV区の北側の調査区と比較しても川に向けて深く落ち込んでいることが分かる。その下には5b層（緑褐色砂層）、そして6層（灰色硬質砂層）が堆積しており、こちらも他調査区と比べて数十cm低いレベルで検出された。本調査区の5b層からは遺物は出土しなかったが、北側に隣接するV1区では5b層からIV類の土器口縁部片が1点出土している（図57-317）。IV14区でも5b層からIV類の土器片が

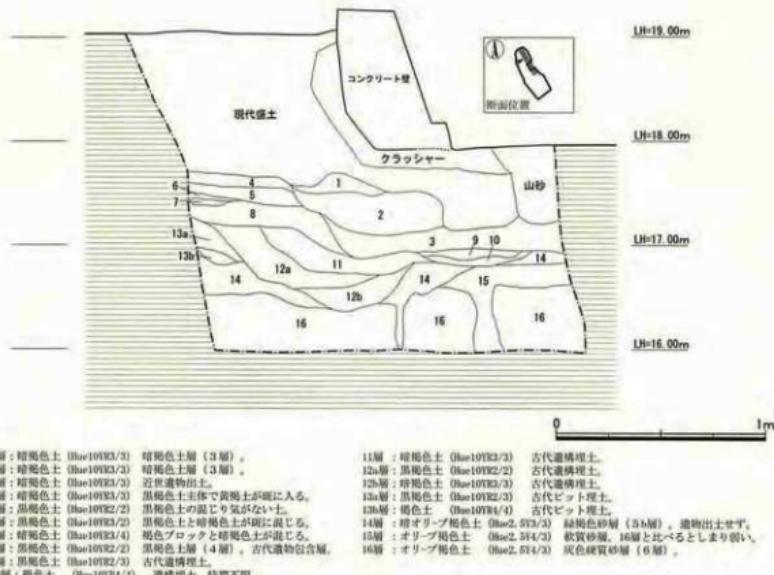


図56 V31区北側北東壁土層断面図 (S=1/40)

確認されており、明確ではないが両土層が対応していると考えられる。この調査区の成果によって、白川に近い位置では基本土層に大きな変化はないが、より低位の河岸段丘が存在しており、川に向けて地形が大きく下がっていたことが判明した。

V区の出土遺物 (図57)

313~324は、V11区とV13区以外のV区調査区から出土した遺物である。このうち317はV1区の5層で取り上げたIV類の口縁部から胴部である。口唇部には2条の沈線文が走り、胴部には沈線によって鉤手文が施されている。313はV20区4層の出土したIa類の口縁部である。口縁部に3条の沈線が施されている。314はV区の出土地不明品である。II類の波頂部で、口唇部、口縁部内外、に刺突文が、波頂部に向けて刻目突帯文が施されている。315はV9区4層で出土した口縁部片である。315はIV類の胴部片で球形を呈しており、数条の沈線文で区画された内側に繩文が施されている。316はV31区4層からの出土で、口縁部が緩やかに広がり、端部に厚みをもち、口唇部上面に刺突文が施される。318はV21区4層からの出土で、IX類の口縁部である。強く湾曲した頭部から口縁部が大きく外反し、端部で「く」の字に立ち上がる。口縁部には横位1条の沈線文が入る。319はV9区古代遺構埋土、320はV9区4層からの出土品である。いずれもX類の口縁部片である。321はV20区4層から出土した粗製の土器底部片である。322~324はいずれも近代以降の埋土から出土した。322は黒曜石で縁辺に細かい剥離によって刃部を形成しており、搔器の可能性が考えられる。323はチャートで、一部の縁辺を剥離調整しており、搔器あるいは石器未製品と思われる。324は安山岩製の剥片で、縁辺を一部細かく剥離調整しているが、人為的なものかは定かではない。

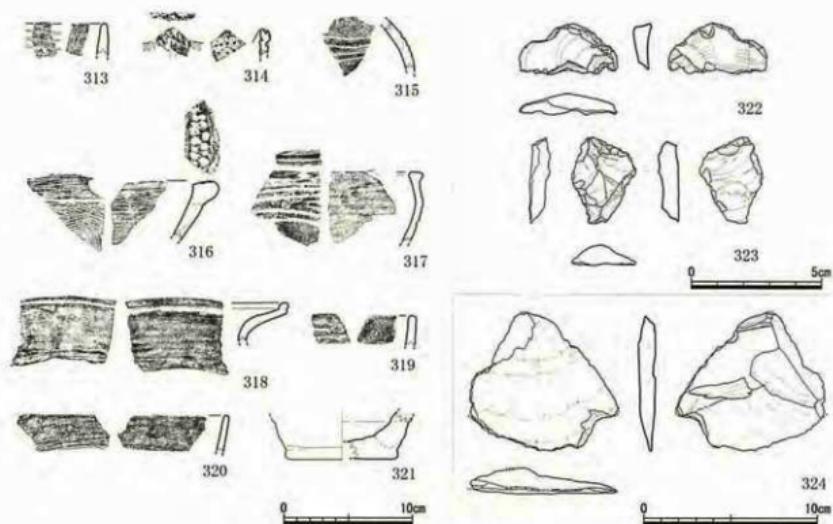


図57 V区出土遺物実測図 (S=1/2・1/3・1/4)

VI 1区5層:317 V 3-2区搅乱:322 V 4区搅乱・近代遺構埋土:323・324 V 9区4層:315・320
V 9区古代遺構埋土:319 V 20区4層:313・321 V 21区4層:318 V 31区4層:316 V出土地不明:314

小結

以上、本調査地点のI～V区のうち縄文時代の遺物包含層および墓の調査成果について説明してきた。全体を概観すると、縄文時代の遺物包含層のうち5層（褐色砂層）では出水式、御手洗A式古段階、鐘崎式、太郎迫式など、縄文時代後期前葉から後期後葉までの土器を主体とした遺物が出土している。ただし、I 37・38区やIII 1区の5 b層では縄文時代後期前葉の土器が主体となって大量に出土するのに対し、各区の5 a層やIV 14区の5 b層からは鐘崎式や太郎迫式が混じるなど、地区によつて含まれる遺物に差が生じている。I 37・38区やIII 1区に堆積した5 b層は厚さ40cm程度の遺物包含層に後期前葉を主体としながら長い時間幅の土器が出土していることから、出水式の段階以降、長期にわたり、土器廃棄空間として利用されていたと推測される。本調査地点は白川の洪水に由来すると思われる6層（硬質砂層）がおよんでおらず、比較的上位の河岸段丘面に相当する。この段丘面上に居住域があったと推測でき、今回の調査では検出されなかったが、今後の調査でも堅穴住居の存在に注意する必要があるだろう。

一報、7層（黒褐色砂層）は、縄文時代後期前葉の出水式と御手洗A式古段階の土器には限られており、6層にパックされていることからも、比較的短期間で形成された遺物包含層といえる。IV 14区やV 11区ではこれらの遺物が河岸段丘の傾斜部に廃棄された状況を示しており、当該時期の日常活動の一端を垣間見ることができる。土器片転用錘などの特徴的遺物がこの時期に存在することは従前の調査にない新たな成果と言える。また先述のとおり、7層上面は当時の地表面に相当し、土器の出土状況からも墓との時期幅はほとんどないと考えられる。

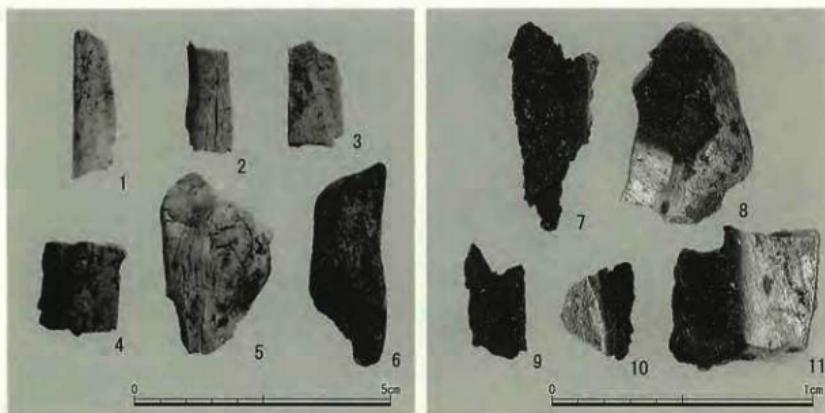


図58 1310調査地点出土動物骨

1・4: V11区7層 2・5: IV14区10層 3: IV14区7層 6: III2区9層 7~11: V11区南西側7層傾斜部

(5) 動物遺体

本調査ではごく少量の動物遺体が検出されている。動物骨が出土したのはIII2区9層、IV14区7層・10層、V11区7層で、土を簡にかけて抽出した極小の資料と、現地で土器などと共に取り上げることができた小型の資料に限られる。小型の資料の内容はイノシシの下顎骨や歯、四肢骨の端部、小動物の骨などが出土している(図58-1~6)。簡から抽出した資料の中には被熱し、炭化したものや白色化したものが見受けられることから(図58-7~11)、食料として調理した後に廃棄されたもののが含まれていると想定できる。その他、多くの獸骨については細片である上に保存状況がよくないため同定が困難であった。また、資料中に魚骨や貝類などは確認できなかった。

(6) 放射性炭素年代測定

縄文人骨や遺跡の年代の参考とするため、株式会社地球科学研究所に放射性炭素年代測定の分析を依頼した。当初、V11区で検出した縄文人骨の骨と歯を分析に出したが、残存状況が悪く、分析可能なコラーゲンを抽出することができなかった。本調査地点ではV11区7層で取り上げたT-1について年代測定を実施することができた(図48-23中の炭化物)。V11区7層(黒褐色砂層)は縄文時代後期前葉の遺物包含層である。上位には6層(灰色硬質砂層)が厚く堆積し、下位には8層(青灰色硬質砂層)が認められる。本層からはI、II、III類、X類の土器が出土しており、IV~IX類の土器が出土しておらず、後世に大きな擾乱を受けていない安定した層といえる。

報告内容を図59に提示した。加速器質量分析法による放射性炭素年代測定を実施したところ、T-1は 3690 ± 30 BP (2σの歴年代でBC2195~2175、BC2145~2015、BC1995~1980) の年代値を得ることができた。

(7) 本調査地点の土壤に関する分析と考察

現熊本平野一帯には、約9万年前の阿蘇火山の大噴火によって阿蘇-4火碎流堆積物が広く堆積し

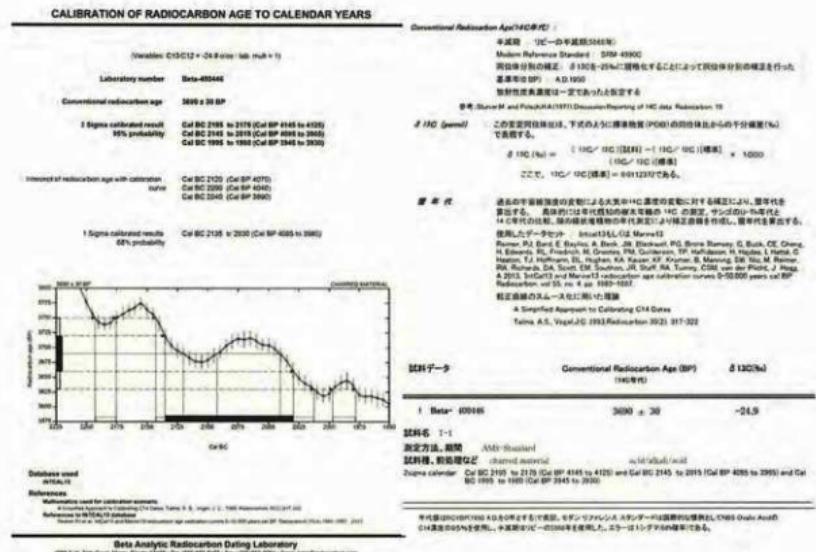
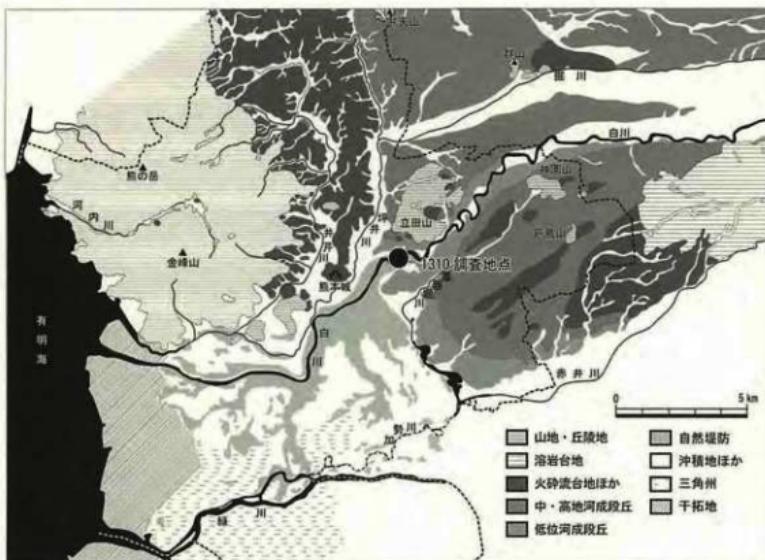


図59 放射性炭素年代測定結果
(報告書を縮小転載)

た。金峰山、立田山や託麻三山などの起伏の大きな山地、丘陵を除き、西側へ緩やかな傾斜を持つ広大かつ平坦な平原が広がっていたのである。後にこの火碎流堆積物は白川を主とし、坪井川や井芹川などの河川によって浸食を受け、熊本平野各地に河岸段丘が形成された。その後、完新世には白川、緑川などの河川により上流から運ばれてきた土砂が下流の沿岸部に堆積し、沖積平野を形成した。本調査地点も含めて、現在の熊本市の市街地の主要部は白川とその支流によって運ばれた土砂由来する「自然堤防」上に立地している（図60、新熊本市中編纂委員会編1998より引用・改変）。

本調査地点は阿蘇山から有明海に向かって流れる白川下流域の右岸、微弱に起伏する自然堤防上に立地している。南に白川、北に立田山を望む本遺跡は、河川作用や風雨、降灰などの自然現象によって土砂の堆積と浸食が幾度も起きる中、この地を居住地とする縄文時代の人々によって形成された。1310調査地点の発掘調査では各土層において多くの優良な考古学的データを得た。また本調査では、従前の調査で先史時代の文化層が存在しないと考えられてきた土層（6層以下）からも縄文時代後期前葉の遺物や墓が検出されるなど、特筆すべき調査成果が得られている。本調査成果を鑑みるに、白川流域の自然堤防の土層の堆積状況と形成過程は複雑かつダイナミックであり、今後、熊本大学構内遺跡のみならず、熊本市内の埋蔵文化財調査を実施する上で、土層認識に関して充分な議論が必要となるだろう。そこで本項では、本調査地点の主要な土層の性格を明らかにするとともに、基本土層の理解の整合性について地質学的分析を取り入れることで補完することを目的とし、土層または土壤に関する調査や分析を実施した。①現代の白川洪水による堆積砂の調査と、②土壤のマイクロスコープ観察である。このうち②については熊本大学大学院先端科学研究所部の宮嶽育夫氏と同学教育学部3年生の遠入楓太氏に分析を実施して頂き、地質学的知見を仰いだ。



調査区1310調査地点の位置を示す熊本平野地形分類図 (S=1/200,000)。調査区は鍋川沿いに位置する。

図60 熊本平野地形分類図 (S=1/200,000)
(「熊本市の文化財」より一部改変)

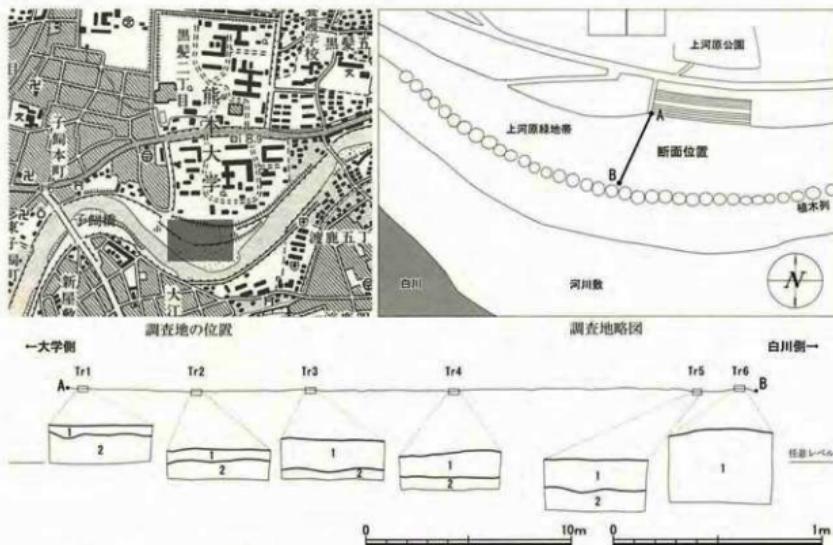
① 上河原緑地帯における白川洪水による堆積砂の調査

調査の経緯

熊本大学黒髪南キャンパスと白川の間に広がる「上河原緑地帯」は、日常的には野球やサッカー、応援団の練習などがおこなわれる運動場、憩いの場として利用されている(図61左上)。本緑地帯は白川の中流域から下流域への移行地に位置しており、川筋が子飼橋付近で大きく蛇行することから、大雨により白川が氾濫した際には冠水することが多々あった。2016年6月19日から23日にかけて、阿蘇方面を中心として熊本県内に大雨が降り、白川が氾濫し、熊本市内や熊本大学埋蔵文化財調査センターでも床上浸水が発生するなどの被害が生じた。この際、上河原緑地帯の様子を確認したところ、普段運動場として利用されている緑地帯全体が洪水によって運ばれた土砂で覆われていたのである(図61-1)。調査担当者は1310調査地点において6層(灰色硬質砂層)が白川により近い調査区にのみ厚く堆積することを確認しており、現代の白川洪水砂の堆積状況が遺跡の堆積状況と類似していることに着目した。遺跡で採取したサンプリング土壤との比較試料入手するとともに、砂の堆積状況の把握を目的とし、6月23日に白川洪水による堆積砂について簡易的な地形測量と写真記録、土壤サンプリングを実施することとした。2019年3月現在、これら堆積砂は一部を残して撤去されている。

調査方法と調査結果

調査では上河原緑地帯へ降下する階段最下段隅に任意の測量点である「A」を設け、河川に直行する形でAから直線距離約334mの位置に測量点「B」を設けた(図61右上)。そして、AからBの直線上に幅50cmのトレンチを計6カ所に設定した上で、埋もれた現地表面までの掘削を実施し、堆積



1: 黒褐色砂 (10YR3/1) 灰色砂を主体とし、褐色砂が混じる。2層より褐色砂と灰色砂の互層堆積が明瞭に認められる。
2: 黒褐色砂 (10YR2/2) 直下が現地表面。しまりやや強く、結質なし。1層と比較すると褐色砂と灰色砂の互層堆積が明瞭でない。

調査地の土層断面 (土層: S=1/25, 地表面: S=1/250)



1 : 調査地遠景 (北より) 2 : 調査終了後 (南より) 3 : Tr5・6 近影 (西より) 4～9 : Tr1～6 土層断面 (西より)

図61 現代における白川洪水による堆積砂の調査

1. (黒髪南) ライフライン再生(給水設備等)工事に伴う発掘調査(1310調査地点)

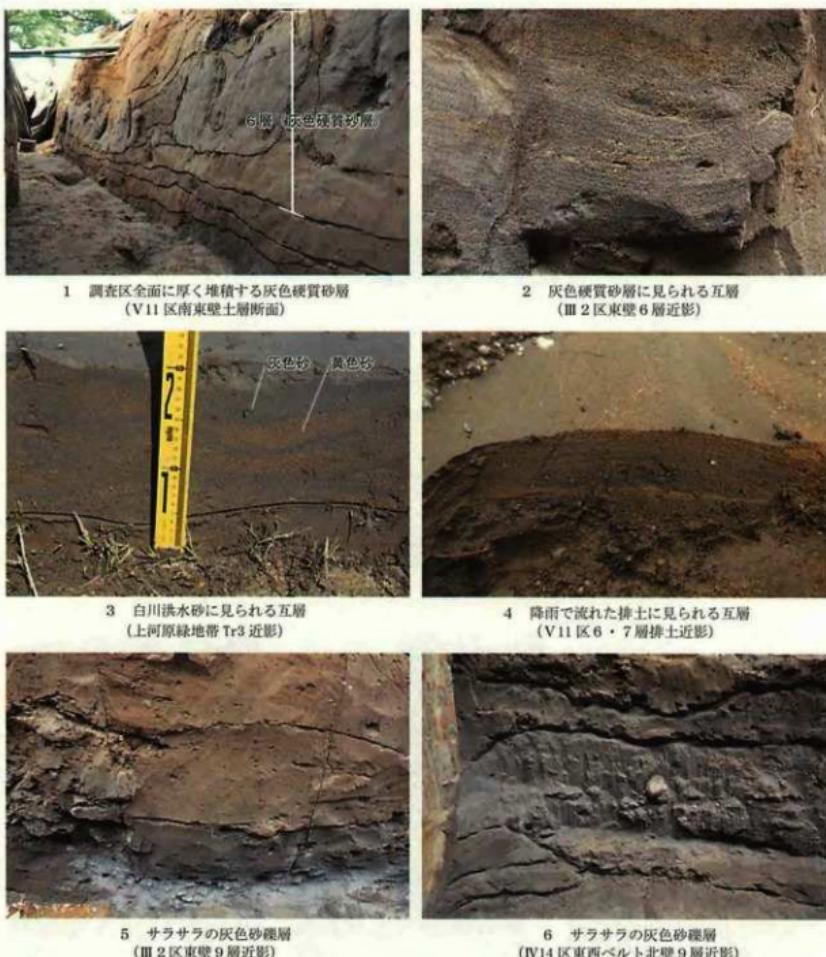


図62 1310調査地点における白川洪水に係る堆積層とその関連写真

砂の断面を観察・記録した(図61中央)。河川に最も近いTr5・6付近は、川に向かって流路が幾筋も伸びていたため、前者は流路の凹部、後者は流路の凸部にトレーニチを設定した(図61-3)。洪水前の地表面は、陸側から川に向かって緩やかに傾斜しており、AとBでは20cmの高低差があった。洪水による堆積砂もほぼこの地形に沿って堆積しており、最も薄い場所で14cm(Tr2)、最も厚い場所で36cm(Tr6)の砂が堆積していることを確認できた。また、土層は灰色を主体として褐色砂が混じる1層と、しまりが強く褐色砂と灰色砂が斑に混じり、地表面との漸移層に相当する2層に分けた。そして、陸側では2層がより厚く、川に近くなるにつれて1層が厚くなる傾向が認められた。

注目すべきは1層が褐色砂と灰色砂が互層となって堆積していることが確認できた点である。この褐色砂と灰色砂はそれぞれ現地でサンプリングを実施し、後の分析に使用した。

考察

本調査により、現代のように整備が施された河川でも土砂が一夜にして数十cmも堆積することが確認できた。昭和28年6月末に起きた白川大水害では、熊本市内の白川流域低地一帯が冠水し、阿蘇火山に由来する火山灰土を含む土砂が広く堆積した。熊本大学黒髪南地区では、工学部敷地が一次流路になり、広い範囲が冠水したという記録が残っている（熊本大学60年史編纂委員会：p178）。構内の考古学的調査では、黒髪南地区1309調査地点において昭和28年の堆積砂を土層中に確認することができ、細かい粒径の砂が最大で60cm以上の厚さを持って堆積していた（山野・柴田編2018）。白川は近世の文献上でも幾度も氾濫していたことが分かっており、古くから調査地一帯は白川の影響で頻繁に冠水していたことを示す。

さて、1310調査地点の6層（灰色硬質砂層）は縄文時代後期前葉の遺物包含層やV11区で出土した配石墓を覆っていた。本層は低位河岸段丘の一部である11層（灰オリーブ褐色層）が急激に落ち込むⅢ2区から白川により近い南側に向けて厚く堆積しており、V11区では最大で約70cmの厚みがあった（図62-1）。一方、白川から遠いI・Ⅱ区に本土層が堆積していないことも、河川作用によって堆積したことを裏付ける。さらに6層の表面を詳細に観察すると、一部では黄色砂と灰色砂が細かい単位で互層になっていることが確認できた（図62-2）。この粒子の流れは単に水平に堆積しているだけではなく、緩やかに湾曲している。今回の上河原緑地帯における調査でも各トレンチの1層において、6層と酷似する堆積状況が確認できている（図62-3）。また、発掘調査現場でも興味深い現象を体験した。V11区で掘り上げた6・7層の排土が降雨で洗われた際、半日程で排土から砂が崩落し流れ落ちていた。この排土を縱に割り、断面を観察したところ、黄色砂と灰色砂の互層が認められたのである（図62-4）。このことからも6層は水の流れる方向や強弱の影響を受け、粒径や重さの差によって砂粒が分級・沈降し、色調の異なる砂が交互に、しかも短時間で堆積したと推測できる。以上の見解により、本遺跡に堆積している6層は、降雨により白川で洪水が発生し、河岸段丘の底部を形成する凹部あるいは平坦面が冠水し、短期間で水が引いた後に残った堆積砂層であると結論づけた。本層が硬質化している理由については不明であるが、単純に土圧の影響のみとは考えにくい。6層の下位に堆積する遺物包含層の7層（黒褐色砂層）は硬質化していないからである。逆により上位に堆積する5層（褐色砂層）中にも砂が硬質化したブロックが帶状に確認できることがある。このため砂の硬質化は土圧に加え、乾燥などいくつかの条件が整った際に生じる現象と推測される。また、9層（灰色砂疊層、写真62-5・6）には、水性作用とみられる平行葉理は認められるが、こうした互層は確認できない。本土層はしまりがほばなく、触るとサラサラと崩れる。灰色砂を主体とする比較的大きい砂粒や円礫も混じることからも、一定期間、調査地周辺が水路となっていた可能性が考えられる。Ⅲ2区において6層よりさらに白川に近い位置から堆積し始めたことからも、一時期の間、大雨により白川が増水・拡幅し本流に組み込まれたか、あるいは支流となったと推測できる。

② 1310調査地点の土壤分析

採取方法

1310調査地点において、Ⅲ32区、Ⅲ2区、IV14区、V11区、V13区の5カ所で各土層の土壤のサンプリングを実施した（図15・28・55）。遺跡現地でのサンプリングの際は、各土層の表面を移植ゴテで削った後、上下の層と混ざらぬよう注意し、奥行5~10cm程の土壤を採取し、新品のポリ袋にて

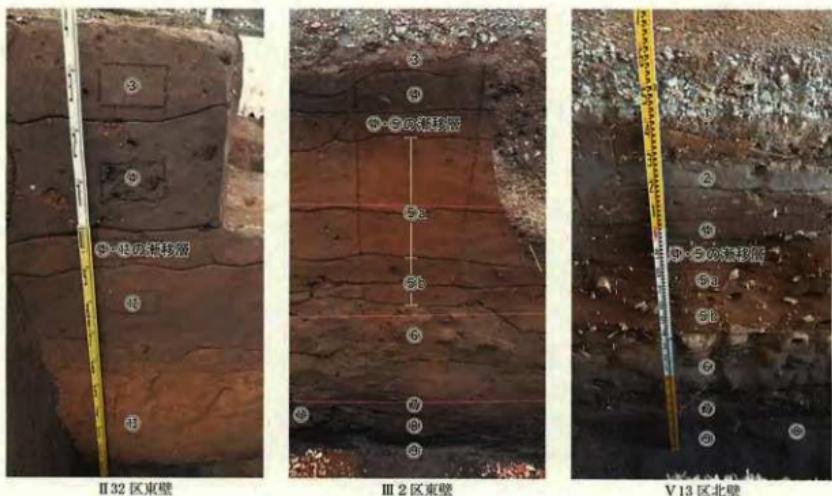


図63 1310調査地点各区の土層断面写真
(数字は基本土層1~13に対応)

保管した。また、各サンプリングを採取する度に移植ゴテを水とキムワイプで拭き取り、コンタミネーションに配慮した。時間の都合から全ての土壤の分析を実施できなかつたため、上記のうち、II 32区12層・13層、III 2区5 a層・6層・9層、V13区6層など本遺跡の土層とその堆積状況を理解する上で重要な試料に限り抽出・分析した(図63)。加えて、上述した2016年6月に上河原縁地帯に堆積した白川洪水砂のうち、1層の黄色砂および灰色砂も分析している。

試料調製・観察方法

試料は、恒温器を使用して80°Cで2~3日程度乾燥させた後、ふるいによって0.25~0.5mm画分を抽出し、超音波洗浄機を用いて粒子表面に付着する細粒物質を除去した。この調整した試料をデジタルマイクロスコープ(ライカDMS1000)で観察した。なお、白川右岸グランドで採取した灰色砂については0.25~0.5mm画分の粒子が少なかったために、0.125~0.25mm画分を観察している。

観察結果

各試料の構成物は、岩片・鉱物片・ガラス片の3種類に大別できた(図64)。岩片とは、主に既存の岩石の石基部分の破片であり、黄色や赤色を呈するものに分けられ、様々な程度に風化・変質している。鉱物片は、斜長石や輝石、かんらん石などの離結晶粒子である。また、ガラスは火碎噴火によってマグマがほとんど結晶化せずに放出されたものであり、今回の試料中には透明なバブルウォール型火山ガラスと、暗褐色(あるいは黒色)を呈する多面体型の火山ガラスが含まれていた。前者は約29,000年前の姶良Tn火山灰(AT)や約7,300年前の鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah)に由来するガラスである(町田・新井2003)と考えられる。一方、後者は阿蘇火山中岳などの灰噴火でもたらされた玄武岩質安山岩質のガラス粒子(小野ほか1995)である可能性が高い。以下に各試料の構成物の相対量を提示した。

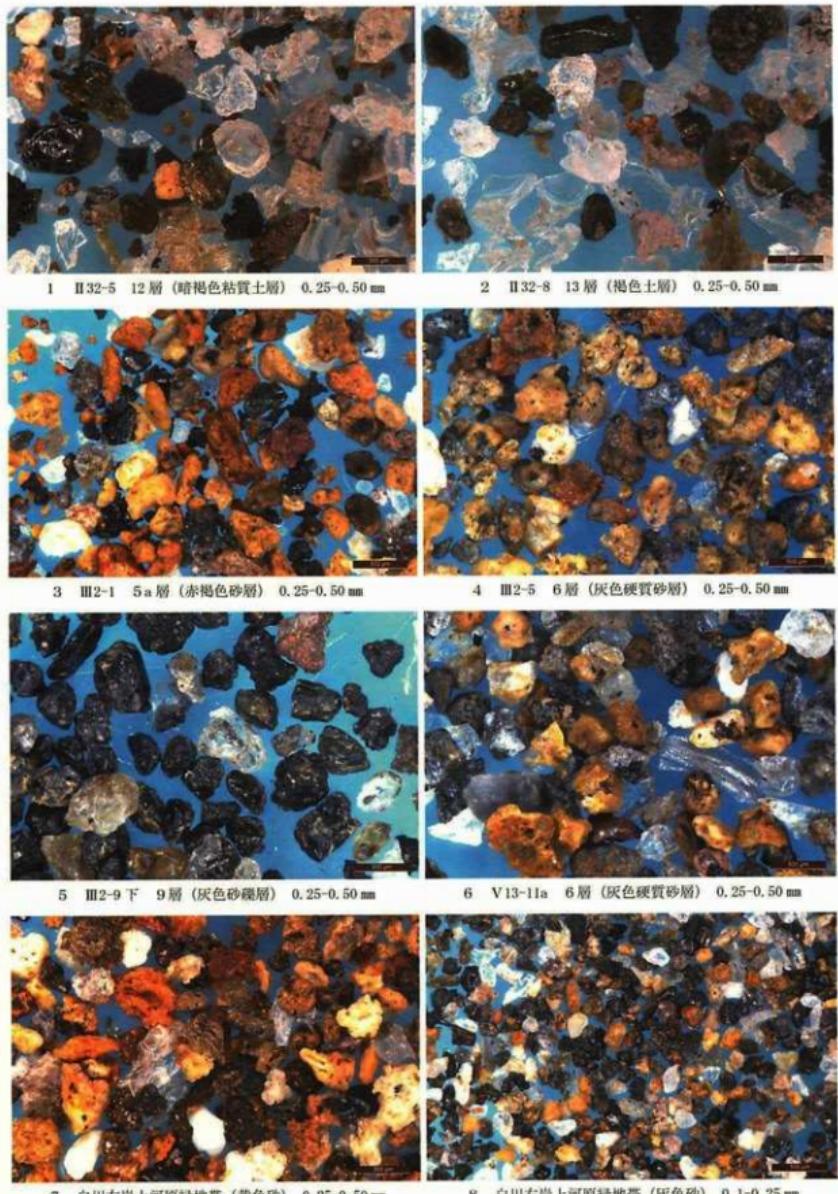


図64 1310調査地点および現代の白川洪水砂層の構成物観察写真

試料1 II 32-5 12層(暗褐色粘質土層) 0.25-0.50 mm

斜長石 > ガラス(バブルウォール) > 単斜輝石 > ガラス(黒) > ガラス(灰) > 岩片(黄) > 岩片(赤)

試料2 II 32-8 13層(褐色土層) 0.25-0.50 mm

斜長石 > ガラス(バブルウォール) > 単斜輝石 > ガラス(黒) > ガラス(灰) > 岩片(黄) > 岩片(赤)

試料3 III 2-1 5a層(赤褐色砂層) 0.25-0.50 mm

岩片(黄) > ガラス(黒) > 斜長石 > 岩片(赤) > 単斜輝石

試料4 III 2-5-6層(灰色硬質砂層) 0.25-0.50 mm

岩片(黄) > ガラス(黒) > ガラス(バブルウォール) > 岩片(赤) > 斜長石

試料5 III 2-9下 9層(灰色砂礫層) 0.25-0.50 mm

ガラス(黒) > 斜長石 > 単斜輝石 > 岩片(黄) > 岩片(赤)

試料6 V 13-11 a 6層(灰色硬質砂層) 0.25-0.50 mm

岩片(黄) > ガラス(灰) = 斜長石 > ガラス(黒) > 岩片(赤)

※ 単斜輝石やガラス(バブルウォール)も含む

試料7 白川右岸上河原緑地帶1層(黄色砂) 0.25-0.50 mm

岩片(黄) > 岩片(黒) > 斜長石 > ガラス(バブルウォール) > 岩片(赤)

試料8 白川右岸上河原緑地帶1層(灰色砂) 0.1-0.25 mm

ガラス(黒) > 斜長石 > 岩片(黄) > 岩片(赤) = かんらん石

※ ガラス(バブルウォール)も含む

考察

試料の構成物と土層の色調を比較すると、基本的には5層(褐色砂層)のように褐色あるいは黄色を呈する土層の主要な構成物は黄色の岩片であることが確認できる。また、9層(灰色砂礫層)など灰色や黒褐色を呈する土色の主要な構成物は黒色あるいは灰色のガラスであることが確認できた。試料中で特異なのは試料1・2(12・13層)で、斜長石やバブルウォール型火山ガラスの相対量が著しく多く、他の試料とは大きく異なる構成内容を示す。また、現在の白川洪水砂の試料7・8の構成物の内容については、粒径の差や構成物に若干の相違はあるものの、遺跡で検出された5層や6層とはほぼ変わらないことが分かる。

これまで大学構内遺跡の調査では、5a層(赤褐色砂層:図63-中央⑤a、図64-3)と12層(暗褐色粘質土層:図63-左②、図64-1)は明確に区別されておらず、当初はいずれも火山灰の二次堆積物とされ、地山として認識されていた。本発掘調査では5a層から縄文時代後期の遺物が出土するが、12層からは遺物が全く出土しなかったためこれらが異なる土層である可能性が高まった。今回の砂粒観察からも、両者の構成物には斜長石やバブルウォール型火山ガラスの相対量に大きな相違が認められ、堆積した時期や構成物が異なることが明確となった。12・13層の堆積年代については、構成物から約29,000年前の始良Tn火山灰(AT)や約7,300年前の鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah)に由来すると考えられるが、今後考古学的、地質学的検討を進めていく必要がある。

遺跡に堆積していた5層、6層、9層は、現在の白川の洪水堆積砂層の構成物の内容と大きな違いがなく、黄色の岩片あるいは黒色・灰色のガラス片、斜長石を主体としている。本分析に加え、遺跡における堆積状況や土層の表面観察からも当初想定していた通り、白川からの断続的な砂の供給によって堆積したと考えられる。遺跡に堆積した基本土層の中で少なくとも5~9層、あるいは10~11

層は、本調査地点周辺にみられる白川の「自然堤防」の上層部分に相当するとみてよい。黄色の岩片は白川流域に存在する岩壁が風化などの自然作用によって変質して形成されたものと思われるが、その詳細については今後の検討課題である。

(8) 総括

① 調査の成果

1310調査地点の発掘調査を実施したところ、遺構として縄文時代後期前葉の3基の墓を発見した。また、複数枚の遺物包含層中から縄文時代後期前葉を主とする土器、石器、土製品などを発見した。以下にその概要をまとめ、先行研究や報告に触れながらその評価を述べる。

墓と人骨

V11区では縄文時代後期前葉の墓と人骨3基が発見された。ST01は土坑墓で、壮年男性が埋葬されていた。ST02は川原石を用いた配石墓で、壮年女性が埋葬されていた。ST03は大腿骨のみが検出され工事範囲外のため調査を実施しなかった。これら3基の墓が2.5×4mの狭い範囲で検出されたことから、一帯は墓域として利用されていたと考えられる。人骨に副葬品や着装品はなかったが、周囲から出土した縄文を施した土器(Ⅲ類)が墓に関連する可能性がある。人骨の分析によると、縄文人骨のうちST02は上顎左側切歯に抜歯が認められ、熊本県内的一般的な縄文人に比べて低身長できやしゃである特徴が見出せた(本書:pp.127~145)。

埋葬人骨は平野部の地表下約2mで発見された。通常、縄文人骨が出土する環境は貝塚や洞穴遺跡からが圧倒的に多く、平野部には人骨が残存しづらいため本例は極めて貴重である(坂本2002)¹¹⁾。熊本県下では、縄文時代後期前葉に時期比定された墓は他に類例がなく、本遺跡のように明確な配石墓も確認されていない。縄文後期前半からは東日本からの影響で土器棺墓が増加していくことが知られるが、それ以前の墓制を知る上でも重要な成果となった。また、西日本の平野部では縄文時代の墓と思わしき土坑が検出されてきたが、埋葬人骨が伴わないと墓と認定できない例が多い(山田2002)。今回、縄文時代後期の人骨が土坑に伴って発見されたため、洞穴・貝塚以外の平野部の確定的な墓の存在が証明された。こうした意味でも今回の発見は九州の縄文時代の墓制や墓域の解明につながる重要な成果といえる。熊本市内の白川の河岸段丘の低位には、こうした遺構が現存している可能性があり、今後も慎重な調査が必要となるだろう。

土器

本調査地点では、押型文、出水式、御手洗A式古段階、鐘崎式、北久根山第II型式、辛川II式、太郎追式、古闕I式など縄文時代早期から後期末葉の土器が出土した。このうち主体を占めるのは出水式、御手洗A式古段階の2型式で、縄文時代後期前葉の土器型式に相当する(水ノ江2012:p29)。本報告書では前者をI類とし、後者の深鉢をII類、鉢をIII類として報告した。このうち御手洗A式古段階の深鉢は、口縁部から底部付近まで接合するものなど優品があり、数量的にも今後の基準資料となりえる。各地区各土層から出土した土器を表3と図66・67にまとめた。遺跡の主体であるI~III類を中心とし、土器の概要を述べたい。

I類に相当する出水式は、鹿児島県出水市に所在する出水貝塚を標識遺跡とする。いわゆる阿高系の流れを組む九州在地の土器で、九州西半部に広く分布している。中九州では南福寺式に後続し、福田K2式とは並行関係にある土器型式とされる(水ノ江1993、水ノ江・前追2010)。出水式は文様の多様さや資料の多さ、広域に分布する現状から時間的な細分が見込まれる(水ノ江2010:p32)。本遺跡からは南福寺式の大きな特徴の一つである口縁部への「く」字状の綾杉文や逆S字状の文様が

表3 1310調査地点の各層出土土器

調査区	層	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X
I 37・38区	5a層	(1)	(1)		(1)						
	5b層	4 (7)	2 (5)								4
III 1区	5a層	3	1	1 (2)	1						
	5b層	17 (1)	12 (1)	2 (2)		1					6
III 2区	7層	1	2								6
	9層		1								
III 3・4区	5b層				1						1
IV 14区	5b層		(1)		2						
	7層	11 (2)	7 (2)	2							3
	10層	1									1
IV 30-2区	5a層	(1)				(1)					
V 11区	7層	4 (1)	4 (1)	9							3
調査区		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X
I 区		2 (1)	3 (1)		2	3		2	4	1	4
II 区							6	3	1	2	1
III 区		4 (5)	(2)					3	1	1	3
IV 区		1						1		4	3
V 区		1	1	1	1				1	1	2

※報告書に掲載した資料のみを数えた。()内は可能性があるもの。

※下表は古代遺構埋土、4層、3層、搅乱の資料である。

施される土器は認められず、三角形範削文を有する鉢が出土しないなど、典型的な南福寺式が混在していないことが分かる。よって、出水式土器の定義を再度明確にする上でも重要な資料が得られたと考えられる。本報告では沈線文を主体とするI a類と、刺突文と刻目突帯文が施されるI b類とに分けている。これらは深鉢であり、鉢に対応する磨消繩文系統の土器が存在するとと思われるが、本報告では胴部に沈線文で区画された繩文を持つ土器をまとめてIII類としており、層位的にも明確に抽出することはできなかった。本調査地点各区では御手洗A式古段階に相当するII類土器と同一層から出土しており、両者の並行関係や時期幅を考える上で示唆的である。II類は波頂部の内面に刺突文を施す点や、口縁部が厚みを持たず、バケツ状に広がりつつ立ち上がるという点でI類とは様相が異なる。一方で、口縁部付近に刻目突帯文を有する点や刺突文を文様の主体とする点ではI b類とより類似性が高いといえる。また、後述するII類中にはIV 14区7層で出土した211のように御手洗A式古段階の深鉢の文様を呈しながら、胴部上半にくびれを持ち口縁部がやや外湾しながら立ち上がるという出水式の器形を呈する土器が存在しており、両者の繋がりをうかがわせる。

御手洗A式は、熊本県志市に所在する御手洗遺跡を標識遺跡とする。中九州から西北九州を中心に広く分布し、東北九州にも散見される(山野2015)。御手洗A式の名称は当初、口縁部上端へ爪型文や刺突文が施される深鉢土器に対して設定されたが、現在では出水式に後続する深鉢と、縁帶文土器の流れを受けた繩文を有する鉢とのセットをなす「御手洗A式古段階」として認識されている。その系譜については先行研究の古くから阿高系の土器に求められる一方、福田K 2式などに求める見解もある(西脇1990、水ノ江2008)。本調査地点では各調査区の5b層や7層においてI・III類と同一層から出土している。I 37区5b層で出土した13の土器をはじめ、IV 14区7層の215、V 11区の287・290など良好な資料が得られている。先行する土器型式である出水式土器との関係性は先に述べた通りであるが、後続するとされる御手洗A式新段階に相当する爪形文の土器は、可能性のある小破片を除き本調査地点では出土していない。また、鐘崎式、中九州では御手洗B式に相当するIV類とは共伴

する状況が認められず、先行研究の通り確かな先後関係が見出せる。

Ⅲ類は御手洗A式古段階の鉢、あるいは小池原下層式の新相と呼ばれる土器の一群（水ノ江2010）に相当する。本遺跡で器形や文様構成がうかがえる資料はV11区7層から出土した301や303である。これらは器形に大きな差があるが、沈線で区画された施文部全体にL型の縄文を施す点や、口縁部に波頂部あるいは円文を中心として対向弧文と沈線文が展開する点が共通している。また破片資料の中には縄文施文部に赤色顔料が付着するものが確認されている。本調査地点においては、これらの大型の土器片がV11区の北側の墓域周辺に集中していることから、埋葬儀礼に伴う「ハレ」の器であった可能性も考えられる。東北九州で出土する小池原下層II式あるいは土佐井式と仮称される土器（水ノ江2008）や、四国に分布する平城式と文様構成などに類似性があり（山崎2003）、今後その系統や展開も含めて議論が深まる期待される。

本調査地点の土器はそのほとんどが包含層中で出土したため、一括性に乏しいという見方もあるだろう。たしかにI37区やⅢ1区出土土器については現地でも若干の混じり込みがあり、分層発掘が不十分といえる。しかし、Ⅲ2区、V11区、IV14区では、間層をはさみ土器群が出土することや、硬質ブロックの層でパックされていることなどから、遺構一括資料ほどではないもののその時期幅は短いと思われる。土器の割れ口がほぼ摩耗を受けておらず、10cmを超える大型土器片が近い位置で接合することからも本調査地点の遺物の出土状況は、居住城に近い捨て場、とくに川に近い傾斜地へ断続的に土器などの使用済みの道具を廃棄した状況であると想定できる。

石器

本調査地点では、石器として石鏸、石鋸、石匙、石錘、磨製石斧、打製石斧、敲石、砥石、磨石、凹石、石皿、台石、調整剥片など計58点を取り上げた。各石器には同一種類の石材が使用されることが多く、石鏸や敲石、石皿や台石は安山岩が用いられ、砥石は砂岩、磨製石斧は蛇紋岩が用いられている。発掘調査では遺物包含層から出土した石の多くを持ち帰り、洗浄した上で遺物の抽出をおこなった。しかし、多くは自然石であり、石器の量が少ない印象を受けた。縄文時代の遺物包含層から出土したのは31点で、最も多く出土したのは敲石である。敲石は手になじみやすいサイズの棒状あるいは円錐状の河原石が使用されており、両側端部を使用しているものや縁辺に帯状の敲打痕が残るもののが認められた。石鏸は安山岩製の未製品がⅢ2区7層より出土するのみで、他は古代の包含層や搅乱中からの出土であった。縄文時代後期前葉に相当する遺物包含層からはイノシシなどの骨、歯、牙の破片が出土しており、被熱していることからも狩猟をおこない食料としたことが推測される。この他、敲石や磨石、石皿、台石の出土は堅果類を採取し加工した可能性を示唆する。当該時期には九州において石斧が増加する傾向が指摘されているが（島津1976）、今回の調査では遺物包含層からは1点の磨製石斧の刃部片が出土したのみであった。

土製品

土製品として土器片転用錘が計15点出土している。内訳はI37区5b層で1点、Ⅲ1区5b層で5点、IV14区7層で8点、V11区7層で1点である。いずれも出水式と御手洗A式古段階が主体となる遺物包含層中からの出土で、縄文時代後期前葉の遺物として位置づけられる。このうちIV14区では調査区南西の傾斜部や手前に数点がまとまって出土した。製品は土器片の側面が研磨されており、平面形態が隅丸方形ないし長方形になるように加工されている。各短辺にはV字状の抉りが1カ所ずつ施されており、この抉りに紐を緊縛したと考えられる。法量は長さ24~45cm、幅1.5~2.4cmにまとまり、サイズに統一性がある。熊本県下で土器片転用錘の出土例はほとんどなく、管見の限り熊本市南区城南町黒橋貝塚で8点（高木・村崎編1998）、熊本大学構内遺跡黒髪南地区9911調査地点

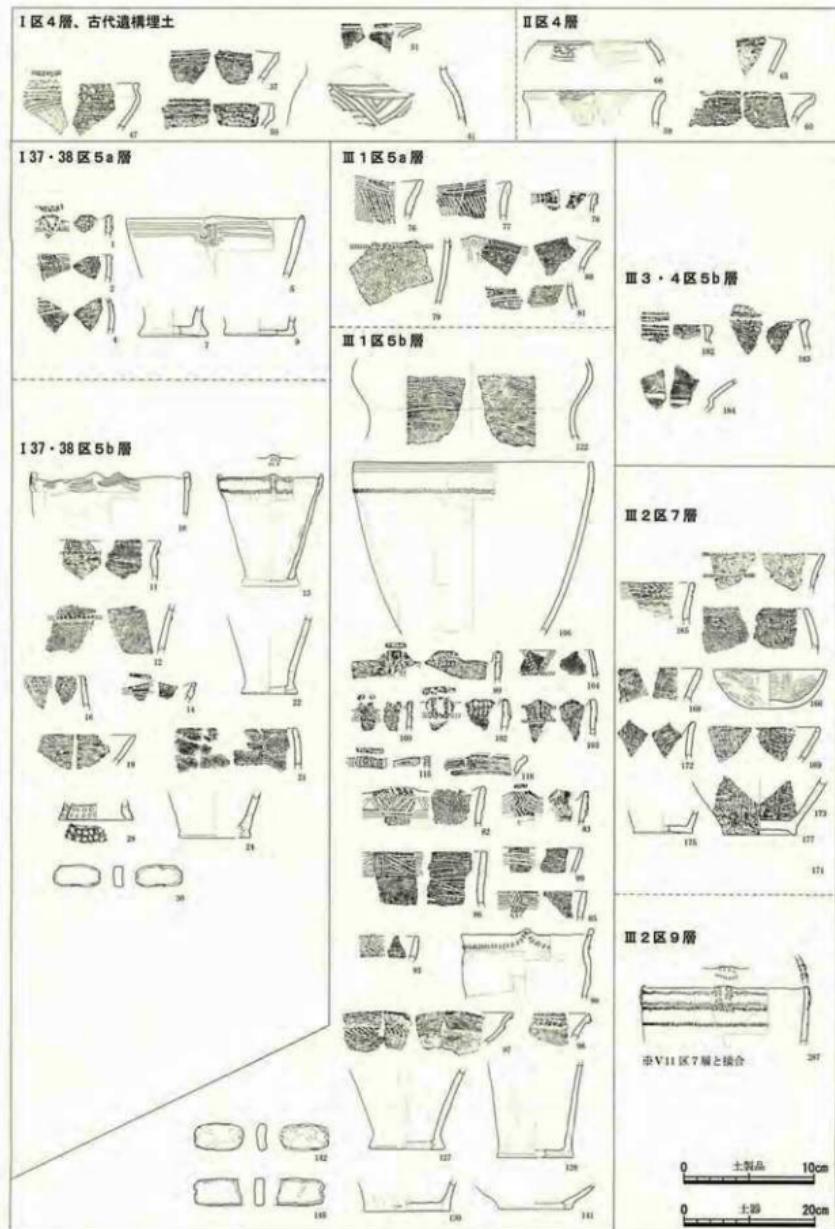


図65 1310調査地点の主な遺物と遺構1

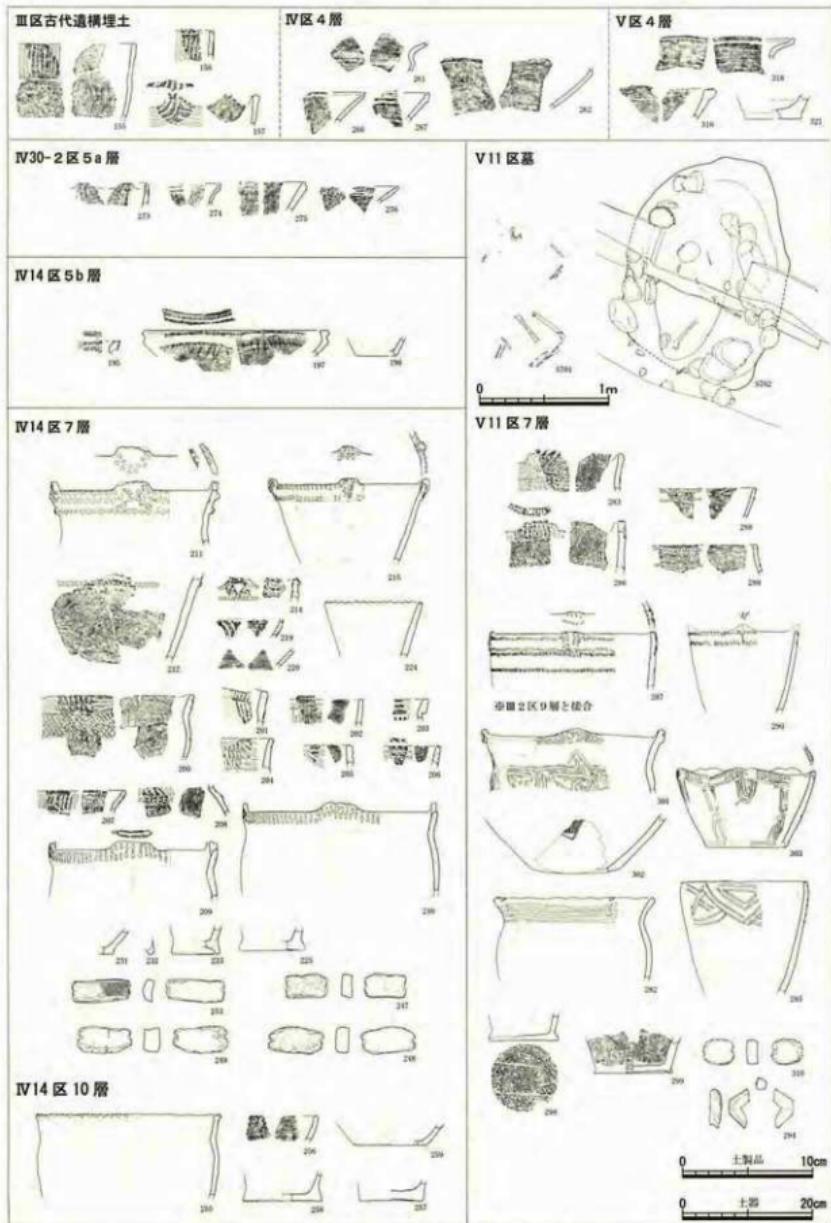


図66 1310調査地点の主な遺物と遺構2

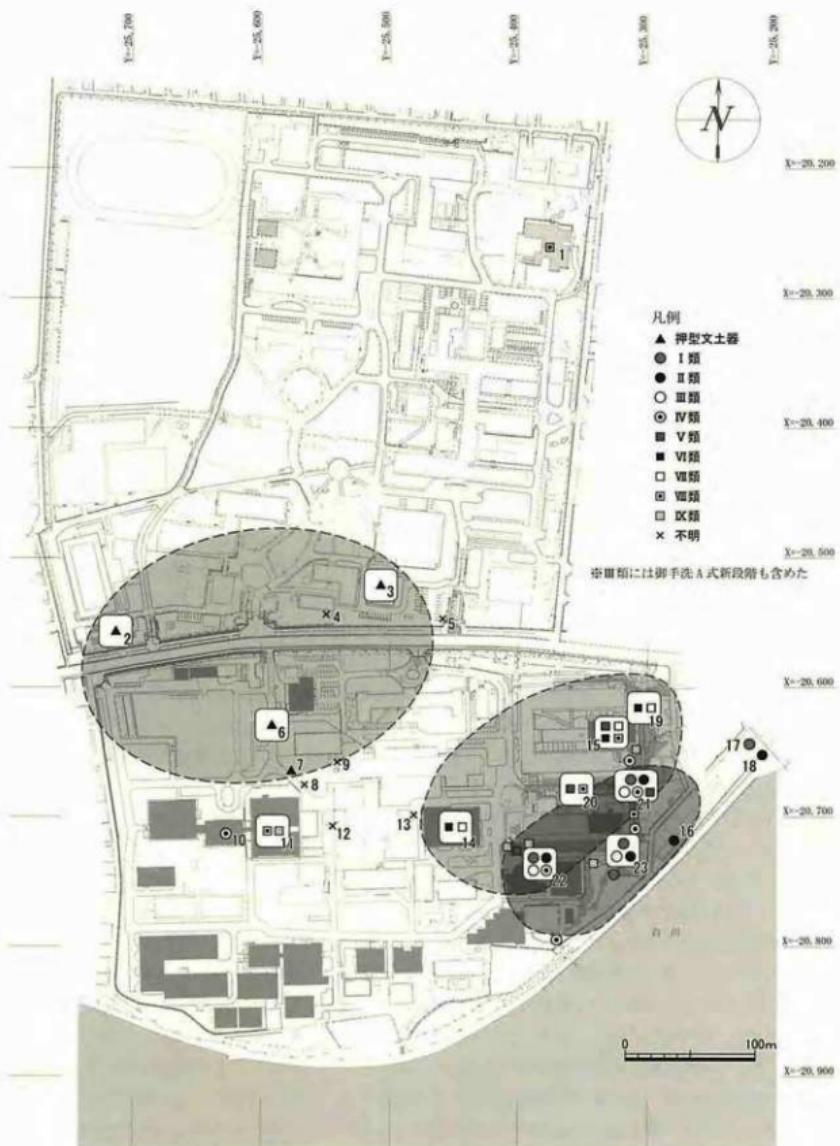
で1点が確認できた(太坪編2014)。前者には阿高式土器の破片を転用したものもあり、層位的には南福寺式や出水式土器に伴うものが多い。後者は出水式や御手洗A式古段階を含む層(本調査地点5層)の直上から出土しており、年代的整合性が取れる。このほか九州内では大分県竹田市竜宮洞穴や国東市陽弓遺跡から出土例があるが、九州内では類例の少ない資料といえる(九州縄文研究会長崎大会事務局編2009)。土器片転用錘は縄文時代中期後半の千葉市加曾利貝塚で出土するなど東日本の要素を含むとされており(荒木2009)、その出現背景に縄文時代後期初頭の縁帶文土器の流入など東側との交流を連想させる。一方で縄文時代後期前葉の中九州における地域的特性的一面を示している可能性もあり、今後の資料の増加が待たれる。本製品の機能としてはまず漁撈用網の錘が考えられる。本遺跡は白川に近く、川魚を採集しやすい環境にある。Ⅲ I 区5 b層からは安山岩製の打欠石錘も出土しており、これらを組み合わせて用いた可能性も考えられる。ただし、本遺跡からは魚骨など漁撈の痕跡を示す動物遺体は確認されなかった。調査で貝塚に相当する位置にトレーニングが当たらなかったとも考えられるが、漁網錘以外の多様な使用方法も想定すべきだろう。

② 遺跡の範囲と形成過程

本調査地点では工事範囲の関係から面的な発掘調査を実施できなかった。一方で南北約270m、東西約180mの広範囲にわたり100を超えるトレーニングを設ける調査となつたため、白川右岸の河岸段丘の土層堆積状況について従来にない多くの知見を得ることができた。また、堅穴建物など明確な居住域の痕跡は確認できなかつたものの、土器の集中部を検出し、河岸段丘傾斜地周縁が土器を主とする道具の廃棄場として利用された状況を確認した。そしてV11区では墓域が確認されるなど、縄文時代後期前葉の集落の内容を考える上で重要な調査成果を得た。九州においては、縄文時代後期初頭から前葉は、貝塚や低地型貯蔵穴が確認されるものの、居住域の情報が少なく、集落の全体像が判然としない状況にある(水ノ江2012:p232)。そこで本調査地点で得られた情報を整理統合し、縄文時代後期における白川右岸黒髪地域の遺跡の範囲とその形成過程について示したい。

黒髪地区では本調査地点以外でも一定量の縄文時代の土器片や石器が得られている。本調査地点および過去に見つかった縄文時代の土器の分布を示したところ、大きく3つのエリアに分布を分けることができた(図67)。本調査地点から150m程西北側、やや白川から離れたエリアに相当する9802・0425・0302-I調査地点などでは、押型文土器や条痕文土器とこれに伴う石器が見つかっている(図67-2・3・6)。これまでに明確な遺構が検出されていないものの、遺物包含層からの出土であり、縄文時代早期末頃の集落が存在した可能性が高い。次に白川右岸に近い本調査地点や9911・9907・0938調査地点では、I・II・III類土器の集中が見られ(図67-16~18・21~23)、他の調査地点で出土しないことからも本エリアが縄文時代後期前葉の集落あるいは当該時期の行動範囲を示している可能性が高い。そして、このエリアよりもやや白川から離れた9412・9810調査地点や本調査地点の北西側では、縄文時代後期中葉から後葉の土器であるV~VII類が出土する(図67-14・15・19・20)。古代の遺構埋土中の出土例も含むが、その分布は集中的であり、将来、当該時期の遺構や遺物包含層が発見される可能性を示唆している。縄文時代後期前葉のうち御手洗A式古段階に限定すると³²、河川に対して並行する約120×80mに廃棄場や墓が広がるため、約9.600m²の範囲で当該時期の人々が積極的に活動していたと想定できる。

さて、本遺跡は白川右岸に形成された河岸段丘上に立地する遺跡である。浅い場所で地表下70cm(標高18.40m)、深い場所では地表下330cm(標高約15.80m)で縄文時代後期前葉から後期末の遺物が出土しており、縄文時代に生活圏として利用され始めて以来、現在までに大量の土砂が段丘上に堆



1 : 9407調査地点 (以下調査地点を略す) 2 : 9802 3 : 0425 4 : 0525 5 : 0425-B 6 : 0302-I 7 : 0120-21
 8 : 0210-20 9 : 1121-IV 10 : 9603 11 : 0204 12 : 1121-II 13 : 0210-17 14 : 9412 15 : 9810 16 : 9911 17 : 9907
 18 : 0938 19 : 1310 II区北 20 : 1310 I区中央区 21 : 1310 III区北・I区東 22 : 1310 IV区西 23 : 1310 V区南東

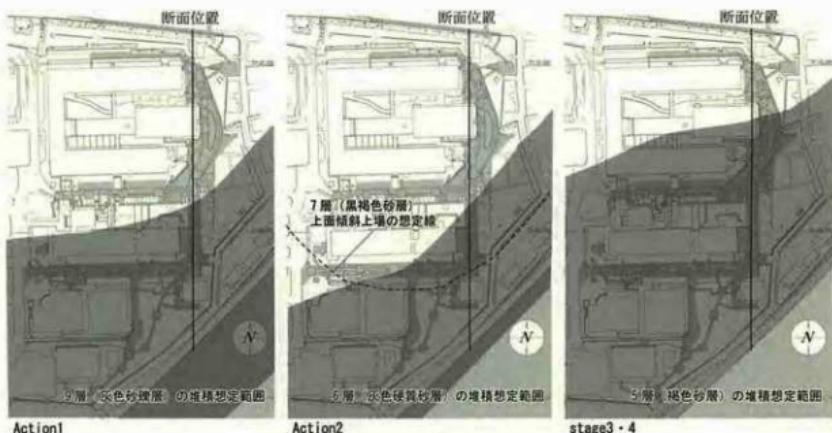


図68 1310調査地点遺跡形成過程概念図 1

積したことが分かる。本報告書ではこれらの土層を13の基本土層に分けて整理し、遺物や遺構などの考古学的データと共に、地質学的なデータを提示した。これにより復元した本遺跡の形成過程について図68・69に示した。遺跡の形成過程は4つの段階と2つの大きな河川活動によって説明できる。

本調査地点は立田山により近い北側と白川右岸にある南側で堆積状況が大きく異なる。立田山側では始良Tn火山灰または鬼界アカホヤ火山灰を由来とするバブルウォール型火山ガラスを大量に含む12・13層が堆積しており、白川側に向かうと縄文時代後期の遺跡立地以前に河岸段丘を形成した11層や砂礫層が堆積している(図68-Stage 1)。調査では低位の河岸段丘面上から出土式土器が出土しており、少量ながらも道具が廃棄され、一定期間のうちに10層の遺物包含層が形成されたとみられる。本段階については調査でのデータが少なく、定住を開始していたかは不明である。さて、10層の直上にはサラサラの砂礫層である9層が厚く堆積しており、砂質や構成物からもこれらが白川の洪水に由来することはほぼ間違いない。この洪水により調査地点周辺は川幅が広がったことで一定期間川底にあったか、あるいは支流が形成され、その流路上にあったと推測される(図68左、図69-Action 1)。この際に11層の露面は抉れ、顕著な中位河岸段丘面が作られた。その後水が引き、川幅が戻る頃に改めて出土式または御手洗A式古段階の土器を作る人々が白川右岸で活動を開始した(図69-Stage 2-1)。一帯には黄色砂(黄色岩片)を主とする11層からなる上位河岸段丘面と、黒色砂(黒色ガラス片)を主とする8・9層からなる中位河岸段丘面、そして川により近い低位河岸段丘面が広がっていた。この時期にはⅢ1区の5b層やⅣ14区・V11区8層の直上(7層中)から遺物が出土することから、洪水を避けるため高位河岸段丘面上に設けられたと推測できる居住域の周辺や、中位河岸段丘の傾斜部周縁に土器などを廃棄し始めたことが分かる。この段階以降、一定の期間は大きな洪水がなく、出土式・御手洗A式古段階の土器を使用する人々の生活圏が営まれた(図69-Stage 2-2)。上位河岸段丘面には11層の構成物である黄色砂を由来とする5b層が薄く堆積し、中位河岸段丘面には8あるいは9層の構成物である黒色砂を由来とする7層が薄く堆積していった。高低差があるⅢ1区の5b層(緑褐色砂層)とⅣ14区やV11区の7層(黒褐色砂層)において、同じように出土

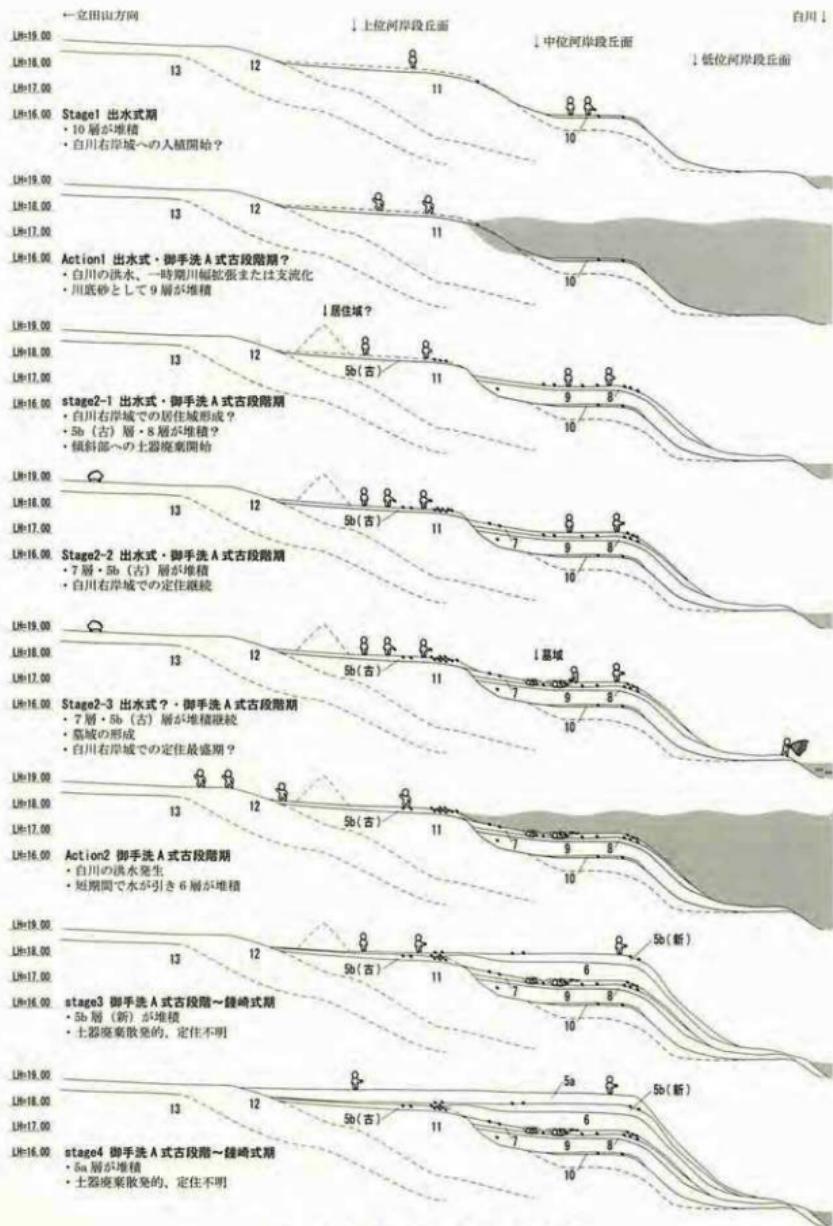


図69 1310調査地点遺跡形成過程概念図2

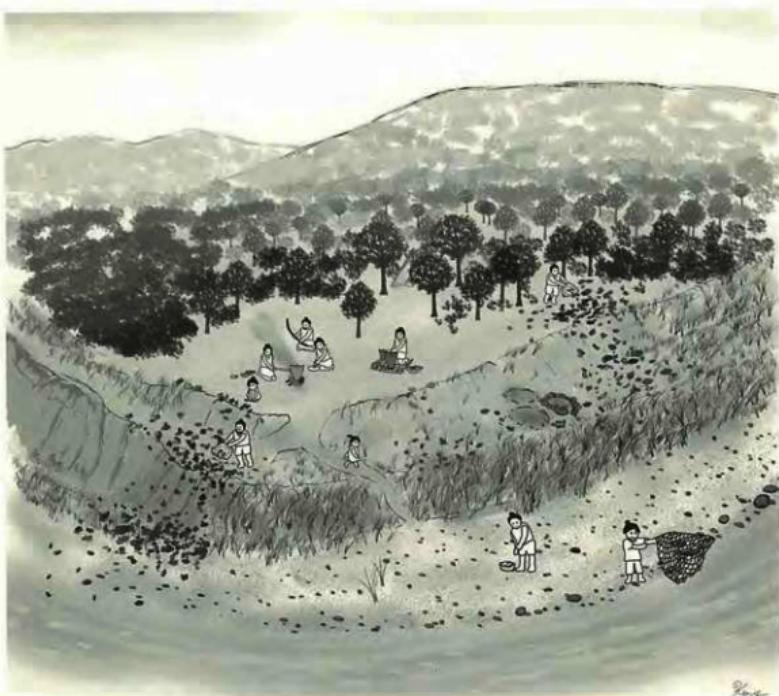


図70 純文時代後期前葉の黒髪の地の想定図

※本調査地点における遺物や遺構の出土状況、土の堆積状況から、約4000～3500年前の黒髪の地を想像して描いた。土器を廃棄する人、土器を作る人、石器の材料の川原石を拾う人、白川で漁をする人、調理をする人などがある。中位の段丘面には墓が作られる。北には立田山が佇む。実際の河岸段丘面はもっと広く、その数も多いと思われる。

式や御手洗A式古段階の土器が含まれる理由はこうした地形と堆積上のメカニズムによると考えられる。注意すべきは11層を由来とする黄色砂の性格である。黄色砂は5 b層を形成しながらその後も常に低い方に流れ、長い時間をかけて中位・低位段丘面を被覆していく。調査では明確に分層できていないが土器の出土状況からも5 b古層と、後に述べる5 b新層に分かれると判断できる。

5 b古層や7層からは石錐未製品、焼けた動物骨、漁網錐かと思われる石錐、土器片転用錐が出土しており、この段階では哺乳類や魚類などを狩猟していたと推測される。また、敲石や磨石などが出土することから堅果類を食していたと想定でき、立田山や白川の自然を基軸とした狩猟採集生活が営まれていたであろう(図70)。その過程で死者も現れ、中位河岸段丘面上に墓域を形成し、人を埋葬している(図69-Stage 2-3)。そんな中、降雨の影響で再度白川が氾濫し、中位河岸段丘まで川の水位が一気に上昇、墓や道具の廃棄場である傾斜地が川の水と土砂で埋もれた(図68中央、図69-Action 2)。この際堆積した6層(灰色硬質砂層)は黄色砂と灰色砂の細かい単位の互層を形成した。この縞状構造や砂粒構成物は現在の白川洪水砂の調査でも確認されており、洪水で中位河岸段丘面が冠水し、6層が堆積した後に短期間で水は引いたものとみられる。6層の堆積により中位河岸段丘面

はほぼ消失し、その上に5b新層が新たに堆積していった（図69-Stage 3）。洪水後も御手洗A式古段階の土器を持つ人々が調査地周辺に集落を営んでいたか、今回の調査成果では不明瞭である。後続する錦崎式など少量の土器が5b新層から出土するため、縄文時代後期中葉頃までは人々の活動範囲内であったと推定されるが、地形が大きく変わったことにより生活圏が移った可能性もある。その後、縄文時代後期末までの長い期間に11層や5b古層の風化、白川による冠水を繰り返しながら5a層（赤褐色砂層）が白川右岸一帯を被覆し、黒髪の地に広い平坦面を形成したとみられる（図68右、図69-Stage 4）。調査地点には弥生時代から古墳時代の遺構は見つかっておらず、その内容は不明だが、続く奈良・平安時代になり5a層の上面、あるいは4層（黒褐色土）中に竪穴建物や溝、掘立柱建物が検出され、律令社会の一端を垣間見ることができるようになる。黒髪の地の白川右岸域は縄文時代後期のダイナミックな河川作用による堆積物を文字通り「基盤」とし、新たな展開を見せるのである。

③ 本遺跡の位置づけ

本遺跡は熊本平野を東西に流れる白川中流域の西端、川筋が蛇行し強くカーブする河岸段丘上に立地する遺跡である。火山灰と白川由来の堆積層を基盤とした河岸段丘上には、縄文時代後期前葉から後期末までの複数の遺物包含層が形成されている。このうち主体となるのは出水式と御手洗A式古段階の土器であり、その量・質とともに優れることから、縄文時代後期前葉の土器編年を再考する上で今後の基準資料となりえる。これらに伴う特徴的遺物として土器片転用鉢があり、当該時期の生業活動をうかがわせる。各層の遺物の出土状況からは河岸段丘傾斜部を利用した廃棄場の存在を想定できた。また、遺構として縄文時代後期前葉の土坑墓、配石墓と共に伴う人骨が狭い範囲から3基検出されており、墓域を形成していたことが分かる。土層の堆積状況からは縄文時代後期前葉以降、少なくとも2度にわたって白川の洪水が発生したことが分かり、当該時期の生活環境に強い影響を与えたと推測される。これら遺構や遺物の出土状況からも、中九州における縄文時代後期前葉の集落の規模や特徴を理解する上で重要な遺跡といえる。今回の調査では面的な発掘調査を実施できていないため、部分的に遺跡が残存していると思われ、今後の調査次第では炉や住居、貝塚などの遺構が見つかる可能性を秘めている。

④ 遺跡の保存と活用

1310調査地点では、従来調査されてこなかった土層から縄文時代後期前葉の土器が豊富に出土したことや、平野部での縄文人骨の発見など、重要な成果が上がった。そのため2014年5月27日にはプレスリリースを実施、5月29日には熊本大学本部で記者会見をおこない、調査成果を公表した。調査成果は8つの新聞社に掲載され、全国放送を含む6社のテレビ局で報道されたことで広く周知されることとなった。5月31日に開催した現地説明会では300名を超える人々が大学内外から参加し、掘り出された縄文人骨や縄文土器を見学した。また、熊本大学理蔵文化財調査センターの展示室において『地下の文化財連報展示』を開催し、保存処理を終えた一部の人骨を期間限定で陳列した。1月22・27日の二日間の展示説明会では52名の方に参加頂き、縄文人骨の身体的特徴など、調査担当者の説明に熱心に耳を傾けていた。

V11区で検出された人骨と墓のうち、ST02の配石墓とST03人骨については、工事の設計変更によって現地に保存することができた。また、ST02の配石墓については凸版印刷株式会社に依頼して三次元計測を実施し、詳細な記録保存を実施した（図71）。そして2014年度には黒髪地区の縄文人骨調査地点も含めて主要な遺構・遺物が発見された調査地跡に遺跡サインが計10か所に立てられた。こ

1. (黒髪南) ライフライン再生(給水設備等)工事に伴う発掘調査(1310調査地点)

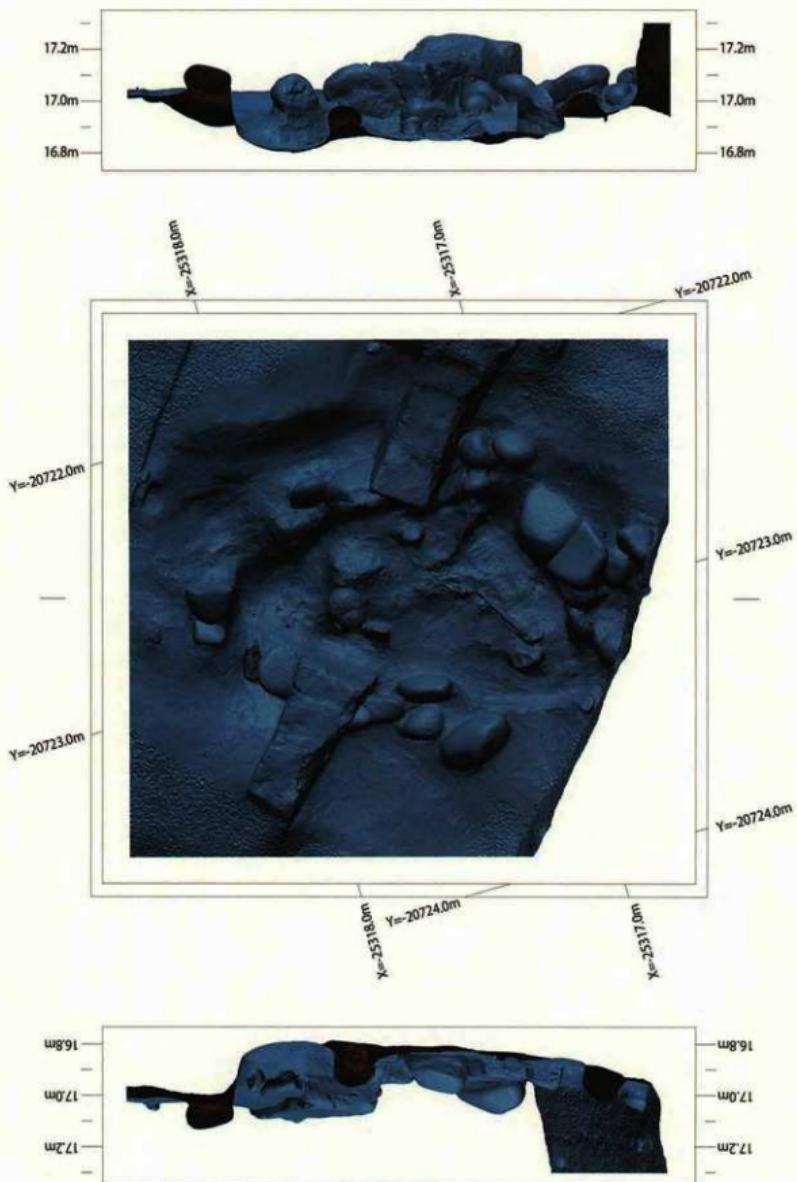


図71 ST02配石墓の三次元計測データ ($S=1/20$)
(凸版印刷株式会社報告書より)

の年以降、定期的に開催される構内遺跡散策イベントである『地下と地上の文化財散歩』や学内の授業協力において遺跡サインは活躍しており、とくに縄文人骨出土地点は現地に保存されていることから学外の参加者や学生たちに遺跡が存在するという強い印象を与えることとなった。2017年度にはスマートフォン端末アプリを工学部技術部と共に開発し、遺跡散策アプリ「クマダイ遺跡巡り」を一般に配信しており、人骨調査地点は遺跡の普及に役立っている。

末筆となるが、本報告書の発掘調査と整理作業に関係した多くの方々に心からの感謝を申し上げる。

注

1. 縄文人骨が残った点について、報告者は土壤のph測定を試みたが、理化学的分析方法に疑念があったため今回の報告には掲載しなかった。人骨が残存した理由について6層（灰色硬質砂層）が一要因と思われるので、土壤サンプリングを分析に出すなど今後の課題としたい。
2. 山野2014でも黒髪地区的縄文時代土器分布図を示したが、整理作業中であることと、編者の力不足で土器型式の同定について若干の問題があることが後に判明した（山野2014）。本図作成時に9810調査地点ではⅡ類は出土していないことを確認している。また、0938調査地点の出土土器は御手洗A式新段階であるため除外する。

引用・参考文献

- 荒木隆宏 2009 「熊本県出土の漁撈具概要」「九州における縄文時代の漁撈具」第19回九州縄文研究会長崎大会 pp.170~215 九州縄文研究会
- 荒木隆宏 2012 「熊本県における縄文時代後期前葉の土器の様相」「九州における縄文時代後期前葉の土器－中津式・福田K II式並行期を中心として－」第21回九州縄文研究会宮崎大会 pp.293~352 九州縄文研究会
- 池田朋生 2002 「熊本県内の縄文墓制について」「九州の縄文墓制」第12回九州縄文研究会長崎島原大会 pp.167~261 九州縄文研究会
- 大坪志子編 2003 「熊本大学埋蔵文化財調査室年報」9 熊本大学埋蔵文化財調査室
- 大坪志子編 2010 「熊本大学構内遺跡発掘調査報告」VI 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第6集 熊本大学埋蔵文化財調査室
- 大坪志子編 2013 「熊本大学構内遺跡発掘調査報告書」IX 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第9集 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- 大坪志子編 2014 「熊本大学構内遺跡発掘調査報告書」X 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第10集 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- 小野晃司・渡辺一徳・星住英夫・高田英樹・池辺伸一郎 1995 「阿蘇火山中岳の灰噴火とその噴出物」『火山』第40巻第3号 pp.133~151 日本火山学会
- 小畠弘己編 2003 「熊本大学構内遺跡発掘調査報告」I 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第1集 熊本大学埋蔵文化財調査室
- 小畠弘己編 2009 「熊本大学構内遺跡発掘調査報告」V 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第5集 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- 小畠弘己・大坪志子編 2011 「熊本大学構内遺跡発掘調査報告」VII 熊本大学埋蔵文化財調査報告書第8集 熊本大学埋蔵文化財調査センター
- 九州縄文研究会長崎大会事務局編 2009 「九州における縄文時代の漁撈具」第19回九州縄文研究会長崎大会事務局編

1. (黒髪南) ライフライン再生(給水設備等)工事に伴う発掘調査(1310調査地点)

- 崎大会 九州縄文研究会
熊本大学60年史編纂委員会編 2014「第2節「6・26水害」とその被害」「熊本大学60年史」通史編
p178 国立大学法人熊本大学
小林久雄編 2008『総覧 縄文土器』『総覧 縄文土器』刊行委員会
坂本嘉弘 1997「九州における縄文時代の墓制」「古文化談叢」第37集 pp.1~35 九州古文化研究会
坂本嘉弘 2002「九州の縄文墓制」「九州の縄文墓制」第12回九州縄文研究会長崎県島原大会 pp.8
~9 九州縄文研究会
島津義昭 1976「熊本の考古学－最近の発掘調査とその成果－」「九州考古学」52 pp.1~12 九州
考古学会
新熊本市史編纂委員会編 1998「第2章 地形・地質 第1節 熊本市の地形」「新熊本市史 通史編」
第1巻 自然・原始・古代 pp.47~129 熊本市
高木正文・村崎孝宏編 1998「黒橋貝塚」熊本県文化財調査報告第166集 熊本県教育委員会
千葉豊編 2010「西日本の縄文土器－後期－」真陽社
町田洋・新井房夫 2003「新編火山灰アトラス－日本列島とその周辺」p336 東京大学出版会
松田光太郎・大坪志子編 2017「熊本大学構内遺跡発掘調査報告」? 熊本大学埋蔵文化財調査報告
書第12集 熊本大学埋蔵文化財調査センター
水ノ江和同 1992「小池原上層式・下層式土器に関する諸問題－福岡県築上郡大平村所在、土佐井遺
跡出土土器の位置づけ」「古文化談叢」第27集 pp.77~95 九州古文化研究会
水ノ江和同 1993「九州の縁帶文土器－九州における縄文後期前・中葉土器研究の現状と課題－」
『古文化談叢』第30集(上) pp.323~366 九州古文化研究会
水ノ江和同・前追亮一 2010「1.九州」「西日本の縄文土器－後期－」pp.21~68 真陽社
水ノ江和同 2008「九州磨削縄文系土器」「総覧 縄文土器」pp.666~673 「総覧 縄文土器」刊行委
員会
水ノ江和同 2012「九州縄文文化の研究－九州からみた縄文文化の枠組み－」雄山閣
山野ケン次郎・大坪志子 2014「熊本大学構内における縄文時代後期遺跡の発見とその意義」「平
成26年度九州考古学会総会研究発表資料集」pp.47~56 九州考古学会
山野ケン次郎 2015「熊本大学構内遺跡の発掘調査－縄文時代後期を対象に－」「第11回 日韓新
石器時代研究会発表資料」pp.106~119九州縄文研究会・韓国新石器学会
山野ケン次郎・大坪志子 2016「熊本大学埋蔵文化財調査センター年報」21 熊本大学埋蔵文化財調査セン
ター
山野ケン次郎・柴田亮編 2018「熊本大学構内遺跡発掘調査報告」 XIII 熊本大学埋蔵文化財調査報
告書第13集 熊本大学埋蔵文化財調査センター
山崎真治 2003「縁帶文土器の編年的研究」「東京大学考古学研究室研究紀要」第18号 pp.35~109
東京大学考古学研究室
山田康弘 2002「墓制研究における土坑墓の意義」「九州の縄文墓制」第12回九州縄文研究会長崎県
島原大会 pp.10~13 九州縄文研究会

表4 1310調査地点出土遺物一覧表

図	番号	遺物	種類(器種)	法長(cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
10	1	縄文土器	深鉢	L1径 底径 器高	口縁部片	内:ナマ 外:ナマ	内:Hue 7.5YR3/2 外:Hue 7.5YR3-1	137区5a層点 上1f	I類、液状土
	2	縄文土器	鉢	L1径 底径 器高	口縁部片	内:ナマ(横裂)、柔軟 外:ナマ	内:Hue 7.5YR3/1 外:Hue 2.5YR5/3	137区5a層点 上1f	I類またはII類 口縁部外面に剥離変文(横裂2条) 口縁部内面に斜板傾工芸
3	3	縄文土器	浅鉢	L1径 底径 器高	口縁部片	内:ナマ、柔軟 外:ナマ、柔軟	内:Hue 2.5YR3/1 外:Hue 2.5YR4/2	137区5a層点 上1f	I類またはII類 口縁部外面に剥離変文(横裂1条)
	4	縄文土器	鉢	L1径 底径 器高	側面部	内:ナマ、質硬 外:ナマ、質硬(斜裂)	内:Hue 10YR4/2 外:Hue 10YR5/1	138区5a層点 上1f	II類 側面部に沈漫文(斜手文?)
5	5	縄文土器	鉢	L1径27.8 底径 器高	口縁-側面部	内:ナマ 外:ナマ、柔軟	内:Hue 10YR5/1 外:Hue 10YR4/3	137区5a層点 上1f	II類、液状土
	6	縄文土器	深鉢	L1径 底径12.2 器高	底面部	内:ナマ 外:ナマ	内:Hue 10YR5/3 外:Hue 10YR5/4	137区5a層点 上1f	III類 底面部外周部にスリッピング 底面部に木葉痕
7	7	縄文土器	深鉢	L1径 底径10.8 器高	底面部	内:ナマ、頭り 外:ナマ、頭り	内:Hue 7.5YR5/4 外:Hue 7.5YR3/1	137区5a層点 上1f	III類 底面部に頭かき・単位の凹み
	8	縄文土器	深鉢	L1径 底径 器高	底面部	内:ナマ、頭り 外:ナマ、頭り	内:Hue 10YR4/2 外:Hue 10YR4/3	137区5a層点 上1f	III類 底面部に水壓痕 底面部外周部一部黒色・白色化
9	9	縄文土器	深鉢	L1径 底径11.1 器高	底面部	内:ナマ 外:ナマ	内:Hue 10YR5/3 外:Hue 10YR4/1	137区5a層点 上1f、2点接合	III類 底面部外周部一部黒色・白色化
	10	縄文土器	深鉢	L1径24.7 底径 器高	口縁部片	内:ナマ 外:ナマ	内:Hue 7.5YR5/4 外:Hue 10YR5/3	137区5b層点 上1f、4点接合	I類、液状土 口縁部外周部に剥離変文(横裂2条) 表面黒化著しい
11	11	縄文土器	深鉢	L1径 底径 器高	口縁部片	内:ナマ 外:ナマ	内:Hue 7.5YR5/3 外:Hue 7.5YR3/2	137区5b層点 上1f	I類、液状土 口縁部外周部(98と同一個体) 口縁部外面に剥離変文(横裂1条)
	12	縄文土器	深鉢	L1径 底径 器高	側面部	内:ナマ 外:ナマ	内:Hue 10YR5/4 外:Hue 10YR5/3	138区5b層点 上1f	II類 側面部外周部に剥離変文(横裂1条)
13	13	縄文土器	深鉢	L1径16.5 底径 器高	1/2	内:ナマ、柔軟、工具痕有 外:ナマ、柔軟ナマ、 指ササエ	内:Hue 2.5YR3/2 2.5YR5/2 外:Hue 7.5YR5/4	137区5b層点 上1f、8点接合	II類 液状土 液状土内面に剥離変文(4半輪か) 口縁部外周部に剥離変文 口縁部外周部に剥離変文(横裂1条)
	14	縄文土器	浅鉢?	L1径 底径 器高	口縁部片	内:ナマ 外:ナマ	内:Hue 2.5YR4/1 外:Hue 3.5YR5/4	137区5b層点 上1f	I類またはII類 液状土 液状土内面に剥離変文 口縁部外周部に剥離変文(横裂1条)
15	15	縄文土器	深鉢?	L1径 底径 器高	口縁部片	内:ナマ 外:ナマ	内:Hue 10YR5/4 外:Hue 10YR3/1	138区5b層点 上1f	I類かII類 口縁部外周部に剥離変文(各1条)
	16	縄文土器	深鉢	L1径 底径 器高	口縁部片	内:ナマ 外:ナマ	内:Hue 2.5YR4/1 外:Hue 3.5Y3/1	137区5b層点 上1f	I類かII類 口縁部外周部に剥離変文(2条)
17	17	縄文土器	鉢	L1径 底径 器高	口縁部片	内:ナマ、柔軟 外:ナマ、指ササエ	内:Hue 10YR5/4 外:Hue 2.5Y3/1	137区5b層点 上1f	X類
	18	縄文土器	深鉢	L1径 底径 器高	口縁部片	内:指ナマ 外:指ナマ、指ササエ	内:Hue 10YR3/1 外:Hue 2.5Y3/1	137区5b層点 上1f	X類
19	19	縄文土器	浅鉢	L1径 底径 器高	口縁部片	内:ナマ 外:ナマ、柔軟	内:Hue 2.5YR4/2 外:Hue 2.5Y3/2	137区5b層点 上1f	X類
	20	縄文土器	鉢	L1径 底径 器高	口縁部片	内:ナマ 外:ナマ	内:Hue 7.5YR3/1 外:Hue 7.5YR4/4	137区5b層点 上1f	X類
21	21	縄文土器	深鉢	L1径 底径 器高	口縁-側面部	内:ナマ 外:ナマ	内:Hue 10YR6/4 外:Hue 10YR3/1	138区5b層点 上1f	III類 底面部外周部に一軸の縮成窓 風化著しい
	22	縄文土器	深鉢	L1径 底径 器高	側面部-底面部片	内:ナマ、柔軟 外:ナマ、柔軟	内:Hue 7.5YR4/1 外:Hue 7.5YR5/4	138区5b層点 上1f	側部と底面部の一部が黒色化 底面部外周部に木葉痕
23	23	縄文土器	深鉢	L1径 底径 器高	底面部	内:ナマ 外:ナマ	内:Hue 10YR7/3 外:Hue 10YR6/4	138区5b層点 上1f、首1区5 底面部上1f、2 点接合	X類
	24	縄文土器	深鉢	L1径 底径11.2 器高	底面部	内:ナマ 外:ナマ、指ササエ	内:Hue 10YR4/1 外:Hue 5.5Y3/1	138区5b層点 上1f	底面部外周部に木葉痕 底面部に頭かき・単位の凹み
25	25	縄文土器	深鉢	L1径 底径12.8 器高	底面部	内:ナマ 外:ナマ、指ササエ	内:Hue 7.5YR5/3 外:Hue 10YR6/1	137区5b層点 上1f	底面部が白色化
	26	縄文土器	深鉢	L1径 底径 器高	底面部	内:ナマ、頭り 外:ナマ、頭り	内:Hue BYR4/4 外:Hue 7.5YR5/6 10YR5/1	137区5b層点 上1f	底面部外周部に木葉痕か
27	27	縄文土器	鉢	L1径 底径 器高	底面部	内:ナマ 外:ナマ、指ササエ	内:Hue BYR4/4 外:Hue 7.5YR5/6 10YR5/1	137区5b層点 上1f	底面部外周部に木葉痕か

1. (黒髪南) ライフライン再生(給水設備等)工事に伴う発掘調査(1310調査地点)

図 番号	遺物	種類(器種)	法量(cm)	現存量	特徴	色調	出土遺構	備考
11	縄文土器	深鉢	口径11.6 底径10.8 高さ	底部片	内:ナデ、削き残 外:ナデ	内:Hu 25Y6/2 外:Hu 10YR6/2	137区5b層点 13f	側部外縁に四点文(横位2条) 側部外縁に白色泥が充填か 底面外縁に船形舟底か
29	縄文土器	深鉢	口径10.8 底径10.8 高さ	底部片	内:ナデ、削り残 外:ナデ	内:Hu 10YR6/6 外:Hu 10YR6/4	137区5b層点 13f	底面外縁が黒・白色化
30	土製品	土器片軸用鉢	長さ31 幅16.5 厚さ3.07	完形	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu 10YR2/1 外:Hu 7.5YR4/1	137区5b層 13f	重量6.9g 側面研磨、両短辺に抉り
31	石器	石器	長さ13 幅20 厚さ3.35	完形	内: 外:	内:Hu 外:Hu	137区5b層 13f	重量0.8g 安山岩 表面縫合に瘤み、剥離、敲打痕 側面筋に約3cm四方の剥離した箇所
32	石器	石皿	長さ21.4 幅21.9 厚さ5.10.1	1/2	内: 外:	内:Hu 外:Hu	137区5b層 13f	重量349.6g 安山岩 表面中心部に瘤み、剥離、敲打痕 側面筋に約3cm四方の剥離した箇所
12	縄文土器	深鉢	口径 底径 高さ	底部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu 7.5YR5/4 外:Hu 7.5YR5/4	138区複数	Ⅱ期 側部外縁に斜口尖底文(横位1条)
34	縄文土器	深鉢	口径 底径 高さ	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu 10YR5/4 外:Hu 10YR4/2	137区複数	Ⅱ期 口縁部外縁に刻文文(横位1条), 刻目尖底文(横位2条)
35	縄文土器	鉢	口径 底径 高さ5.1	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu 7.5YR4/3 外:Hu 10YR2/1	137区古代遺構 埋土一括	1b第1主はⅡ期 口縁部外縁に刻文文(横位1条)
36	縄文土器	鉢	口径 底径 高さ	口縁部片	内:ナデ、削き残 外:ナデ、削き	内:Hu 25Y3/3 外:Hu 25Y2/1	138区複数	Ⅱ期 口縁部に沈底文(横位2条), 口縁 部に沈底文(横位3条)と斜口(横位) 黒毫毛跡
37	縄文土器	鉢	口径 底径 高さ	口縁部片	内:削き 外:削き	内:Hu 10YR6/4 外:Hu 10YR6/4	137区4層一括	鉢類、波状口縁 口縁部外面に沈底文(横位2条)
38	縄文土器	鉢	口径 底径 高さ4.5	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu 25Y4/2 外:Hu 25Y4/4	137区古代遺構 埋土一括	X期
39	石器	石断	長さ3.21 幅1.35 厚さ0.45	一部欠損	内: 外:	内:Hu	137区複数	重量1g 黒曜石 側面部各面部に調整 基部部背面に内溝窓か
40	石器	石断未製品	長さ5.31 幅1.8 厚さ5.05	完形	内: 外:	内:Hu	138区複数	重量2g 黒曜石 側面部に粗めの調整、石削未製品 か
13	縄文土器	深鉢	口径 底径 高さ	側部片	内:削き 外:削き	内:Hu 25Y3/2 外:Hu 25Y3/2	123区西側4層 13f	V型、(42・43と同一個体) 側部外縁に沈底文(横位+斜位)
42	縄文土器	深鉢	底径22.0	側部片	内:削き 外:削き	内:Hu 10YR2/1 外:Hu 10YR2/1	123区西側4層 13f	V型、(41・43と同一個体) 側部外縁に沈底文(横位+斜位)
43	縄文土器	深鉢	口径 底径 高さ	側部片	内:削き 外:削き	内:Hu 25Y3/2 外:Hu 25Y3/2	123区4層一括	V型、(41・42と同一個体) 側部外縁に沈底文(横位+斜位)
44	縄文土器	鉢	長さ 幅 厚さ	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu 10YR5/2 外:Hu 25Y4/2	123区古代遺構 埋土一括	1a期 口縁部外面に沈底文(横位6条)
45	縄文土器	鉢	口径 底径 高さ	口縁部+ 側部片	内:ナデ 外:ナデ、削き	内:Hu 10YR6/3 外:Hu 7.5YR6/6	123区中央4層 13f	分類不明 口縁部に沈底文(手勺文)
46	縄文土器	深鉢	口径 底径 高さ	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu 10YR5/4 外:Hu 7.5YR5/4	123区古代遺構 埋土一括	1a期 口縁部から口縁部にかけて沈底文 (横位2~4条) 口縁部内面に工具痕
47	縄文土器	鉢	口径 底径 高さ	口縁部片	内:ナデ、削き 外:ナデ、削き	内:Hu 10YR5/3 外:Hu 10YR5/4	136区複数	Ⅱ期 口縁部に沈底文(横位1条), 口縁 部から側部外縁にかけて沈底文(向 手勺文) 口縁部内面に一部磨滅
48	縄文土器	鉢	口径 底径 高さ	口縁+側部片	内:ナデ、赤痕 外:ナデ、赤痕	内:Hu 25Y5/4 外:Hu 25Y4/3	13d区4層上 1f	X期 口縁部外縁に赤い条痕
49	縄文土器	深鉢	口径 底径 高さ	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu 10YR5/4 外:Hu 5Y2/2	123区中央4層 13f	Ⅱ期 口縁部外縁に沈底文(横位5条)
50	縄文土器	浅鉢	口径42.8 底径 高さ	口縁部片	内:ナデ、削き 外:ナデ、削き	内:Hu 25Y5/4 外:Hu 25Y5/4	123区西側4層 13f	Ⅱ期 口縁部外縁に沈底文(横位3条) 口縁部上部に強い削き
51	縄文土器	鉢	口径 底径 高さ	口縁部片	内:ナデ、削き 外:ナデ、削り、削き	内:Hu 25Y7/3 外:Hu 25Y7/3	140区3層一括	Ⅱ期 口縁部外縁に沈底文(横位1条)
52	縄文土器	鉢?	口径 底径 高さ	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ、削き	内:Hu 7.5YR5/4 外:Hu 7.5YR5/4	122区古代遺構 埋土一括	X期
53	縄文土器	鉢	口径 底径 高さ4.7	口縁部片	内:ナデ、赤痕 外:ナデ、赤痕	内:Hu 7.5YR4/6 外:Hu 7.5YR4/6	13d区4層一括	X期

回	番号	遺物	種類(器種)	法面(cm)	埋存量	特徴	色調	出土遺構	備考
13	54	石器	磨製石斧 (船形)	長32.5 幅3.1 厚3.0	刃部片	内: 外:	内:Hue 外:Hue	I 26区4層一 括	重量7.9g 安山岩? 刃部断面に鋸歯状
	55	石器	核器	長5.6 幅10.4 厚3.1	完形	内: 外:	内:Hue 外:Hue	I 25区北4層一 括	重量13.9g 安山岩? 刃部断面に鋸歯状
	56	石器	核石	長3.80 幅7.6 厚3.2	完形	内: 外:	内:Hue 外:Hue	I 25区南西4層一 括	重量45.8g 安山岩? 鋸歯的な刃部直角、薄然
	57	石器	核器	長3.35 幅2.6 厚2.07	完形	内: 外:	内:Hue 外:Hue	I 25区南西4層一 括	重量4.8g 安山岩? 刃部断面に鋸歯状
	58	石器	核器?	長3.13 幅1.95 厚3.05	完形	内: 外:	内:Hue 外:Hue	I 25区古代遺構 堆上一括	重量14g 黒曜石? 堆上でないが刃部削除調整か
14	59	縄文土器	深鉢	口径21.5 底径 高	口縁部	内:ナチュラル 外:白	内:Hue 10YR5/4 外:Hue 10YR4/2	II 2区4層一括	引網 I 14区外部に横穴(L5), 沈漫文(横 穴2名) 内部に压痕有
	60	縄文土器	深鉢?	口径 底径 高	口縁部	内:ナチュラル 外:ナチュラル、白色	内:Hue 10YR5/3 外:Hue 10YR4/3	II 2区4層一括	引網 I 14区外部に横穴(L5), 沈漫文(横 穴2名), 西古文
	61	縄文土器	深鉢?	口径 底径 高	口縁部	内:ナチュラル 外:ナチュラル、白色	内:Hue 7.5YR5/4 外:Hue 7.5YR4/2	I 11区4層一括	引網 I 14区外部に横穴(L5), 沈漫文(横 穴2名)
	62	縄文土器	深鉢?	口径 底径 高	口縁部	内:ナチュラル 外:ナチュラル、白色	内:Hue 5YR5/2 外:Hue 5YR5/1	II 11区4層一括	引網 I 14区外部に横穴(L5), 沈漫文(横 穴2名)
	63	縄文土器	深鉢?	口径 底径 高	口縁部	内:ナチュラル 外:ナチュラル、白色	内:Hue 10YR5/3 外:Hue 10YR5/4	II 37区4層一括	引網 I 14区外部に横穴(L5), 沈漫文(横 穴2名)
	64	縄文土器	浅鉢	口径 底径 高	口縁部	内:白色	内:Hue 25YR5/3 外:Hue 25YR5/2	II 4-5区古代 堆上一括	引網 I 14区外部に沈漫文(横穴1条)
	65	縄文土器	浅鉢?	口径 底径 高	口縁部	内:白色 外:白色	内:Hue 10YR5/3 外:Hue 10YR7/3	II 15区4層一括	引網或灰土堆 口縁部外面に沈漫文(横穴2条)
	66	縄文土器	鉢	口径 底径 高	腹部	内:ナチュラル 外:ナチュラル、白色	内:Hue 7.5YR5/4 外:Hue 10YR3/2	II 21区4層一括	引網 腹部外面に沈漫文、利文文(横穴2 条+2名)
15	67	縄文土器	鉢	口径 底径 高	腹部	内:白色 外:ナチュラル	内:Hue 10YR5/3 外:Hue 25YR5/1	II 25区4層一括	引網 側部外面に沈漫文(横穴2条)
	68	縄文土器	鉢	口径 底径 高	腹部	内:ナチュラル 外:白色	内:Hue 10YR3/2 外:Hue 10YR3/1	I 11区4層一括	引網 側部外面に横穴(L5), 沈漫文(横 穴2条), 西古文
	69	石器	磨製石斧	長5.53 幅4.2 厚3.10	基部	内: 外:	内:Hue 外:Hue	II 11区4層一括	重量27.6g 安山岩? 扁平形状石斧 刃部後端削除
	70	石器	磨製石斧	長5.143 幅6.65 厚3.31	另部欠損	内: 外:	内:Hue 外:Hue	II 25区古代遺構 堆上土上1#	重量33.8g 扁平石 斧部後端削除 有時は斜め方でない
	71	石器	核石	長3.131 幅6.73 厚3.41	完形	内: 外:	内:Hue 外:Hue	II 26区古代点上 1#	重量256g 安山岩? 扁平形状石斧 刃部後端削除 有時は斜め方でない
	72	石器	核器	長3.71 幅6.88 厚3.22	完形	内: 外:	内:Hue 外:Hue	II 4-5区古代 堆上土上1#	重量11.6g 安山岩? 表面は自然面、剥落部は全面顕 露 刃部を削除調整
	73	石器	打製石器	長3.72 幅6.91 厚3.18	半欠	内: 外:	内:Hue 外:Hue	II 1区4層一括	重量17.5g 安山岩? 表面剥落による抉り(兼装用)
	74	石器	石器	長3.32 幅6.17 厚3.08	完形	内: 外:	内:Hue 外:Hue	II 11区4層一括	重量37g 安山岩?
16	75	石器	石核	長5.05 幅1.25 厚3.05	先端部欠損	内: 外:	内:Hue 外:Hue	II 11区4層一括	重量1.1g 安山岩?
	76	縄文土器	深鉢	口径 底径 高	口縁部	内:ナチュラル 外:ナチュラル	内:Hue 7.5YR5/2 外:Hue 7.5YR5/3	II 1区5-a層点 上1#	I a型, 流狀口縫 I 13区外部に沈漫文(横穴3条+斜 坡)
	77	縄文土器	深鉢	口径 底径 高	口縁部	内:ナチュラル 外:ナチュラル	内:Hue 10YR4/2 外:Hue 10YR4/1	II 1区5-a層点 上1#、2.3點合 成	I b型, 流狀口縫 I 13区外部に沈漫文(横穴3条+斜 坡)
	78	縄文土器	鉢?	口径 底径 高	口縁部	内:ナチュラル 外:ナチュラル	内:Hue 7.5YR3/2 外:Hue 7.5YR3/2	II 1区5-a層点 上1#	I a型 (SA同一個体化)、流狀口縫 I 13区外部に沈漫文(横穴2条)
	79	縄文土器	深鉢	口径 底径 高	腹部	内:ナチュラル 外:ナチュラル	内:Hue 10YR5/4 外:Hue 7.5YR5/4	II 1区5-a層点 上1#	II 型 側部外面に切目突起文(横穴1条)
	80	縄文土器	浅鉢	口径 底径 高	口縁部	内:ナチュラル 外:白色	内:Hue 10YR6/4 外:Hue 10YR5/3	II 1区5-a層点 上1#	II 型 側部外面に姚文(横穴1条) I 13区外部先端部に小切削

1. (黒髪南) ライフライン再生(給水設備等)工事に伴う発掘調査(1310調査地点)

図	番号	遺物	種類(断面)	法量(cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
21	81	織文土器	深鉢?	口径 底径 高	縁部片	内:ナデ、着き 外:指ナデ復元オサエ	内:Hue 25Y4/2 外:Hue 75Y4/1 上げ	III区5 b 屋点 上げ	Ⅱ期 縁部外面に沈漫文(斜手文)
22	82	織文土器	深鉢	口径 底径 高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 75Y4/3 外:Hue 10Y4/2 上げ	III区5 b 屋点 上げ	I a類、波状口縁 口縁部に刺突文、口縁部外面に沈漫文(斜手+横位)
83	織文土器	深鉢	口径 底径 高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10Y4/2 外:Hue 75Y4/2 上げ	III区5 b 屋点 上げ	I a類、波状口縁 口縁部に刺突文、口縁部外面に沈漫文(斜手+横位)	
84	織文土器	鉢	口径 底径 高24	口縁部片	内:ナデ、第3 外:ナデ、第3	内:Hue 25Y4/1 外:Hue 5Y3/1 上げ	III区5 b 屋点 上げ	I a類(78と同一作)、波状口縁 口縁部外面に沈漫文(斜位+横位)	
85	織文土器	深鉢	口径 底径 高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 75Y4/3 外:Hue 10Y4/2 上げ	III区5 b 屋点 上げ	I a類 口縁部外面に沈漫文(斜位+横位)	
86	織文土器	深鉢	口径 底径 高	口縁部片	内:ナデ、垂直 外:ナデ	内:Hue 25Y4/4 外:Hue 25Y3/4 上げ	III区5 b 屋点 上げ	I a類 口縁部外面に沈漫文(斜位+横位) ・斜位 口縁部内面に明瞭な垂直	
87	織文土器	深鉢	口径 底径 高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 75Y4/3 外:Hue 75Y3/2 上げ、2点合	III区5 b 屋点 上げ	I a類 口縁部外面に沈漫文(横位+斜位)	
88	織文土器	鉢	口径 底径 高	口縁部片	内:ナデ、崩り 外:ナデ	内:Hue SYR4/6 外:Hue SYR4/2 上げ、2点合	III区5 b 屋点 上げ	I a類 口縁部外面に沈漫文(横位3条+崩)	
89	織文土器	鉢	口径 底径 高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 25Y4/3 外:Hue 25Y4/2 上げ	III区5 b 屋点 上げ	I a類 口縁部外面に沈漫文(横位)	
90	織文土器	鉢	口径 底径 高	口縁部片	内:ナデ、垂直 外:ナデ	内:Hue 25Y5/1 外:Hue 10Y4/6 上げ	III区5 b 屋点 上げ	I a類 口縁部外面に沈漫文(横位3条)	
91	織文土器	深鉢	口径 底径 高	口縁部片	内:ナデ、垂直 外:ナデ	内:Hue 75Y4/3 外:Hue 75Y4/3 上げ	III区5 b 屋点 上げ	I a類 口縁部外面に沈漫文(横位)	
92	織文土器	鉢	口径 底径 高	口縁部片	内:ナデ、垂直 外:ナデ	内:Hue 75Y4/4 外:Hue 75Y4/1 上げ	III区5 b 屋点 上げ	I a類 口縁部外面に沈漫文(斜位)	
93	織文土器	鉢	口径 底径 高37	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 25Y5/2 外:Hue 25Y5/2 上げ	III区5 b 屋点 上げ	I a類 口縁部外面に沈漫文(斜位)	
94	織文土器	深鉢	縁部	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 75Y4/3 外:Hue 75Y4/3 上げ	III区5 b 屋点 上げ	I a類 口縁部外面に沈漫文(斜位)		
95	織文土器	鉢	口径 底径 高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 75Y5/4 外:Hue SYR5/6 上げ	III区5 b 屋点 上げ	不明 口縁部外面に沈漫文(横位1条) 口縁部にスヌ付着	
96	織文土器	鉢	口径 底径 高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10Y4/3 外:Hue 10Y4/3 上げ	III区5 b 屋点 上げ	I b類 口縁部外面に前日突帯文(横位)	
97	織文土器	深鉢	口径 底径 高	口縁部片	内:ナデ、崩き 外:ナデ	内:Hue 25Y4/2 外:Hue 25Y4/1 上げ、2点合	III区5 b 屋点 上げ	I b類 口縁部と明瞭の境界に前日突帯文(横位1条) 口縁部の一部に凹口	
98	織文土器	鉢	口径 底径 高	口縁部L 底径 高	内:ナデ、崩れサエ、崩 外:ナデ、崩れサエ、崩	内:Hue 75Y4/1 外:Hue 75Y4/4 下げ、1区段上げ 2下げ屋点上げ 2点合	III区5 b 屋点 上げ	I b類、波状口縁(2段位) 口縁部外面に前日突帯文(斜位+横位)	
23	99	織文土器	深鉢	口径 底径 高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10Y4/4 外:Hue 10Y4/1 上げ	III区5 b 屋点 上げ	Ⅱ期、波状口縁 口縁部上面の頂部内面に刺突文 口縁部外面に前日突文。波頭部に前日突帯文(横位)
100	100	織文土器	深鉢	口径 底径 高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 25Y3/1 外:Hue 25Y3/1 上げ	III区5 b 屋点 上げ	Ⅱ期、波状口縁 口縁部上面の頂部内面に刺突文 口縁部外面に前日突文。波頭部に前日突帯文(横位)
101	101	織文土器	深鉢	口径 底径 高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 10Y4/4 外:Hue 10Y4/1 上げ	III区5 b 屋点 上げ	Ⅱ期、波状口縁 口縫部上面の頂部内面に刺突文 口縫部外面に前日突文。波頭部に前日突帯文(横位+斜位)
102	102	織文土器	深鉢	口径 底径 高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 25Y4/3 外:Hue 75Y4/1 上げ	III区5 b 屋点 上げ	Ⅱ期、波状口縁 口縫部上面の頂部内面に刺突文 口縫部外面に前日突文。波頭部に前日突帯文(横位+斜位)
103	103	織文土器	深鉢	口径 底径 高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 25Y4/2 外:Hue 25Y3/3 上げ	III区5 b 屋点 上げ	Ⅱ期 口縫部外面に刺突文(斜位2条) 口縫部斜位に前日突帯文(横位1条)
104	104	織文土器	深鉢	口径 底径 高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hue 5Y2/1 外:Hue 25Y5/2 上げ	III区5 b 屋点 上げ	Ⅱ期 口縫部外面に刺突文(斜位2条) 口縫部斜位に前日突帯文(横位1条)
105	105	織文土器	深鉢	口径 底径 高	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ(崩壊)、垂直	内:Hue 5Y2/1 外:Hue 5Y4/1 上げ	III区5 b 屋点 上げ	Ⅱ期 口縫部外面に刺突文(横位2条) 沈漫文(横位2条)、前日突帯文(横位1条)

回	番号	遺物	種類(器種)	法量(cm)	埋蔵層	特徴	色調	出土遺構	備考	
23	106	縄文土器	深鉢	口径37.2 底高 身高	口縁～脚部 外	内：ナデ。条痕 外：ナデ	内：Hue 23Y4/3 外：Hue 23Y4/2	Ⅲ区5 b 節点 上げ、7点接合	Ⅲ期	Ⅲ期 口縁部外面に沈文(横條2条)、 肩部突起(横條1条)。
	107	縄文土器	鉢	口径	口縁部分	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 10Y4E-1 外：Hue 10Y4E-1	Ⅲ区5 b 節点 一括	Ⅲ期	Ⅲ期 口縁部外面に斜文(横條1条)、 肩部突起(横條1条)。
	108	縄文土器	鉢	口径	口縁部分	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 10Y5E-5 外：Hue 10Y5E-5	Ⅲ区5 b 節点 一括	Ⅲ期	Ⅲ期 口縁部外面に斜文(横條1条)、 肩部突起(横條1条)。
	109	縄文土器	深鉢	口径 底径 身高	口縁部分	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 10Y5E-4 外：Hue 10Y5E-4	Ⅲ区5 b 節点 上げ	Ⅲ期、波打線跡	Ⅲ期部外面に斜文(横條1条)、 肩部突起(横條1条)。
	110	縄文土器	深鉢	口径 底径 身高	口縁部分	内：条痕ナデ 外：ナデ	内：Hue 5Y4E-1 外：Hue 5Y4E-2	Ⅲ区5 b 節点 上げ	1 h 相またはⅢ期 口縁部外面に斜文(横條2条)	1 h 相またはⅢ期 口縁部外面に斜文(横條1条)。
	111	縄文土器	深鉢	口径 底径 身高	口縁部分	内：ナデ(横位) 外：ナデ	内：Hue 10Y4E-2 外：Hue 10Y4E-2	Ⅲ区5 b 節点 上げ、一括、2 点接合	1 h 相またはⅢ期 口縁部外面に斜文(横條1条)、 波打線(横條1条+底面)。肩部 内面にヘラ状工具痕	1 h 相またはⅢ期 口縁部外面に斜文(横條1条)、 波打線(横條1条+底面)。肩部 内面にヘラ状工具痕
	112	縄文土器	深鉢?	口径	口縁部分	内：ナデ(横位) 外：ナデ(横位)	内：Hue 10Y4E-3 外：Hue 23Y3-2	Ⅲ区5 b 節点 一括	1 h 相またはⅢ期 口縁部外面に斜文(横條1条)。	1 h 相またはⅢ期 口縁部外面に斜文(横條1条)。
	113	縄文土器	深鉢?	口径	口縁部分	内：ナデ。割り 外：ナデ。割り	内：Hue 10Y4E-3 外：Hue 10Y4E-1	Ⅲ区5 b 節点 上げ	1 h 相またはⅢ期 口縁部外面に斜文(横條1条)。	1 h 相またはⅢ期 口縁部外面に斜文(横條1条)。
	114	縄文土器	深鉢?	口径 底径 身高355	口縁部分	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 23Y4-4 外：Hue 5Y3-2	Ⅲ区5 b 節点 上げ、2点接合	1 h 相 口縁部外面に斜文(横條2条)	1 h 相 口縁部外面に斜文(横條2条)
	115	縄文土器	鉢?	口径 底径 身高	口縁部分	内：崩さ 外：ナデ	内：Hue 10Y4E-2 外：Hue 10Y4E-2	Ⅲ区5 b 節点 上げ	崩壊、泥付1種 1 h 相に崩れ(支足・不明)、円文 波打線(支持足・横條2条)、 口縁部外面に横條(「L」型)、円文、 波打線(支持足)、 口縁部に形成前芽	1 h 相 口縁部外面に崩れ(支足・L型)、泥文(崩 れ)、波打線(支持足・横條2条)、 内面に崩れ
	116	縄文土器	深鉢?	口径 底径 身高	不明	内：崩さ 外：横文	内：Hue 10Y4E-4 外：Hue 10Y4E-3	Ⅲ区5 b 節点 上げ	崩壊、泥付1種 破片向き不明確	崩壊、泥付1種 破片向き不明確
	117	縄文土器	鉢?	口径	口縁部分	内：崩さ 外：ナデ	内：Hue 23Y4-3 外：Hue 10Y4E-1	Ⅲ区5 b 節点 一括	Ⅲ期部外面に横文(「L」型)、沈文(横 文)	Ⅲ期部外面に横文(「L」型)、沈文(横 文)
	118	縄文土器	鉢	口径 底径 身高	口縁部分	内：— 外：ナデ	内：Hue— 外：Hue 10Y5E-6	Ⅲ区5 b 節点 上げ	崩壊、泥付1種 口縁部前面に横文(「L」型)、 波打線(横條1条+底面) 内面に崩れ	崩壊、泥付1種 口縁部前面に横文(「L」型)、 波打線(横條1条+底面) 内面に崩れ
	119	縄文土器	鉢	口径 底径 身高	口縁部分	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 23Y3-2 外：Hue 10Y4E-2	Ⅲ区5 b 節点 一括	X期	X期
	120	縄文土器	深鉢	口径 底径 身高	口縁部分	内：ナデ。工具痕 外：ナデ	内：Hue 10Y4E-2 外：Hue 7.5Y5E-3	Ⅲ区5 b 節点 上げ	X期 口縁部内面に工具痕	X期 口縁部内面に工具痕
	121	縄文土器	深鉢	口径 底径 身高	口縁部分	内：ナデ。割り 外：ナデ。割りサエ	内：Hue 10Y4E-3 外：Hue 10Y4E-2	Ⅲ区5 b 節点 上げ	X期 口縁部内面に横條の条痕	X期 口縁部内面に横條の条痕
	122	縄文土器	深鉢	口径22.4	口縁部分～脚部 外	内：条痕 外：ナデ。条痕	内：Hue 23Y4-6 外：Hue 23Y3-4	Ⅲ区5 b 節点 上げ	X期 脚部内外面一部にスリ付着	X期 脚部内外面一部にスリ付着
	123	縄文土器	鉢	口径 底径 身高	口縁部分	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 7.5Y4E-1 外：Hue 7.5Y4E-1	Ⅲ区5 b 節点 上げ	X期 口縁部に条痕	X期 口縁部に条痕
	124	縄文土器	深鉢	口径 底径 身高	口縁部分	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 23Y4-1 外：Hue 23Y4-3	Ⅲ区5 b 節点 上げ	X期 口縁部肥厚	X期 口縁部肥厚
	125	縄文土器	深鉢	口径 底径 身高	口縁部分	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 5Y4E-1 外：Hue 5Y4E-6	Ⅲ区5 b 節点 上げ	X期 口縁部内面に条痕	X期 口縁部内面に条痕
	126	縄文土器	鉢	口径 底径 身高	口縁部分	内：ナデ。条痕 外：ナデ	内：Hue 10Y4E-2 外：Hue 10Y4E-2	Ⅲ区5 b 節点 一括	X期	X期
24	127	縄文土器	深鉢	口径12.0 底径	底部	内：ナデ。条痕 外：ナデ。条痕	内：Hue 7.5Y4E-2 外：Hue 7.5Y4E-3	Ⅲ区5 b 節点 上げ、4点接合	先端外面が黒化	先端外面が黒化
	128	縄文土器	深鉢	口径 底径11.8 身高	脚部～底部 外	内：ナデ。指ナデ 外：ナデ。条痕	内：Hue 23Y4-1 外：Hue 10Y4E-3	Ⅲ区5 b 節点 上げ、4点接合	脚部外面に下枝から上枝への崩 れナデ 底部外面に木葉痕。黒化。	脚部外面に下枝から上枝への崩 れナデ 底部外面に木葉痕。黒化。
	129	縄文土器	深鉢	口径 底径11.1 身高	底部	内：ぬれ条痕ナデ。指ナデ 外：ナデ。指ナデ	内：Hue 10Y4E-4 外：Hue 10Y4E-4	Ⅲ区5 b 節点 上げ	底部外面が黒化	底部外面が黒化
	130	縄文土器	鉢	口径 底径13.3 身高	底部	内：ナデ 外：ナデ。条痕	内：Hue 7.5Y4E-5 外：Hue 7.5Y4E-5	Ⅲ区5 b 節点 上げ、4点接合	脚部外面に下枝から上枝への崩 れナデ 底部外面に木葉痕。黒化。	脚部外面に下枝から上枝への崩 れナデ 底部外面に木葉痕。黒化。
	131	縄文土器	深鉢	口径 底径11.4 身高	底部	内：ナデ。指ナデ 外：ナデ。崩り	内：Hue 23Y5-2 外：Hue 23Y5-2	Ⅲ区5 b 節点 上げ	脚部外面に木葉痕。黒化。	脚部外面に木葉痕。黒化。

1. (黒髪南) ライフライン再生(給水設備等)工事に伴う発掘調査(1310調査地点)

回	番号	造物	種類(器種)	法線(cm)	残存部	特徴	色調	出土遺構	備考
24	132	縄文土器	深鉢	口径底11.8 厚さ8.0	底部片	内:ナデ 外:ナデ、崩す	内: Hue 10YR5-2 外: Hue 10YR4-3	II区5 b 縦点上げ	脚部外面に下段から上段への削り
	133	縄文土器	深鉢?	口径底11.4 厚さ8.0	底部片	内:ナデ 外:崩後ナデ。ナデ(崩 位)	内: Hue 10YR5-3 外: Hue 10YR5-3	II区5 b 縦点上げ	脚部外面から底部外面にかけて黒化 底部外面に黒化
134	縄文土器	深鉢	底径12.0 厚さ8.0	底部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 10YR5-4 外: Hue 10YR8-3	II区5 b 縦点上げ、2点接合	底部外面に木素斑 底部外面に黒化	
135	縄文土器	鉢	口径底9.6 厚さ8.0	底部片	内:ナデ 外:ナデ、指ササエ	内: Hue 7.5YR4-6 外: Hue 10YR4/2	II区5 b 縦点上げ	底部外面に白色化 底部外面未調整	
136	縄文土器	鉢	口径底10.9 厚さ8.0	底部片	内:ナデ 外:ナデ、指ササエ	内: Hue 10YR5-3 外: Hue 7.5YR5-4	II区5 b 縦点一 括	底部外面から底部外面にかけて黒・ 白色化 底部外面未調整	
137	縄文土器	沼鉢	口径底12.2 厚さ8.0	底部片	内:ナデ	内: Hue 7.5YR5-2 外: 古代遺構 外: Hue 7.5YR5/4	II区5 b 縦点上 げ、縦合	脚部外面に黒・白色化	
138	縄文土器	深鉢	口径底11.7 厚さ8.0	底部片	内:ナデ、崩す 外:ナデ、崩す	内: Hue 10YR4-2 外: Hue 10YR4-1	II区5 b 縦点一 括	底部外面に木素斑	
139	縄文土器	深鉢	口径底11.9 厚さ8.0	底部片	内:ナデ、指ササエ 外:ナデ、指ササエ	内: Hue 10YR4-2 外: Hue 10YR4-2	II区5 b 縦点上 げ	底部外面調整	
140	縄文土器	深鉢	口径底11.7 厚さ8.0	底部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 10YR4-2 外: Hue 10YR5-3	II区5 b 縦点上 げ	底部外面に黒・白色化	
141	縄文土器	浅鉢	口径底11.4 厚さ8.0	底部片	内:崩す 外:崩す	内: Hue 10YR4-3 外: Hue 7.5YR5-4	II区5 b 縦点上 げ、横合、4 点接合	底部外面劣化	
25	142	土製品	土器片粗刷毛	長3.38 幅2.1 厚さ0.7	完形	内: 指ササエ崩ナデ 外: 指ササエ崩ナデ	内: Hue 7.5YR5-4 外: Hue 7.5YR4-3	II区5 b 縦点一 括	重量8.1g 脚部削り 脚部粗刷毛、両端に抉り
	143	土製品	土器片粗刷毛	長3.275 幅1.6 厚さ0.7	半欠	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 2.5Y3/1 外: Hue 2.5Y3/1	II区5 b 縦点一 括	重量2.4g 脚部研磨、両端に抉り
144	土製品	土器片粗刷毛	長3.26 幅1.6 厚さ0.8	半欠	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 10YR5-3 外: Hue 10YR5-3	II区5 b 縦点一 括	重量5.6g	
145	土製品	土器片粗刷毛	長3.37 幅2.1 厚さ0.7	一部欠損	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 10YR5-2/1 外: Hue 10YR5-3	II区5 b 縦点一 括	重量8.5g 内側かぶ折歯の一部にスス付着 脚部研磨、両端に抉り	
146	土製品	土器片粗刷毛	長3.35 幅1.8 厚さ0.9	一部欠損	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 10YR5-1 外: Hue 10YR5-2	II区5 b 縦点一 括	重量7.9g 脚部研磨、両端に抉り	
147	石器	敲石	長5.106 幅6.8 厚さ5.37	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	II区5 b 縦点上 げ	重量390g 安山岩か 脚部に敲打痕、他は自然面	
148	石器	敲石	長5.110 幅6.8 厚さ5.61	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	II区5 b 縦点上 げ	重量510g 安山岩 両端面に敲打痕	
149	石器	敲石	長5.92 幅6.7 厚さ5.45	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	II区5 b 縦点上 げ	重量244g 安山岩 両端面に削り飛ばし	
150	石器	石片	長6.6 幅6.8 厚さ5.18	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	II区5 b 縦点上 げ	重量166g 安山岩 両端面に削りによる抉り	
151	石器	破石	長5.65 幅6.7 厚さ5.11	一部欠損	内: 外:	内: Hue 外: Hue	II区5 b 縦点上 げ	重量53g 破石 一部自然の裏面が丸る	
152	石器?	剥片	長5.21 幅6.7 厚さ5.04	剥片	内: 外:	内: Hue 外: Hue	II区5 b 縦点上 げ	重量14g 黒曜石	
153	石器	破器	長5.14 幅6.26 厚さ5.45	破片	内: 外:	内: Hue 外: Hue	II区5 b 縦点上 げ	重量12g 黒曜石 刀刃部を崩壊	
154	石器	破器	長5.28 幅5.035	半欠	内: 外:	内: Hue 外: Hue	II区5 b 縦点上 げ	重量2.3g 黒曜石 刃部が削平、下部欠損 刃部を削除調整	
26	155	縄文土器	深鉢	口径底11.9 厚さ8.0	口縁-脚部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 10YR5-3 外: Hue 10YR5-2	II区古代遺構 脚部から脚部外面に北端文(板 縫)と柱縫(2) 内側ナデの前に部分的崩壊	I期 脚部から脚部外面に北端文(板 縫)と柱縫(2) 内側ナデの前に部分的崩壊
	156	縄文土器	深鉢	口径底11.9 厚さ8.0	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 10YR4-3 外: Hue 10YR4-3	II区古代遺構 脚部から脚部外面に北端文(板 縫)と柱縫(1)	I期 脚部から脚部外面に北端文(板 縫)と柱縫(1)
157	縄文土器	鉢	口径底11.9 厚さ8.0	口縁部片	内:崩す?	内: Hue 2.5Y5/2 外: Hue 10YR4/1	II区古代遺構 脚部から脚部外面に北端文(板 縫)と柱縫(1)	I期? 底付土器 脚部から脚部外面に北端文(板 縫)と柱縫(4)	
158	縄文土器	深鉢	口径底11.9 厚さ8.0	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 7.5YR5/4 外: Hue 7.5YR5/4	II区区域	I期またはII期 脚部から脚部外面に北端文(板 縫)と柱縫(4) 脚部から脚部外面に北端文(板 縫)と柱縫(4)	

回	番号	遺物	種類(器種)	法面(cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
26	159	縄文土器	深体	口径 底径 高さ	口縁部片	内:ナガ 外:ナガ	内:Hue 25Y3/2 外:Hue 3Y3/1	■区古代遺構 理土点上付。表 面、2点結合	X期 CD時内面に横8cm様の工具痕
	160	縄文土器	鉢	口径 底径 高さ	口縁部片	内:ナガ 外:ナガ(強い)、削り 跡ナガ	内:Hue 10YR5/4 外:Hue 10YRT 4/2	■区古代遺構 理土点上付	X期 口縁部が厚壁
	161	縄文土器	深体	口径 底径 高さ	底部片	内:ナガ 外:ナガ	内:Hue 10YR4/2 外:Hue 10YR5/4	■区先行トレー ンチャ付	
	162	縄文土器	深体	口径 底径 高さ	底部片	内:ナガ、削り 外:ナガ、削り	内:Hue 10YR5/2 外:Hue 10YR5/3	■区古代遺構 理土点上付	
	163	石器	石器	長さ20 幅16 厚さ3.5	完形	内: 外:	内:Hue 外:Hue	■区複数	重量0.6kg 安山岩 頭部断面に細く最打調整 基部は抉り削りやす平面
	164	石器	磨製石斧	長さ26 幅28 厚さ5.5	刃部片	内: 外:	内:Hue 外:Hue	■区5.5層点 上付	重量3.9kg 結核岩 刃部に微次元波状
29	165	縄文土器	鉢	口径 底径 高さ	口縁部片	内:ナガ、条痕 外:ナガ、条痕	内:Hue 25Y3/2 外:Hue 25Y3/3	■区6.7層点上 付	I・48 口縁部外側に刻划線(波状文)、北 側文(刻文)
	166	縄文土器	深体	口径 底径 高さ	口縁部片	内:ナガ 外:ナガ	内:Hue 75YR5/4 外:Hue 73YR5/4	■区6.7層点上 付	■期、波状文 口縁部外側に刻划文(波状文条)、 刮削文(波状文条)
	167	縄文土器	深体	口径 底径 高さ	口縁部片	内:ナガ 外:ナガ	内:Hue 25Y4/1 外:Hue 25Y3/1	■区6.7層点上 付	■期 口縁部外側に刻划文(波状文)
	168	縄文土器	深体	口径 底径 高さ	口縁部片	内:ナガ、条痕 外:ナガ	内:Hue 25Y4/1 外:Hue 25Y3/1	■区6.7層点上 付	X期
	169	縄文土器	鉢	口径 底径 高さ	口縁+胴部片	内:ナガ、条痕 外:ナガ、条痕	内:Hue 10YR5/2 外:Hue 10YR3/2	■区6.7層点上 付	X期
	170	縄文土器	深体	口径 底径 高さ	口縁部片	内:ナガ 外:ナガ	内:Hue 7.5Y4/1 外:Hue 10Y3/1	■区6.7層点上 付	X期
	171	縄文土器	浅体	口径 底径 高さ	口縁部片	内:ナガ、条痕 外:ナガ、条痕	内:Hue 10YR6/3 外:Hue 10YR1/3	■区6.7層点上 付	X期 口縁部外側に条痕
	172	縄文土器	鉢	口径 底径 高さ	口縁部片	内:磨き 外:ナガ	内:Hue N3/0 外:Hue 25Y5/2	■区6.7層点上 付	X期、波状文 口縁内面黒色
	173	縄文土器	浅体	口径 底径 高さ57~61	5.8	内:条痕ナガ、指オサエ 外:条痕ナガ、指オサエ 等々	内:Hue 25Y5/2 外:Hue 10YR6/2	■区6.7層点上 付	X期 内面に傾方向の条痕 内面に条痕進行する等々 外側に斜め方向の条痕
	174	縄文土器	鉢	口径 底径15.8 高さ	底部片	内:ナガ 外:ナガ	内:Hue 10YR5/3 外:Hue 10YR5/3	■区6.7層点上 付	底部外面に本条痕
	175	縄文土器	鉢	口径 底径11 高さ	底部片	内:ナガ、指オサエ 外:ナガ、指オサエ 等々	内:Hue 25Y5/3 外:Hue 5Y3/1	■区6.7層点上 付	底部外面に本条痕、細かい單位の 凹凸(約1cm×0.5cm)
	176	縄文土器	深体	口径 底径9.0 高さ	底部片	内:ナガ、削り 外:ナガ、削り	内:Hue 10YR5/1 外:Hue 10YR6/1	■区6.7層点上 付	底部外面に擦擦骨痕か
	177	縄文土器	深体	口径 底径 高さ11.2	底部片	内:ナガ、磨き 外:ナガ、磨き	内:Hue 25Y5/1 外:Hue 25Y5/3	■区6.7層点上 付、2点結合	粗製土器 内面削りと底部から底部にかけて ナガ後退い等々
	178	石器	磨製削片	長さ9.9 幅3.9 厚さ2.9	完形	内: 外:	内:Hue 外:Hue	■区6.7層点上 付	重量89g 玄武岩 表面に凹溝、自然面 表面は研ぎ削り剥離調整
	179	石器	石器未収品	長さ1.8 幅1.65 厚さ0.35	破片	内: 外:	内:Hue 外:Hue	■区6.7層点上 付	重量122g 灰成岩 表面に凹溝、自然面 中心部には剥離した剥離した部分
	180	石器	四石	長さ13.0 幅10.5 厚さ3.66	1/2	内: 外:	内:Hue 外:Hue	■区6.7層点上 付	重量129g 石材不明 表面に剥離、他是自然面
	181	石器	磨石	長さ17.5 幅9.1 厚さ3.69	完形	内: 外:	内:Hue 外:Hue	■区6.7層点上 付	重量13g 安山岩
33	182	縄文土器	深体	口径 底径 高さ26	口縁部片	内:磨き 外:ナガ、磨き	内:Hue 10YR5/4 外:Hue 25Y4/2	■区5.5層点 上付	N期 口縁に波状文(横2条) 口縁部外側に沈漫文(横2条)
	183	縄文土器	深体	口径 底径 高さ	口縁部片	内:条痕 外:ナガ	内:Hue 10YR3/1 外:Hue 10YR3/3	■区5.5層点 上付	口縫部に押さえ文
	184	縄文土器	浅体	口径 底径 高さ	胴部片	内:ナガ、磨き 外:ナガ、磨き	内:Hue 10YR5/8 外:Hue 10YR5/4	■区5.5層点 上付	X期
	185	縄文土器	鉢	口径 底径 高さ	口縁部片	内:ナガ、磨き 外:ナガ、磨き	内:Hue 10YR4/1 外:Hue 10YR4/6	■区5.5層点 上付	■期 口縫部外側に沈漫文(横線)
	186	縄文土器	鉢	口径 底径 高さ	口縁+胴部片	内:ナガ、磨き 外:磨き	内:Hue 5Y4/1 外:Hue 25Y3/2	■区4.4層点上 付	■期 口縫から顶部外側にかけて沈漫文 (横線+曲線)

1. (黒髪南) ライフライン再生(給水設備等)工事に伴う発掘調査(1310調査地点)

回	番号	遺物	種類(器種)	法量(cm)	現存部	特徴	色調	出土遺構	備考	
33	187	縄文土器	鉢	口径23 底径20 厚さ5	頭部片	内:ナデ、削き 外:削き	内:Hue 5Y5/2 外: Hue 25Y6/2	II区4層土上 I层	遺物	遺物外面に沈泥文(横斜)
	188	縄文土器	深鉢	口径23 底径20 厚さ5	口縁部片	内:ナデ、削き 外:ナデ、削き	内:Hue 5Y5/4 外: Hue 25Y4/4	II区2層土上 I层	X彫 口縁部が肥厚	
	189	縄文土器	深鉢	口径130 底径120 厚さ5	頭部~底部片	内:ナデ、削き 外:ナデ、削き	内: Hue 10YR5/2 外: Hue 10YR5/4	II区古代遺構 理土上-1層	遺物外面に木葉紋	
	190	縄文土器	深鉢	口径23 底径20 厚さ5	底部片	内:ナデ、削き 外:ナデ、削き	内: Hue 10YR6/6 外: Hue 10YR6/4	II区古代遺構 理土上-1層	遺物外面に木葉紋	
	191	縄文土器	鉢	口径42 底径42 厚さ5	底部片	内: 削き 外: 削き	内: Hue 10YR6/4 外: Hue 10YR6/2	II区古代遺構 理土上-1層		
34	192	石器	石鏃	長52.3 幅16 厚さ5.4	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	II区3層土上 I层	重量0.9kg 安山岩	
	193	石器	石刀	長42.4 幅5.9 厚さ2.8	破片	内: 外:	内: Hue 外: Hue	II区4層土上 I层	重量11.5kg 安山岩 中央と周縁部打痕	
	194	石器	研石	長59.4 幅4.8 厚さ3.9	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	II区古代遺構 理土下層土上 I层	重量23.6kg 安山岩 全面に打痕	
	195	縄文土器	深鉢	口径26 底径20 厚さ5	口縁部片	内:不明 外:削子	内: Hue 25Y3/1 外: Hue 25Y3/1	N14区5b層点 上IF	X彫、削子状跡 口縁部に削突文(横斜1脚)	
	196	縄文土器	鉢?	直径60 厚さ5	底部片	内:第5 外:削り下、削き	内: Hue 10YR7/4 外: Hue 10YR6/4	N14区5b層点 上IF	遺物外面調整	
35	197	縄文土器	浅鉢	口径26.6 底径20 厚さ8	口縁~肩部片	内:削り、削き 外:ナデ、削り、削き、削文	内: Hue 75Y2/2 外: Hue 75Y2/1	N14区5b層点 上IF	X彫、削毛跡 口縁部に剥突文(1条)、沈泥文(横斜2条) 周縁部外側に削突文(1脚)	
	198	石器	刮片	長51.2 幅14.5 厚さ4.0	手欠	内: 外:	内: Hue 外: Hue	N14区5層点上 IF	重量14kg 黒曜岩 表面状況の連続的変遷 先端部に細かい凹面磨耗	
	199	石器	石器	長51.3 幅10.2 厚さ5.3	手欠	内: 外:	内: Hue 外: Hue	N14区5層点上 IF	重量108.0kg 安山岩 中央に粗目状 裏面の剥離欠損は主面として使用	
	200	縄文土器	深鉢	口径18.8 底径15 厚さ5	口縁~側部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 75Y4/3 外: Hue 5YRA4/1 10YR3/2	N14区7層点上 IF, 2点接合	1a類、波状口縁 口縁部外側に剥突文(横斜2脚), 沈泥文(横斜2条), 交差文, 利刃 文(横斜1条) 口縁部外側に利刃文(斜傾)	
	201	縄文土器	深鉢	口径23 底径20 厚さ5	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 10YR6/3 外: Hue 75YR5/4	N14区7層点上 IF	1a類、波状口縁 口縁部外側に利刃文(斜傾), 沈 泥文(斜傾)	
36	202	縄文土器	鉢	口径23 底径19 厚さ4.0	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 10YR5/2 外: Hue 75YR4/4	N14区7層点上 IF	1a類 口縁部外面に沈泥文(横斜2条+斜傾)	
	203	縄文土器	深鉢	口径23 底径20 厚さ5	口縁部片	内:ナデ(横斜) 外:ナデ	内: Hue 75YR5/4 外: Hue 75YR5/6	N14区7層点上 IF	1a類 口縁部外面に沈泥文(横斜2条+斜傾) 口縁部内面に工具痕	
	204	縄文土器	深鉢	口径23 底径20 厚さ5	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 75YR6/4 外: Hue 75YR5/3	N14区7層点上 IF	1a類 口縁部外面に利刃文(斜傾), 沈 泥文(斜傾+堆積)	
	205	縄文土器	深鉢	口径23 底径19 厚さ5	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 10YR4/2 外: Hue 25Y3/3	N14区7層点上 IF	1a類 口縁部外面に沈泥文(横斜2条+斜傾)	
	206	縄文土器	鉢	口径23 底径20 厚さ5	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 5YR5/1 外: Hue 5YR5/4	N14区7層点上 IF	1a類 口縁部に利刃文 口縁部外側に利刃文(斜傾)	
37	207	縄文土器	鉢	口径23 底径20 厚さ5	口縁部片	内:ナデ、削オサエ 外:ナデ、削文残指ナデ	内: Hue 10YR3/2 外: Hue 5YR4/3	N14区7層点上 IF	1a類 口縁部に利刃文(斜傾), 剥離テ クスチャ	
	208	縄文土器	不明	直径26.4 厚さ5	頭~肩部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 10YR5/4 外: Hue 10YR4/2	N14区7層点上 IF	遺物外面に利刃文(斜傾) 頭部外側に利刃文(横斜1条) 頭部外側に利刃文(横斜2条)	
	209	縄文土器	深鉢	口径26.4 底径20 厚さ5	口縁~側部片	内:ナデ、削り 外:ナデ、削り	内: Hue 75YR6/2 外: Hue 75YR6/4	N14区7層点上 IF, 点接合	1b類、波状口縁 口縁部に利刃文(横斜2条) 口縁部外側に利刃文(横斜2条)	
	210	縄文土器	深鉢	口径30.0 底径25 厚さ5	口縁~側部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 10YR6/4 外: Hue 75YR5/3	N14区7層点上 IF, 2点接合	1b類、波状口縁 口縁部に利刃文(横斜2条) 口縁部外側に利刃文(横斜2条)	
	211	縄文土器	鉢	口径26.0 底径22 厚さ9.6	口縁~側部片	内:ナデ、削オサエ 外:ナデ	内: Hue 5Y3/2 外: Hue 5Y3/2	N14区7層点上 IF	1b類 (口縁部形態は1b類に近似す る), 波状口縁 口縁部に利刃文(横斜2条) 口縁部外側に利刃文(横斜2条) 口縁部外側に利刃文(横斜2条+横斜1条)	
38	212	縄文土器	深鉢	口径26.0 底径22 厚さ9.6	頭部片	内:ナデ、削き 外:ナデ、削き	内: Hue 10YR6/2 外: Hue 10YR5/3	N14区7層点上 IF, 6点接合	II類 頭部外面に削突文(横斜1条)	

II 黒髪南地区の調査

図 番号	遺物	種類(器種)	法量(cm)	既存量	特徴	色調	出土遺構	備考	
								内:	外:
41	213	陶文土器	深鉢	口径 底径 高さ	口縁部 口縁部	内:ナガ 外:ナガ	内:Huay 5YR3/1 外:Huay 5YR4/2	N14区7層点上 N14区7層点上	Ⅱ期 口縁部外側に刺突文(横位1条)と 目状突起(横位1条)
	214	陶文土器	深鉢	口径 底径 高さ	口縁部 口縁部	内:ナガ 外:ナガ	内:Huay 5YR5/2 外:Huay 5YR5/3	N14区7層点上 N14区7層点上	Ⅱ期、浅狀口縁 口縁部外側に刺突文(横位1条) 目状突起(横位1条)
	215	陶文土器	深鉢	口径25.2 底径 高さ	口縁部 口縁部-底部	内:ナガ、柔軟 外:ナガ、柔軟	内:Huay 5YR4/2 外:Huay 5YR5/4	N14区7層点上 N14区7層点上 2点合	Ⅱ期、浅狀口縁 口縁部外側に刺突文(横位1条)と 目状突起(横位1条)
	216	陶文土器	深鉢	口径 底径 高さ	口縁部 口縁部	内:ナガ 外:ナガ	内:Huay 25Y5/2 外:Huay 25Y6/3	N14区7層点上 N14区7層点上	Ⅱ期、浅狀口縁 口縁部外側に刺突文(横位1条)と 目状突起(横位1条)
	217	陶文土器	鉢?	口径 底径 高さ	口縁部 口縁部	内:ナガ 外:ナガ	内:Huay 10YR8/3 外:Huay 10YR7/3	N14区7層点上 N14区7層点上	Ⅱ期 口縁部外側に刺突文(横位1条)と 目状突起(横位1条)
	218	陶文土器	鉢?	口径 底径 高さ	口縁部 口縁部	内:ナガ、彫り 外:ナガ(模様)	内:Huay 7.5Y4/1 外:Huay 7.5Y4/2	N14区7層点上 N14区7層点上	Ⅱ期 口縁部外側に刺突文(横位1条)、 彫刻
	219	陶文土器	浅鉢?	口径 底径 高さ	口縁部 口縁部	内:織文 外:焼き	内:Huay 25Y3/1 外:Huay 25Y4/1	N14区7層点上 N14区7層点上	Ⅲ期 底部外側に織文(L3), 沈織文(深 巻文)
	220	陶文土器	浅鉢	口径 底径 高さ	口縁部 口縁部	内:焼き 外:ナガ、焼き	内:Huay 25Y3/2 外:Huay 25Y4/2	N14区7層点上 N14区7層点上	Ⅲ期 底部外側に陶文(II), 沈織文(横 巻文)
	221	陶文土器	鉢	口径 底径 高さ	口縁部 口縁部	内:ナガ 外:ナガ	内:Huay 25Y3/2 外:Huay 25Y3/2	N14区7層点上 N14区7層点上 2点合	X期
	222	陶文土器	深鉢	口径 底径 高さ	口縁部 口縁部	内:ナガ、柔軟 外:ナガ、柔軟	内:Huay 25Y4/4 外:Huay 25Y4/4	N14区7層点上 N14区7層点上	X期
	223	陶文土器	深鉢	口径 底径 高さ	口縁部 口縁部	内:柔軟 外:ナガ	内:Huay 10YR5/3 外:Huay 25Y3/2	N14区7層点上 N14区7層点上	X期
	224	陶文土器	鉢	口径25.2 底径 高さ	口縁-底部	内:ナガ、柔軟 外:ナガ、柔軟	内:Huay 5Y3/1 外:Huay 10YR5/3	N14区7層点上 N14区7層点上 1.2点合	分類不明 口縁部に刺突文(横位1条)
	225	陶文土器	深鉢	口径 底径 高さ	底部	内:ナガ 外:ナガ、指オサエ	内:Huay 10YR5/4 外:Huay 10YR5/1	N14区7層点上 N14区7層点上	底部外側から腹部外側にかけて黒 化 底部外側を調整
	226	陶文土器	深鉢	口径 底径 高さ	底部 底部	内:ナガ 外:ナガ	内:Huay 7.5YR4/1 外:Huay 7.5YR3/1	N14区7層点上 N14区7層点上	X期
	227	陶文土器	深鉢	口径 底径 高さ	底部 底部	内:ナガ 外:ナガ	内:Huay 10YR5/2 外:Huay 10YR4/1	N14区7層点上 N14区7層点上	X期
	228	陶文土器	深鉢	口径 底径 高さ	底部 底部	内:ナガ 外:ナガ	内:Huay 7.5YR5/3 外:Huay 7.5YR5/3	N14区7層点上 N14区7層点上	底部外側に黒化
	229	陶文土器	深鉢	口径 底径 高さ	底部 底部	内:ナガ 外:ナガ、彫り	内:Huay 7.5YR4/1 外:Huay 7.5YR6/4	N14区7層点上 N14区7層点上	底部外側に本彫痕か
	230	陶文土器	深鉢	口径 底径 高さ	底部 底部	内:ナガ 外:ナガ	内:Huay 10YR5/3 外:Huay 10YR5/3	N14区7層点上 N14区7層点上	底部外側に本彫痕か
	231	陶文土器	深鉢	口径 底径 高さ	底部 底部	内:ナガ、指オサエ 外:ナガ、指オサエ	内:Huay 10YR5/4 外:Huay 7.5YR5/4	N14区7層点上 N14区7層点上	底部外側を調整
	232	陶文土器	深鉢	口径 底径 高さ	底部 底部	内:ナガ 外:ナガ、彫り	内:Huay 7.5YR4/1 外:Huay 7.5YR5/2	N14区7層点上 N14区7層点上	X期
	233	陶文土器	深鉢?	口径25 底径	底部 底部	内:ナガ 外:ナガ、指オサエ	内:Huay 7.5Y4/1 外:Huay 7.5YR6/4	N14区7層点上 N14区7層点上	粗製(部分的に表面凹溝)
42	234	石器	敲石	長さ12.9 幅4.25 厚さ5.49	完形	内: 外: 内: 外:	内:Huay 外:Huay 内:Huay 外:Huay	N14区7層点上 N14区7層点上 N14区7層点上 N14区7層点上	重量42kg 安山岩 小L型面、長手面に敲打痕
	235	石器	敲石	長さ9.9 幅2.78 厚さ5.49	完形	内: 外: 内: 外:	内:Huay 外:Huay 内:Huay 外:Huay	N14区7層点上 N14区7層点上 N14区7層点上 N14区7層点上	重量44kg 安山岩 上面に敲打痕 背面右側から下部にかけて弱い敲 打痕
	236	石器	敲石	長さ14.5 幅5.0 厚さ5.34	完形	内: 外: 内: 外:	内:Huay 外:Huay 内:Huay 外:Huay	N14区7層点上 N14区7層点上 N14区7層点上 N14区7層点上	重量32kg 安山岩 両面に敲打痕
	237	石器	敲石	長さ11.7 幅6.60 厚さ5.38	完形	内: 外: 内: 外:	内:Huay 外:Huay 内:Huay 外:Huay	N14区7層点上 N14区7層点上 N14区7層点上 N14区7層点上	重量41kg 安山岩 両面に敲打痕 部分的に熱化
	238	石器	敲石	長さ13.0 幅6.81 厚さ5.49	一部欠損	内: 外: 内: 外:	内:Huay 外:Huay 内:Huay 外:Huay	N14区7層点上 N14区7層点上 N14区7層点上 N14区7層点上	重量107kg 安山岩 片面中央と側面の一部に敲打痕
43	239	石器	敲石	長さ8.2 幅4.3 厚さ5.32	完形	内: 外: 内: 外:	内:Huay 外:Huay 内:Huay 外:Huay	N14区7層点上 N14区7層点上 N14区7層点上 N14区7層点上	重量17kg 安山岩 両面に敲打痕

1. (黒髪雨) ライフライン再生(給水設備等)工事に伴う発掘調査(1310調査地点)

図	番号	遺物	種類(器種)	法量(cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
43	240	石器	敲石	長さ93 幅72 厚さ375	一部欠損	内:外:	内:Huie 外:Huie	N'14区7層点上 1F	重量347g 安山岩 遺部に敲打痕
	241	石器	敲石	長さ87 幅67 厚さ61	完形	内:外:	内:Huie 外:Huie	N'14区7層点上 1F	重量375g 石片不明 両端部に敲打痕
	242	石器	敲石	長さ88 幅65 厚さ525	完形	内:外:	内:Huie 外:Huie	N'14区7層点上 1F	重量386g 安山岩 遺部に敲打痕
	243	石器	磨石	長さ61 幅72 厚さ265	完形	内:外:	内:Huie 外:Huie	N'14区7層点上 1F	重量239g 安山岩 両端部に研磨による平坦面 表面に不規則な削痕
	244	石器	磨石	長さ90 幅68 厚さ53	完形	内:外:	内:Huie 外:Huie	N'14区7層点上 1F	重量557g 安山岩 両端部に削痕
	245	石器	敲石	長さ44 幅49 厚さ18	破片	内:外:	内:Huie 外:Huie	N'14区7層点上 1F	重量49g 破片
44	246	石器	敲石	長さ54 幅63 厚さ275	完形	内:外:	内:Huie 外:Huie	B'14区7層点上 1F	重量55g 砂岩 遺部に敲打痕、他は全面に擦耗痕
	247	土製品	土器片軸縫跡	長さ320 幅19 厚さ58	完形	内:指ササエ 外:丸き	内:Huie 7SYH3/2 外:Huie 7SYR4/4	N'14区7層点上 1F	重量7.0kg 直邊研磨。両端部に抉り
	248	土製品	土器片軸縫跡	長さ43 幅21 厚さ10	完形	内:ナデ 外:尖鋸	内:Huie 10YR4/1 外:Huie 7SYR6/4	N'14区7層点上 1F	重量12kg 直邊研磨面に穂部 両端部に抉り
	249	土製品	土器片軸縫跡	長さ42 幅19 厚さ13	完形	内:ナデ, 斧痕?	内:Huie 7SYH5/4 外:Huie 7SYR5/4	N'14区7層点上 1F	重量14kg 直邊研磨。両端部に抉り 両端に貝殻発痕
	250	土製品	土器片軸縫跡	長さ37 幅19 厚さ12	完形	内:ナデ 外:?	内:Huie 10YR5/4 外:Huie 7SYR5/4	N'14区7層点上 1F	重量12g 直邊研磨。両端部に抉り
	251	土製品	土器片軸縫跡	長さ33 幅20 厚さ67	完形	内:ナデ 外:ナデ	内:Huie 10YR4/1 外:Huie 7SYR5/2	N'14区7層点上 1F	重量9kg 直邊研磨。両端部に抉り
45	252	土製品	土器片軸縫跡	長さ35 幅24 厚さ67	完形	内:前り 外:ナデ	内:Huie 7SYR6/4 外:Huie 5YR5/4	N'14区7層点上 1F	重量9kg 直邊に沈漫文 両端部研磨。両端部に抉り
	253	土製品	土器片軸縫跡	長さ45 幅18 厚さ68	完形	内:直さ 外:横文	内:Huie 10YR5/3 外:Huie 2SY5/2	N'14区7層点上 1F	重量7kg 直邊研磨。両端部に抉り 側面に削痕文 (L型) 赤色顔料付着
	254	土製品	土器片軸縫跡	長さ265 幅17 厚さ209	半欠	内:ナデ 外:横文	内:Huie 7SYR5/3 外:Huie 10YR4/3	N'14区7層点上 1F	重量62g 直邊に削痕文 (L型) 沈漫文 両端部研磨。両端部に抉り
	255	陶文土器	鉢	口径268 底径128 高さ128	口縁~胴部片	内:ナデ, 直身, 指ササエ 外:ナデ, 指ササエ	内:Huie 10YR4/3 外:Huie 10YR3/3	N'14区10層点上 1F	1b類型 13部位に直目帶文 (横1条) 13部位外側に突変帶有直目
	256	陶文土器	浅鉢	口径 底径 高さ	口縁部片	内:ナデ, 直身 外:ナデ, 指ササエ	内:Huie 5YR4/2 外:Huie 5YR3/2	N'14区10層点上 1F	直身
	257	陶文土器	鉢	口径88 底径74 高さ24	底部片	内:ナデ, 出オサエ 外:ナデ, 出オサエ	内:Huie 5Y3/1 外:Huie 10YR4/3	N'14区10層点上 1F, 2点接合	底部外面の一部に屈かた卓状の凹 みが目立つ
46	258	陶文土器	深鉢	口径102 底径 高さ	底部片	内:ナデ, 亂直 外:ナデ, 前り, 楊直	内:Huie 10YR6/3 外:Huie 10YR5/8	N'14区10層点上 1F	側面内面から底部内面にかけて先 後段ナメ 側部外側に下枕から上脛への削り 底部外側に直邊ナデ
	259	陶文土器	鉢	口径115 底径 高さ	底部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Huie 10YR7/3 外:Huie 10YR6/4	N'14区10層点上 1F	底部外面に横状の凹痕
	260	陶文土器	鉢	口径 底径 高さ	口縁部片	内:直身 外:直身	内:Huie 2SY6/3 外:Huie 2SY4/1	N'14区4層~1階	口縁部に沈漫文 (横位)
	261	陶文土器	浅鉢	口径 底径 高さ	口縁~胴部片	内:直身 外:直身	内:Huie 2SY6/2 外:Huie 2SY4/2	N'14区4層~1階	直身
	262	陶文土器	浅鉢	口径 底径 高さ	胴部片	内:直身 外:直身	内:Huie 7SY5/6 外:Huie 7SY5/6	N'14区4層~1階	直身
	263	石器	剥片	長さ45 幅35 厚さ16	完形	内: 外:	内:Huie 外:Huie	N'14区7層点上 1F	重量18kg 奥武岩 塑形化
47	264	陶文土器	深鉢?	口径 底径 高さ	胴部片	内:ナデ 外:山形押型文	内:Huie 7SYR7/4 外:Huie 7SYR4/1	W'14区3層~1階	側部外面に山形押型文
	265	陶文土器	浅鉢	口径 底径 高さ	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Huie 10YR7/3 外:Huie 10YR7/4	W'11区3層~1階	1a類、波状口縁 13部位外側に沈漫文 (横2条)
48	266	陶文土器	鉢	口径 底径 高さ	口縁部片	内:ナデ, 直身 外:ナデ, 前引	内:Huie 5YR3/1 外:Huie 5YR4/1	W'20区4層~1階	直身 口縁部に久穴付着

回	番号	遺物	種類(器種)	法線(cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考	
									内	外
46	267	縄文土器	鉢	口縁部片	内:ナマ、滑さ 外:ナマ、滑さ	内:Hue 10YR4/3 外:Hue 10YR4/4	B744.4層・粘土	Ⅱ類 口縁部外周に沈漫文(横位2条)		
	268	縄文土器	鉢	口縁部片	内:滑さ 外:滑さ	内:Hue 10YR3/1 外:Hue 10YR3/4	B744.4層・粘土	X類		
	269	縄文土器	浅鉢	口縁部片	内:滑さ 外:滑さ	内:Hue 10YR6/3 外:Hue 10YR6/4	B744.4層・粘土	Ⅱ類 口縁部に沈漫文(横位2条) 13号部一部にスリス付有		
	270	縄文土器	深鉢	側面部	内:ナマ 外:ナマ	内:Hue 7.5YR6/6 外:Hue 7.5YR6/4	B744.4層・粘土	側面部外周に斜日突癸文(横位1条) 13号部外周にスリス付有		
	271	縄文土器	深鉢	側面部	内:滑さ 外:滑さ	内:Hue 10YR 外:Hue 10YR	B744.4層・粘土	側面部内面一部氯化 側面部外周一部黒色化	X類	
	272	縄文土器	深鉢	側面部	内:ナマ、滑さ 外:滑さ	内:Hue 2.5YR6/3 外:Hue 2.5YR5/3	B744.4層・粘土	Ⅱ類 側面部外周に古代遺 埋地土一括、5 2004.4層・粘土	X類	
	273	縄文土器	鉢	口縁部片	内:ナマ 外:ナマ	内:Hue 10YR5/3 外:Hue 10YR5/3	B744.4層・粘土	Ⅱ類小、浅狀13號 13号内面に斜癸文 13号部外周に斜癸文		
	274	縄文土器	鉢	口縁部片	内:滑さ 外:滑さ	内:Hue 7.5YR4/2 外:Hue 7.5YR4/4	B744.4層・粘土	Ⅱ類小、口縁部外周に横文(LR不 明)、沈漫文(横位2条)		
	275	縄文土器	深鉢	口縁部片	内:滑さ 外:滑さ	内:Hue 10YR5/4 外:Hue 10YR3/1 10YR6/4	B744.4層・粘土	Ⅱ類 13号部一部系調整		
	276	縄文土器	皿	口縁部片	内:滑さ 外:ナマ	内:Hue 3YR5/6 外:Hue 7.5YR5/6	B744.4層・粘土	Ⅱ類小、 13号部内面に横文(R)		
	277	石器	石錐?	一部欠損	内: 外:	内:Hue 外: Hue	B744.4層・粘土	重量8g 石材不明 頭部に缺口? 自然の可能性あり		
	278	石器	錐?	完形	内: 外:	内: HUE 外: HUE	B744.4層・粘土	重量51g 黒曜岩 一部を剥離する 上部には白い膜(棒面)		
	279	石器	未品?	錐片	内: 外:	内: HUE 外: HUE	B744.4層・粘土	重量32g チャット		
	280	石器	敲石?	完形	内: 外:	内: HUE 外: HUE	B744.4層・粘土	重量976g 安山岩か 頭部と前部に剥離		
	281	石器	台石	破片	内: 外:	内: HUE 外: HUE	B744.4層・粘土	重量780g 安山岩か 表面に磨痕、裏面に櫛状のなれ筋		
52	282	縄文土器	鉢	口縁~胴部片	内:ナマ、柔軟 外:ナマ、柔軟	内: HUE 10YR4/3 外: HUE 10YR4/4	V11区7層・粘土 17	I-a類 13号部外周に沈漫文(横位4条)	I-a類	
	283	縄文土器	深鉢	口縁部片	内:ナマ 外:ナマ	内: HUE 7.5YR4/2 外: HUE 10YR4/1	V11区7層・粘土 17	Ⅱ類 波状口縁 13号部外周に斜癸文(斜位)	Ⅱ類 13号部外周に沈漫文(斜位+横位)、 斜癸文	
	284	縄文土器	鉢	口縁部片	内:ナマ 外:ナマ	内: HUE 7.5YR3/1 外: HUE 7.5YR2/1	V11区7層・粘土 17	Ⅱ類 分離不明、波状口縫 13号部外周に斜癸文(横位2条)	Ⅱ類 13号部外周に斜癸文(横位2条)	
	285	縄文土器	深鉢	1/2	内:ナマ、工具痕 外:ナマ	内: HUE 7.5YR5/3 外: HUE 7.5YR3/3	V11区7層・粘土 17	Ⅱ類 13号部外周に沈漫文(横位+斜位) 内面に複数の工具痕	Ⅱ類 13号部外周に斜癸文(横位)	
	286	縄文土器	深鉢	口縁~胴部片	内:ナマ、柔軟 外:ナマ、柔軟	内: HUE 10YR5/4 外: HUE 10YR5/4	V11区7層・粘土 17	I-b類、波状口縫 13号部外周に斜癸文(横位)	I-b類、波状口縫 13号部外周に斜癸文(横位1~3条)	
	287	縄文土器	深鉢	口縁部片	内:ナマ、指ササエ 外:ナマ	内: HUE 10YR4/1 外: HUE 10YR5/3	V11区7層・粘土 17 B25X9層 2点取合	Ⅲ類 重ね波状口縫 13号部外周に斜癸文 13号部外周に斜癸文 前田突癸文(横位2条+横位1条) 前田突癸文(横位2条+横位1条)	Ⅲ類 重ね波状口縫 13号部外周に斜癸文(横位2条)	
	288	縄文土器	深鉢	口縁部片	内:ナマ後端に滑さ(横位) 外:ナマ後端に滑さ(縱位)	内: HUE 7.5YR4/1 外: HUE 2.5YR4/1	V11区7層・粘土 17	Ⅲ類 13号部外周に斜癸文(横位2条)	Ⅲ類 13号部外周に斜癸文(横位2条)	
	289	縄文土器	深鉢	口縁部片	内:ヨコナマ 外:ヨコナマ	内: HUE ~ 外: HUE 7.5YR4/1	V11区7層・粘土 17	Ⅲ類 13号部外周に斜癸文(横位2条) 13号内面に剥離	Ⅲ類 13号部外周に斜癸文(横位2条) 13号内面に剥離	
	290	縄文土器	鉢	口縁~胴部片	内:ナマ 外:ナマ	内: HUE 5Y/1 外: HUE 10YR6/2	V11区7層・粘土 17 3点接合	Ⅲ類 V11区7層・粘土 17 3点接合	Ⅲ類 V11区7層・粘土 17 3点接合	
	291	縄文土器	鉢	口縁部片	内:ナマ、柔軟 外:ナマ	内: HUE 7.5YR4/2 外: HUE 2.5YR2/2	V11区7層・粘土 17	Ⅲ類 13号部内面に柔軟	Ⅲ類 13号部内面に柔軟	
	292	縄文土器	鉢	口縁部片	内:ナマ、指ササエ 外:ナマ、指ササエ	内: HUE 10YR5/2 外: HUE 10YR3/2	V11区7層・粘土 17	Ⅲ類 13号部外周に斜癸文 13号部外周に斜癸文(横位1条) 前田突癸文(横位1条)、沈漫文(横位1条)	Ⅲ類 13号部外周に斜癸文 13号部外周に斜癸文(横位1条)	
	293	縄文土器	鉢	口縁部片	内:ナマ 外:ナマ	内: HUE 5Y/2 外: HUE 2.5YR5/1	V11区7層・粘土 17	Ⅲ類	Ⅲ類	

1. (黒髪南) ライフライン再生(給水設備等)工事に伴う発掘調査(1310調査地点)

図	番号	遺物	種類(器種)	法線(cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
52	294	陶文土器	把手	長さ60 幅19 厚さ19	破片	内: - 外: +ナデ	内: Huc = 外: Huc 10YR6-2	V11区C7層点上 1f	直はある棒の把手部から 墨文と沈文
	295	陶文土器	深鉢	口径 底径8.4 器高	底部片	内: +ナデ、指サエ 外: +ナデ、削り	内: Huc 10YR4-1 外: Huc 10YR5-1	V11区北東7層 点上+1f	底部外側に木葉底、黒・白色化
296	296	陶文土器	深鉢	口径 底径10.3 器高	底部片	内: +ナデ 外: +ナデ 底: +ナデ、指サエ	内: Huc 25Y5-2 外: Huc 25Y5-2	V11区C7層点上 1f	底部外側に木葉底
	297	陶文土器	深鉢	口径 底径12.0 器高	底部片	内: +ナデ 外: +ナデ	内: Huc 25YR4-1 外: Huc 25YR5-3	V11区7層点上 1f	底部外側面に下から上方に向かう折り痕 底部内部に指印痕痕 底部外側に鮮明な木葉底
298	298	陶文土器	深鉢	口径 底径10.9 器高3.9	底部片	内: +ナデ 外: +ナデ	内: Huc 25Y6-3 外: Huc 25Y5-3	V11区7層点上 1f	底部外側面に下から上方に向かう折り痕 底部内部に指印痕痕 底部外側に鮮明な木葉底
	299	陶文土器	深鉢	口径 底径12.1 器高	底部片	内: +ナデ、削り 外: +ナデ、削り、指サエ 底: +ナデ	内: Huc 25YH4-2 外: Huc 25YH4-2	V11区7層点上 1f, 2直接合	底部断面形状が位置により異なる
300	300	陶文土器	鉢	口径 底径10.0 器高	底部片	内: +ナデ 外: 指サエ+削ナデ	内: Huc 25Y5-3 外: Huc 25Y4-1	V11区7層点上 1f	底部外側に木葉底
	301	陶文土器	鉢	口径28.5 底径 器高	口縁部片	内: +ナデ?、条痕 外: +ナデ	内: Huc 25Y5-3 外: Huc 25Y6-3	V11区7層点上 1f, 6直接合	直縞、波状口縦 口縁部外側に文書(4行、沈文(対向文)+横文+削れ1条)、隠文(L2)、沈文 (L2)、削れ(手)
302	302	陶文土器	鉢	口径 底径13.8 器高	底部一部断片	内: 剥き 外: +ナデ、剥き	内: Huc 10YR2-4 外: Huc 10YR4-2	V11区7層点上 1f, 2直接合	底部外側に墨文(L2)、沈文 (手形)、剥離痕(5単位分)
	303	陶文土器	鉢	底径12.3 底径11.9 器高12.3	1/6	内: 剥き 外: 剥き	内: Huc 75YR5-3 外: Huc 30YR5-3	V11区7層点上 1f, 2直接合	直縞、剥離痕(5単位分) 底部外側から底部にかけて陶文(L2)、沈文 (L2)、墨文(手形)、剥離痕(5単位分)
304	304	陶文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: 剥き 外: 剥き	内: Huc N2-0 外: Huc 10YR6-4	V11区7層点上 1f	直縞、波状口縦 口縁部に沈文文(横文2条)、削れ (2条)
	305	陶文土器	浅鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: 剥き 外: 剥き	内: Huc 5Y3-1 外: Huc 5Y3-1	V11区7層点上 1f	直縞 口縁部外側に隠文(L2)、沈文文 (横文2条)、毛色糊料付着
306	306	陶文土器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: 剥き 外: 剥き	内: Huc 75YR6-6 外: Huc 75YR5-4	V11区北東7層 点上+1f	直縞 口縁部外側に墨文(L2)、 毛色糊料付着
	307	陶文土器	鉢?	口径 底径 器高	胴部片	内: 剥き 外: 剥き	内: Huc 25Y5-2 外: Huc 25Y4-6	V11区7層点上 1f	直縞 胴部外側に墨文(L2)、 毛色糊料付着
308	308	陶文土器	鉢?	口径 底径 器高	胴部片	内: 剥き 外: 剥き	内: Huc 25Y4-2 外: Huc 10YR4-3	V11区北東7層 点上+1f	直縞 胴部外側に墨文(L2)、沈文 (手形)、剥離痕(2条)
	309	陶文土器	鉢?	口径 底径 器高	胴部片	内: 剥き 外: 剥き	内: Huc 25Y5-2 外: Huc 25Y5-2	V11区7層点上 1f	直縞 胴部外側に墨文(L2)、沈文 (手形)、剥離痕(2条)
310	310	土製品	土器片軸周縁	長さ2.4 幅2.0 厚さ0.8	完形	内: +ナデ 外: +ナデ	内: Huc 10YR5-2 外: Huc 10YR5-3	V11区7層点上 1f	直縞 軸部外側に墨文(L2)、沈文 (手形)、剥離痕(2条)
	311	陶文土器	深鉢	口縁部片	内: ヨコナデ、指サエ 外: ヨコナデ	内: Huc 10YR6-4 外: Huc 10YR6-4	V11区7層点上 1f	直縞 口縁部外側に剥離文(横文2条)	
312	312	石器	磨石	長さ5.8 幅7.7 厚さ2.6	1/2	内: 外:	内: Huc 外: Huc	V10区C7層点上 1f	直縞 直縞全表面に磨き痕が著しい
	313	陶文土器	鉢?	口径 底径 器高	口縁部片	内: 剥き 外: +ナデ	内: Huc 25Y5-2 外: Huc 10YR6-3	V20区4層+1f	直縞、波状口縦 口縁部外側に細沈文文(横文)
314	314	陶文土器	深鉢	口縁部片	内: +ナデ 外: +ナデ	内: Huc 25Y4-1 外: Huc 10YR5-3	V10区4層+1f	直縞 口縁部内面に剥離文 口縁部外側に剥離文(横文1条)、 剥離文(手形1条)	
	315	陶文土器	鉢?	口径 底径 器高	胴部片	内: +ナデ、剥き 外: +ナデ	内: Huc 25Y4-1 外: Huc 10YR6-3	V10区4層+1f	直縞 剥離文(手形1条)
316	316	陶文土器	鉢?	口径 底径 器高	口縁部片	内: +ナデ、剥き、条痕 外: +ナデ、剥き	内: Huc 10YR5-3 外: Huc 10YR5-4	V10区4層+1f	直縞 剥離文(手形1条)
	317	陶文土器	浅鉢	口径 底径 器高5.4	口縁部片	内: +ナデ、剥き 外: +ナデ、剥き	内: Huc 10YR5-4 外: Huc 10YR4-6	V10区5層点上 1f	直縞 口縁部外側に沈文文(横文2条) 口縁部外側に沈文文(手形1条) 口縁部外側に剥離文
318	318	陶文土器	浅鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内: 剥き 外: +ナデ、剥き	内: Huc 25Y7-3 外: Huc 25Y6-2	V21区4層+1f	直縞 口縁部外側に沈文文(横文1条)

団	番号	遺物	種類(器種)	法量(cm)	現存量	特徴	色調	出土遺構	備考
57	319	陶文土器	杯	口径 底径 器高	口縁部分	内: 帽き 外: 刷毛、条痕	内: Hue 10YR5/3 外: Hue 10YR5/4	V9区古代遺構 理土一括	X相
	320	陶文土器	杯	口径 底径 器高	口縁部分	内: 帽き 外: 刷毛	内: Hue 23Y5/2 外: Hue 23Y3/3	V9区4層一括	X相
	321	陶文土器	深鉢	口径 底径 器高	底部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 23Y6/3 外: Hue 10YR7/3	V20区4層一括	脚部内面に貝加工による痕(ナ デ)、底部内面調整
	322	石器	核器?	長 5.195 幅 3.8 厚 2.06	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	V32区複数	重量1.2g 黒曜岩 表面刃部に細かい消磨調整 表面に敲打調整後焼加工痕
	323	石器	核器?	長 5.33 幅 2.65 厚 2.08	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	V4-1区近代遺 構理土一括	重量5.4g チャート 全体の調整が無い。
	324	石器	核器?	長 5.80 幅 2.85 厚 2.15	完形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	V4-1区複数	重量6.6g 安山岩 表面に細かい消磨調整
	325	陶文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部分	内: 帽き 外: 帽き、ナデ	内: Hue 10YR7/3 外: Hue 10YR7/3	II-4区3層一括	遺物 口縁部外面に沈文(横位4剣)
	326	陶文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部分	内: ナデ?	内: Hue 10YR7/2 外: Hue 10YR7/2	V12区4層一括	遺物 口縁部外面に沈文(横位2剣)
	327	陶文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部分	内: 帽き 外: 帽き	内: Hue 10YR6/2 外: Hue 10YR6/2	I-23区4層一括	遺物 口縁部外面に沈文(横位2剣)
	328	陶文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部分	内: ナデ 外: 帽き	内: Hue 23Y6/3 外: Hue 23Y6/2	III-4区3層一括	遺物 口縁部外面に沈文(横位2剣)
	329	陶文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部分	内: 帽き 外: 帽き	内: Hue 10YR7/3 外: Hue 10YR7/3	I-26区4層一括	遺物 口縁部外面に沈文(横位2剣)
	330	陶文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部分	内: ナデ、刷毛 外: ナデ、刷毛	内: Hue 10YR7/3 外: Hue 10YR7/3	I-18区4層一括	遺物 口縁部外面に沈文(横位)
	331	陶文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部分	内: 帽き 外: 帽き	内: Hue 10YR7/3 外: Hue 10YR7/3	II-19区4層一括	遺物 口縁部外面に沈文(横位1剣)
	332	陶文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内: 丁寧なナデ 外: 帽き	内: Hue 23Y4/1 外: Hue 23Y3/1	III-6区3層一括 黒色外被	分類不明 胴部外面に沈文(横位)
	333	陶文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR5/2 外: Hue 7.5YR6-2	V-14区7層上 南場式か?	遺物 胴部外面に沈文による微細文
	334	陶文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内: 帽き 外: 帽き	内: Hue 7.5YR6-3 外: Hue 10YR5/2	III-3区古代遺構 理土一括	遺物 口縁部外面に沈文(横位1剣)
	335	陶文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内: 帽き 外: 帽き	内: Hue 10YR5/2 外: Hue 4-0	V-3-2区N層一括	分類不明 胴部外面に沈文(横位) 黒色外被
	336	陶文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内: ナデ?	内: Hue 7.5YR2/2	III-6区5b層点 E17	分類不明 胴部外面に沈殿物(横位), 表面摩 耗
	337	陶文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内: 帽き 外: 帽き	内: Hue 10YR3/1 外: Hue 10YR3/2	I-20区4層上 I-17	分類不明 胴部外面に沈文(横位2剣), 文 様区内に焼文(LD)
	338	陶文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 3-0 外: Hue 23Y4-1	I-14区7層上 I-17	分類不明 焼成後穿孔1
	339	陶文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR4/2 外: Hue 10YR4/2	I-37区5b層点 E17, 一括 E17	分類不明 焼成後穿孔1
	340	陶文土器	深鉢	口径 底径 器高	胴部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR5/2 外: Hue 10YR4/2	I-37区5a層点 E17	分類不明 焼成後穿孔1
	341	陶文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部分	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR6/3 外: Hue 23YR6/4	I-37区5b層点 E17	I-a相 口縁部外側付近に沈文(横位・ 斜位)
	342	陶文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部分	内: 帽き 外: ナデ?	内: Hue 10YR4/1 外: Hue 10YR4/2	V-11区7層上 I-17	分類不明 口縁部外面に沈文(横位)
	343	陶文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部分	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR4/2 外: Hue 10YR5/3	V-14区7層一括	分類不明 口縁部外面に刻文(横位)
	344	陶文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部分	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 23Y4/1 外: Hue 23YR4/3	I-a相	口縁部外側付近に沈文(斜位)
	345	陶文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部分	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 7.5YR5/3 外: Hue 7.5YR4/3	III-2区7層	I-a相 口縁部外側付近に沈文(斜位) とその下間に刻文
	346	陶文土器	深鉢	口径 底径 器高	口縁部分	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 7.5YR5/3 外: Hue 7.5YR5/3	I-1区古代遺構 理土上げ	I-a相 口縁部外面に沈文(斜位)

1. (黒髪) ライフライン再生(給水設備等) 工事に伴う発掘調査(1310調査地点)

図	番号	遺物	種類(器種)	法面(cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
347		陶文土器	鉢?	口徑 底径 高さ	側面部 内: 磁器 外: 磁器	内: Hse 10Y103/2 外: Hse 10Y103/10	II35区V-a層	分類不明 頭部に沈漫文と模文	
348		陶文土器	深鉢	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hse 10Y105/4 外: Hse 10Y105/3	II1区6a層 埋土一括	分類不明 口縁部分に沈漫文と模文	
349		陶文土器	深鉢	不明	内: 磁器 外: 磁器	内: Hse 25Y106/2 外: Hse 25Y106/3	V11区7層点上 1f	分類不明 頭部の沈漫文とその凸部への刻目文	
350		陶文土器	深鉢	不明	内: 磁器 外: 磁器	内: Hse 25Y106/2 外: Hse 25Y106/3	V11区7層点上 1f	分類不明 頭部の沈漫文とその凸部への刻目文	
351		陶文土器	深鉢	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hse 10Y108/2 外: Hse 10Y108/3	V11区7層点上 1f	Ⅱ類、波状1條 口縁部、波状部内面に斜方文 138外縁に刻目文帶文(横位1条)	
352		陶文土器	深鉢	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hse 10Y103/1 外: Hse 10Y103/1	II1区5b層点 上1f	Ⅱ類 口縁部外縁に刻文、刻目文帶文(横位1条)	
353		陶文土器	深鉢	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hse 25Y106/1 外: Hse 3Y105/3	V14区7層点上 1f	Ⅱ類 外縁に刻目文帶文(横位1条)	
354		陶文土器	深鉢	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hse 10Y105/3 外: Hse 25Y105/3	II1区5b層点 上1f	Ⅱ類 外縁に沈漫文(横位1条)と刻目文帶文(横位1条)	
355		陶文土器	深鉢	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hse 10Y105/3 外: Hse 10Y105/3	II1区5b層点 上1f	Ⅱ類 外縁に刻目文帶文(横位1条)	
356		陶文土器	深鉢	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hse 25Y106/4 外: Hse 25Y106/3	II32区古道場 埋土一括	Ⅱ類 口縁部外縁に刻文文、刻目文帶文(横位1条)	
357		陶文土器	深鉢	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hse 25Y106/4 外: Hse 25Y106/3	V14区7層点上 1f	1b類またはⅡ類 口縁部外縁に刻文文(横位2条)	
358		陶文土器	深鉢	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hse 10Y104/1 外: Hse 10Y105/3	II1区5b層 1f	1b類またはⅡ類 口縁部と口縁部外縁に刻文文	
359		陶文土器	深鉢	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hse 10Y104/1 外: Hse 25Y103/1	V11区7層点上 1f	1b類またはⅡ類 口縁部外縁に刻文文(横位2条)	
360		陶文土器	深鉢	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hse 25Y104/1 外: Hse 25Y104/1	II1区古道場 埋土一括	1b類またはⅡ類 口縁部外縁に刻文文(横位1条)	
361		陶文土器	深鉢	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hse 10Y105/3 外: Hse 10Y105/2	V14区7層点上 1f	1b類またはⅡ類 口縁部外縁に刻文文(横位2条)	
362		陶文土器	深鉢	口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hse 25Y104/3 外: Hse 10Y104/1	V14区5b層点 上1f	Ⅲ類か 口縁部内面に刻文文、口縁部外縁に刻文文	
363		陶文土器	深鉢	側面部	内: 磁器 外: 模文	内: Hse 7.5Y107/2 外: Hse 10Y107/2	II1区5b層点 上1f	Ⅲ類か 外縁に模文(L.E.)	
364		陶文土器	深鉢	側面部	内: 磁器 外: 模文	内: Hse 10Y106/2 外: Hse 10Y106/2	II1区5a層点 上1f	Ⅲ類か 外縁に模文(L.E.)	
365		陶文土器	深鉢	側面部	内: ナデ 外: 磁器、模文	内: Hse 10Y105/3 外: Hse 10Y105/3	II1区5b層点 上1f	Ⅲ類か 外縁に沈漫文と模文(L.E.)	
366		陶文土器	深鉢	側面部	内: ナデ 外: 模文	内: Hse 10Y104/1 外: Hse 10Y104/1	II32区5a層点 上1f	Ⅲ類か 外縁に曲線の沈漫文と模文(L.E.)	
367		石 器	剥片	鐵片	内: 外:	内 Hse 外 Hse	II1区5b層点 上1f	重量0.7g 黒曜石 自然面あり	
368		石 器	剥片	鐵片	内: 外:	内 Hse 外 Hse	V14区7層点上 1f	重量2.5g 黑曜石 自然面あり	
369		石 器	剥片	鐵片	内: 外:	内 Hse 外 Hse	II1区5b層点 上1f	重量1.5g 黑曜石	
370		石 器	剥片	鐵片	内: 外:	内 Hse 外 Hse	II32区5b層点 上1f	重量0.6g 黑曜石 自然面あり	
371		石 器	石核?	鐵片	内: 外:	内 Hse 外 Hse	V14区7層点上 1f	重量6.1g 黑曜石 自然面あり	
372		石 器	剥片	鐵片	内: 外:	内 Hse 外 Hse	II1区5b層点 上1f	重量8.8g 黑曜石 自然面あり	

熊本市黒髪町遺跡群1310調査地点出土の縄文人骨

松下真実*・松下孝幸**

【キーワード】：熊本県、縄文後期人骨、土坑墓、配石墓、抜歯、きゃしゃ、保存不良

はじめに

熊本県熊本市中央区黒髪二丁目に所在する黒髪町遺跡群1310調査地点の発掘調査が黒髪南地区ライフライン再生工事に伴って2014（平成26）年に実施され、V-11区から縄文時代後期の人骨が2体出土した。

熊本県内の縄文人骨の出土例としては、轟貝塚（鈴木、1918）をはじめとして、阿高貝塚（岡本、1929、田舎、1930、大森・他、1957、大森、1960）、御領貝塚（金闇・他、1955）、かきわら貝塚（松野・他、1967）、沖の原遺跡（内藤、1973）、天岩戸

岩陰遺跡（内藤・他、1978）、七ツ江カキワラ貝塚（松下・他、1986）、高橋貝塚の例などがあるが、熊本市内からの縄文人骨の出土はきわめて珍しく、本例の他には託麻弓削遺跡（松下・他、2018）から出土した縄文人骨があるぐらいである。

今回の発掘調査で検出された縄文人骨は2体のみで、遺存状態はあまりよくないが、現地で人骨の検出をおこない、出土状態や埋葬姿勢などを観察することができた。また計測ができた骨については周辺の縄文人骨との比較検討をおこなったので、その結果を報告したい。



図72 調査区遠景（南西より）

資料

今回の発掘調査で土坑墓と配石墓がそれぞれ1基ずつ検出され、それぞれの構造からほぼ埋葬状態を保った人骨が出土した。2体のうち1体は男性骨、残りの1体は女性骨とともに成人骨である（表1.2）。2体とも歯の咬耗が弱い。歯の咬耗程度は、食糧資源の種類やその加工方法によって大きな影響を受けるので、咬耗状態から年齢を推測することはかなり危険であるが、縄文人の場合は壮年であっても歯の咬耗がかなり強いということから推測すれば、この2体の年齢はともに壮年の可能性が高い。年齢区分を表3に示した。

この2体の人骨は、考古学的所見より、縄文時代後期前葉（出水式～御手洗A式古段階）に属する人骨である。ちなみに炭化物の炭素年代としては 3690 ± 30 BPの値が得られている。

計測方法は、Martin-Saller（1957）によった。

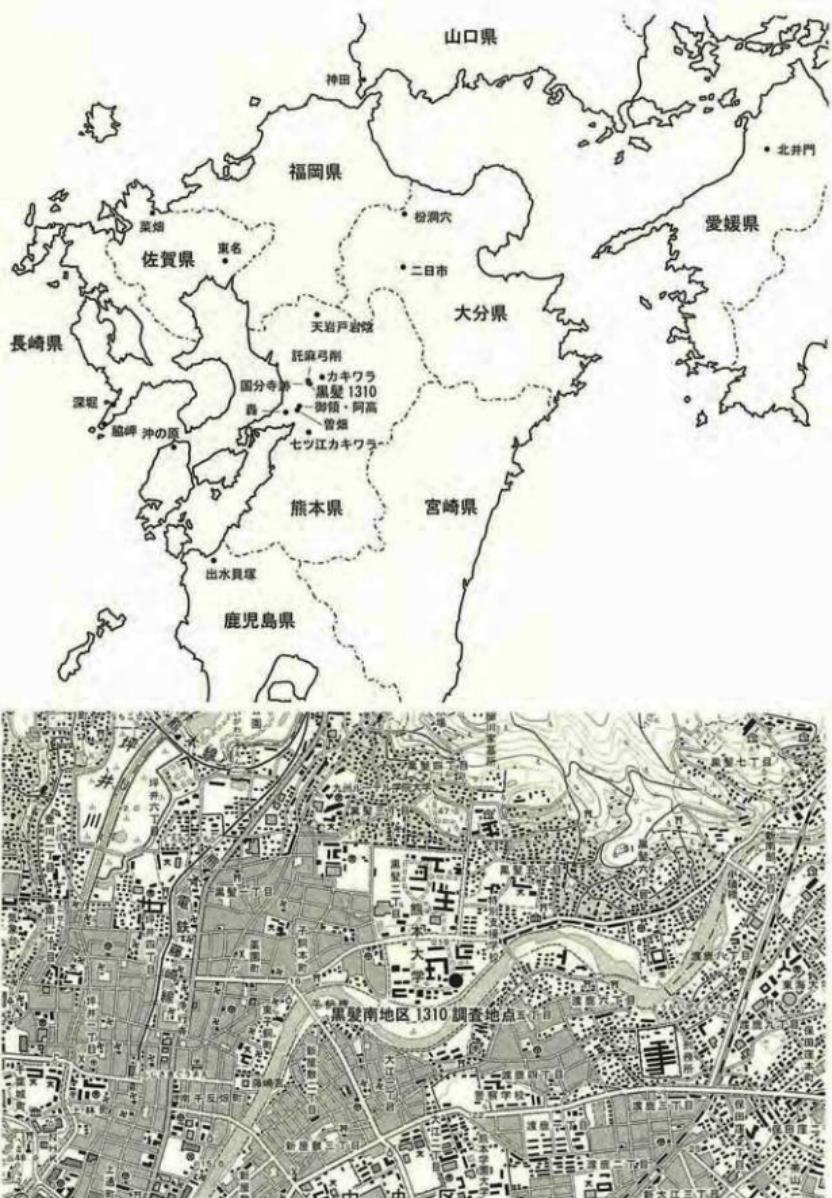


図73 遺跡の位置 (1/25,000)
(Fig. 73 Location of the Kurokami sites, Kumamoto City, Kumamoto Prefecture)

表5 資料数 (Table 5. Number of materials)

成 人			幼 小 児	合 計
男 性	女 性	不 明		
1	1	0	0	2

表6 出土人骨一覧 (Table 6. List of skeletons)

人骨番号	性別	年齢	備考 (頭位、埋葬姿勢)
ST01	男性	壮年	西頭位、仰臥
ST02	女性	壮年	西頭位、仰臥、配石墓

表7 年齢区分 (Table 7. Division of age)

	年齢区分	年 齡
未 成 人	乳児	1歳未満
	幼児	1歳～5歳（第一大臼歯萌出直前まで）
	小児	6歳～15歳（第一大臼歯萌出から第二大臼歯根完成まで）
	成年	16歳～20歳（蝶後頭軟骨結合癒合まで）
成 人	壮年	21歳～39歳（40歳未満）
	熟年	40歳～59歳（60歳未満）
	老年	60歳以上

注) 成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書（1996）を参照されたい。

所 見

I 人骨の検出状況と埋葬姿勢

ST01 (男性・壮年)

埋葬構造は土坑墓。頭部付近から複数の円環が検出されていることや、本構造の北側から配石墓が出土していることから(ST02)、本埋葬構造も配石を伴っていた可能性もある。墓坑の平面プランは楕円形。埋葬姿勢は仰臥で、頭位はほぼ西である。左側の肘関節と膝関節は約90度に曲げられており、屈筋状態である。



図74 ST01人骨出土状況写真（南より）

人骨の遺存状態はあまりよくない。残存していたのは脳頭蓋の一部、下顎骨、両側の上腕骨と前腕の骨、両側の大腿骨、左側の下腿の骨および第二頸椎の歯突起と頸椎の椎体のごく一部のみである。

頭蓋と左側の上肢骨および左側の下肢骨は埋葬状態を保った状態で検出された。右側の前腕の骨は右側大腿骨の外側から検出されたが、この位置は解剖学的にみて正常な位置ではない。右側大腿骨の位置も埋葬状態を保っておらず、右側の下腿の骨（脛骨、腓骨、足の骨）は残存していない。このような人骨の出土状況から、右側の前腕部と右側の下肢は搅乱を受けたと思われる。また、頭蓋も下顎骨と後頭部を残し、それ以外は飛ばされてしまったようである。

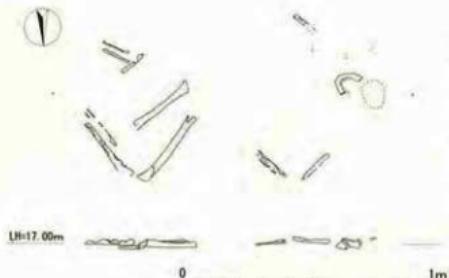


図75 ST01人骨実測図 (S=1/20)

されたようである。

頭蓋は頭蓋底と後頭骨の一部および下顎骨が残存していた。頭蓋底の遺存状態はかなり悪く、骨粉状態であるが、後頭骨の一部と下顎骨の保存状態はきわめて良好である。頭蓋底の下から第二頸椎の歯突起が検出され、また下顎骨の下層には頸椎体の一部が痕跡的に残存していた。

上腕骨は両側の骨体が残存していたが、保存状態はきわめて悪い。大腿骨も両側の骨体が残存していた。前面はかなり傷んでいたが、後面の保存状態は良好である。左側の脛骨と腓骨の保存状態はきわめて悪く、両者とも骨体の一部が残存していたにすぎない。

ST02 (女性・壮年)



図76 ST02人骨出土状況写真 (南東より)

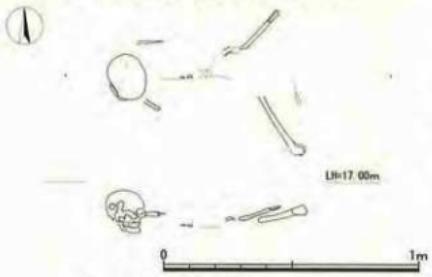


図77 ST02人骨実測図 (S=1/20)

下顎骨は硬くしまった厚い砂層直下から検出されており、保存状態はきわめて良好で、下顎骨には歯も釘植していたが、左側下顎底には破損跡が認められ、頭蓋は頭蓋底と後頭骨の一部を残して飛ばされており、上顎の歯は散乱状態で検出された。下顎骨と残存している頭蓋の一部の検出状態から、頭蓋は原位置を保っていると思われる。

人骨の検出状態から推測すれば、本人骨は縄文時代後期のある時期に、頭蓋の大部分と右側上肢の一部および右側下肢を搅乱

埋葬遺構は土坑墓（配石墓）。墓坑の平面プランは楕円形で、土坑のヘリに多数の礫を配置している。

埋葬姿勢は仰臥で、頭位はほぼ西である。右側の膝関節は強く曲げられ屈筋状態で、大腿部は開脚状態（股を広げた状態）である。左側の膝関節の様態は、脛骨と腓骨が残存していないので、不明である。前腕の骨は両側とも残存していないので、肘関節の様態は不明である。

人骨の遺存状態はあまりよくない。残存していたのは頭蓋（下顎骨を含む）、両側の鎖骨、両側の上腕骨、両側の大腿骨と右側の脛骨、両側の寛骨、腰椎体である。寛骨と腰椎体はほとんど痕跡的で、現場で存在を確認できたにすぎない。両側の前腕の骨と左側の下腿の骨は残存していなかった。

人骨はほぼ埋葬状態を保った状態で検出された。頭蓋も本来の位置に存在する。左側の上腕骨は近位部が高く遠位部が低く、

骨体が傾斜した状態で検出されている。頭蓋は顔を右側へ捻って、顔は右（東）方向を向いており、しかも頭蓋底は上腕骨の位置よりもかなり下位に位置している。頭蓋底が上腕骨の高さよりもかなり下位に存在すること、顔を右側へ大きく捻っていることは、本来の埋葬状態を示していないようになるが、頸関節は正常に関節した状態で、上下の歯がかみ合っており、頭蓋はあたかも据えられたような状態を示している。おそらく埋葬時に、頭の下を深く掘って、その穴に草を詰めて枕とし、顔を立てた状態にして、埋葬したと思われる。埋葬後、植物質の枕は腐朽し、頭蓋が沈下したものと考えられる。

II 人骨の形質

各人骨の残存部は図2に示すとおりである（ただし、取り上げが可能だった骨のみ）。また、各骨の計測値は文末に一括して掲げた。

ST01 (男性・壮年)

1. 頭蓋

搅乱を受けた影響で、頭蓋の遺存状態はきわめて悪い。後頭骨の外後頭隆起部周辺の他に脳頭蓋の一部が残存しているにすぎない。外後頭隆起の発達はきわめて良好で、著しく突出している。頭蓋壁はかなり薄い。

下顎骨は、左側の下顎枝を、右側は下顎枝の一部を欠損しているが、保存状態は比較的良好で、やや頑丈である。下顎体はやや高く、オトガイ隆起およびオトガイ結節の発達はきわめて良好である。右側下顎枝の下顎底に近い部分は窪んでおり、咬筋の発達がうかがえる。

2. 歯

下顎骨には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

/	7	6	5	/	/	/	1		/	/	3	4	5	6	7	/
8	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8

【/：不明（破損）】

(1) 中切歯、2: 楊切歯、3: 大歯、4: 第一小臼歯、5: 第二小臼歯、6: 第一大臼歯、7: 第二大臼歯、8: 第三大臼歯)

咬耗度はBrocaの1度（咬耗がエナメル質のみ）～2度（咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ）で、繩文人としては咬耗が弱い。下顎には風習的抜歯は認められない。また、歯の咬合形式は不明である。

3. 四肢骨

(1) 上肢骨

上腕骨、前腕の骨が残存していた。

① 上腕骨

右側上腕骨は遺存状態が悪く、残存していたのは骨片のみである。左側の保存状態も悪く、骨体の遠位半分が残存していたにすぎない。三角筋粗面の様態は不明であるが、骨体遠位部は丸く、骨体は細い。

② 前腕の骨

両側の桡骨と尺骨が残存していたが、遺存状態はともに著しく悪く、ほとんど取り上げることができず、取り上げることができたのは骨体の一部にすぎない。

(2) 下肢骨

大腿骨、脛骨、腓骨が残存していた。

① 大腿骨

両側の骨体が残存していたが、右側骨体は前面のみが残存しており、遺存状態は悪い。左側骨体は



図78 ST01人骨残存部

髓腔内に土が充填していたので形状が保たれており、保存状態は比較的良好である。緻密質は薄い。長さは短く、骨体はやや大きい。粗線は不明瞭で発達も弱いが、骨体両側面の後方への発達は比較的良好で、骨体上部の扁平性は弱い。

計測値は、骨体中央周が87mm（左）で、径はやや大きい。骨体中央矢状径は28mm（左）、中央横径が25mm、（左）で、骨体中央断面示数は112.00（左）となり、示数値は大きく、粗線は不明瞭でその発達は弱いが、骨体両側面の後方への発達は良好である。また、上骨体断面示数は83.87（左）となり、骨体上部の扁平性は弱い。

②腰骨

左側骨体が残存していたが、遺存状態は悪い。骨間縫の一部が観察できたが、その発達は弱い。

③腓骨

左側骨体の遠位部が残存していた。稜線は鋭いが、径は小さい。

4. 性別・年齢

性別は、外後頭隆起の発達が良好で、大腿骨体の径も大きいことから男性と推定した。縄文人は壮年であっても咬耗が強いのが普通であることから推測すれば、本例は咬耗が弱いので、壮年と考えても大過ないものと思われる。

ST02（女性・壮年）

1. 頭蓋

（1）脳頭蓋

保存状態は悪い。頭蓋腔に充填している土によって、かろうじて形状が保たれている。頭蓋の径は小さく、前頭鱗は膨隆しており、乳様突起はやや大きい。外耳道は両側とも観察できなかった。縫合は、矢状縫合とラムダ縫合の外板のみが観察できた。外板は矢状縫合、ラムダ縫合とも開離している。多少脳頭蓋は変形しているが、頭型を知るために頭蓋最大長と頭蓋最大幅を計測してみた。頭蓋最大長は（171）mm、頭蓋最大幅は（142）mmで、頭蓋長幅示数は（83.04）となり、頭型は短頭型である。

（2）顔面頭蓋

顔面頭蓋も土の充填により辛うじて形をとどめているが、土圧により上下方向に変形している（潰れている）。眉上弓の隆起はほとんどみられない。鼻骨は小さい。頬骨も小さく、顔面はかなり小さい。また、上顎骨もそれほど頑丈ではない。

下顎骨の保存状態は比較的良好である。下顎切痕は浅く、下顎枝はやや広い。下顎体は低く、咬筋粗面の発達は悪い。

2. 歯

上下両顎には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

8	7	6	5	4	③	②	①		①	②	③	4	5	6	7	⑥
---	---	---	---	---	---	---	---	--	---	---	---	---	---	---	---	---

8	⑦	6	5	4	3	②	①		①	2	3	4	5	6	7	/
---	---	---	---	---	---	---	---	--	---	---	---	---	---	---	---	---

（1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小白歯、5：第二小白歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯）

咬耗度は Broca の 1 度（咬耗がエナメル質のみ）で、咬耗は弱い。上顎の左側側切歯の歯槽は閉鎖しており、風習的抜歯の可能性が強い。歯の咬合形式は不明である。

3. 四肢骨

鎖骨、上腕骨、大腿骨が残存していた。

(1) 上肢骨

①鎖骨

両側が残存していたが、遺存状態はきわめて悪い。左側の観察ができたが、鎖骨は細くて、小さい。

②上腕骨

左側骨体の中央部付近が残存していたが、保存状態は著しく悪い。骨体は著しく細い。三角筋粗面の様態は観察できない。

計測値は、中央周が 55mm（左）で、骨体は著しく細い。中央最大径は 18mm（左）、中央最小径が 15mm（左）で、骨体断面示数は 83.33（左）となり、骨体中央部には扁平性は認められないが、遠位部は扁平である。

(2) 下肢骨

①大腿骨

両側の骨体が残存していた。長さは短く、骨体は著しく細い。粗線は中央部ではやや明瞭であるが、両端は不明瞭である。骨体両側面の後方への発達はやや良好である。右側骨体上部は扁平で、骨体近位部が外側へ大きく捻転している。

計測値は、骨体中央周は 67mm（右）、68mm（左）で、骨体は著しく細い。骨体中央矢状径は 22mm（右）、(21) mm（左）、中央横径は 19mm（右）、21mm（左）、骨体中央断面示数は 115.79（右）、100.00（左）となり、粗線の発達は強くはないが、右側は骨体両側面の後方への発達がやや良好である。また、上骨体断面示数は 78.26（右）、83.33（左）となり、右側の骨体上部には扁平性がみられる。

4. 性別・年齢

性別は、前頭鱗が膨隆し、眉上弓の隆起もみられないことや、四肢骨が著しく小さいことから女性と推定した。観察できた矢状縫合とラムダ縫合の外板が開離していることや、ST01の場合と同じように咬耗がかなり弱いことから、年齢を壮年としても差し支えないと思われる。



図79 ST02人骨残存部

考 察

計測ができた上腕骨と大腿骨について、熊本県内および周辺地域の縄文人骨の資料と比較してみた。

1. 上腕骨

表4は女性上腕骨の比較表である。ST02の中央周は 55mm（左）で、表4では最小値となり、出水の 56mm、天岩戸の 57mm に最も近く、骨体は極めて細い。骨体断面示数は 83.33（左）で、表4では最大値となり、骨体には扁平性は認められない。

2. 大腿骨

表5は男性大腿骨の比較表である。ST01の骨体中央周は 87mm（左）で、脇岬の 90.50mm、宮の本の 90mm、吉胡の 89.8mm よりは小さいが、出水の 79mm や白浜の 80mm よりは大きく、津雲の 86.8mm と大差なく、男性の大腿骨体の径はやや大きい。中央断面示数は 112.00（左）で、堂崎と同

値で、阿高の117.58、吉胡の116.7、脇岬の115.17、津雲の114.6に次いで大きく、粗線の発達こそ悪いが、骨体両側面の後方への発達は良好である。

表6は女性大腿骨の比較表である。ST02の骨体中央周は67mm（右）で、表6では最小値となり、女性の大腿骨は極めて小さい。中央断面示数は115.79（右）で、天岩戸の119.05、出水の116.67に次いで大きく、男性同様、粗線の発達は悪いが、骨体両側面の後方への発達は良好である。

3. 黒髪縄文人骨の評価

縄文人には弥生人とは違って、形質的な地域差が存在しない。北海道の縄文人も本州・四国・九州や沖縄の縄文人もまったく同じ形質を示している。骨質の堅牢さは共通しており、一样に鼻骨が隆起し鼻根部には陥凹がみられ、ホリの深い容貌を呈している。しかし、質的には同じ特徴をもってはいるが、サイズには違いが見られる。大柄な縄文人もいれば小柄な縄文人も存在する。黒髪縄文人の四肢骨は、男性はそれほど細くはないが、女性の上腕骨と大腿骨はきわめて細く、きゃしゃである。すなわち男性の大腿骨の大きさは岡山県の津雲と大差なく、また同じ熊本県の御領や阿高と同じ程度と考えて大過ないものと思われる。一方、女性の上腕骨と大腿骨は著しく細い。九州内でみると、上腕骨は出水や天岩戸と同じように細く、大腿骨も天岩戸と同じように細く、きゃしゃである。大腿骨の柱状性については、男女とも粗線の発達は弱いものの、骨体両側面は後方へ延伸しており、大腿部の筋の発達がかなり良好だったことがうかがえる。食料資源確保のための運動形態は男女ともに変わらなかったようであるが、骨の大きさには大きな違いが見られる。2体とも歯の咬耗が弱いことから、食料資源の質に違いはなかったと考えられる。女性の方がきゃしゃなのは健康状態の違いが原因なのか、それとも遺伝的な要因によるものかはわからない。男女間の差が大きい現象は、縄文人の場合はよくみられることではあるが、本例はその程度が顕著である。

要 約

熊本市中央区黒髪二丁目に所在する黒髪遺跡群1310地点の発掘調査が2014（平成26）年におこなわれ、2基の埋葬遺構から縄文時代後期の人骨が2体出土した。保存状態はあまりよくなかったが、人類学的観察や計測をおこない、以下の結果を得た。

1. 土坑墓（ST01）からは男性骨が、配石墓（ST02）からは女性骨が検出された。埋葬姿勢は2体とも仰臥で、頭位はともにほぼ西であった。年齢はともに壮年と考えられる。
2. この2体の人骨は、考古学的所見から、縄文時代後期前葉に属する人骨である。
3. 男性頭蓋の遺存状態は悪く、頭型も顔面の特徴も不明である。女性頭蓋の保存状態も悪く、顔面の形態は不明であるが、頭型は短頭型である。
4. 女性には上顎左側切歯の風習的抜歯が認められる。
5. 男性大腿骨の骨体中央周は87mmで、大腿骨は比較的大きい。
6. 女性上腕骨の中央周は55mm、大腿骨の骨体中央周は67mmで、女性四肢骨は極めて小さく、きゃしゃである。
7. 大腿骨の中央断面示数は、男性は112.00、女性は115.79で、男女ともに粗線の発達は弱いが、骨体両側面の後方への発達は良好で、柱状性がみられる。
8. 男性の大腿骨の大きさは熊本県内的一般的な縄文人なものであるが、女性は著しく小さく、きわめてきゃしゃである。大腿骨には男女ともに柱状性がみられることから、ともに大腿部の筋を酷使する生業形態がうかがえる。男女ともに歯の咬耗が弱いことから食糧資源が十分ではなかったことが予想される。女性の四肢骨は著しくきゃしゃであるが、この特徴は熊本県内の縄文人に共通

した特徴なのは、例数が少なく、考察できない。またその要因を明らかにするためには彼らの生活空間の解明も必要である。

謝辞

＜掲筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた熊本大学理藏文化財センターの皆様方に感謝致します。＞

＜参考文献＞

1. 金関丈夫・他、1952：熊本県下益城郡豊田村御領貝塚発掘人骨について（会）。福岡医学会雑誌、43：1032-1033.
2. 金関丈夫・他、1955：熊本県下益城郡豊田村御領貝塚発掘の人骨について。人類学研究、2：93-163.
3. 北条暉幸・他、1971：熊本県天草郡沖の原貝塚人骨とその遺物。人類学雑誌、79：70.
4. 松野 茂・他、1967：肥後国上益城郡嘉島村六嘉かきわら貝塚出土人骨について。熊本医学会雑誌、41：41-52.
5. Martin-Saller, 1957 : Lehrbuch der Anthropologie. Bd. I. Gustav Fisher Verlag. Stuttgart : 429-597.
6. 松下実真、2009：沖縄県糸満市摩文仁ハンタ原遺跡出土の縄文人骨。土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム研究紀 要第4号（沖縄県糸満市摩文仁ハンタ原遺跡発掘調査報告（1））：42-57.
7. 松下実真・他、2010：沖縄県糸満市摩文仁ハンタ原遺跡出土の縄文人骨（2）土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム 研究紀要第6号：28-49.
8. 松下実真・松下孝幸、2018：熊本市託麻弓削群第5区出土の縄文人骨。託麻弓削遺跡群2（熊本県文化財調査報告第331集）：195-204.
9. 松下孝幸・他、1983a：佐賀県唐津市菜畑遺跡出土の人骨。菜畑遺跡（唐津市文化財調査報告5）：388-398.
10. 松下孝幸・他、1986：熊本県小川町七ツ江カキワラ貝塚出土の縄文時代人骨。七ツ江カキワラ貝塚・竹の下貝塚（熊本県文化財調査報告第79集）：39-70.
11. 松下孝幸・他、2009：佐賀市東名遺跡出土の縄文早期人骨。東名遺跡群I 第4分冊（佐賀導水事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5）（佐賀市文化財調査報告書第150集）：16-23.
12. 松下孝幸・他、2016：東名遺跡出土の縄文早期人骨の特徴とその意義。東名遺跡群IV（東名遺跡群総括報告書）（佐賀市埋蔵文化財調査報告書第100集、東名遺跡再整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2）第1分冊【堆積層・遺構編】：101-114.
13. 松下孝幸、2016：東名遺跡出土人骨の特徴。東名遺跡群IV（東名遺跡群総括報告書）（佐賀市埋蔵文化財調査報告書第100集、東名遺跡再整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2）第4分冊【総括編】：63-65.
14. 松下孝幸、2017：骨からわかる東名縄文人の特徴。佐賀市教育委員会編『東名遺跡』：164-171. 雄山閣
15. 内藤芳篤、1973：沖の原遺跡の人骨。長崎大学解剖学第二教室。
16. 内藤芳篤、1974：天草・沖の原遺跡出土の人骨について（会）。解剖学雑誌、49：207.
17. 内藤芳篤・他、1978：天岩戸岩陰遺跡出土の人骨について。菊池川流域文化財調査報告書（熊本

- 県文化財調査報 告31) : 117-121.
18. 小方保、1981 : 縄文時代人骨。人類学講座5 日本人 I : 27-55. 雄山閣
 19. 岡本辰之輔、1929 : 肥後国下益城郡阿高貝塚人人骨の人類学的研究（頭蓋骨に就いて）第一報。人類学雑誌、44 (第一附録) : 1-26.
 20. 岡本辰之輔、1929 : 肥後国下益城郡阿高村西阿高貝塚人人骨の人類学的研究（其の二、四肢骨について）。人類学雑誌、44 (第三附録) : 77-105.
 21. 大森浅吉・他、1957 : 阿高貝塚人の下顎骨について。鹿児島医学会雑誌、30 : 408-421.
 22. 大森浅吉、1960 : 故南山大学教授中山英司博士により測定された阿高貝塚人骨の測定値。人類学研究、7 (附録) : 211-223.
 23. 大森浅吉・他、1960 : 薩摩国出水貝塚出土（昭和29年）の人骨について。鹿児島医学会雑誌、33 : 269-283.
 24. 鈴木文太郎、1918 : 肥後森貝塚河内道明寺にて発掘せる人骨に就いて。人類学雑誌。33 : 59-66.
 25. 田舎丈夫、1930 : 肥後国下益城郡阿高村西阿高貝塚人人骨の人類学的研究（其の三、骨盤骨に就いて）。人類学雑誌、45 : 425-433.

*Masami MATSUSHITA, **Takayuki MATSUSHITA

The Organization of Anthropological Research [特定非営利活動法人・人類学研究機構]

表8 上腕骨計測値(女性、右、mm) (Table. 8 Comparison of measurements and indices of female right humeri)

	黒髪1310 編文人 熊本県 熊本市 (金下)	御領 編文後期人 熊本県 熊本市 (金下)	同高 編文中期人 熊本県 熊本市 (大差)	カキワラ 編文後期人 熊本県 宇城市 (金下・他)	天岩戸 編文後期人 熊本県 山鹿市 (伊藤)	出水 編文中期人 熊本県 出水市 (大森・他)	津露 編文後期人 園山県 笠岡市 (津野・他)	吉胡 編文人 愛知県 田原市 (金高)
	n S102	n 1	n M	n M	n M	n M	n M	n M
1. 上腕骨長	-	-	2	267.5	-	283	1	237 (左)
5. 中央最大径	18	-	7	21.29	22 (左)	20	2	20.00 (左)
6. 中央最小径	15	19	7	16.43	17 (左)	14	2	14.00 (左)
7. 骨体最小周	-	72	7	59.43	58 (左)	54	1	54 (左)
7 (a). 中央周	55	69	-	64 (左)	64 (左)	57	1	56 (左)
6/5 骨体断面示数	83.33	-	7	77.43	77.27 (左)	70.00	2	70.71 (左)
7/1 長厚示数	-	-	2	20.40	-	1	22.78 (左)	13 (左)
						1	20.5	17 (左)
								22.5 (左)

表9 大腿骨計測値(男性、右)、mm (Table. 9 Comparison of measurements and indices of male right femora)

	黒髪1310 編文人 熊本県 熊本市 (金下)	御領 編文後期人 熊本県 熊本市 (金下)	同高 編文中期人 熊本県 熊本市 (大差)	カキワラ 編文後期人 熊本県 宇城市 (金下・他)	天岩戸 編文後期人 熊本県 山鹿市 (伊藤)	出水 編文後期人 熊本県 出水市 (大森・他)	津露 編文後期人 園山県 笠岡市 (津野・他)	吉胡 編文人 愛知県 田原市 (金高)
	n S101	n M	n M	n M	n M	n M	n M	n M
1. 長大	-	1	433.0	3	417.33	-	2	434.50 (左)
4. 自由位軸子長	-	1	384.0	-	384.00 (左)	-	3	399.33 (左)
5. 体中央矢状径	28 (左)	2	27.50	15	20.07 (左)	2	21.00 (左)	13 (左)
6. 体中央横径	25 (左)	2	27.25	15	25.60 (左)	2	25.50 (左)	13 (左)
7. 体上横径	87 (左)	2	86.00	15	88.73 (左)	2	85.00 (左)	19 (左)
8. 体中央周	93 (左)	2	91.25	15	90.50 (左)	1	89.73 (左)	19 (左)
9. 体上横径	31 (左)	2	30.60	15	30.53 (左)	5	30.00 (左)	19 (左)
10. 体上矢径	26 (左)	2	30.60	15	25.53 (左)	2	23.50 (左)	19 (左)
8/2 骨体断面示数	-	1	28.5	3	25.87	-	21.18 (左)	19 (左)
6/7 骨体断面示数	112.00	2	100.9	15	117.58 (左)	2	105.93 (左)	11 (左)
10/9 骨体断面示数	83.87	2	72.7	15	83.79 (左)	5	76.59 (左)	11 (左)

表10 大腿骨計測値(女性、右、mm) (Table. 10 Comparison of measurements and indices of female right femora)

	黒髮1310 縄文人 熊本県 熊本市 (松下)		御文後期人 縄文人 熊本県 熊本市 (大森)		菅畠 縄文人 熊本県 熊本市 (松下・也)		カキワラ 縄文後期人 熊本県 熊本市 (松下・也)		天岩戸 縄文人 熊本県 熊本市 (内藤)		出水 縄文中期人 鹿児島県 出水市 (大森地)		山鹿 縄文人 福岡県 福岡市 (九州大学)		津嘗 縄文後期人 岡山県 笠岡市 (淡野・也)		吉井 縄文人 愛知県 田原市 (金高)	
	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
1. 長大長	-	-	5	391.8	-	-	-	-	-	-	3	394.7	16	382.9	18	384.8	-	-
4. 自然位筋子長	-	-	265	18	211.7	25	3	223	25	2	-	-	12	363.3	18	364.3	-	-
6. 骨体中央矢状径	22	1	245	18	234.4	24	3	23.00	21	2	24.00	6	24.0	26	25.0	6	26.2	24.4
7. 骨体中央矢横径	19	1	80.0	19	82.74	79	3	73.00	72	1	81	6	79.0	26	77.4	6	80.7	28.9
8. 骨体上端径	67	1	30.5	17	28.76	-	3	28.00	25	2	25.50	6	28.5	25	28.3	5	28.9	22.8
9. 骨体上端長	23	1	21.0	17	23.71	-	3	19.67	23	2	22.50	6	23.0	25	21.6	5	20.5	20.7
10. 骨体上矢状径	18	1	-	4	21.22	-	-	-	-	-	3	19.8	16	20.5	18	20.7	18	20.7
8/2 長厚示数	-	-	115.79	1	108.2	18	107.33	104.17	3	97.09	2	119.05	2	116.67	6	107.6	26	103.9
6/7 骨体中央矢断面示数	78.26	1	68.9	16	79.24	-	3	70.37	92.00	2	89.11	6	80.9	25	76.6	59	78.7	-
10/9 上骨体断面示数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表11 下顎骨(男性、mm、度)
(Mandibula)

黒髪1310 S101		黒髪1310 S102	
男性		女性	
65	下頬頭突起幅	-	1. 頸骨最大長(左)
65 (1)	下頬筋突起幅	-	2. a 骨脊弯曲高(左)
66	下頬角幅	-	2. b 上頸骨全長(右)
67	下頬下部幅	46	3. 上頸骨(左)
68	下頬長	-	3. 上頸骨(右)
68 (1)	下頬長	-	3. 大板子長(左)
69	オトガイ高	(32)	4. 自然位板子長(右)
69 (1)	下頬体高(左)	(34)	5. 中央長(左)
69 (2)	下頬体高(右)	(31)	6. 中央長(右)
70	枝高(左)	(25)	7. 下頸幅(右)
	枝高(右)	-	8. 中央長(左)
70 (1)	前枝高(左)	-	9. 中央長(右)
70 (2)	最小枝高(右)	-	10. 中央長(左)
70 (3)	下頬切痕高(右)	-	11. 中央長(右)
71 (1)	下頬切痕高(右)	-	12. 小頭幅(左)
71	枝幅(右)	-	13. 清潔深(左)
71 a.	最小枝幅(右)	-	14. 斜頭高幅(右)
79	下頬枝角(右)	-	15. 肝頭高深(左)
86/65	下頬幅示数	-	16. 頸肉直徑(右)
88/65	頸長示数	-	17. 頸肉(左)
88 (1)/65	帽長示数(右)	-	18. 頸肉直徑(左)
69 (2)/69	下頬高示数(右)	78:13	19. 頸肉直徑(左)
71/70	下頬枝示数(右)	-	20. 頸肉(右)
71 a/70 (2)	下頬枝示数(右)	-	21. 上頸幅(左)
70 (3)/71 (1)	下頬切痕示数(右)	-	22. 長厚示数(右)

表12 頸骨(mm)
(Clavicular)

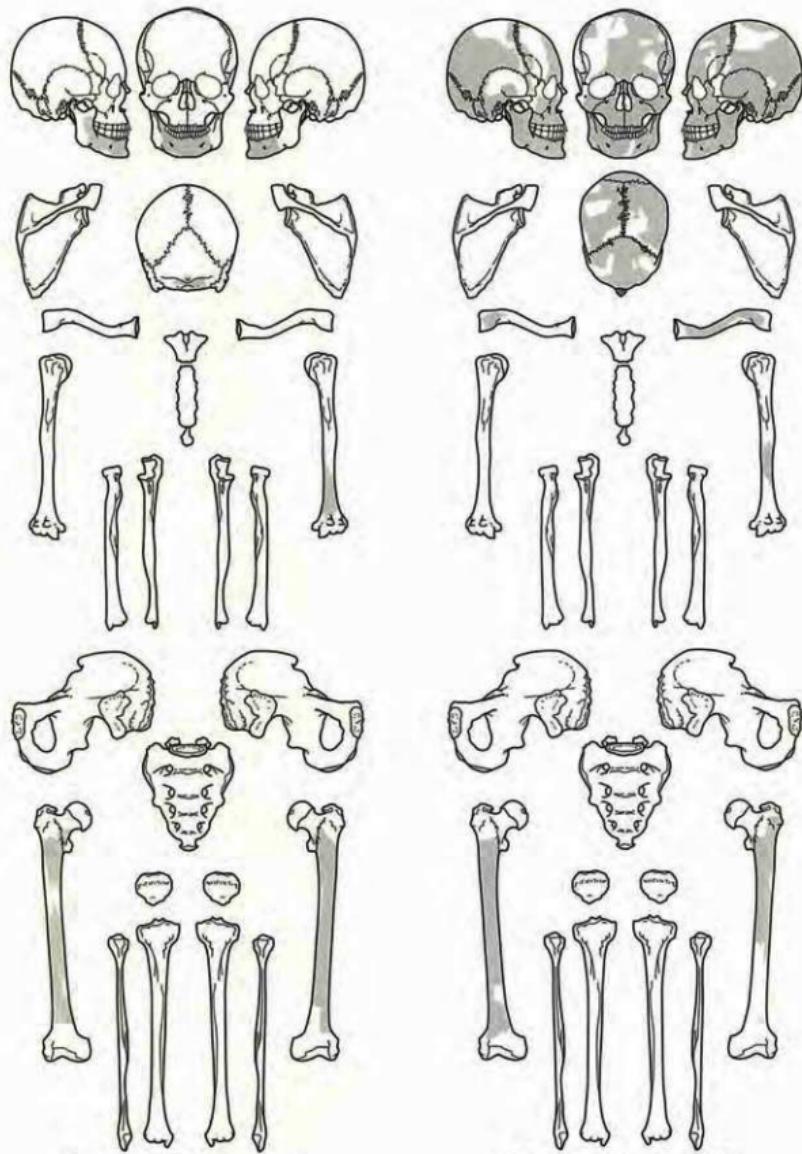
黒髪1310 S101		黒髪1310 S102	
1. 頸骨最大長(左)	-	1. 上頸骨長(左)	-
2. a 骨脊弯曲高(左)	-	2. 上頸骨全長(右)	-
2. b 上頸骨(左)	-	3. 上頸骨(右)	-
3. 上頸骨(左)	-	3. 大板子長(左)	-
3. 大板子長(右)	-	4. 自然位板子長(右)	-
4. 自然位板子長(左)	-	5. 骨体中央矢状径(左)	-
5. 中央長(左)	-	6. 骨体中央矢状径(右)	-
6. 中央長(右)	-	7. 骨体中央矢状径(左)	-
7. 下頸幅(右)	-	8. 骨体中央矢状径(右)	-
8. 中央長(左)	-	9. 骨体上側径(左)	-
9. 中央長(右)	-	10. 骨体上側径(右)	-
10. 中央長(左)	-	11. 中央長(右)	-
11. 中央長(右)	-	12. 小頭幅(左)	-
12. 小頭幅(右)	-	13. 清潔深(右)	-
13. 清潔深(左)	-	14. 斜頭高幅(右)	-
14. 斜頭高幅(左)	-	15. 肝頭高深(左)	-
15. 肝頭高深(右)	-	16. 頸肉直徑(右)	-
6/5 骨体断面示数(左)	-	7/7 骨体断面示数(左)	-
10/9 上骨体断面示数(左)	-	11/10 上骨体断面示数(右)	-
7/1 長骨示数(左)	-	12/13 長骨示数(右)	-
83.33	-	83.87	-

表13 上腕骨(mm)
(Humerus)

黒髪1310 S101		黒髪1310 S102	
1. 最大長(左)	-	1. 最大長(右)	-
2. 自然位全長(左)	-	2. 自然位全長(右)	-
3. 最大板子長(左)	-	3. 最大板子長(右)	-
4. 自然位板子長(右)	-	5. 中央矢状径(左)	-
5. 骨体中央矢状径(左)	-	6. 骨体中央矢状径(右)	-
6. 骨体中央矢状径(右)	-	7. 骨体中央矢状径(左)	-
7. 骨体中央矢状径(右)	-	8. 骨体中央矢状径(右)	-
8. 骨体上側徑(左)	-	9. 骨体上側徑(右)	-
9. 骨体上側徑(右)	-	10. 骨体上側徑(左)	-
10. 骨体上側徑(右)	-	11. 骨体中央矢状径(左)	-
11. 骨体中央矢状径(右)	-	12. 小頭幅(左)	-
12. 小頭幅(右)	-	13. 清潔深(左)	-
13. 清潔深(右)	-	14. 斜頭高幅(右)	-
14. 斜頭高幅(左)	-	15. 肝頭高深(左)	-
15. 肝頭高深(右)	-	16. 頸肉直徑(右)	-
6/5 骨体断面示数(左)	-	7/7 骨体断面示数(左)	-
10/9 上骨体断面示数(左)	-	11/10 上骨体断面示数(右)	-
7/1 長骨示数(左)	-	8/12 長厚示数(右)	-
83.33	-	83.87	-

表15 形態小変異

	黒髪1310		黒髪1310	
	ST01		ST02	
	男性	女性	男性	女性
1. Medial palatine canal	/	/	/	/
2. Pterygospinous foramen	/	/	/	/
3. Hypoglossal canal bridging	/	/	/	/
4. Clinoid bridging	/	/	/	/
5. Condylar canal absent	/	/	/	/
6. Tympanic dehiscence,Foramen of Huschke(>1mm)	/	/	/	/
7. Jugular foramen bridging	/	/	/	/
8. Precondylar tubercle	/	/	/	/
9. Supra-orbital foramen(incl.frontal foramen)	/	/	/	/
10. Accessory infraorbital foramen	/	/	/	-
11. Zygomatico-facial foramen absent	/	/	/	/
12. Aural exostosis	/	/	/	/
13. Metopism	/			-
14. Os incae	/			-
15. Ossicle at the lambda	/			-
16. Parietal notch bone	/	/	/	/
17. Transverse zygomatic suture(>5mm)	/	/	/	/
18. Asterionic ossicle	/	/	/	/
19. Occipitomastoid ossicle	/	/	/	/
20. Epipteric ossicle	/	/	/	/
21. Frontotemporal articulation	/	/	/	/
22. Biasterionic suture(>10mm)	/	/	/	/
23. Mylohyoid bridging	-	/	/	/
24. Accessory mental foramen	-	-	-	-
25. Mandibular torus	-	-	/	/
26. 滑車上孔	/	/	/	/



黒髪1310 ST01 (男性・壮年)

黒髪1310 ST02 (女性・壮年)

図80 人骨の残存部 (アミかけ部分)

(Fig. 80 Regions of preservation of the skeleton. Shaded areas are preserved.)



下顎骨 (The mandible)

図81 黒髪1310 ST01人骨 (男性・壮年)
(The skeleton ST01 from Kurokami 1310 site, young adult male)



左上腕骨 (The left humerus)



下肢骨 (Bones of the lower limb)

図B2 黒髪1310 ST01人骨 (男性・壮年)

(The skeleton ST01 from Kurokami 1310 site, young adult male)



頭蓋上面 (Superior view of the skull)



頭蓋正面 (Frontal view of the skull)

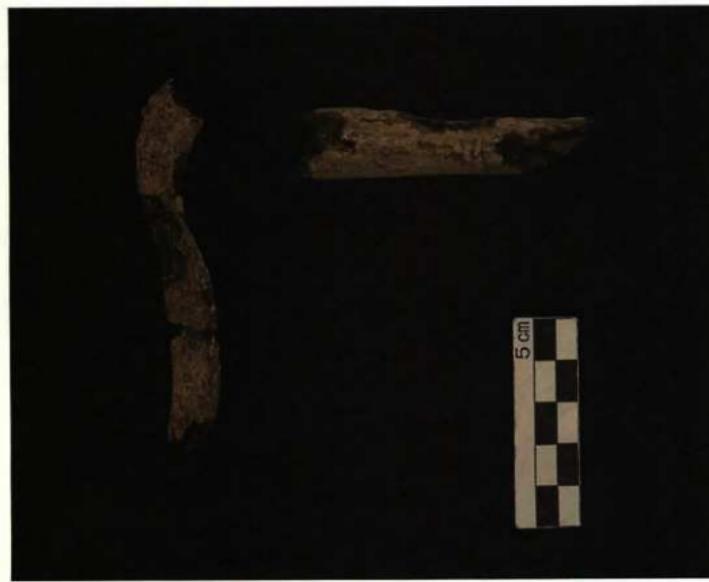


頭蓋側面 (Lateral view of the skull)

図83 黒髪1310 ST02人骨 (女性・壮年)
(The skeleton ST02 from Kurokami 1310 site, young adult female)



大腿骨 (The femur)



左側鎖骨、左側上腕骨 (The left clavicle, humerus)

図84 黒髪1310ST02人骨 (女性・壮年)
(The skeleton ST02 from Kurokami 1310 site, young adult female)

Summary

In 1985, Kumamoto University planed a reconstruction of campus. But it was known that some of campus is designated as buried cultural assets zone. In the fiscal year 1994, Kumamoto University formed the Archaeological investigation committee and the Research Center for buried Cultural Properties in haste, and has been excavating the campus sites when the superannuated school buildings were rebuilt.

We have two main campus sites at other areas. The one is the Kurokami area where is constituted of faculty of Science and faculty of Engineering (south area), faculty of Education, faculty of Law, and faculty of Letters (north area) and locates in Kurokamimachi site. The site is located at the foot of Mt.Tatuta on a low terrace formed by the Shirakawa River. The site is regarded as an ancient posting-station "Kokai". The other one is the Honjo area where is constituted of School of Medicine, Kumamoto University hospital and institutes (north and middle area), school of Health Science (south area), and belong to Honjo site. The site located on a low terrace formed by Shirakawa River, similar to Kurokamimachi site. It is 2km from Kurokamimachi site to Honjo site in a straight line. In the circumstance of Honjo site, there are large ancient settlement sites like Oe site and Shinyashiki site. School of Pharmacy and Oe athletic field (Toroku area) belong to Oe site. Kyomachi area where is constituted Elementary School and Junior High School Attached to faculty of Education is belong to Kyomachidai site. The site is located on the Kyomachi plateau, and is famous for as the site of Yayoi period.

The result of the No.1310 in Kurokami South area where was investigated in the fiscal years 2013 to 2014 are published in this report. No.1310 is located west in Kurokami South area. The investigated area is surrounded by the building of department of Science. In a previous survey, we discovered the pit dwellings and ditch in Nara and Heian period. So we expected that there will be remains what is good condition in this investigation too. In this survey, in addition to discovering many features in Nara and Heian period, we have gained important research results such us finding the cultural layer of the late Jomon period from the layer which was conventionally thought not to have human ruins.

The result of investigation, we found the cultural layer what contained many artifacts such as pottery in Late Jomon period. From this site, Izumi type and Mitarai A type old stage pottery in the late Jomon period first stage and stone tools and baked clay objects were excavated. According to the accumulation situation of the artifacts, we thought that the village was built on the river terraces of Shirakawa river from a certain period in the late Jomon period. Many of the artifacts found in this survey were thought to have been disposed of around the village or inclined area close to the river. In the southeast of the investigation area, the burial which is outlined by stone alignments and a pit burial of the late Jomon period were discovered from about 2m below the surface of the earth. Human bones were one man and one woman, and were buried with their arms and legs bent. Since at least three human bones are found in a narrow range, there is a strong possibility that this surrounding was a graveyard. The results of this survey can be an indicator of excavation survey in Kurokami south area in the future.

概 要

1985 年，熊本大学曾计划过现在校园的重建开发项目。然而得知校园内几个地区是被指定的地下文物的埋藏地。1994 年，熊本大学作为考古研究机构迅速成立了文物保护研究所，在重建老朽化建筑物时，对校园地下进行挖掘调查。

大学有两个主要的校区。第一个是属于黑发町遗迹群的黑发校区。黑发校区由教育学部、法学部、文学部（北地区）、工学部和理学部（南地区）组成。遗迹位于立田山的山脚下，在白川形成的低阶地位置，推断古代的车站「蚕养」站就是在这。

另一个是属于本庄遗迹群的本庄校区。本庄校区由熊本大学附属病院（北地区）、熊本大学医学部（中地区）、保健学科（南地区）组成。遗迹位于白川的低位阶地上，与黑发町遗迹群类似。黑发町遗迹群和本庄遗迹直线距离相隔 2 公里。本庄遗迹的周围有大江遗迹群和新屋敷遗迹，都是巨大的古代村落遗迹。熊本大学的药学部和运动场（渡鹿地区）都属于大江遗迹群。教育学部附属小学校和中学校所在地京町地区属于京町台遗迹群。遗迹是位于京町台地上，作为弥生時代的遗迹非常有名。

本报告书记载了从 2013 年度到 2014 年度被调查的 1310 调查地的挖掘调查成果。1310 调查地点位于黑发南地区的东侧，夹在立田山和白川的低位河岸的中间。调查地点被理工学部教学楼设施所包围着。在以往的调查中，从周边发现了古代的竖穴建筑物和沟渠等，预测遗迹也会很好的保存下来。在本次的调查中，不仅确认发现了古代的遗迹，从至今以来认为不存在的土层里发现了绳文时代后期的文化层等，取得了重要的调查成果。本报告书将对关于绳文时代的遗址、遗物进行报告。

调查结果发现了多个包含了绳文时代后期的陶器等出土品的文化层。陶器以绳文时代后期前叶的出水式和御手洗 A 式古阶段为主，此外还出土了石器和土制品。从遗迹的堆积状况可以推测，从绳文时代后期的某个时期开始在白川的河岸梯田上有个村落。这次发现的出土品有很多都被认为是被遗弃在村落周围和倾斜部等处的物品。此外，在调查区东南方向的地表下约 2 米处发现了绳文时代后期的配石墓和土坑墓。男女各 1 具，手臂和脚都是呈弯曲状态被埋葬的。在狭窄的范围内至少检测出 3 具人骨，由此表明周围是墓地的可能性很大。本调查的成果将成为今后黑发南地区的挖掘调查的指标。

写 真 図 版



写真1 I 37区東側古代遺構発掘状況（西より）



写真2 I 37区東側 5a層遺物出土状況（東より）



写真3 I 37区東側 5a層遺物出土状況近影（西より）



写真4 I 37区 5b層遺物出土状況（東より）



写真5 I 37区 5b層遺物出土状況（西より）



写真6 I 37区落ち込み内出遺物出土状況（南より）



写真7 I 37区調査終了状況（西より）



写真8 I 37区西側深堀後状況（西より）

図版2 1310調査地点



写真9 I 37区北壁土層断面 (南より)



写真10 I 38区古代遺構発掘状況 (南より)



写真11 I 38区5b層遺物出土状況 (南より)



写真12 I 38区5b層遺物出土状況近影 (北より)



写真13 I 38区発掘状況 (南より)



写真14 I 38区東壁土層断面 (西より)



写真15 II 32区西侧東壁土層断面 (西より)



写真16 III 1区近世・古代溝土層断面北壁 (北西から)



写真17 Ⅲ 1区古代遺構完掘状況（南より）



写真18 Ⅲ 1区 5 b層純文土器出土状況近影（西より）



写真19 Ⅲ 1区 5 a層遺物出土状況（西より）



写真20 Ⅲ 1区 5 b層遺物出土状況（南より）



写真21 Ⅲ 1区完掘状況（西より）



写真22 Ⅲ 1区北側完掘状況（北より）



写真23 Ⅲ 1区東側北壁土層断面（南より）



写真24 Ⅲ 2区北側古代遺構完掘状況（南より）

図版4 1310調査地点



写真25 III 2区南側古代遺構発掘状況（北より）



写真26 III 2区中央部7層遺物出土状況（南より）



写真27 III 2区南側7層遺物出土状況近影（南より）



写真28 III 2区9層動物骨検出状況近影（北より）



写真29 III 2区南側発掘状況（北より）



写真30 III 2区南側東壁土層断面（北西より）



写真31 III 2区南側東壁土層断面（西より）



写真32 III 3区5b層遺物出土状況（南より）



写真33 III-3区東壁土層断面（西より）



写真34 III-4区5b層遺物出土状況俯瞰（南より）



写真35 III-4区5b層遺物出土状況（南より）



写真36 III-4区東壁土層断面（西より）



写真37 IV-14区北側5b層遺物出土状況（北より）



写真38 IV-14区東西ベルト北壁5b層検出時土層断面（北より）



写真39 IV-14区南側5b層遺物出土状況（北より）



写真40 IV-14区北側7層上部遺物出土状況（東より）

図版6 1310調査地点



写真41 N14区北側7層遺物出土状況（東より）



写真42 N14区7層縄文土器出土状況近影（西より）



写真43 N14区東西ベルト北壁7層検出時土層断面（北より）



写真44 N14区南側傾斜部7層遺物出土状況（東より）



写真45 N14区南西隅傾斜部7層遺物出土状況近影（南より）



写真46 N14区南側傾斜部7層完掘状況（北東より）



写真47 N14区先行トレンチ東西ベルト北壁東端10層検出時土層断面（北より）



写真48 N14区東西ベルト北壁10層検出時土層断面（北西より）

図版7 1310調査地点



写真49 IV-14区10層遺物出土状況（北東より）



写真50 IV-14区南側10層縄文土器出土状況近影（北より）



写真51 IV-14区完掘状況（東より）



写真52 IV-30-2区古代遺構完掘状況（南東より）



写真53 IV-30-2区5a層遺物出土状況（西より）



写真54 IV-30-2区完掘状況（南東より）



写真55 IV-30-2区南西壁土層断面（南東より）



写真56 V-1区完掘状況（西より）

図版8 1310調査地点



写真57 V1区5b層出土縄文土器近影（北より）



写真58 V11区古代遺構発掘状況（西より）



写真59 V11区東側先行トレンチ7層遺物出土状況（西より）



写真60 V11区東側先行トレンチ7層縄文土器出土状況近影（北より）



写真61 V11区7層ST01周辺遺物出土状況（北東より）



写真62 V11区ST02配石検出状況（南西より）



写真63 V11区南西側拡張区古代遺構発掘状況（南東より）



写真64 V11区拡張区VI層上面検出状況（北西より）

図版9 1310調査地点



写真65 V11区ST01土坑掘方確認用ベルト南東壁土層断面 (東より)



写真66 V11区ST01人骨検出状況 (東より)



写真67 V11区ST01人骨下顎検出状況近影 (南より)



写真68 V11区ST02直上北西壁土層断面 (南東より)



写真69 V11区ST01人骨およびST02配石墓 (南西より)

図版10 1310調査地点



写真70 V11区北東側拡張区6層上面検出状況（北西より）



写真71 V11区ST02・ST03土坑プラン検出状況（南東より）



写真72 V11区ST02土層確認用ベルト除去前検出状況（東より）



写真73 V11区ST02人骨頭蓋骨検出状況近影（南より）



写真74 V11区ST02検出状況（東より）

図版11 1310調査地点



写真75 V11区ST02掘方確認用ベルト南東壁南側土層断面（南東より）



写真76 V11区ST02掘方確認用ベルト南東壁北側土層断面（南東より）



写真77 V11区ST02人骨取り上げ後状況（東より）



写真78 V11区拡張部調査終了時状況（南東より）



写真79 V11区拡張区ST03土坑プラン検出状況（南東より）



写真80 V11区拡張区ブルーシート養生状況（南東より）



写真81 V11区南西側7層上面硬化面検出状況（北西より）



写真82 V11区南西側7層遺物出土状況（南西より）

図版12 1310調査地点



写真83 V11区南東壁土層断面（北西より）



写真84 V11区南西端傾斜部検出状況近影（北東より）



写真85 V11区南西端傾斜部掘削状況（北東より）



写真86 V11区南西端傾斜部直上南東壁土層断面（西より）



写真87 V13区古代遺構発掘状況（東より）



写真88 V13区7層遺物出土状況（東より）



写真89 V13区7層縄文土器出土状況近影（北より）



写真90 V13区北壁土層断面（南より）

図版13 1310調査地点



写真91 V31区北側発掘状況と北東壁土層断面 (南西より)



写真92 V11区ST02三次元計測作業風景 (西より)



写真93 V11区ST02人骨取り上げ作業風景 (北より)



写真94 水ノ江和同先生縄文土器指導風景



写真95 現地説明会で縄文人骨を見つめる参加者 (東より)



写真96 発掘調査メンバー集合写真1 (東より)



写真97 発掘調査メンバー集合写真2 (東より)



写真98 発掘調査メンバー集合写真3 (東より)

図版14 1310調査地点出土遺物1

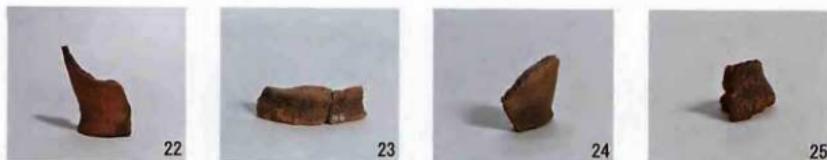


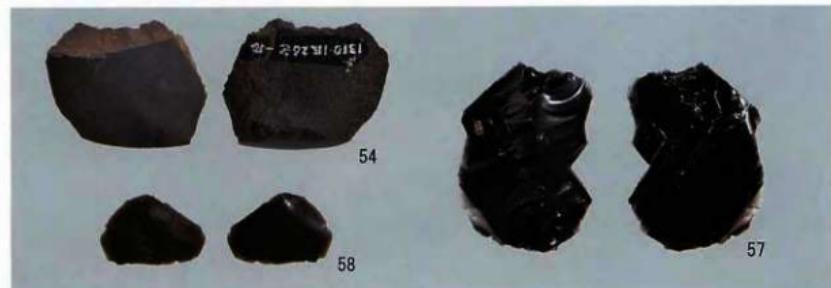
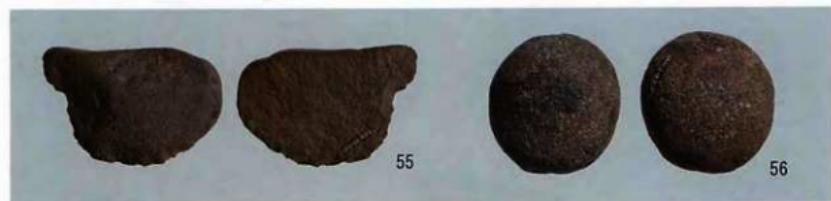
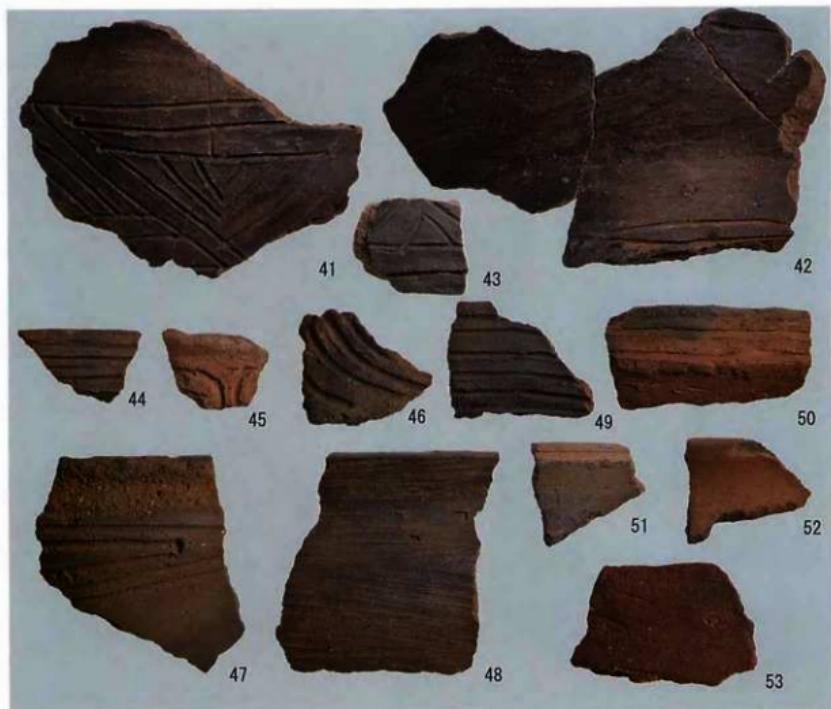
図版15 1310調査地点出土遺物2



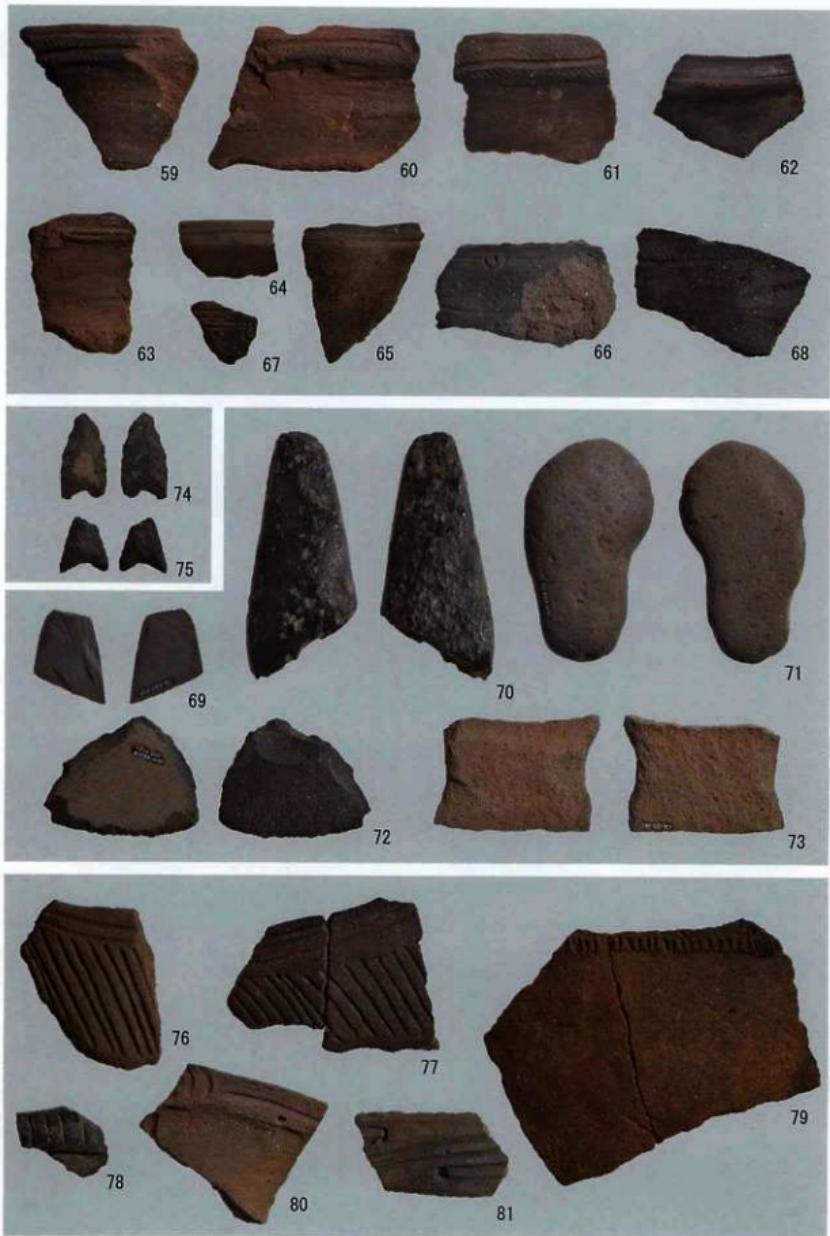
13

図版16 1310調査地点出土遺物3





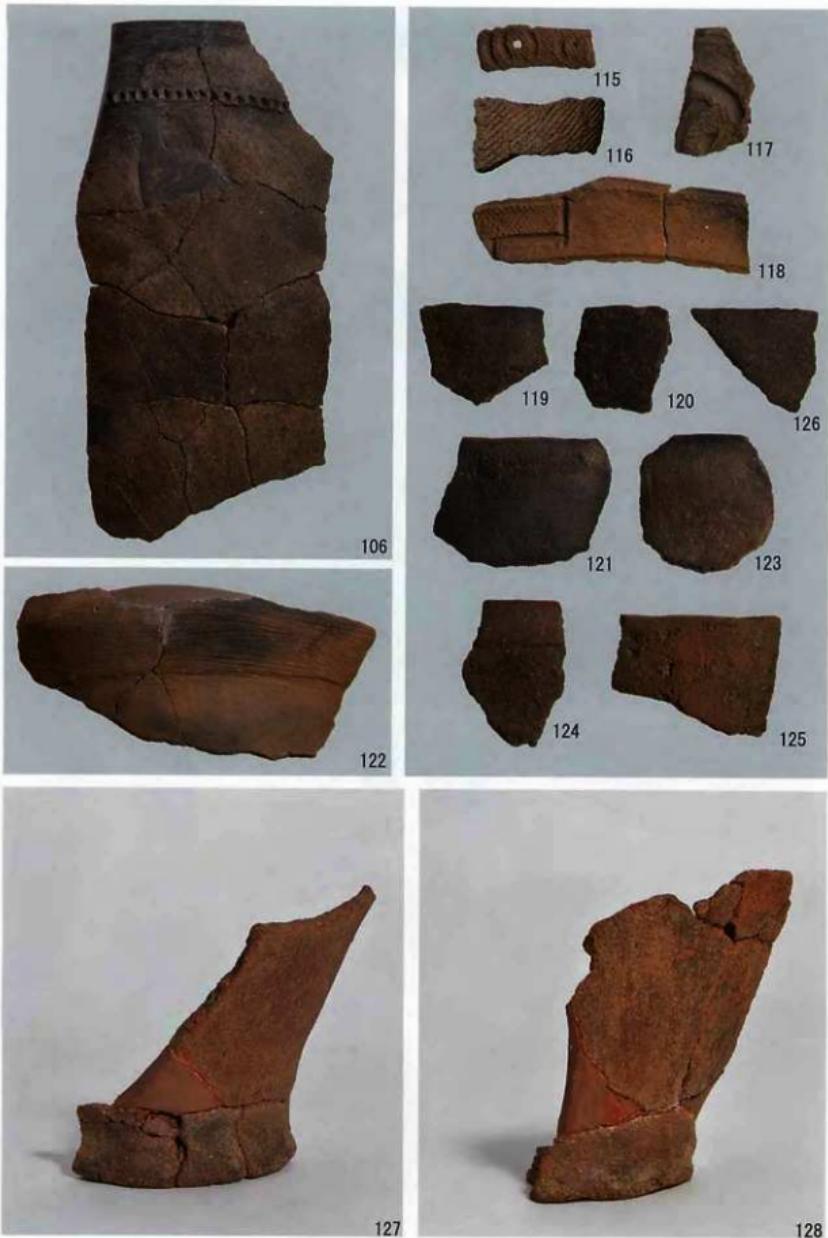
図版18 1310調査地点出土遺物5



図版19 1310調査地点出土遺物 6



図版20 1310調査地点出土遺物7



図版21 1310調査地点出土遺物8



図版22 1310調査地点出土遺物9

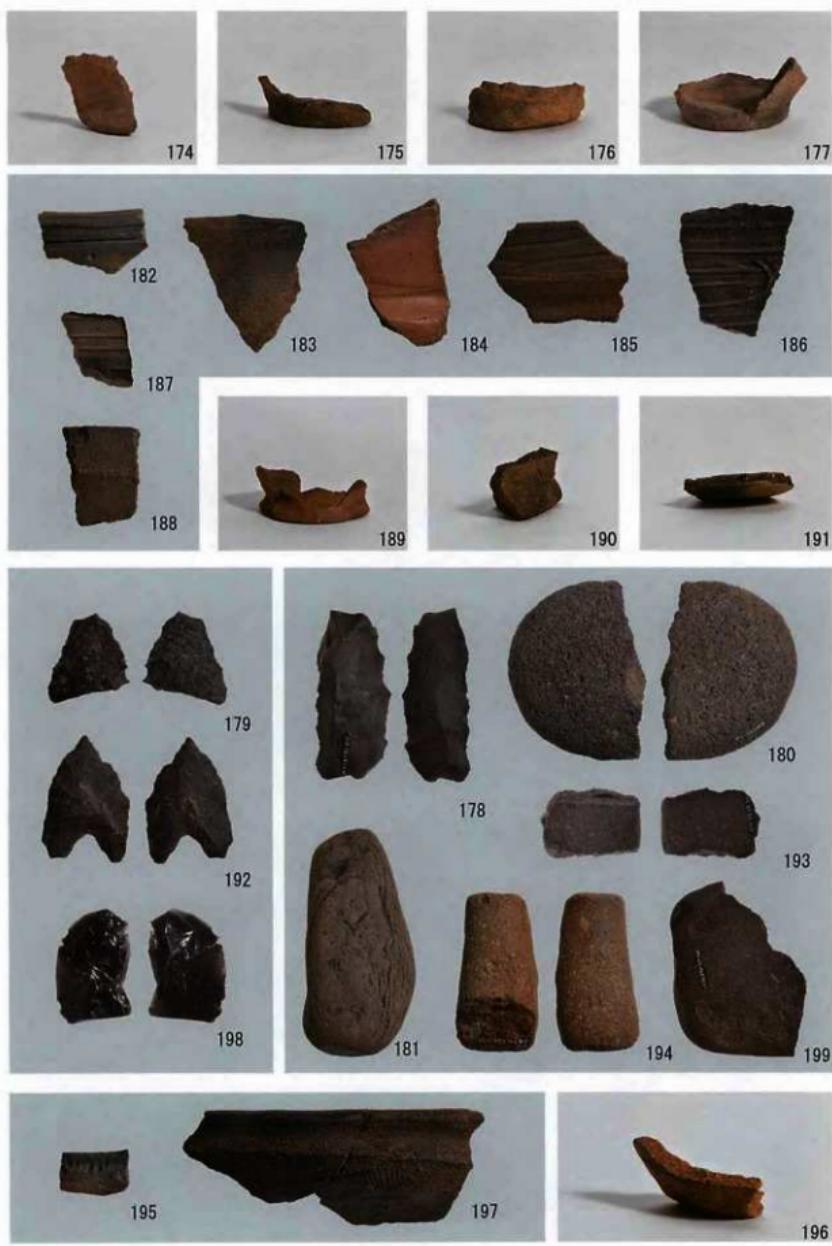


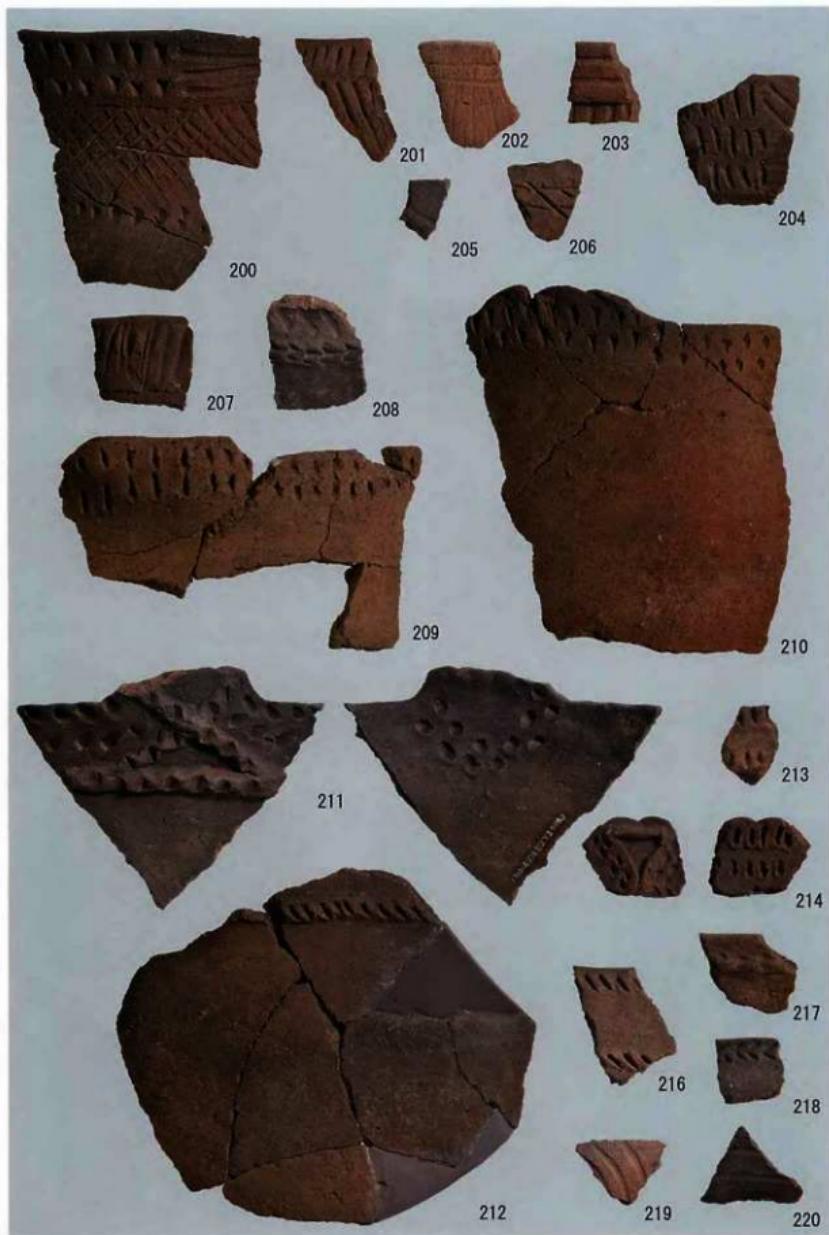
図版23 1310調査地点出土遺物10



171

図版24 1310調査地点出土遺物11

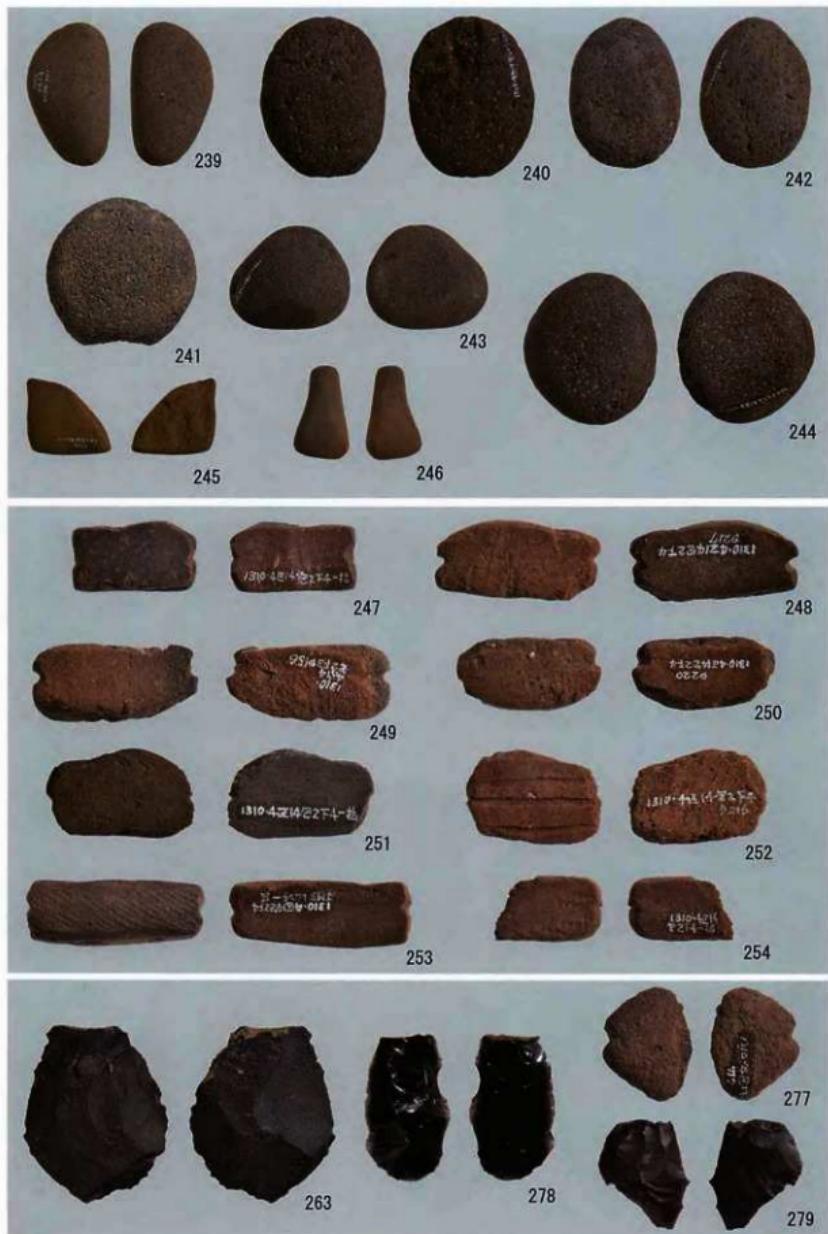




図版26 1310調査地点出土遺物13

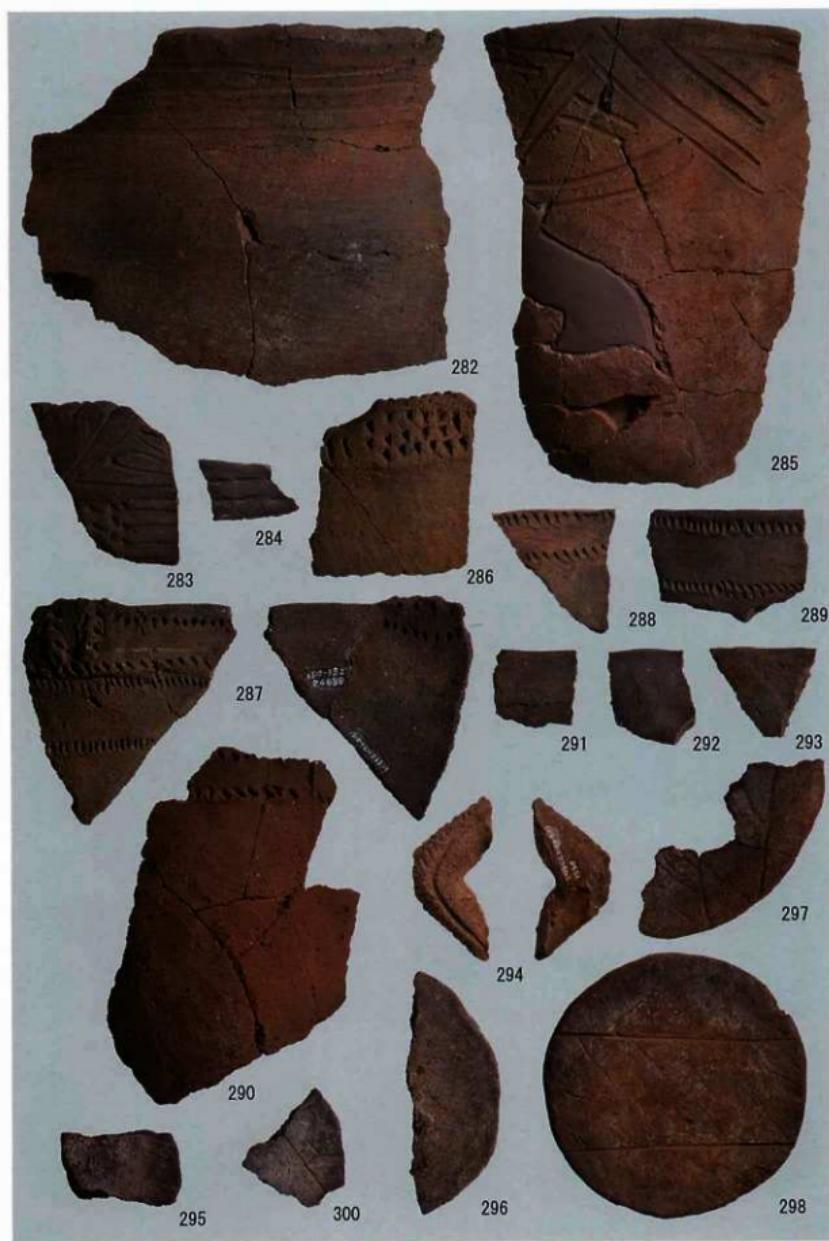


図版27 1310調査地点出土遺物14



図版28 1310調査地点出土遺物15





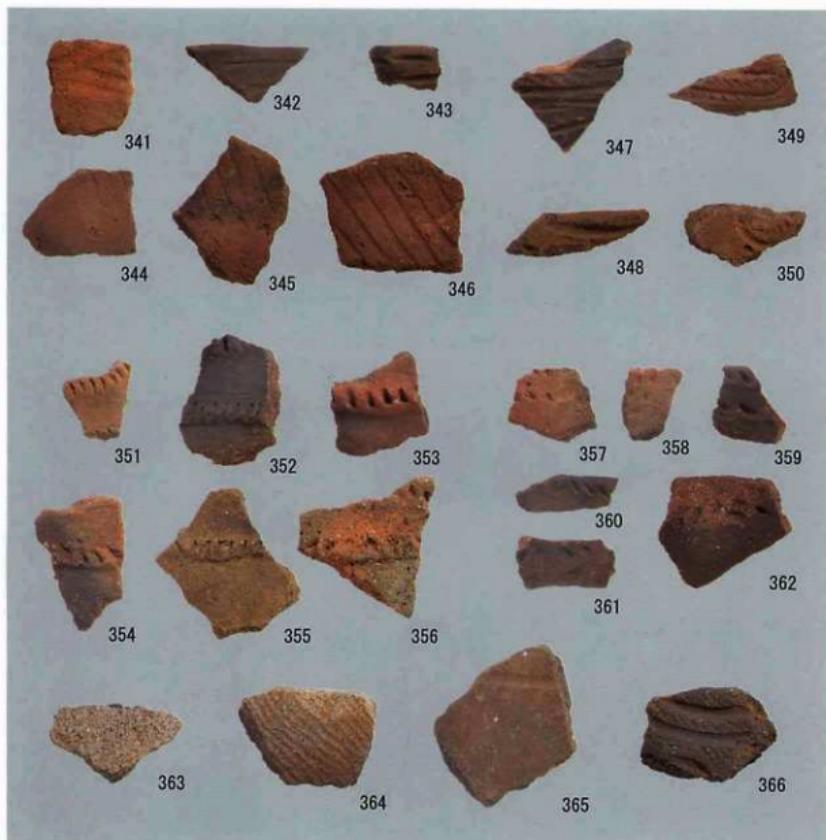
図版30 1310調査地点出土遺物17



図版31 1310調査地点出土遺物18



図版32 1310調査地点出土遺物19



報告書抄録

ふりがな	くまもとだいがくこうないいせきはつくつちょうさほうこく14							
書名	熊本大学構内道路発掘調査報告14							
副書名								
巻次								
シリーズ名	熊本大学埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ号	14							
編著者名	山野ケン陽次郎							
編集機関	熊本大学埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1 TEL. 096-342-3832 FAX. 096-342-3832							
発行年月日	2019年3月29日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
黒髪町道路群 (1310地点)	熊本県 熊本市 黒髪	43 201	278	32° 48° 43°	130° 43° 36°	20130805 ~ 20150320	5251.7m ²	学校敷地内の開発事業に伴う所収道路
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
黒髪町道路群 (1310地点)	集落址	縄文	墓・人骨	縄文土器(出水式・弧手洗A式古段階ほか)、石鏡、石斧、鐵石、台石、門石、砥石、磨石、土器片軸用鏡			縄文時代後期前葉の墓・人骨	

熊本大学埋蔵文化財調査報告書 第14集
熊本大学構内遺跡発掘調査報告14
(2013・2014年度：黒髪南地区1310調査地点)

平成31年3月29日 印刷
平成31年3月29日 発行
編集・発行 熊本大学埋蔵文化財調査センター
〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目39-1
TEL 096(342)3832 FAX 096(342)3832
印 刷 シモダ印刷株式会社

